

なか の さこ だい い せき  
中ノ迫第1遺跡 (一次・二次)  
Nakanosako 1 Site

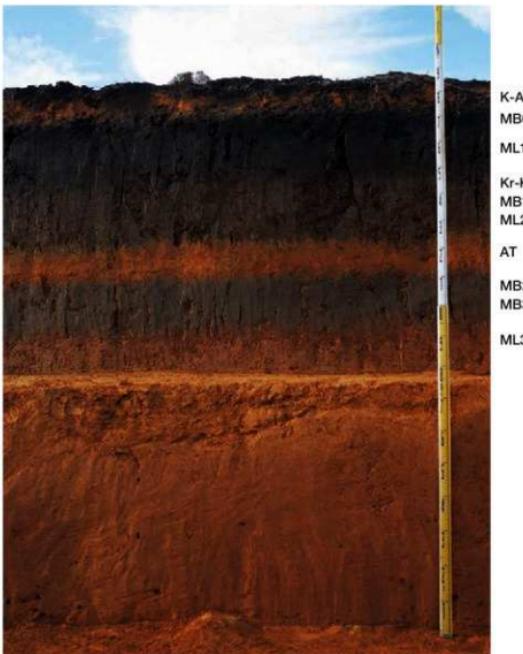
東九州自動車道（都農～西都間）建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告40

2007

宮崎県埋蔵文化財センター



中ノ迫第1遺跡上空から北西をのぞむ（南東から）



土層断面(二次調査)



旧石器時代Ⅱ期石器(一次・二次調査)

# 序

宮崎県教育委員会では、東九州自動車道（都農～西都間）建設予定地にかかる埋蔵文化財の発掘調査を平成11年度から実施しております。本書は、その発掘調査報告書であります。

本書に掲載した中ノ迫第1遺跡は、平成15・16年度に調査を行い、一次調査では後期旧石器時代の礫群21基や旧石器、縄文時代前期の轟式土器・石器等、二次調査では、後期旧石器時代の礫群23基や旧石器、縄文時代早期における集石遺構2基・陥し穴状遺構1基や土器・石器、弥生時代における竪穴住居跡1軒と石庖丁等確認することができました。特に後期旧石器時代の小林軽石火山灰降灰前後に礫群が多数検出されたことや、瀬戸内技法による国府型ナイフ形石器の出土が注目されます。

ここに報告する内容は、今後、当地域の歴史を解明する上で貴重な資料になるものと考えられます。

本書が学術資料としてだけでなく、学校教育や生涯学習の場などで活用され、また、埋蔵文化財保護に対する理解の一助になれば幸いです。

最後に、調査にあたって御協力いただいた関係諸機関・地元の方々、並びに御指導・御助言を賜った先生方に対して、厚くお礼申し上げます。

平成19年3月

宮崎県埋蔵文化財センター  
所長 清野 勉

## 例 言

- 1 本書は、東九州自動車道（都農～西都間）建設に伴い、宮崎県教育委員会が実施した児湯郡川南町所在の中ノ追第1遺跡（一次・二次調査）の発掘調査報告書である。
- 2 発掘調査は、日本道路公団の委託により宮崎県教育委員会が調査主体となり、宮崎県埋蔵文化財センターが実施した。  
なお、日本道路公団は平成17年10月1日より分割民営化され、西日本高速道路株式会社九州支社となつたが、本報告書中では日本道路公団として記載する。
- 3 現地での実測・写真撮影等の記録は、一次調査は安藤利光、永田和久、吉本正典、長友久昭、白地浩、岸田裕一、日高優子、二次調査は島木良浩、安藤真二、山田洋一郎、永山博一が行ったほか発掘作業員が補助した。
- 4 整理作業は、遺物洗浄、注記、接合・実測及びトレースを宮崎県埋蔵文化財センターで行った。また、疊洗浄、注記、属性記録、接合等を東畦原整理作業事務所（新富町大字新田字下追口）で行った。図面の作成・遺物実測及びトレースは、一次調査は安藤利、藤木聰、二次調査は島木、藤木が行ったほか整理作業員が補助した。一部の石器実測を一次調査は（株）九州文化財研究所、二次調査は（株）埋蔵文化財サポートシステムに委託した。
- 5 石器類の分類については藤木、松本茂、石材同定については赤崎広志、藤木、松本の協力を得た。
- 6 本書で使用した遺物写真は、一次調査は安藤利が、二次調査は島木が撮影した。
- 7 次の業務はそれぞれ業者に委託した。

基準点測量・グリッド杭設定	：（有）進藤測量設計事務所	（一次・二次調査）
空中写真撮影	：（有）スカイサーベイ九州	（一次調査）
九州航空株式会社		
		（一次・二次調査）
- 8 本書で使用した周辺遺跡位置図は国土地理院発行の2万5千分の1図をもとに、周辺地形図等は日本道路公団宮崎工事事務所から提供の1000分の1図をもとに作成した。
- 9 本書で使用した方位は磁北（M. N.）と座標北（G. N.）である。また、標高は海拔絶対高である。なお、国土座標は旧平面直角座標系II（日本測地系）に基づく。
- 10 土層断面・土器等の色調については農林水産省農林水産技術会議事務局監修『新版標準土色帖』による。なお、土器觀察表の色調については、黄橙等の表現のみで、10YR8/6等は省略している。
- 11 本書で使用した遺構略号は以下のとおりである。

S A … 壁穴居跡	S C … 陥し穴状遺構・土坑	S I … 疙瘩群・集石遺構	S E … 溝状遺構
------------	-----------------	----------------	------------
- 12 本書の執筆・編集は、第Ⅰ章第1・2・4節を安藤利、第3節を島木、第Ⅱ章を安藤利、第Ⅲ章を島木、第Ⅳ章を安藤利・島木が担当した。
- 13 出土遺物、その他の諸記録は宮崎県埋蔵文化財センターで保管している。
- 14 中ノ追第1遺跡の概要については下記文献によって報告されているが、内容については本書が優先される。

吉本正典・堀田孝博編 2003『平成15年度 東九州自動車道（都農～西都間）関連埋蔵文化財発掘調査概要報告書Ⅳ』宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書第91集  
谷口武範編 2004『平成16年度 東九州自動車道（都農～西都間）関連埋蔵文化財発掘調査概要報告書V』宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書第111集

## 凡 例

- 1 掘図の縮尺は次のとおりである。  
遺構・遺物分布図……1/500、1/600、1/1,000 遺構実測図……1/30、1/40  
遺物実測図……………1/2、1/3、1/4 ※以上を基本とするが、これ以外のものもある。
- 2 石器計測表の計測値及び実測図中の記号及び表示は、次のとおりである。



# 本文目次

第Ⅰ章はじめ	
第1節 調査に至る経緯	1
第2節 調査の組織	1
第3節 遺跡の位置と環境	3
第4節 確認調査の概要	4
第5節 遺構・石材に対する基本的な考え方	7
第Ⅱ章一次調査の記録	
第1節 調査の方法と経過	9
第2節 基本層序	12
第3節 調査の記録	
1 旧石器時代の遺構と遺物	
(1) 概要	15
(2) I期の遺物	15
(3) II期の遺構	24
(4) II期の遺物	31
2 繩文時代の遺構と遺物	
(1) 概要	49
(2) 遺構	49
(3) 遺物	51
3 弥生時代の遺物	
(1) 概要	58
(2) 遺物	58
4 その他の時代の遺構と遺物	
(1) 概要	64
(2) 遺構	64
(3) 遺物	64
5 小結	66
第Ⅲ章二次調査の記録	
第1節 調査の方法と経過	67
第2節 基本層序	68
第3節 調査の記録	
1 旧石器時代の遺構と遺物	
(1) 概要	71
(2) I期の遺構	71
(3) I期の遺物	77
(4) II期の遺構	89
(5) II期の遺物	96
2 繩文時代早期の遺構と遺物	
(1) 概要	136
(2) 遺構	136
(3) 遺物	139
3 弥生時代の遺構と遺物	
(1) 概要	145
(2) 遺構	145
4 小結	148
第Ⅳ章まとめ	152

# 挿 図 目 次

第1図 周辺遺跡位置図	2
第2図 確認調査トレンチ配置図	5
第3図 調査区と周辺地形図	6

## ～一次調査の記録～

第4図 グリッド配置図・土層断面測定箇所	11
第5図 土層断面図 1	13
第6図 土層断面図 2	14
第7図 旧石器時代Ⅰ期遺物分布図 1	15
第8図 旧石器時代Ⅰ期遺物分布図 2	16
第9図 旧石器時代Ⅰ期遺物分布図 3 (流紋岩)	17
第10図 旧石器時代Ⅰ期石器実測図 1 (RYⅡ群)	17
第11図 旧石器時代Ⅰ期石器実測図 2 (RYⅡ・Ⅲ群)	18
第12図 旧石器時代Ⅰ期遺物分布図 4 (RYⅡ群・接合資料①)	18
第13図 旧石器時代Ⅰ期石器実測図 3 (RYⅡ群・接合資料①)	19
第14図 旧石器時代Ⅰ期遺物分布図 5 (珪質頁岩・接合資料②)	19
第15図 旧石器時代Ⅰ期石器実測図 4 (珪質頁岩・接合資料②)	19
第16図 旧石器時代Ⅰ期遺物分布図 6 (ホルンフェルス)	20
第17図 旧石器時代Ⅰ期石器実測図 5 (HoⅠ群 a・b)	21
第18図 旧石器時代Ⅰ期遺物分布図 7 (黒曜石・チャート)	21
第19図 旧石器時代Ⅰ期石器実測図 6 (黒曜石・チャート)	22
第20図 旧石器時代Ⅰ期遺物分布図 8 (尾鈴山酸性岩脈・砂岩)	22
第21図 旧石器時代Ⅰ期石器実測図 7 (尾鈴山酸性岩脈)	22
第22図 旧石器時代Ⅰ期石器実測図 8 (尾鈴山酸性岩脈・岩脈)	23
第23図 旧石器時代Ⅱ期遺物・遺物分布図	24
第24図 旧石器時代Ⅱ期縞分布図	25
第25図 旧石器時代Ⅱ期縞実測図 1	26
第26図 旧石器時代Ⅱ期縞実測図 2	27
第27図 旧石器時代Ⅱ期縞実測図 3	28
第28図 旧石器時代Ⅱ期縞群実測図 4	29
第29図 旧石器時代Ⅱ期遺物分布図 1	32
第30図 旧石器時代Ⅱ期遺物分布図 2 (流紋岩・RYⅠ群)	33
第31図 旧石器時代Ⅱ期石器実測図 1 (RYⅠ群)	34
第32図 旧石器時代Ⅱ期遺物分布図 3 (RYⅠ群・接合資料③～⑥)	35
第33図 旧石器時代Ⅱ期石器実測図 2 (RYⅠ群・接合資料③)	35
第34図 旧石器時代Ⅱ期石器実測図 3 (RYⅠ群・接合資料④)	36
第35図 旧石器時代Ⅱ期石器実測図 4 (RYⅠ群・接合資料⑤)	36
第36図 旧石器時代Ⅱ期石器実測図 5 (RYⅠ群・接合資料⑥)	37
第37図 旧石器時代Ⅱ期石器実測図 6 (RYⅠ群・接合資料⑦)	37
第38図 旧石器時代Ⅱ期石器実測図 7 (RYⅠ群・接合資料⑧)	37
第39図 旧石器時代Ⅱ期遺物分布図 4 (RYⅡ群)	39
第40図 旧石器時代Ⅱ期石器実測図 8 (RYⅡ群)	39
第41図 旧石器時代Ⅱ期遺物分布図 5 (RYⅡ群・接合資料⑨・⑩)	40
第42図 旧石器時代Ⅱ期石器実測図 9 (RYⅡ群・接合資料⑨)	40
第43図 旧石器時代Ⅱ期石器実測図 10 (RYⅡ群・接合資料⑩)	40
第44図 旧石器時代Ⅱ期遺物分布図 6 (RYⅢ群)	41
第45図 旧石器時代Ⅱ期石器実測図 11 (RYⅢ群)	41
第46図 旧石器時代Ⅱ期遺物分布図 7 (ホルンフェルス)	42
第47図 旧石器時代Ⅱ期遺物分布図 8 (HoⅠ群a)	43

第48図 旧石器時代Ⅱ期石器実測図 12 (HoⅠ群a)	43
第49図 旧石器時代Ⅱ期遺物分布図 9 (HoⅠ群a・接合資料⑪)	44
第50図 旧石器時代Ⅱ期石器実測図 13 (HoⅠ群a・接合資料⑫)	44
第51図 旧石器時代Ⅱ期遺物分布図 10 (HoⅠ群b)	44
第52図 旧石器時代Ⅱ期石器実測図 14 (HoⅠ群b)	44
第53図 旧石器時代Ⅱ期石器実測図 15 (HoⅠ群b)	45
第54図 旧石器時代Ⅱ期遺物分布図 11 (HoⅠ群b・接合資料⑬)	45
第55図 旧石器時代Ⅱ期石器実測図 16 (HoⅠ群b・接合資料⑭)	45
第56図 旧石器時代Ⅱ期遺物分布図 12 (HoⅡ群)	46
第57図 旧石器時代Ⅱ期石器実測図 17 (HoⅡ群)	46
第58図 旧石器時代Ⅱ期遺物分布図 13 (黒曜石・チャート・珪質頁岩・頁岩)	46
第59図 旧石器時代Ⅱ期石器実測図 18 (黒曜石)	46
第60図 旧石器時代Ⅱ期遺物分布図 14 (砂岩・尾鈴山酸性岩脈)	47
第61図 旧石器時代Ⅱ期石器実測図 19 (砂岩)	47
第62図 旧石器時代Ⅱ期石器実測図 20 (尾鈴山酸性岩脈)	48
第63図 縄文時代遺構・遺物分布図	49
第64図 縄文時代 S C 1 実測図	50
第65図 縄文時代 S C 2 実測図	50
第66図 縄文時代 S C 2 土塁実測図	50
第67図 縄文時代遺物分布図	51
第68図 縄文時代実測図 1	51
第69図 縄文土塁実測図 2	52
第70図 縄文時代石器実測図 1 (打製石器)	53
第71図 縄文時代石器実測図 2 (チャート・流紋岩・ホルンフェルス・砂岩・尾鈴山酸性岩脈)	54
第72図 縄文時代石器実測図 3 (尾鈴山酸性岩脈)	55
第73図 縄文時代石器実測図 4 (尾鈴山酸性岩脈・接合資料⑯)	57
第74図 弥生時代遺物分布図 1 (土器)	58
第75図 弥生時代遺物分布図 2 (土器)	59
第76図 弥生土器実測図 1	60
第77図 弥生土器実測図 2	61
第78図 弥生時代石器実測図 (HoⅠ群b)	63
第79図 その他の時代遺構分布図	64
第80図 その他の時代遺物実測図	64
第81図 その他の時代 S E 1 実測図	65

## ～二次調査の記録～

第82図 土層断面図 1	68
第83図 グリッド配置図・土層断面測定箇所	69
第84図 土層断面図 2	70
第85図 旧石器時代Ⅰ期遺構分布図	71
第86図 旧石器時代Ⅰ期縞群実測図 1	73
第87図 旧石器時代Ⅰ期縞群実測図 2	74
第88図 旧石器時代Ⅰ期縞群実測図 3	75
第89図 旧石器時代Ⅰ期縞群実測図 4	76
第90図 旧石器時代Ⅰ期遺物分布図 1	77
第91図 旧石器時代Ⅰ期遺物分布図 2	78
第92図 旧石器時代Ⅰ期石器実測図 1 (HoⅠ群a)	78
第93図 旧石器時代Ⅰ期遺物分布図 3 (HoⅠ群a)	79

第94回	旧石器時代Ⅰ期石器実測図2 (Ho I 群a).....	79
第95回	旧石器時代Ⅰ期遺物分布図4 (Ho I 群a - 接合資料1).....	79
第96回	旧石器時代Ⅰ期石器実測図3 (Ho I 群a - 接合資料1).....	80
第97回	旧石器時代Ⅰ期遺物分布図5 (Ho I 群a - 接合資料2).....	81
第98回	旧石器時代Ⅰ期石器実測図4 (Ho I 群a - 接合資料2).....	81
第99回	旧石器時代Ⅰ期石器実測図5 (Ho I 群a - 接合資料2).....	82
第100回	旧石器時代Ⅰ期石器実測図6 (Ho I 群b).....	83
第101回	旧石器時代Ⅰ期遺物分布図6 (Ho I 群b).....	83
第102回	旧石器時代Ⅰ期遺物分布図7 (Ho I 群b - 接合資料3).....	84
第103回	旧石器時代Ⅰ期石器実測図7 (Ho I 群b - 接合資料3).....	84
第104回	旧石器時代Ⅰ期遺物分布図8 (Ho II 群).....	85
第105回	旧石器時代Ⅰ期石器実測図8 (Ho II 群).....	85
第106回	旧石器時代Ⅰ期石器実測図9 (Ho II 群).....	85
第107回	旧石器時代Ⅰ期遺物分布図9 (Ry II 群).....	85
第108回	旧石器時代Ⅰ期石器実測図10 (Ry II 群).....	86
第109回	旧石器時代Ⅰ期遺物分布図10 (Ry II 群).....	86
第110回	旧石器時代Ⅰ期遺物分布図11 (Ry II 群).....	86
第111回	旧石器時代Ⅰ期石器実測図11 (Ry II 群).....	86
第112回	旧石器時代Ⅰ期石器実測図12 (Ry II 群).....	87
第113回	旧石器時代Ⅰ期遺物分布図12 (Ry II 群 - 接合資料4).....	87
第114回	旧石器時代Ⅰ期石器実測図13 (Ry II 群 - 接合資料4).....	87
第115回	旧石器時代Ⅰ期遺物分布図13 (尾鈴山酸性岩盤・砂岩).....	88
第116回	旧石器時代Ⅰ期石器実測図14 (尾鈴山酸性岩盤・砂岩).....	88
第117回	旧石器時代Ⅱ期遺物分布図.....	89
第118回	旧石器時代Ⅱ期縄群実測図1.....	91
第119回	旧石器時代Ⅱ期縄群実測図2 .....	92
第120回	旧石器時代Ⅱ期縄群実測図3 .....	93
第121回	旧石器時代Ⅱ期縄群実測図4 .....	94
第122回	旧石器時代Ⅱ期縄群実測図5 .....	95
第123回	旧石器時代Ⅱ期遺物分布図1 .....	96
第124回	旧石器時代Ⅱ期遺物分布図2 (流紋岩).....	97
第125回	旧石器時代Ⅱ期遺物分布図3 (Ry I 群).....	98
第126回	旧石器時代Ⅱ期石器実測図1 (Ry I 群).....	98
第127回	旧石器時代Ⅱ期石器実測図2 (Ry I 群).....	99
第128回	旧石器時代Ⅱ期遺物分布図4 (Ry I 群 - 接合資料5 ~ 7) .....	100
第129回	旧石器時代Ⅱ期石器実測図3 (Ry I 群 - 接合資料5) .....	100
第130回	旧石器時代Ⅱ期石器実測図4 (Ry I 群 - 接合資料6) .....	101
第131回	旧石器時代Ⅱ期石器実測図5 (Ry I 群 - 接合資料7) .....	101
第132回	旧石器時代Ⅱ期遺物分布図5 (Ry I 群 - 接合資料8 ~ 10) .....	102
第133回	旧石器時代Ⅱ期石器実測図6 (Ry I 群 - 接合資料8 ~ 10) .....	102
第134回	旧石器時代Ⅱ期石器実測図7 (Ry I 群 - 接合資料8) .....	102
第135回	旧石器時代Ⅱ期石器実測図8 (Ry I 群 - 接合資料8) .....	103
第136回	旧石器時代Ⅱ期石器実測図9 (Ry I 群 - 接合資料9) .....	103
第137回	旧石器時代Ⅱ期石器実測図10 (Ry I 群 - 接合資料10) .....	103
第138回	旧石器時代Ⅱ期遺物分布図6 (Ry II 群) .....	105
第139回	旧石器時代Ⅱ期石器実測図11 (Ry II 群) .....	105
第140回	旧石器時代Ⅱ期石器実測図12 (Ry II 群) .....	106
第141回	旧石器時代Ⅱ期遺物分布図7 (Ry II 群) .....	108
第142回	旧石器時代Ⅱ期石器実測図13 (Ry II 群 - 接合資料11) .....	108
第143回	旧石器時代Ⅱ期遺物分布図8 (Ry II 群 - 接合資料12 ~ 14) .....	108
第144回	旧石器時代Ⅱ期石器実測図14 (Ry II 群 - 接合資料12) .....	108
第145回	旧石器時代Ⅱ期石器実測図15 (Ry II 群 - 接合資料12) .....	109
第146回	旧石器時代Ⅱ期石器実測図16 (Ry II 群 - 接合資料13) .....	109
第147回	旧石器時代Ⅱ期石器実測図17 (Ry II 群 - 接合資料14) .....	109
第148回	旧石器時代Ⅱ期遺物分布図9 (Ry II 群 - 接合資料15 ~ 16) .....	109
第149回	旧石器時代Ⅱ期石器実測図18 (Ry II 群 - 接合資料15) .....	110
第150回	旧石器時代Ⅱ期石器実測図19 (Ry II 群 - 接合資料16) .....	111
第151回	旧石器時代Ⅱ期遺物分布図10 (Ry II 群) .....	113
第152回	旧石器時代Ⅱ期石器実測図20 (Ry II 群) .....	113
第153回	旧石器時代Ⅱ期遺物分布図11 (Ry II 群 - 接合資料17 ~ 19) .....	114
第154回	旧石器時代Ⅱ期石器実測図21 (Ry II 群 - 接合資料17) .....	114
第155回	旧石器時代Ⅱ期石器実測図22 (Ry II 群 - 接合資料18) .....	114
第156回	旧石器時代Ⅱ期石器実測図23 (Ry II 群 - 接合資料19) .....	115
第157回	旧石器時代Ⅱ期遺物分布図12 (Ry II 群 - 接合資料20) .....	115
第158回	旧石器時代Ⅱ期石器実測図24 (Ry II 群 - 接合資料20) .....	115
第159回	旧石器時代Ⅱ期石器実測図25 (Ry II 群 - 接合資料20) .....	116
第160回	旧石器時代Ⅱ期遺物分布図13 (Ry II 群 - 接合資料21) .....	116
第161回	旧石器時代Ⅱ期石器実測図26 (Ry II 群 - 接合資料21) .....	116
第162回	旧石器時代Ⅱ期遺物分布図14 (Ry II 群 - 接合資料22 ~ 23) .....	116
第163回	旧石器時代Ⅱ期石器実測図27 (Ry II 群 - 接合資料22) .....	117
第164回	旧石器時代Ⅱ期石器実測図28 (Ry II 群 - 接合資料23) .....	117
第165回	旧石器時代Ⅱ期遺物分布図15 (Ry II 群 - 接合資料24) .....	117
第166回	旧石器時代Ⅱ期石器実測図29 (Ry II 群 - 接合資料24) .....	118
第167回	旧石器時代Ⅱ期遺物分布図16 (Ry II 群 - 接合資料25) .....	118
第168回	旧石器時代Ⅱ期石器実測図30 (Ry II 群 - 接合資料25) .....	118
第169回	旧石器時代Ⅱ期遺物分布図17 (ホルンフェルス) .....	120
第170回	旧石器時代Ⅱ期遺物分布図18 (Ho I 群a) .....	121
第171回	旧石器時代Ⅱ期石器実測図31 (Ho I 群a) .....	121
第172回	旧石器時代Ⅱ期石器実測図32 (Ho I 群a) .....	122
第173回	旧石器時代Ⅱ期遺物分布図19 (Ho I 群 - 接合資料26) .....	122
第174回	旧石器時代Ⅱ期石器実測図33 (Ho I 群a - 接合資料26) .....	122
第175回	旧石器時代Ⅱ期遺物分布図20 (Ho I 群b - 接合資料27) .....	123
第176回	旧石器時代Ⅱ期石器実測図34 (Ho I 群a - 接合資料27) .....	123
第177回	旧石器時代Ⅱ期遺物分布図21 (Ho I 群b - 接合資料28) .....	123
第178回	旧石器時代Ⅱ期石器実測図35 (Ho I 群a - 接合資料28) .....	124
第179回	旧石器時代Ⅱ期遺物分布図22 (Ho I 群b) .....	125
第180回	旧石器時代Ⅱ期石器実測図36 (Ho I 群b) .....	126
第181回	旧石器時代Ⅱ期遺物分布図23 (Ho I 群b - 接合資料29 ~ 32) .....	126
第182回	旧石器時代Ⅱ期石器実測図37 (Ho I 群b - 接合資料29) .....	126
第183回	旧石器時代Ⅱ期石器実測図38 (Ho I 群b - 接合資料29) .....	127
第184回	旧石器時代Ⅱ期石器実測図39 (Ho I 群b - 接合資料30) .....	127
第185回	旧石器時代Ⅱ期石器実測図40 (Ho I 群b - 接合資料31) .....	127
第186回	旧石器時代Ⅱ期石器実測図41 (Ho I 群b - 接合資料32) .....	128
第187回	旧石器時代Ⅱ期遺物分布図24 (Ho I 群b - 接合資料33 ~ 35) .....	128
第188回	旧石器時代Ⅱ期石器実測図42 (Ho I 群b - 接合資料33 ~ 35) .....	128
第189回	旧石器時代Ⅱ期石器実測図43 (Ho I 群b - 接合資料33) .....	129
第190回	旧石器時代Ⅱ期石器実測図44 (Ho I 群b - 接合資料34) .....	129
第191回	旧石器時代Ⅱ期石器実測図45 (Ho I 群b - 接合資料35) .....	130
第192回	旧石器時代Ⅱ期遺物分布図25 (Ho I 群b - 接合資料36 ~ 37) .....	130
第193回	旧石器時代Ⅱ期石器実測図46 (Ho I 群b - 接合資料36) .....	131

第194図 旧石器時代Ⅱ期石器実測図47 (Ho I 群b・接合資料37).....	131
第195図 旧石器時代Ⅱ期遺物分布図26 (Ho II 群).....	133
第196図 旧石器時代Ⅱ期石器実測図48 (Ho II 群).....	133
第197図 旧石器時代Ⅱ期石器実測図49 (黒曜石).....	133
第198図 旧石器時代Ⅱ期遺物分布図27 (黒曜石).....	133
第199図 旧石器時代Ⅱ期遺物分布図28 (砂岩・石英).....	134
第200図 旧石器時代Ⅱ期石器実測図50 (砂岩・石英).....	134
第201図 旧石器時代Ⅱ期遺物分布図29 (チャート・尾鈴山酸性岩頸).....	135
第202図 旧石器時代Ⅱ期石器実測図51 (チャート・尾鈴山酸性岩頸).....	135
第203図 繩文時代早期遺構分布図.....	136
第204図 繩文時代早期塗工状遺構実測図.....	137
第205図 繩文時代早期集石遺構実測図.....	138
第206図 繩文土器実測図.....	139
第207図 繩文時代早期遺物分布図1.....	139
第208図 繩文時代早期遺物分布図2 (チャート).....	140
第209図 繩文時代早期石器実測図1 (チャート).....	141
第210図 繩文時代早期遺物分布図3 (黒曜石).....	141
第211図 繩文時代早期遺物分布図4 (黒曜石).....	142
第212図 繩文時代早期石器実測図2 (黒曜石).....	142
第213図 繩文時代早期遺物分布図5 (流紋岩).....	143
第214図 繩文時代早期石器実測図3 (流紋岩).....	143
第215図 繩文時代早期遺物分布図6 (ホルンフェルス).....	144
第216図 繩文時代早期石器実測図4 (ホルンフェルス).....	144
第217図 弥生時代遺構分布図.....	145
第218図 1号堅穴住居跡実測図.....	146
第219図 弥生土器・石器実測図.....	147
第20表 旧石器時代Ⅱ期石器観察表11.....	47
第21表 旧石器時代Ⅱ期石器観察表12.....	48
第22表 繩文時代土坑一覧表.....	50
第23表 繩文時代S C 2土器観察表.....	50
第24表 繩文土器観察表.....	52
第25表 繩文時代石器・石材組成表.....	53
第26表 繩文時代石器観察表1 .....	56
第27表 繩文時代石器観察表2 .....	57
第28表 弥生土器観察表1 .....	61
第29表 弥生土器観察表2 .....	62
第30表 弥生時代石器観察表.....	63
第31表 その他の時代遺物観察表.....	64

### ～二次調査の記録～

第32表 旧石器時代Ⅰ期縄群一覧表.....	72
第33表 旧石器時代Ⅰ期石器・石材組成表.....	77
第34表 旧石器時代Ⅰ期石器観察表1 .....	79
第35表 旧石器時代Ⅰ期石器観察表2 .....	83
第36表 旧石器時代Ⅰ期石器観察表3 .....	83
第37表 旧石器時代Ⅰ期石器観察表4 .....	84
第38表 旧石器時代Ⅰ期石器観察表5 .....	85
第39表 旧石器時代Ⅰ期石器観察表6 .....	85
第40表 旧石器時代Ⅰ期石器観察表7 .....	86
第41表 旧石器時代Ⅰ期石器観察表8 .....	87
第42表 旧石器時代Ⅰ期石器観察表9 .....	87
第43表 旧石器時代Ⅰ期石器観察表10 .....	88
第44表 旧石器時代Ⅱ期縄群一覧表.....	90
第45表 旧石器時代Ⅱ期石器・石材組成表.....	97
第46表 旧石器時代Ⅱ期石器観察表1 .....	99
第47表 旧石器時代Ⅱ期石器観察表2 .....	104
第48表 旧石器時代Ⅱ期石器観察表3 .....	107
第49表 旧石器時代Ⅱ期石器観察表4 .....	112
第50表 旧石器時代Ⅱ期石器観察表5 .....	114
第51表 旧石器時代Ⅱ期石器観察表6 .....	119
第52表 旧石器時代Ⅱ期石器観察表7 .....	122
第53表 旧石器時代Ⅱ期石器観察表8 .....	124
第54表 旧石器時代Ⅱ期石器観察表9 .....	125
第55表 旧石器時代Ⅱ期石器観察表10 .....	126
第56表 旧石器時代Ⅱ期石器観察表11 .....	131
第57表 旧石器時代Ⅱ期石器観察表12 .....	132
第58表 旧石器時代Ⅱ期石器観察表13 .....	133
第59表 旧石器時代Ⅱ期石器観察表14 .....	133
第60表 旧石器時代Ⅱ期石器観察表15 .....	134
第61表 旧石器時代Ⅱ期石器観察表16 .....	135
第62表 繩文時代早期集石遺構一覧表.....	137
第63表 繩文土器観察表.....	139
第64表 繩文時代早期石器・石材組成表.....	140
第65表 繩文時代早期石器観察表1 .....	141
第66表 繩文時代早期石器観察表2 .....	142
第67表 繩文時代早期石器観察表3 .....	143

## 表 目 次

### ～一次調査の記録～

第1表 旧石器時代Ⅰ期石器・石材組成表.....	16
第2表 旧石器時代Ⅰ期石器観察表1 .....	18
第3表 旧石器時代Ⅰ期石器観察表2 .....	19
第4表 旧石器時代Ⅰ期石器観察表3 .....	20
第5表 旧石器時代Ⅰ期石器観察表4 .....	21
第6表 旧石器時代Ⅰ期石器観察表5 .....	22
第7表 旧石器時代Ⅰ期石器観察表6 .....	23
第8表 旧石器時代Ⅱ期縄群一覧表.....	30
第9表 旧石器時代Ⅱ期石器・石材組成表.....	31
第10表 旧石器時代Ⅱ期石器観察表1 .....	35
第11表 旧石器時代Ⅱ期石器観察表2 .....	38
第12表 旧石器時代Ⅱ期石器観察表3 .....	40
第13表 旧石器時代Ⅱ期石器観察表4 .....	41
第14表 旧石器時代Ⅱ期石器観察表5 .....	42
第15表 旧石器時代Ⅱ期石器観察表6 .....	43
第16表 旧石器時代Ⅱ期石器観察表7 .....	44
第17表 旧石器時代Ⅱ期石器観察表8 .....	45
第18表 旧石器時代Ⅱ期石器観察表9 .....	45
第19表 旧石器時代Ⅱ期石器観察表10.....	46

第68表	縄文時代早期石器観察表4	144
第69表	弥生土器観察表	147
第70表	弥生時代石器計測表	147
第71表	石器計測表1	149
第72表	石器計測表2	150
第73表	石器計測表3	151

## 卷頭図版目次

卷頭図版	中ノ追第1遺跡上空から北西をのぞむ
卷頭図版	土層断面（二次調査）
	旧石器時代Ⅱ期石器（一次・二次調査）

## 図版目次

### ～一次調査の記録～

図版1	尾鈴山系をのぞむ	153
	一次調査区全景	
図版2	土層断面1	154
	土層断面2	
	土層断面3	
	調査風景	
	旧石器時代I期遺物出土状況	
	旧石器時代II期遺物出土状況	
	S I 2 検出状況	
	S I 7 検出状況	
図版3	S I 10・13検出状況	155
	S I 18～20検出状況	
	S C 1 検出状況	
	S C 1 半截状況	
	S C 2 検出状況	
	S C 2 半截状況	
	S E 1 検出状況	
	S E 1 完掘状況	
図版4	旧石器時代I期石器1	156
	旧石器時代I期石器2接合資料①	
	旧石器時代I期石器3接合資料②	
	旧石器時代I期石器4	
	旧石器時代I期石器5	
	旧石器時代I期石器6	
	旧石器時代I期石器7	
	旧石器時代I期石器8	
図版5	旧石器時代II期石器1	157
	旧石器時代II期石器2接合資料③	
	旧石器時代II期石器3接合資料④	
	旧石器時代II期石器4接合資料⑤	
	旧石器時代II期石器5接合資料⑥	
	旧石器時代II期石器6接合資料⑦・⑧	

### 旧石器時代II期石器7

旧石器時代II期石器8接合資料⑨

旧石器時代II期石器9接合資料⑩

旧石器時代II期石器10

旧石器時代II期石器11

旧石器時代II期石器12接合資料⑪

旧石器時代II期石器13

旧石器時代II期石器14接合資料⑫

旧石器時代II期石器15

旧石器時代II期石器16

旧石器時代II期石器17

旧石器時代II期石器18

縄文土器1

縄文土器2

縄文時代石器1

縄文時代石器2

縄文時代石器3

縄文時代石器4

図版8 縄文時代石器5接合資料⑬

弥生土器1

弥生土器2

弥生土器3

弥生土器4

弥生土器5

弥生土器6

弥生土器7

図版9 弥生土器8

弥生土器9

弥生時代石器

その他の時代遺物

### ～二次調査の記録～

図版10 二次調査区全景

二次調査区南側

図版11 土層断面

調査風景

S I 2 検出状況

S I 8 検出状況

S I 11 検出状況

S I 21・23 検出状況

S I 24 検出状況

S I 25 検出状況

図版12 旧石器時代I期遺物集中域

旧石器時代I期遺物集中域

S C 1 検出状況

S C 1 半截状況

S C 1 完掘状況

S A 1 検出状況

S A 1 遺物出土状況

S A 1 完掘状況

図版13	旧石器時代Ⅰ期石器1……………	165	図版19	縄文土器……………	171
	旧石器時代Ⅰ期石器2接合資料1			縄文時代早期石器	
	旧石器時代Ⅰ期石器3接合資料2①			弥生土器	
	旧石器時代Ⅰ期石器4接合資料2②			弥生時代石器	
	旧石器時代Ⅰ期石器5接合資料3				
	旧石器時代Ⅰ期石器6				
	旧石器時代Ⅰ期石器7接合資料4				
	旧石器時代Ⅰ期石器8				
図版14	旧石器時代Ⅱ期石器1……………	166			
	旧石器時代Ⅱ期石器2接合資料5①				
	旧石器時代Ⅱ期石器3接合資料5②				
	旧石器時代Ⅱ期石器4接合資料6①				
	旧石器時代Ⅱ期石器5接合資料6②				
	旧石器時代Ⅱ期石器6接合資料7				
	旧石器時代Ⅱ期石器7接合資料8～10				
	旧石器時代Ⅱ期石器8接合資料8				
図版15	旧石器時代Ⅱ期石器9接合資料9……………	167			
	旧石器時代Ⅱ期石器10接合資料10				
	旧石器時代Ⅱ期石器11				
	旧石器時代Ⅱ期石器12				
	旧石器時代Ⅱ期石器13接合資料11・12～14 ①				
	旧石器時代Ⅱ期石器14接合資料12～14②				
	旧石器時代Ⅱ期石器15接合資料15・16				
	旧石器時代Ⅱ期石器16接合資料15				
図版16	旧石器時代Ⅱ期石器17接合資料16①……………	168			
	旧石器時代Ⅱ期石器18接合資料16②				
	旧石器時代Ⅱ期石器19				
	旧石器時代Ⅱ期石器20接合資料17～19				
	旧石器時代Ⅱ期石器21接合資料20				
	旧石器時代Ⅱ期石器22接合資料21・23				
	旧石器時代Ⅱ期石器23接合資料22				
	旧石器時代Ⅱ期石器24接合資料24				
図版17	旧石器時代Ⅱ期石器25接合資料25……………	169			
	旧石器時代Ⅱ期石器26				
	旧石器時代Ⅱ期石器27接合資料26				
	旧石器時代Ⅱ期石器28接合資料27				
	旧石器時代Ⅱ期石器29接合資料28				
	旧石器時代Ⅱ期石器30				
	旧石器時代Ⅱ期石器31接合資料29・30				
	旧石器時代Ⅱ期石器32接合資料31・32				
図版18	旧石器時代Ⅱ期石器33接合資料33～35……………	170			
	旧石器時代Ⅱ期石器34接合資料33				
	旧石器時代Ⅱ期石器35接合資料34				
	旧石器時代Ⅱ期石器36接合資料35				
	旧石器時代Ⅱ期石器37接合資料36・37				
	旧石器時代Ⅱ期石器38				
	旧石器時代Ⅱ期石器39				
	旧石器時代Ⅱ期石器40				

# 第Ⅰ章 はじめに

## 第1節 調査に至る経緯

東九州自動車道（延岡～清武間）は、平成元年2月に基本計画がなされ、それに基づき、宮崎県教育委員会（以下県教委）では予想されるルート周辺の分布調査を行い、多くの遺跡が確認されている。都農～西都間は、平成9年12月に施行命令が出され、その後、平成10年度に県教委が路線上的分布調査を行ったところ、計79箇所に及ぶ遺跡の存在が推定された。そこで、県教委では、遺跡の保護について協議した結果、平成11年度から日本道路公団の委託を受け東九州自動車道（都農～西都間）の建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査を実施することになった。

中ノ迫第1遺跡では、平成13年度より4回に分けて確認調査を行った。確認調査の詳細については後述するが、その結果、一次調査区では旧石器時代～弥生時代の遺物包含層が、二次調査区では旧石器時代～绳文時代の遺物包含層が確認された。その後、埋蔵文化財センターが平成15年11月12日より平成16年6月9日まで4,100m<sup>2</sup>を対象に一次調査を、平成16年5月25日より平成17年2月21日まで6,000m<sup>2</sup>を対象に二次調査を行った。

調査終了後、平成17年3月5日に隣接する大内原遺跡、天神本第2遺跡と合同で調査報告会を行い、65名の参加を得た。

## 第2節 調査の組織

中ノ迫第1遺跡（一次調査・二次調査）の調査組織は次のとおりである。

【調査主体】 宮崎県教育委員会

宮崎県埋蔵文化財センター

所長 米良 弘康 （平成15年度）

宮園 淳一 （平成16・17年度）

清野 勉 （平成18年度）

副所長兼総務課長

大藪 和博 （平成15・16年度）

副所長 加藤 哲郎 （平成18年度）

副所長兼調査第二課長

岩永 哲夫 （平成15～18年度）

総務課長 宮越 尊 （平成17・18年度）

### 調査第一課長

児玉 章則 （平成15年度）

高山 富雄 （平成16～18年度）

### 主幹兼総務係長

石川 恵史 （平成15～17年度）

### 主幹兼総務担当リーダー

高山 正信 （平成18年度）

### 調査第一課

#### 調査第一係長

谷口 武範 （平成15・16年度）

#### 主幹兼調査第一係長

長津 宗重 （平成17年度）

#### 主幹兼調査第一担当リーダー

長津 宗重 （平成18年度）

#### 調査第二係長

長津 宗重 （平成15・16年度）

#### 主幹兼調査第二係長

菅付 和樹 （平成17年度）

#### 主幹兼調査第二担当リーダー

菅付 和樹 （平成18年度）

### 【一次調査】

（調査・報告書担当）

#### 調査第一課調査第二係・調査第二担当

主査 安藤 利光 （平成15～18年度）

（調査担当）

#### 調査第一課調査第二係

主査 吉本 正典 （平成15・16年度）

主査 水田 和久 （平成16年度）

（調査担当）

#### 調査第二課調査第三係

調査員 岸田 裕一 （平成16年度）

調査員 日高 優子 （平成16年度）

### 【二次調査】

（調査・報告書担当）

#### 調査第一課調査第二係・調査第二担当

主査 烏木 良浩 （平成15～18年度）

（調査担当）

#### 調査第一課調査第一係

主査 安藤 真二 （平成15・16年度）

主査 山田洋一郎 （平成15・16年度）

主査 永山 博一 （平成15・16年度）



1 銀座第1遺跡	2 銀座第2遺跡	3 虚空藏免遺跡	4 赤石・天神本道跡	5 天神本第2道跡	6 大内原道跡
7 中ノ迫第1道跡	8 中ノ迫第2道跡	9 中ノ迫第3道跡	10 前ノ田村上第2道跡	11 赤坂道路	12 湯串田道跡
13 蔵山村道跡	14 後串田道跡	15 霧島道跡	16 白鶴道跡	17 鳥ヶ丘道跡	18 番野地C道跡
19 推原道跡	20 大久保道跡	21 谷ノ口道跡	22 住吉B道跡	23 上ノ原道跡	24 丸山西原道跡
25 松ヶ道跡	26 東平下道跡	27 把言田道跡	28 中ノ迫A道跡	29 野福尾道跡	30 川南古墳群

\*1~12は東九州自動車道(都農~西都原)建設に伴う発掘調査道跡

第1図 周辺遺跡位置図 (1/50,000)

### 第3節 遺跡の位置と環境

#### 1 地理的環境

中ノ迫第1遺跡は、児湯郡川南町大字川南字丸尾・綿打上・大迫・中ノ迫に所在する。本遺跡は、尾鈴山系の上面木山の東麓にあり、切原川と篠原川に挟まれた標高約120mの台地上（唐瀬原段丘面）に立地する。このうち北側の段丘端部を一次調査区とし、南側の段丘端部を二次調査区とした。一次調査区の北側低地には大内原遺跡が所在し、二次調査区の南側台地には、中ノ迫第2遺跡、同第3遺跡が所在する。

本遺跡の立地する川南町は、宮崎県の中央部、日向灘に望み、尾鈴山（1,405m）の南東にある。また、尾鈴山系から東流する名貫川の南岸域にあたり「川南」の由来となる。川南町の地形は、上面木山（1,040m）を中心とする西部に広がる山地と中央部から東端の海岸にかけて段丘が展開する。

山地の地質は尾鈴山酸性岩類に代表される深成岩で構成される。段丘は川南原や国光原などの「原」が付される地名が示すように広い平坦面をもち、古くから人間の生産活動の場でもある。

段丘は緩やかな隆起扇状台地となり、名貫川や中須川、平田川による侵食崖や谷によって14の段丘面に区分される。代表的な段丘面として、町の中央部に川南原、平田川以北の唐瀬原と中須川以南の国光原、そしてその間に位置する野田原が挙げられる。

#### 2 歴史的環境

今回の調査において、一次・二次調査とも、旧石器時代～弥生時代の遺構や遺物が確認された。そこで、周辺の遺跡分布状況について、同時期の遺跡について概観したい。

川南町の地形は、山地とその東麓から海岸に展開する平坦な段丘面の二つに区分され、各時代の遺跡は段丘上に多く分布する。

本遺跡の北東部の台地には、虚空蔵免遺跡（旧石器、縄文土器）、赤石・天神本遺跡（縄文時代草創期土器、弥生時代竪穴住居跡、石庖丁）、北側低地には大内原遺跡（弥生時代中期～古墳時代、中世）が位置する。南東側には中ノ迫第2遺跡（旧石器時

代～縄文時代早期、弥生時代）、前ノ田村上第1遺跡（旧石器時代～弥生時代、中世～近世）、南側には川南古墳群に指定される円墳2基がある。

旧石器時代は、始良Tn火山灰層（AT）下位～霧島イワオコシの石器群を出土した遺跡として著名な後牟田遺跡が代表例として挙げられる。近年の調査では、中ノ迫第2・3遺跡、前ノ田村上第2遺跡等においてナイフ形石器、細石刃等の石器の出土とともに礫群も検出されている。

縄文時代は、後牟田遺跡、霧島遺跡、上ノ原遺跡、藏庄村遺跡、銀座1・2・3A遺跡等において、早期の遺構や遺物は確認されているが、草創期・前期～晚期について良好な遺跡は確認されていなかった。しかし、近年の調査例では、赤石・天神本遺跡や前ノ田村上第2遺跡において、草創期の隆帯土器が出土している。早期では集石遺構を40数基検出した尾花坂上遺跡や集石遺構を32基、炉穴も21基検出した中ノ迫第3遺跡等がある。また赤石・天神本遺跡では、後・晚期の竪穴住居跡も検出された。このように確実に調査例が増えつつある。縄文時代の遺跡についても分布は山地及び山麓に形成される。

弥生時代の遺跡は、旧石器時代や縄文時代の遺跡と比して格段に多く充実した成果をもたらしている。弥生時代前期の発掘調査はないが、中期・後期～終末期の集落遺跡の調査は多い。中期の遺跡として藏庄村遺跡と大内原遺跡が挙げられる。藏庄村遺跡では「中溝式土器」を出土する竪穴住居跡を2軒検出した。大内原遺跡では、篠原川岸に広がる氾濫原の洪水砂層中から下城式や逆L字口縁の甕が出土した。藏庄村遺跡や大内原遺跡の調査例が示すように中期の集落は山麓（丘陵）縁辺部に位置すると考えられる。赤坂遺跡では、円形周溝墓1基、周溝状遺構3基、竪穴住居跡23軒が検出されている。特に円形周溝墓については、県内でも検出例が少なく、これまで検出されたもののほとんどが台地に造られているのに対して丘陵頂部の平場を選んで造営しているという特徴的な立地が特筆される。

古墳時代の遺跡として、国指定史跡として著名な川南古墳群が代表される。古墳時代前期～後期まで営まれた古墳群である。地下式横穴墓が墓制として

採用されていない地域もある。

歴史時代の遺跡は、古代においては下垂門の奈良時代後半の蔵骨器を伴う火葬墓が挙げられる。韓家郷の一部にも比定されていることから、渡米人との関連を思われる。さらに、去飛（都農町）の駅と児湯（木城町高城）の駅を結ぶ古代幹線道路の存在も推測される。

中世になると1578年の高城・耳川の戦いの大友軍の戦死者を弔うために島津方の武将山田新介が建立した宗麟原供養塔が著名である。近年の発掘調査、特に東九州自動車道関連の発掘調査では、銀座第1・2遺跡及び前ノ田村上第1遺跡で中世～近世の居館及び集村が検出された。数棟の掘立柱建物跡を方形の溝が囲繞するあり方は、出土遺物の多彩さ（国産陶磁器・輸入陶磁器、東播系須恵器など）とともに性格付けが検討課題である。

近世から現代にかけては大規模な開拓事業が進められた。特に第2次世界大戦前後には多くの入植者が移住した。川南町が「川南合衆国」と呼ばれる所以である。

#### 【引用参考文献】

川南町教育委員会1983 「川南町史」

川南町教育委員会1983 「川南町の埋蔵文化財 遺跡詳細分布調査報告書」

川南町教育委員会2002 「後半田遺跡 宮崎県川南町後半田遺跡における旧石器時代の研究」 後半田遺跡調査団

鬼塚久美子1997 「宮崎平野の古代交通路に関する予察」『宮崎県史研究』第11号

宮崎県埋蔵文化財センター2001 「蔵座庄遺跡」 『宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書』 第53集

宮崎県埋蔵文化財センター2006 「東九州自動車道（都農～西都間）間連埋蔵文化財発掘調査概要報告書V」 『宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書』 第131集

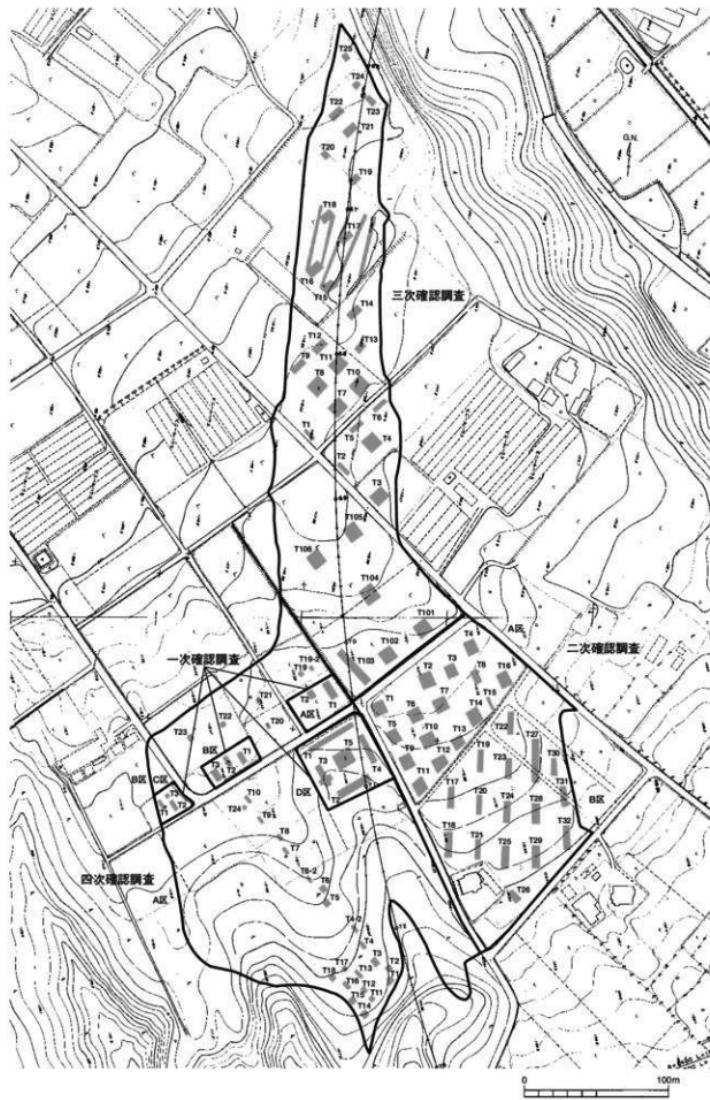
#### 第4節 確認調査の概要

中ノ迫第1遺跡は79,800m<sup>2</sup>を測る。調査面積を確定するため、平成13年度より4回に分けて確認調査を行った（第2図）。

一次確認調査は、平成13年9月12日～10月15日のうちの11日間、面積5,000m<sup>2</sup>を対象に13のトレンド（670m<sup>2</sup>）を設定して行った。調査区が4箇所に分かれているため、便宜上A～D区とした。4箇所ともほぼ平坦であるが、南に向かって緩やかに下っており、谷地形だったと考えられる。ほぼ全域で鬼界アカホヤ層（K-Ah）、小林軽石を含む層（Kr-Kb）、姶良Tn層（AT）の火山灰層が確認できた。AT下位の暗褐色ローム層（MB2・3）下まで掘り下げたが、D区T3暗褐色面（MBOに相当すると思われる）でピット1基、耕作土より剥片1点確認されたのみで、調査区から除外された。

平成15年度は、確認調査を3回に分けて行った。二次確認調査は、平成15年5月1日～7月22日のうちの50日間、面積19,200m<sup>2</sup>を対象とし32のトレンド（2,680m<sup>2</sup>）を設定して行った。便宜上、一段高い調査区北側をA区、南側をB区とした。旧地権者への聞き取り調査から、B区は1mほど天地返しされていることが分かった。B区の耕作土及び攪乱土を重機で除去すると、Kr-Kb上位まで削平されていることが確認された。AT下位のMB3まで掘り下げたが、T4の黒褐色ローム層（MBO）から石錠1点、T11のMBOから繩文土器片1点、石錠1点出土したのみで、調査区から除外された。

三次確認調査は、平成15年7月2日～9月29日のうちの51日間、面積29,300m<sup>2</sup>を対象とし31のトレンド（2,280m<sup>2</sup>）を設定して行った。当初の予定では北側17,000m<sup>2</sup>だけであったが、南側12,300m<sup>2</sup>も追加して実施した。旧地形は東に向かって緩やかに傾斜していたと考えられるが、調査時は削平され、階段状の畑地が広がっていた。特に、北側では最近までミカンやキウイ等の作物が栽培されていたり、不要になった肥料を大量に穴を掘って埋めていたりする等、攪乱箇所が多く見られた。しかし、浅い谷部に堆積したクロボク層中（T19）より土器小片が多数出土したり、AT上の褐色土層（本調査ではVI層）

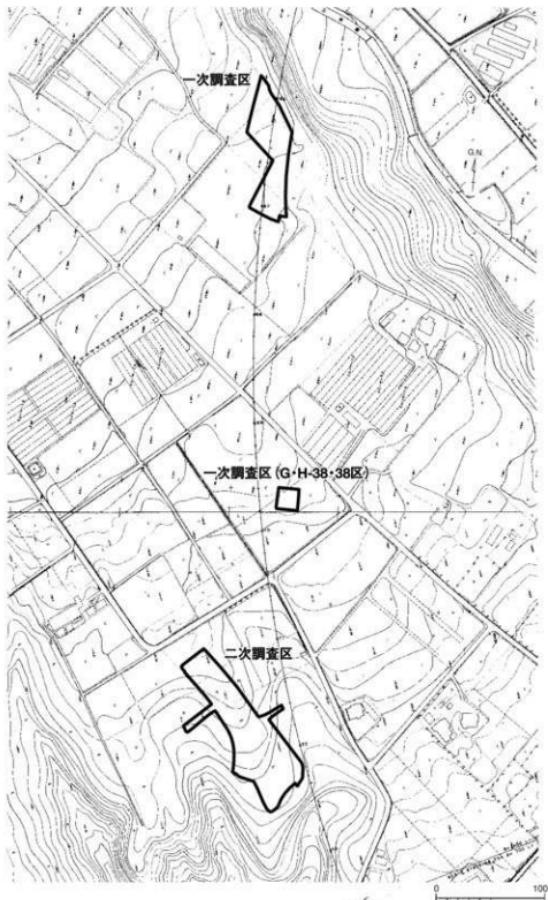


第2図 確認調査トレンチ配置図 (1/3,000)

より礫群が検出されたり、MB2・3よりナイフ形石器、剥片等が出土したりした。また、追加調査区でもT104でMB1より剥片等が出土した。しかし、それ以外のトレンチでは全く遺構・遺物等は確認されなかった。その結果、調査区北側を中心とする約4,100m<sup>2</sup>を対象区として、本調査（一次調査）を実施することとなった。

四次確認調査は、平成16年2月2日～3月30日のう

ち43日間、面積26,300m<sup>2</sup>を対象とし27のトレンチ（3,270m<sup>2</sup>）を設定して行った。調査の都合上道路を挟んで南東部をA区、北西部をB区に分けて確認調査を実施した。その結果、A区では、旧石器時代～縄文時代の遺物包含層が確認されたが、B区では、遺構・遺物は確認できなかった。よってA区の約6,000m<sup>2</sup>が本調査（二次調査）対象区となった（第3図）。



第3図 調査区と周辺地形図  
(1/4,000)

## 第5節 遺構・石材に対する基本的な考え方

### 1 遺構

#### (1) 碑群

旧石器時代、周囲と比較して礫のまとまりが見られ、5個以上構成礫があるもの、赤化した礫を含むものを碑群と認定した。碑群の構成礫数や範囲は調査区や出土層によって違いがあるため、発掘調査時の検出状況をもとに判断した。

調査の結果、一次調査ではⅡ期で21基の碑群を検出し、二次調査ではⅠ期で8基、Ⅱ期で15基の合計23基の碑群を検出した。

#### (2) 集石遺構

縄文時代早期、径2m程度の範囲に、赤化した礫が密に集まつたものを集石遺構とした。二次調査では2基検出した。

#### (3) 散礫

上記の(1)・(2)のいずれにも当てはまらない礫を散礫とした。旧石器時代・縄文時代の散礫は全て点上げた。

#### (4) 遺物集中域

本遺跡でいう遺物集中域とは、石器製品・剥片・碎片が集中して出土する範囲を指す。遺物集中域石器の範囲・石器の数は、調査区・包含層で違がある。

## 2 石材および石材種

中ノ迫第1遺跡から出土した石器に用いられた石材には以下のようなものが挙げられる。なお、火成岩系では流紋岩、堆積岩系では砂岩・頁岩とした資料には、厳密には变成してホルンフェルス化しているものを含む可能性がある。これは、典型的なホルンフェルスの特徴（粉吹き状風化、点紋・筋状パターンの風化、紫黒系で緻密な新鮮面）が認められない場合は、他の特徴から石材種を同定しているためである。例えば、流理構造が明瞭な場合は流紋岩として同定した。

以下、注釈を要するものについて説明する。

#### (1) 火成岩

#### ①流紋岩 (Ry)

おおまかに三つの様相に分かれる。元々は黒色であったが、变成してホルンフェルス化しているものも含む可能性がある。

##### 【Ry I群】

淡黃白色から灰褐色を呈する。表面の風化が進んでいるため流理構造は明確ではない。新鮮な面は黒色緻密。肉眼的には5ヶ瀬川流域の旧石器に多用される石材と同種。

##### 【Ry II群】

灰褐色から褐色を呈する。表面に風化がやや進んでいるが流理構造は明瞭に観察される。所々に球顆が入るものもある。新鮮な面は黒色緻密。肉眼的特徴が類似する資料は五ヶ瀬川流域の旧石器にも散見される。

##### 【Ry III群】

やや光沢のある黒色を基調とし、しばしば灰色の流理構造が観察される。風化はさほど進まず緻密。灰色の流理構造が斑状に広がる資料もある。

#### ② 黒曜石

九州島内の所産地に概ね対応した変異によって8つのグループに分けられる。

##### 【桑ノ木津留産】

肉眼による同定から宮崎・鹿児島・熊本三県境に所在する桑ノ木津留を産地とする可能性を指摘できる一群。透光下では、ややセピア色がかる黒色を呈する。透光性は高く、強い光沢をもつ。わずかに白色の不純物を含む。自然面はザラついた平坦面から構成。ロウ状の肌理を持ち良質。

##### 【日東産】

肉眼による同定から鹿児島県に所在する日東を産地とする可能性を指摘できる一群。透光性に乏しく光沢が強い。黒灰色が主で、縞模様が目立つ。黄白色の不純物を多く含む。自然面は発泡したような凹凸に富む。

##### 【電ヶ水産】

肉眼による同定から鹿児島県に所在する三船（竜ヶ水）を産地とする可能性を指摘できる一群。透光性が高く、黒茶色。縞模様があり、極小白色斑点が見られる。

### 【姫島産】

肉眼による同定から大分県に所在する姫島を産地とする可能性が高い一群。灰白色～灰黒色を呈し、透光性が高い。

### 【小国産】

肉眼による同定から熊本県に所在する小国を産地とする可能性を指摘できる一群。黒色で光沢がある。模様があり、極小白色斑点が見られる。

### 【淀姫産】

肉眼による同定から佐賀県に所在する淀姫を産地とする可能性を指摘できる一群。黒色で光沢はない。極小白色斑点が見られる。自然面は爪で押したようなあとが見られる。

### 【腰岳産】

肉眼による同定から佐賀県に所在する腰岳を産地とする可能性を指摘できる一群。漆黒色で光沢がある。なめらかなガラス質で孔内に無光沢の白色球顆をもつこともある。

### 【針尾産】

肉眼による同定から長崎県に所在する針尾を産地とする可能性を指摘できる一群。灰色～暗灰色を呈し、なめらかなガラス質だが、わずかにざらつく。

#### ③ 尾鈴山酸性岩類

本岩は暗灰～灰褐色を呈し、白色の本質レンズをもつ。風化が進むと、剥離面は灰白色となる。

### (2) 変成岩

#### ① ホルンフェルス (Ho)

ホルンフェルス特有の粉吹き状風化、点紋・筋状パターンの風化の有無を基準に認定し、肉眼的特徴にしたがって二群に分けられる。

### 【Ho I 群】

粉吹き状に強く風化し黄白色から黄土色あるいは灰色を呈する。棱線も摩滅する傾向が強い。色調から更に二群に分けられる。

I 群a…黄土色から黄灰色

I 群b…灰色から暗灰色

### 【Ho II 群】

風化した表面に点紋が万遍なく点在し、筋状のパターンで分布する。灰色から暗灰色を呈する。

### (3) 堆積岩

#### ① 貝岩 (Sa)

粒状構造が明瞭で、堆積面を反映した剥離が認められるものを一括した。

#### ② 砂岩 (Sa)

目が細かい硬質なもの。

#### ③ チャート (Ch)

### 【Ch I 群】

大変硬く縞状、網状模様が特徴的。なめらかな割れ口。色調から更に4種に分けられる。

Ch I 群a…乳白色

Ch I 群b…灰色、灰黒色

Ch I 群c…緑色

Ch I 群d…無光沢

## 第Ⅱ章 一次調査の記録

### 第1節 調査の方法と経過

#### 1 調査の方法

平成15年11月12日付けで本調査（一次調査）に着手する。調査対象面積は4,100m<sup>2</sup>である。調査の便宜上、調査区北側を北部、三次確認調査時に確認された埋没谷周辺部を谷部、さらに調査区より南に約500m離れた調査地点（400m<sup>2</sup>）をG・H-38・39区とした。三次確認調査や本調査の層一括取上については、北部は「キタ」、谷部は「タニ」という名称で遺物の注記を行った。

グリッド杭は、国土座標を基準とし10m間隔で設定した（第4図）。北部、谷部の表土を重機で除去後、北部AT上の褐色土層（VI層）、谷部のクロボク層（II層）を並行して掘り下げた。北部、谷部ともに、以前利用されていたキウイ栽培、堆肥製造の影響が多く見られ、至る所で搅乱土が厚く堆積していた。北部では、三次確認調査時にVI層で礫群が検出されていたT25周辺から徐々に手グワで掘り下げていった。谷部については、範囲や深さ等を確定するため、先行トレレンチを東側に設定して、掘り下げを進めた。

遺物包含層中の遺物は光波トランシットにより取り上げたほか、グリッド一括、谷部層一括等により取り上げた。遺構実測図は1/10を基本とし、一部1/20で記録した。写真記録は35mmモノクローム・リバーサル・カラー写真を併用し適宜行った。

#### 2 調査日誌抄

H15.11.12 調査開始。

- 11.13 重機搬入。事務所、休憩棟、駐車場、取付道路の填圧後、クラッシャーラン敷設。
- 11.14 重機による表土剥ぎ開始。三次確認調査時の排土を調査除外区へ運搬。
- 11.18 発掘作業員による発掘調査開始。
- 11.20 重機による表土剥ぎ終了。
- 11.21 谷部東側先行トレレンチ掘り下げ開始。
- 12.01 谷部西側II層、北部北側II層、南側VI層掘り下げ開始。
- 12.03 谷部東側先行トレレンチII層より轟B式、

複合口縁壺の土器片出土。

- 12.04 北部北側VI層上面よりSI2検出（三次確認調査T25で確認されたものをSI1とする）。
- 12.08 北部～谷部のグリッド杭設定（委託）。
- 12.12 南に離れた調査地点のグリッド杭設定（委託、G・H-38・39区とする）。
- 12.15 重機による谷部南側の表土剥ぎ及び排土移動。
- 12.16 谷部南側一部でK-Ah層面が見られSEI検出。谷部周辺で堆肥を埋めた搅乱穴を数箇所確認。
- 12.24 谷部西側埋土はば完掘。谷底部分では、K-Ah層見られず、巨礫確認。
- H16.01.06 北部で一部AT上面確認。
- 01.08 北部の基本層序を再確認するため、先行トレレンチを設定、掘り下げ。
- 01.14 谷部土層ベルト写真撮影。VI層掘り下げを北部から谷部に向かう東側へ広げ始める。これ以後、VI層にて礫群検出、遺物出土量も増えるが、削平された搅乱箇所も広がっている。
- 01.20 SI10東南側より剥片が集中して出土。遺物集中域とする。
- 01.23 VI層掘り下げを北部西側にも広げ始める。
- 02.04 C 6区搅乱土中より寛永通宝（破片）一枚出土。
- 02.09 C 2区VI層上面でSCI検出。
- 02.12 C 4・D 4・5区を中心にAT下位層先行掘り下げ。剥片、碎片が集中して出土。
- 02.13 重機で北部AT剥ぎ。G・H-38・39区表土剥ぎ拡張。IV層上面で精査。
- 02.17 空中写真撮影（委託）を行う。D 7・8、E 8区周辺の搅乱部掘り下げ開始。
- 02.18 G・H-38・39区I層掘り下げ開始。遺物なし。
- 02.23 C 5・6区IX層掘り下げ開始。上面では遺物多く見られるが、掘り下げるに従い、少なくなる。以後徐々に範囲拡張。E 8区VI層下部より剥片等集中して出土。D

- 8区IV層より土器片集中して出土。近くでIV層にてSC2確認。
- 03.03 C5区にてX層、疊層上面確認。
- 03.15 重機により排土を調査除外区へ運搬。
- 03.16 重機により谷部K-Ah剥ぎ。
- 03.19 谷部IV層掘り下げ開始。東側ではIV、V層が見られなかつたり、IV層下で疊層が見られたりする箇所がある。遺物なし。
- 03.30 平成15年度調査終了。
- 04.05 平成16年度調査開始。北部IX層、谷部IV層掘り下げ。
- 04.06 谷部IV層以下確認のため、先行トレンチ掘り下げ。
- 04.07 谷部IV層以下で疊層確認。
- 04.09 北部平板実測。地形測量図（コンタ）作成。
- 04.12 北部、谷部平板実測。地形測量図（コンタ）作成。
- 04.14 G・H-38・39区IV層掘り下げ開始。
- 04.23 G・H-38・39区V層以下掘り下げ開始。
- 04.26 谷部掘り下げ完了。
- 05.07 北部、D8区VI層掘り下げ。D8区で剥片等集中して出土。
- 05.26 G・H-38・39区にトレンチを入れ、Ⅶ層上面まで掘り下げ完了。遺物なし。
- 05.28 北部掘り下げ完了。発掘作業員による発掘調査終了。
- 06.01 重機による埋め戻し開始。
- 06.09 重機による埋め戻し完了後、填圧。現地における調査終了。

### 3 整理作業及び報告書作成

整理作業は、遺物と疊に分けて行った。疊洗浄・注記・計測・接合等については東畠原整理作業事務所にて平成16年10月～12月に実施した。遺物の洗浄・注記・接合・実測・拓本等及び報告書作成は平成16年9月～平成18年10月の期間において埋蔵文化財センター本館で実施した。



第4図 グリッド配置図・土層断面測定箇所 (1/600)

## 第2節 基本層序

本調査区では、埋没谷の存在や削平による擾乱箇所が多くみられるなど、堆積状況は一定していない。

そこで、鬼界アカホヤ火山灰上位の基本土層は谷部で作成し、鬼界アカホヤ火山灰下位については北部で行い、基本層序を以下のようにした（第5・6図）。

I層：表土、擾乱土

II層：黒色土（クロボク）【Hue10YR1.7/1】

非常に粒が細かくさらさらとしていて、やわらかい。谷部の残存は良いが、調査区の場所によつては残存していない。縄文時代前期～弥生時代終末期の遺物を含む。

III層：鬼界アカホヤ（K-Ah）火山灰

黄橙色土【Hue7.5YR4/6】

非常に粒が細かくさらさらとしていて、非常にやわらかい。II層と同じような残存である。

IV層：黒褐色土（MBo）【Hue7.5YR2/2】

粘性がややあり、固くしまっている。縄文時代早期の遺物を含む。

V層：暗赤褐色土（ML1）【Hue5YR3/2】

粘性がややあり、ややしまりがある。北部では北にいくほど色が薄くなる。1～2mmほどの白・橙色粒を含む。

VI層：小林軽石をわずかに含む暗褐色土

（Kr-Kb相当層）【Hue7.5YR3/3】

粘性がややあり、やややわらかい。1mmほどの白色粒を含む。VI層を中心してV～Ⅷ層にかけて、旧石器時代Ⅱ期の遺物を含む。

Ⅸ層：暗褐色土（ML2）【Hue10YR3/4】

粘性がややあり、固くしまっている。1～2mmほどの白色鉱物粒、それよりもやや大きい（5mmほどまで）黄橙色粒を多く含む。下部は黄みが強くなる。北部ではブロック状に入る所もある。谷部ではⅨ層～X層は残存せず、VI層下は礫層となる。

Ⅹ層：始良Tn火山灰（AT）【Hue7.5YR6/8】

粗粒でざらざらとしていて、非常にやわらかい。1～2mmほどの白色鉱物粒、それよりもやや大きい（5mmほどまで）黄橙色粒を多く含む。

下部は色調が白みを増し、固くしまっている所がある。北部ではブロック状に入る所もある。

IX a層：黒褐色土（MB2）【Hue7.5YR3/2】

粘性があり、非常に固くしまっている。乾燥するとブロック状に割れる。1mm以下の白色鉱物粒を多く含み、2mmほどの黄橙色粒をまばらに含む。北部の東側では残存していない。IXa・b層において旧石器時代Ⅰ期の遺物を含む。

IX b層：黒褐色土（MB3）【Hue7.5YR3/2】

粘性があり、固くしまっているがIXa層よりやややわらかい。下部ほどややわらかく、色調も薄くなる。乾燥するとブロック状に割れる。白色鉱物粒はほとんどみられない。北部の東側では残存していない。

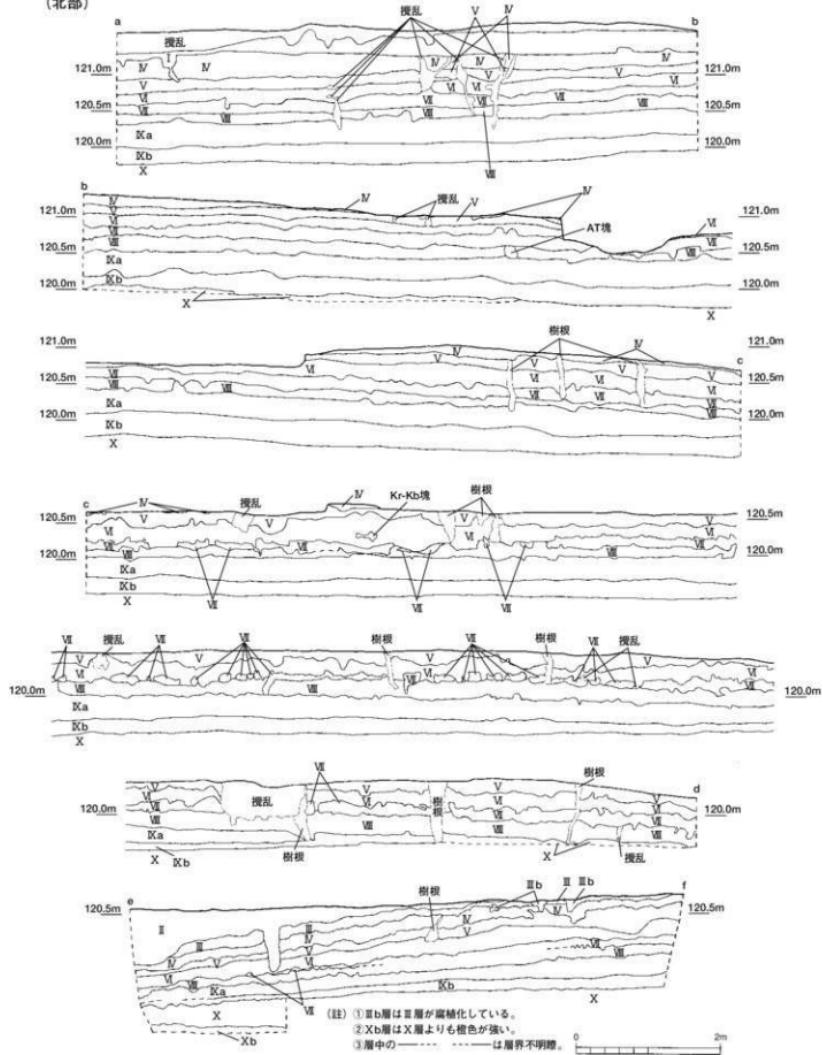
X層：明褐色土【Hue7.5YR5/6】

非常に粘性があり、やわらかい。乾燥すると固くなり、亀裂を生じる。1mm以下の白色鉱物粒、2mmほどの橙色粒を含む。

XI層：礫層

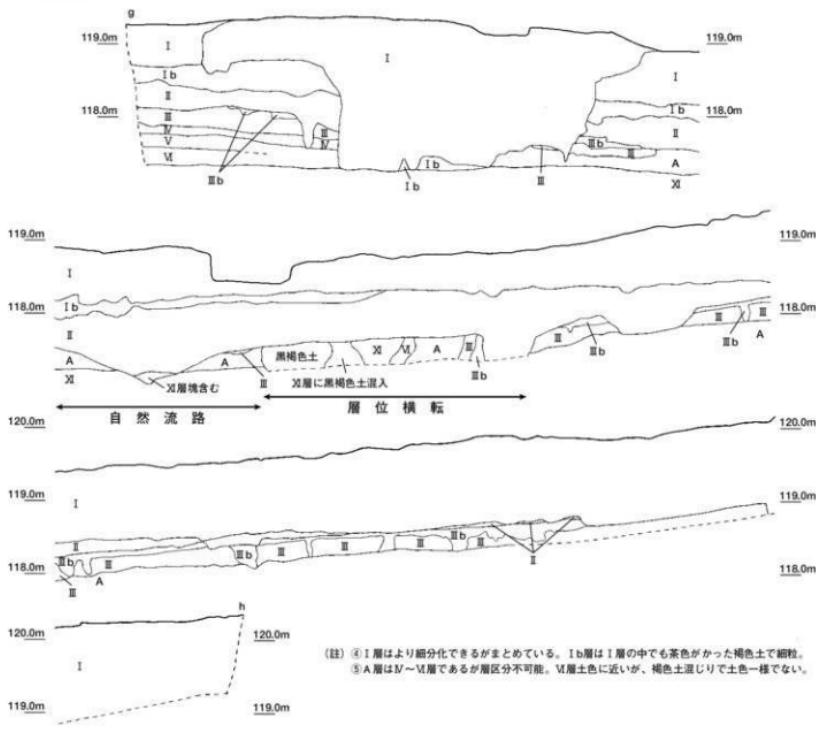
鶏卵～人頭大以上の尾鈴山酸性岩類の巨礫を多く含む。礫間はX層よりも粘性のある明赤褐色土【Hue5YR5/8】である。

(北部)

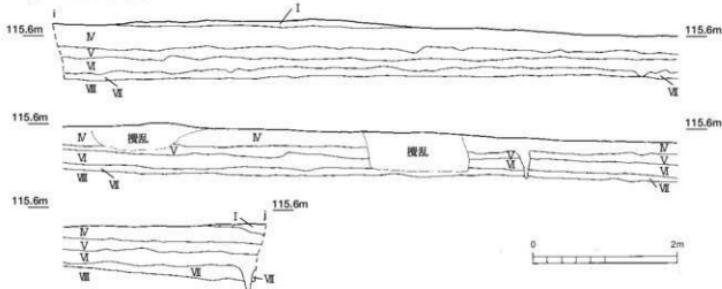


第5図 土層断面図1 (1/60)

(谷部)



(G・H-38・39区)



第6図 土層断面図2(1/60)

### 第3節 調査の記録

#### 1 旧石器時代の遺構と遺物

##### (1) 概要

旧石器時代の調査は中央から北部約2,200m<sup>2</sup>とG・H-38・39区約400m<sup>2</sup>でⅧ層(AT)上面まで行った。北部のうち約1,000m<sup>2</sup>については、さらにX層上面まで精査した。

遺構・遺物については、中央から北部で確認された。そのうちAT下位層(IXa層MB2～IXb層MB3)で出土したものとI期とし、V層(ML1)・VI層(Kr-Kb相当層)で出土したものをII期として報告する。

##### (2) I期の遺物(第7・8図)

遺物は北部の段丘端部傾斜地のみに分布しており、531点出土した。大半が流紋岩で60%近くを占め、珪質頁岩、ホルンフェルスがそれぞれ13%前後を占める。遺物集中域はグリッドD4・D5を中心とし、北西から南東方向を主軸とする約16m×9mの範囲で確認された。ナイフ形石器や石核、剥片、碎片など427点が集中して出土した。ここだけで遺物全体の80%が集中している。

石材分類は、第1章第5節で述べたとおりである。以下石材種ごとに遺物の説明をする。石材、器種の内訳は第1表を、詳細についてはそれぞれの石器観察表(第2～7表)を参照されたい。

##### 【流紋岩】(第9～13図)

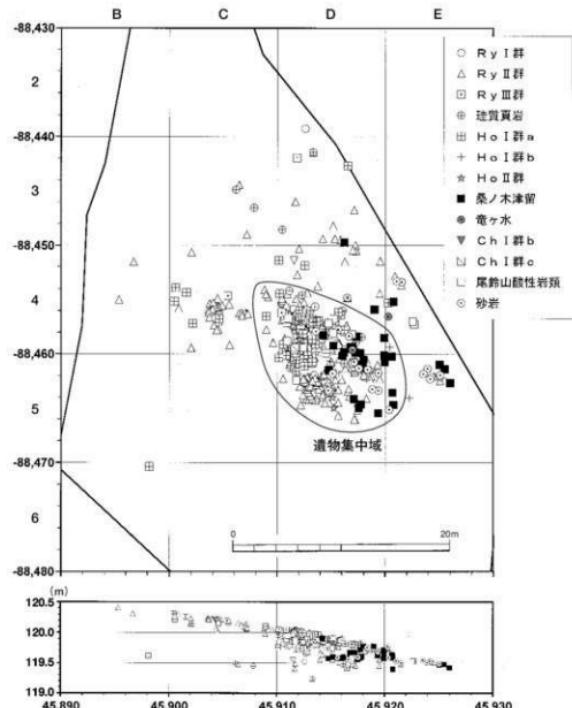
流紋岩は314点が出土し、Ry I群が約96%を占める。流紋岩全体の約79%が遺物集中域から出土している。

石材種別に分布を詳しくみると、3種とも約8割前後が遺物集中域から出土している。Ry II群はグリッドC4の南部から多く出土している。器種別にみると、Ry I群ではナイフ形石器5点(第10図1～5)、搔器1点(第10図6)、二次加工剥片1点(第10図7)、石核1点(第13図13)、接合資料6点が確認された。200点近くの剥片・80点以上の碎片も確認されていることから、Ry II群を用いて、遺跡内の緩やかな傾斜地で、ナイフ形石器を中心に製作されたと考えられる。このほか、Ry II群では剥片4点(第10・11図8～11)、Ry III群では石核1点(第11図12)を実測した。Ry II群の接合資料については、6点のうち石核が接合している1点(第

13図13～15)のみ実測した。Ry I群についてはすべて剥片、碎片のため、実測していない。



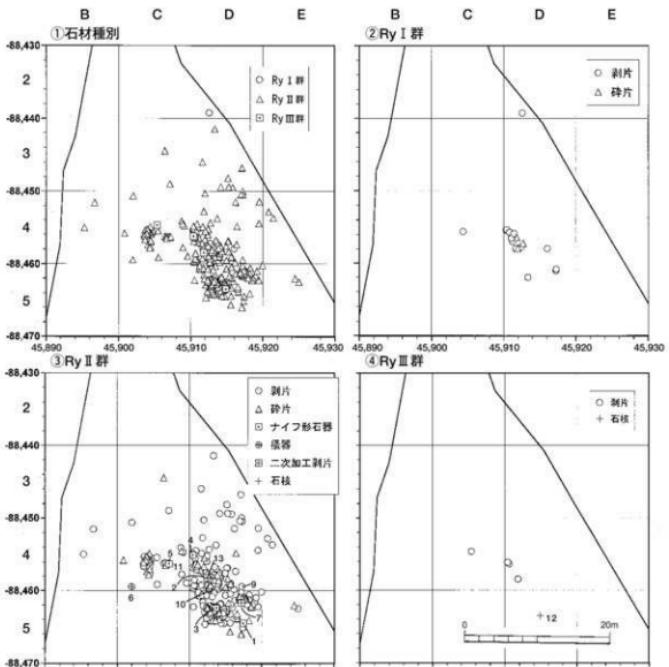
第7図 旧石器時代I期遺物分布図1(1/600)



第8図 旧石器時代I期遺物分布図2(1/400)

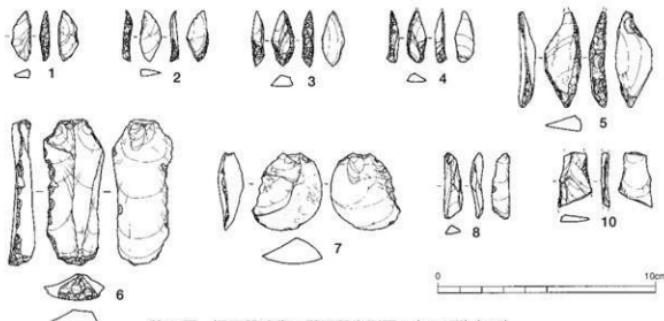
石材・石材種	ナイフ形石器	椎器	二次加工剥片	石核	敲石	台石	剥片	碎片	合計	総重量(g)
流紋岩 Ry I群							15	3	18	24.6
流紋岩 Ry II群	5	1	1	1			198	85	291	568.1
流紋岩 Ry III群				1			4		5	50.2
珪質頁岩				1			51	23	75	147.5
ホルンフェルス Ho I群a	1			2			50	1	54	313.9
ホルンフェルス Ho I群b			1				4	6	11	28.2
ホルンフェルス Ho II群							3		3	18.7
黒曜石 桑ノ木津留							10	23	33	16.6
黒曜石 魚ヶ水							2	19	21	5.3
チャート Ch I群b							1	1	0.1	
チャート Ch I群c	1					1		5	6	4.5
尾鷲山類					5			4	10	11125.0
砂岩						1	2		3	2869.2
合計	7	1	2	5	2	7	337	170	531	15171.9

第1表 旧石器時代I期石器・石材組成表

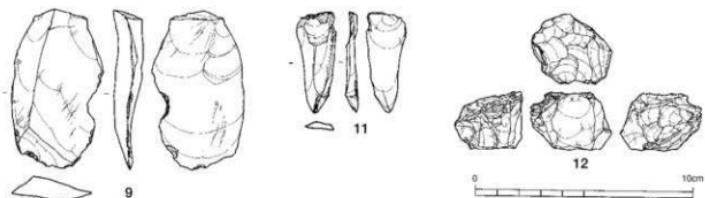


第9図 旧石器時代I期遺物分布図3(流紋岩)(1/600)

<Ry II・III群>



第10図 旧石器時代I期石器実測図1(RyII群)(1/2)



第11図 旧石器時代I期石器実測図2(RyII・III群)(1/2)

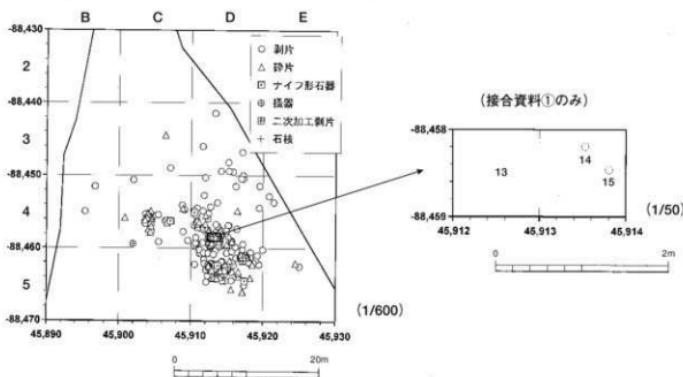
遺物 No.	取上No.	層序	石材種	器種	国土土標 X座標	国土土標 Y座標	標高 (m)	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	備考
1	1008	IXa	Ry II	ナイフ形石器	-8844.514	45917.459	119.767	2.3	0.9	0.3	0.7	右側面に前面からの調整を施す。
2	1351	IXa	Ry II	ナイフ形石器	-8848.254	45912.378	119.995	2.3	1.0	0.3	0.7	左側面に背面から、右側面下部に腹面から調整を施す。
3	1246	IXa	Ry II	ナイフ形石器	-8846.216	45913.726	119.775	2.5	1.1	0.4	1.2	右側面と左側面下部に腹面から調整を施す。
4	1042	IXa	Ry II	ナイフ形石器	-8845.088	45910.482	120.031	(2.3)	0.9	0.4	0.8	左側面と右側面下部に腹面から調整を施す。先端を欠損。
5	1104	IXa	Ry II	ナイフ形石器	-8846.294	45907.179	120.126	(4.4)	1.7	0.8	4.3	右側面と左側面に前面から調整を施す。先端を欠損。
6	1096	IXa	Ry II	器器	-8849.426	45901.999	120.147	6.6	2.7	1.1	16.2	縦長剥片素材。剥片の末端部を刃部としている。
7	1015	IXa	Ry II	二次加工剥片	-8841.708	45917.193	119.801	3.7	3.0	1.0	11.3	左側縁に前面から調整を施す。縦面残着。
8	1464	IXb	Ry II	剥片	-8846.930	45912.896	119.845	2.9	0.8	0.5	1.0	縦長剥片。
9	1023	IXa	Ry II	器器	-8849.465	45917.242	119.827	7.0	4.1	1.1	28.6	縦長剥片。
10	1290	IXa	Ry II	剥片	-8845.818	45912.632	119.942	(2.5)	1.5	0.3	1.2	縦長剥片。先端とともに欠損。
11	1143	IXa	Ry II	剥片	-8845.771	45908.972	119.980	4.6	1.8	0.5	2.8	縦長剥片。右側縁下部はガジリ。
12	1216	IXa	Ry III	石核	-8846.501	45914.881	119.853	3.8	3.4	2.5	33.2	打面・作業面を一定の剥離の後順次転移。縦長剥片・剝離。

第2表 旧石器時代I期石器観察表1

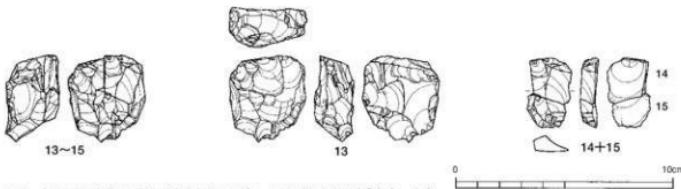
【接合資料①】(第12・13図)

石核1点(第13図13)と剥片1点(第13図14+15)の流紋岩製(Ry II群)の接合資料である。打面を

転移させながら縦長剥片を連続して剥離作業を行った後に、上からの打撃で2点を剥離している。石器の詳細は第3表を参照されたい。



第12図 旧石器時代I期遺物分布図4(RyII群・接合資料①)



第13図 旧石器時代I期石器実測図3 (Ry II群・接合資料①) (1/2)

【接合資料①】流紋岩 Ry II群(第13図 13~15)

遺物 No.	地 理 上 位 置	石 材 種	器 種	國 土 座 標 X座標	國 土 座 標 Y座標	標 高 (m)	長 さ (cm)	幅 (cm)	厚 さ (cm)	重 量 (g)	備 考
13 1052	IXa	Ry II	石核	-88458.345	45912.564	119.984	3.8	3.5	1.8	27.1	13~15は接合(剥片剥離接合)。剥片素材石核。
14 1319	IXa	Ry II	剥片	-88458.195	45913.529	119.880	1.9	2.1	0.8	3.1	
15 1320	IXa	Ry II	剥片	-88458.458	45913.803	119.908	1.5	1.8	0.7	2.0	14+15(折れ面接合)。

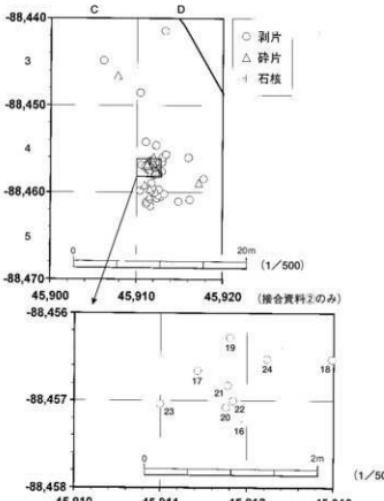
第3表 旧石器時代I期石器観察表2

【珪質頁岩】 (第14・15図)

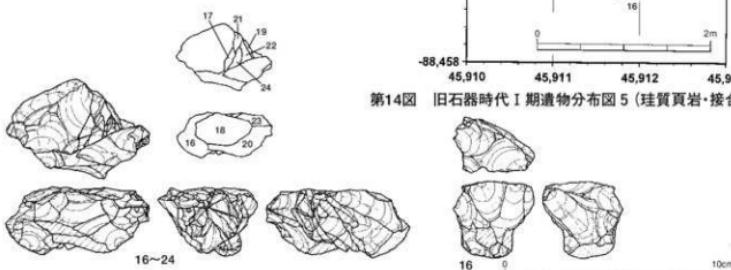
珪質頁岩は75点が出土し、全体の95%が遺物集中域から出土している。母岩は2点はあると思われるが、石材種別に細かく分類はしていない。器種別にみると、石核1点(第15図16)のみであとは剥片、碎片ばかりであるが、接合資料も2点確認されていることから、何らかの石器製作は行われたと考えられる。接合資料については、石核を含む1点(第15図16~24)のみ実測した。

【接合資料②】 (第14・15図)

石核1点(第15図16)と剥片8点の珪質頁岩製の接合資料である。16は打面を転移させながら連続して剥離作業を行っていった結果の残核である。石器の詳細は第4表を参照されたい。



第14図 旧石器時代I期遺物分布図5 (珪質頁岩・接合資料②)



第15図 旧石器時代I期石器実測図4 (珪質頁岩・接合資料②) (1/2)

【接合資料②:珪質頁岩】(第15図、16~24)

遺物 No.	取上No.	層序	石材種	器種	国土座標 X座標	国土座標 Y座標	標高 (m)	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	備 考
16 1049	DKa	珪質頁岩	石核	-88457.241	45911.908	120.030	3.7	4.3	2.4	29.2	16~24は接合(剥片剥離接合)。剥片素材石核。	
17 1430	DKb	珪質頁岩	剥片	-88456.655	45911.432	119.850	1.9	1.8	0.6	2.0	不定形剥片。	
18 1031	DKa	珪質頁岩	剥片	-88456.531	45912.984	119.977	2.5	3.8	1.1	10.4	幅広剥片。	
19 1044	DKa	珪質頁岩	剥片	-88456.281	45911.807	120.013	1.9	1.4	0.5	0.8	小剥片。	
20 1048	DKa	珪質頁岩	剥片	-88457.078	45911.759	120.048	4.6	1.8	1.3	10.0	幅広剥片。	
21 1366	DKa	珪質頁岩	剥片	-88456.829	45911.781	119.966	3.2	1.9	1.0	4.7	不定形剥片。	
22 1367	DKa	珪質頁岩	剥片	-88457.003	45911.838	120.037	2.8	1.9	1.0	4.4	不定形剥片。	
23 1374	DKa	珪質頁岩	剥片	-88457.038	45910.997	119.982	2.9	2.3	1.3	6.3	不定形剥片。	
24 1396	DKa	珪質頁岩	剥片	-88456.526	45912.229	119.974	3.3	2.3	0.7	3.6	不定形剥片。	

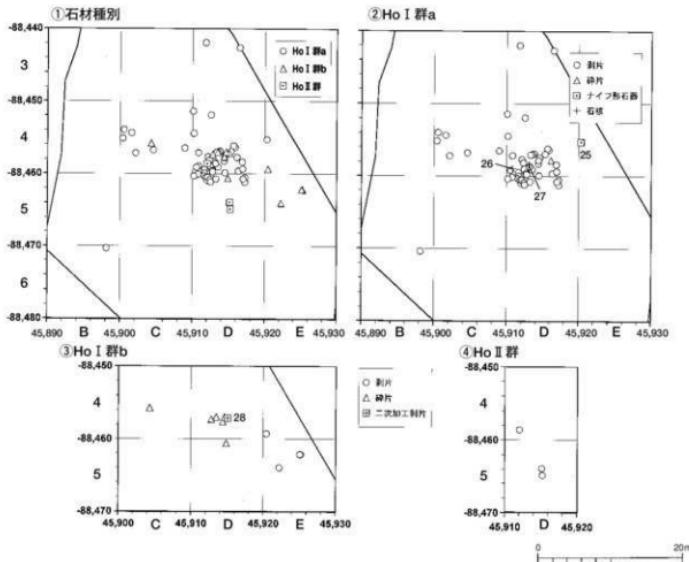
第4表 旧石器時代Ⅰ期石器観察表3

## 【ホルンフェルス】(第16~17図)

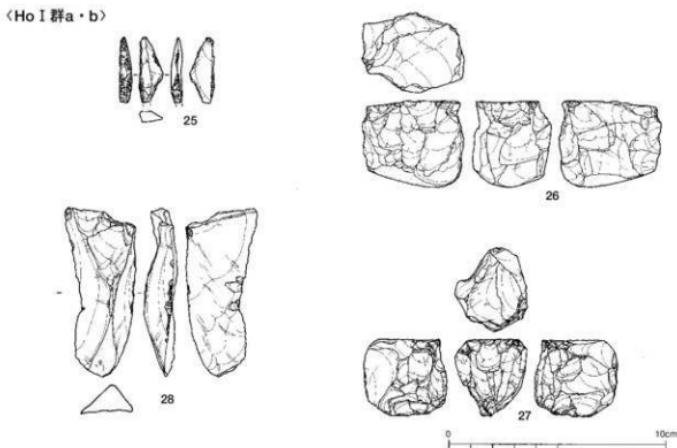
ホルンフェルスは68点が出土し、Ho I 群aが約80%を占める。全体の78%が遺物集中域から出土している。

石材種別に分布を詳しくみると、Ho I 群a以外は約80%以上が遺物集中域から出土している。器種別にみると、Ho I 群aではナイフ形石器1点(第17図25)、

石核2点(第17図26・27)、Ho I 群bでは二次加工剥片(第17図28)のみであとは剥片、碎片ばかりである。Ho II 群については剥片3点のため、実測していない。接合は確認できなかったが、Ho I 群aについては2点の石核の周辺で38点の剥片が出土しており、何らかの石器製作が行われたと考えられる。石器の詳細は第5表を参照されたい。



第16図 旧石器時代Ⅰ期遺物分布図6(ホルンフェルス)(1/600)



第17図 旧石器時代Ⅰ期石器実測図5 (Ho I群a・b) (1/2)

遺物 No.	取上No.	層序	石材種	器種	国土座標 X座標	国土座標 Y座標	標高 (m)	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	備考
25	1627	IXb	Ho I a	ナイフ形石器	-88455.283	45920.277	119.727	(2.9)	1.1	0.4	1.4	左側面に両面から、基部右側面に腹面から調整を施す。基部を欠損。
26	1053	IXa	Ho I a	石核	-88458.927	45910.863	120.039	4.0	4.5	3.9	88.2	剥片素材石核。打面を固定して、縦長剥片を連続して剥離。腹面残着。
27	1316	IXa	Ho I a	石核	-88458.441	45913.112	119.877	3.8	3.6	3.0	29.4	剥片素材石核。打面を固定して、縦長剥片を連続して剥離。
28	1027	IXa	Ho I b	二次加工剥片	-88457.219	45915.111	119.911	7.5	3.5	1.3	25.1	縦長剥片。作業面調整あり。

第5表 旧石器時代Ⅰ期石器観察表4

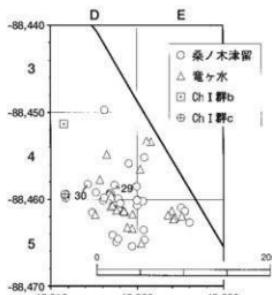
#### 【黒曜石・チャート】 (第18・19図)

黒曜石は54点が出土し、桑ノ木津留産、竜ヶ水産が確認された。桑ノ木津留産が約61%を占め、桑ノ木津留産の約82%が遺物集中域から出土しているが、竜ヶ水産は約57%にとどまっている。

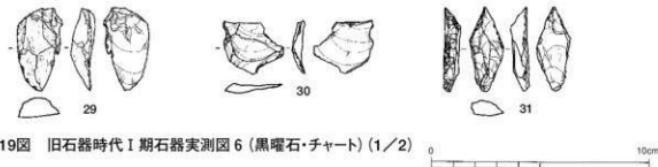
器種別にみると、両者ともに剥片、碎片ばかりで製品は出土していないが、何らかの石器製作が行われ、製品は持ち出されたものと考えられる。桑ノ木津留産の剥片2点(第19図29・30)のみ実測した。

チャートは7点出土した。確認調査時に24トレンチでナイフ形石器が1点(第19図31)出土したのみで、あとは碎片ばかりである。

石器の詳細は第6表を参照されたい。



第18図 旧石器時代Ⅰ期遺物分布図7 (黒曜石・チャート) (1/500)



第19図 旧石器時代Ⅰ期石器実測図6(黒曜石・チャート)(1/2)



遺物 No.	数上No.	層序	石材種	器種	国土座標 X座標	国土座標 Y座標	標高 (m)	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	備考
29	2363	IXb	条/木津面	剥片	-88458.416	45917.352	119.580	3.7	2.0	1.0	6.4	縦長剥片。標面残存。
30	1029	IXa	条/木津面	剥片	-88458.279	45914.253	119.909	2.4	2.8	0.6	2.0	不定形剥片。作業面調整あり。
31	247-4	IXa	ChI c	ナイフ形石器	三次確認調査24-レシナより出土			3.7	1.4	0.6	3.8	左側面に主に腹面から調整を施す。

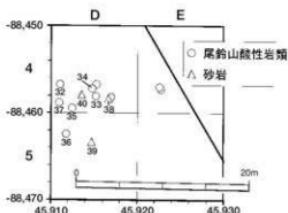
第6表 旧石器時代Ⅰ期石器観察表5

#### 【尾鈴山酸性岩類・砂岩】(第20~22図)

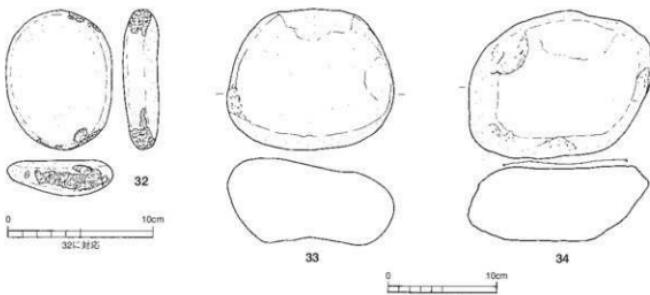
尾鈴山酸性岩類は10点が出土し、8点が遺物集中域から出土した。器種別にみると、敲石1点(第21図32)、台石5点(第21・22図33~37)、碎片である。

砂岩は3点すべてが遺物集中域から出土した。敲石1点(第22図38)、台石2点(第22図39・40)である。

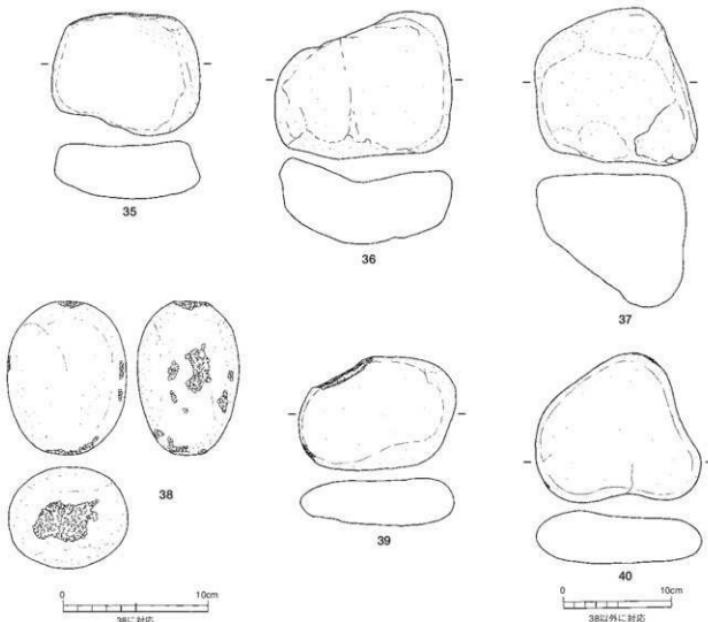
石器の詳細は第7表を参照されたい。



第20図 旧石器時代Ⅰ期遺物分布図8  
(尾鈴山酸性岩類・砂岩)(1/500)



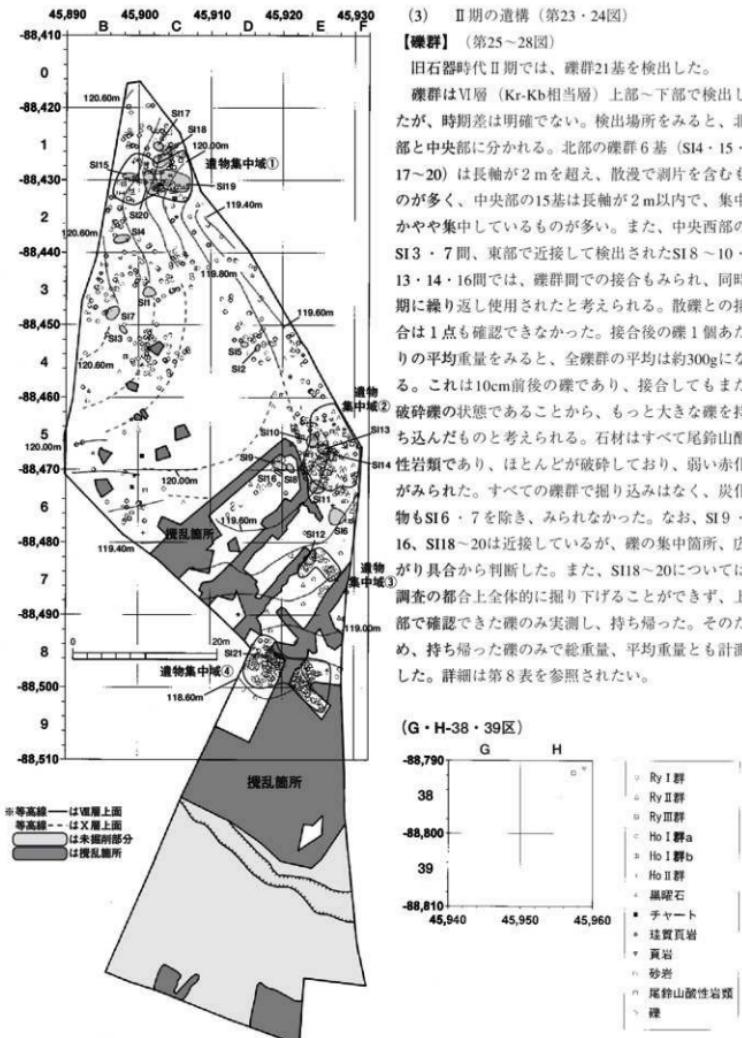
第21図 旧石器時代Ⅰ期石器実測図7(尾鈴山酸性岩類)(1/3・1/4)



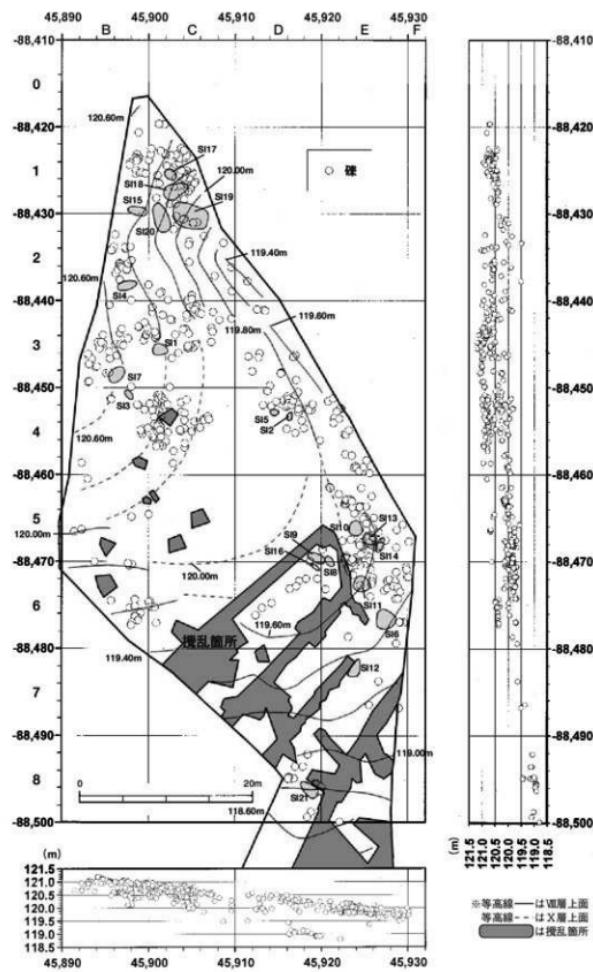
第22図 旧石器時代Ⅰ期石器実測図8(尾鈴山酸性岩類・砂岩)(1/3・1/4)

遺物 No.	取上No.	層序	石材種	器種	國土座標 X座標	國土座標 Y座標	標高 (m)	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	備考
32	1412	IXa	尾鈴山酸性岩類	敲石	-88456.740	45911.040	119.946	9.6	7.3	2.5	262.0	扁平な橢円形の右上端、下端に敲打痕がある。
33	1403	IXa	尾鈴山酸性岩類	台石	-88458.076	45915.179	119.750	15.35	12.9	8.3	2200.0	正面中央に擦り痕がある。
34	1404	IXc	尾鈴山酸性岩類	台石	-88457.193	45914.762	119.784	13.6	16.85	7.0	2400.0	正面中央下端に擦り痕がある。
35	1406	IXa	尾鈴山酸性岩類	台石	-88459.455	45912.454	119.843	11.2	13.65	5.4	1065.0	正面中央がやや窪み、擦り痕がある。
36	1408	IXa	尾鈴山酸性岩類	台石	-88462.432	45911.751	119.880	13.4	16.3	7.9	2070.0	正面中央に擦り痕がある。
37	1411	IXa	尾鈴山酸性岩類	台石	-88458.854	45910.930	119.877	14.45	14.4	12.6	3200.0	正面中央に擦り痕がある。
38	1475	IXb	砂岩	敲石	-88458.349	45916.632	119.554	10.6	8.2	7.0	870.0	橢円形の裏面中央、上下両端と両側縁の一部に敲打痕がある。
39	1402	IXa	砂岩	台石	-88463.363	45914.710	119.745	14.5	10.4	4.55	932.0	正面中央に擦り痕がある。左上端は敲打による割れか。
40	1405	IXa	砂岩	台石	-88457.908	45915.563	119.889	13.2	15.2	4.9	1280.0	正面中央に擦り痕がある。膨らみをもつ側縁部はややぶつぶれている。

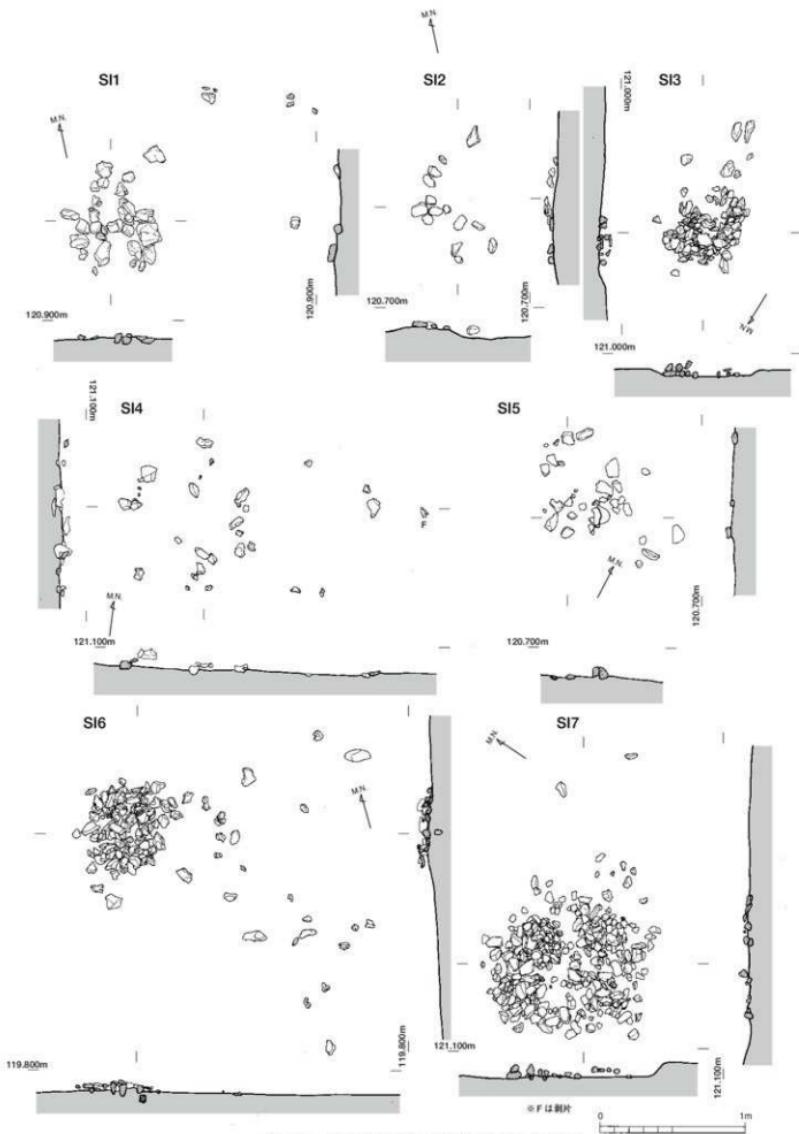
第7表 旧石器時代Ⅰ期石器観察表6



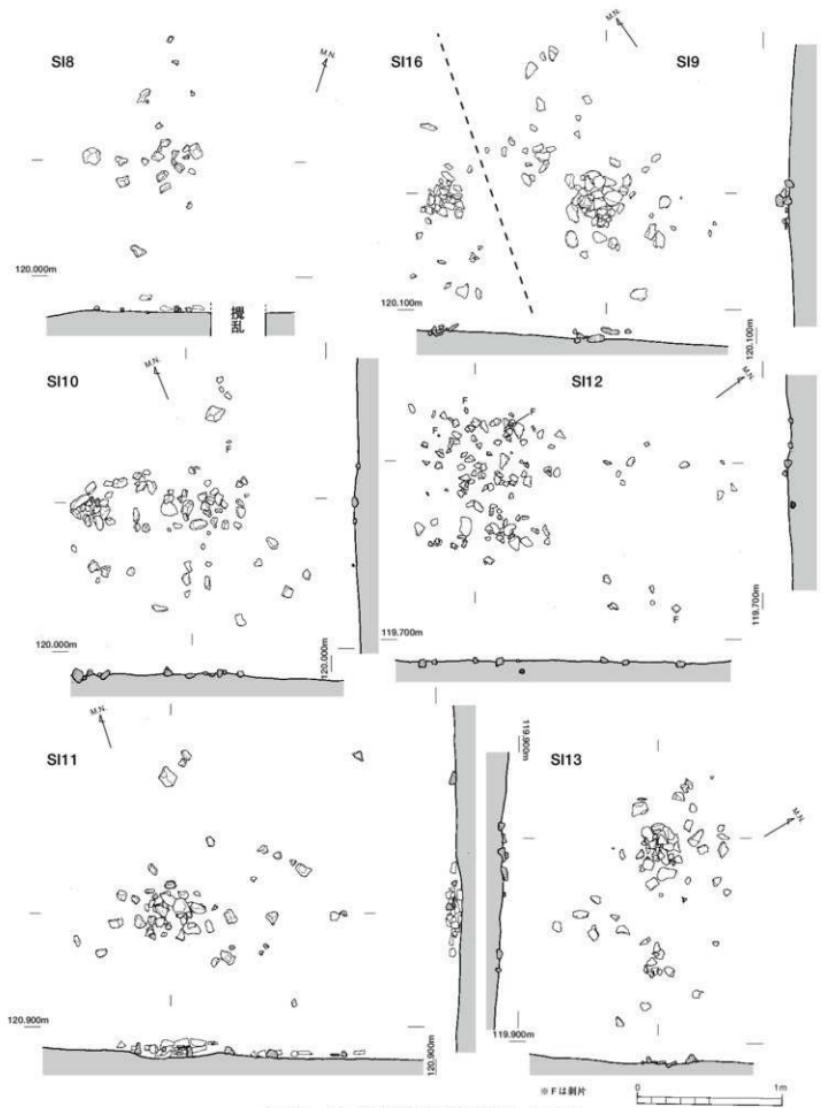
第23図 旧石器時代II期遺構・遺物分布図(1/600)



第24図 旧石器時代Ⅱ期礫分布図(1/500)



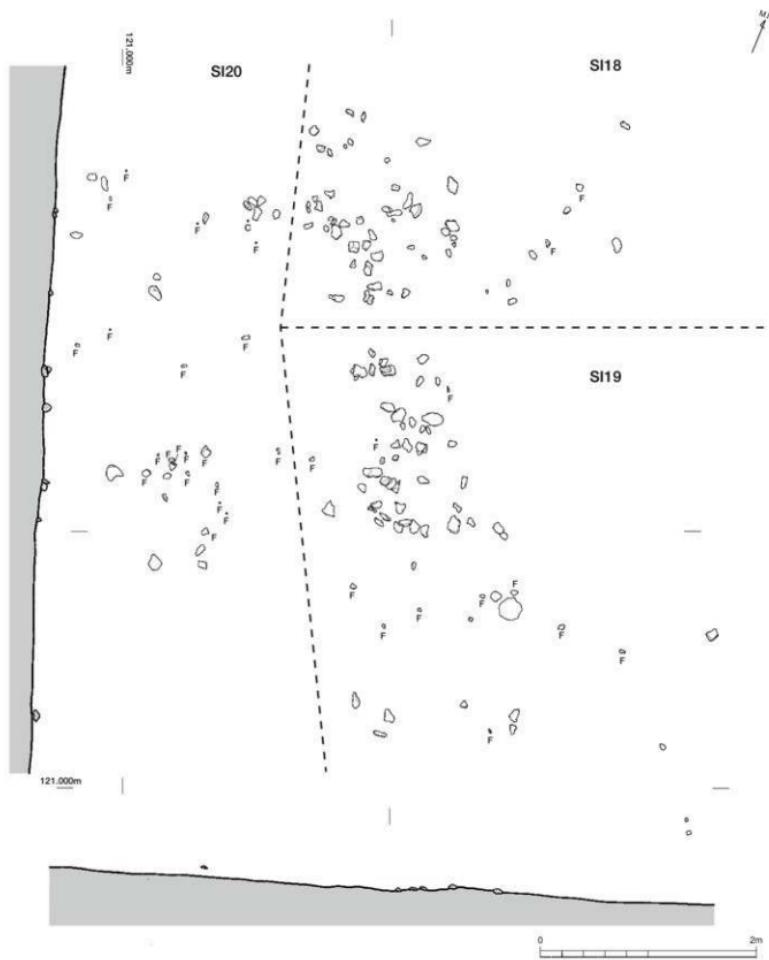
第25図 旧石器時代Ⅱ期縄群実測図1 (1/30)



第26図 旧石器時代Ⅱ期縄群実測図2 (1/30)



第27図 旧石器時代Ⅱ期礫群実測図3(1/30・1/40)



第28図 旧石器時代Ⅱ期縄群実測図4 (1/40)



#### (4) II期の遺物（第29図）

遺物は北部から中央部にかけての段丘端部傾斜地とG・H-38・39区に分布していた。全体で1031点であるが、G・H-38・39区はホルンフェルス2点のみである。大半が流紋岩で88%近くを占め、ホルンフェルスが10%近くを占める。遺物集中域はいざれも北西から南東方向を主軸とする次の4箇所で確認できた。①グリッドC 2周辺の約10m×6mの範囲、②グリッドE 5周辺の約7.5m×10.5mの範囲、③グリッドE 7内の約5.5m×4mの範囲、④グリッド杭E 9周辺の約13m×7mの範囲（攪乱箇所で二分されている）である。この4箇所で923点、約90%が集中している。

II期の遺物はほとんどがVI層（Kr-Kb相当層）で出土したが、V層（ML1）でも細石刃、細石刃核などが出土した。しかし、V層の遺物は少なく、遺物包含層として確定できなかったために、II期の遺物としてまとめて報告する。

石材分類は、第I章第5節で述べたとおりである。以下石材種ごとに遺物の説明をする。石材、器種の内訳は第9表を、詳細についてはそれぞれの石器観察表（第10～21表）を参照されたい。

#### 【流紋岩】（第30～45図）

流紋岩は904点が出土し、Ry I群が約73%を占める。流紋岩全体の約94%が遺物集中域から出土している。石材種別に分布を詳しくみても、3種とも約9割前後が遺物集中域から出土している。

Ry I群は遺物集中域③・④、特に④での集中が顕著である。器種別にみると、ナイフ形石器6点（第

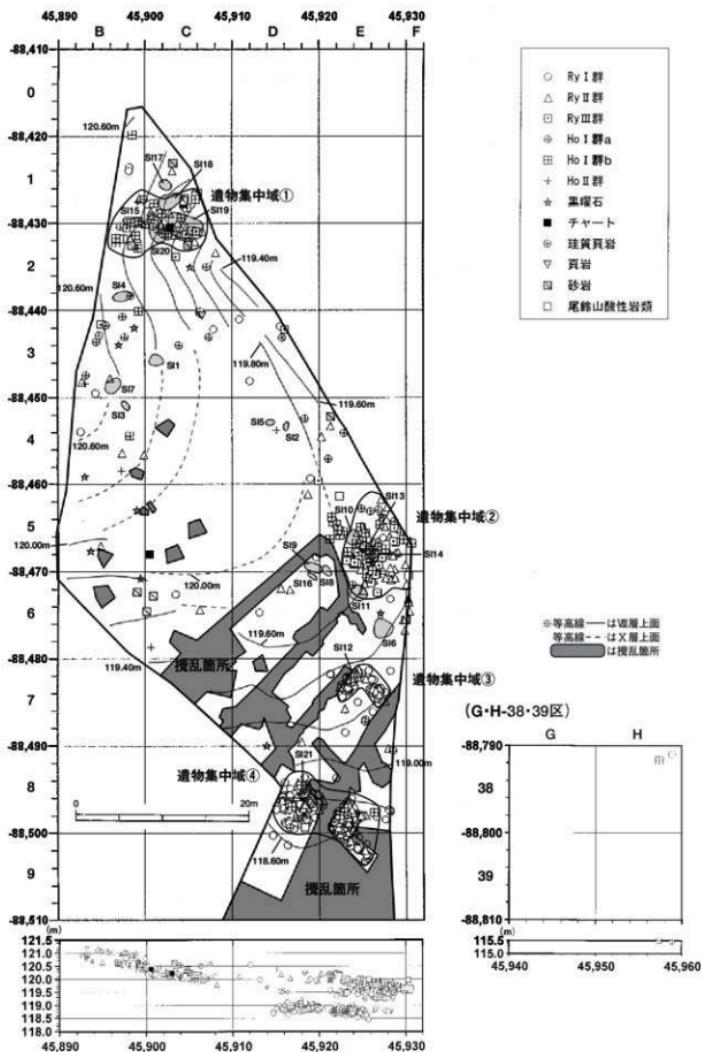
31図41～46）、台形石器6点（第31図47～52）、剥片尖頭器1点（第31図53）、二次加工剥片5点（第31図54～56、第34図65、第35図69）、石核5点（第31図57～58、第33図61、第34図63～64、第35図68、第36図76）、接合資料17点が確認された。接合資料については、6点実測（第33～38図）した。500点以上の剥片、120点以上もの碎片も出土していることから、Ry I群を用いて、遺跡内中央部の緩やかな傾斜地で、瀬戸内技法やその他の技法により、ナイフ形石器や台形石器が製作されたと考えられる。

Ry II群は遺物集中域②での出土が多い。器種別にみると、ナイフ形石器6点（第40図86～91）、台形石器1点（第40図92）、石核3点（第41図94・95、第43図96）、接合資料17点が確認された。接合資料については、2点実測（第42・43図）した。170点以上の剥片、碎片も確認されていることから、Ry II群を用いて、ナイフ形石器が製作されたとも考えられる。しかし、ナイフ形石器6点のうち4点が国府型ナイフ形石器のに対し、接合資料に瀬戸内技法がほとんどみられないことから遺跡外からの持ち込みも考えられる。

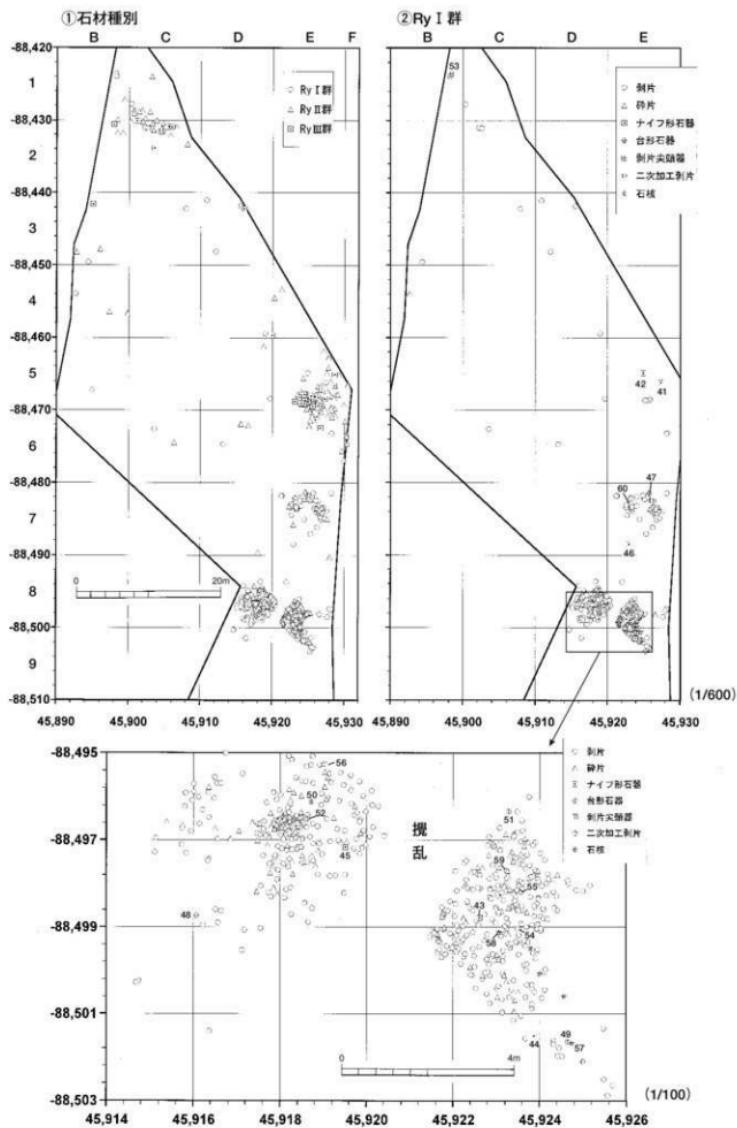
Ry III群は42点と少数になるが、遺物集中域②での出土が多い。器種別にみると、ナイフ形石器6点（第45図99～104）、細石刃1点（第45図105）、石核1点（第45図106）、接合資料4点、剥片が確認された。ナイフ形石器は5点が国府型ナイフ形石器であるが、接合資料に瀬戸内技法がみられないこと、碎片が全くみられないことなどから、製品を遺跡外から持ち込んだ可能性が高い。

石種	ナイフ形石器	細石刃	細石刃核	台形石器	剥片	二次加工剥片	石核	敲石	台石	剥片	碎片	合計	総重量(g)	
流紋岩	Ry I群	6			6	1	5	5		512	126	661	2312.9	
流紋岩	Ry II群	8			1			3		174	17	201	1819.6	
流紋岩	Ry III群	6	1					1		34		42	460.5	
ホルンフェルス	Ho I群a							3		38	1	42	1862.0	
ホルンフェルス	Ho I群b							1		35	7	45	732.3	
ホルンフェルス	Ho II群	1						1		8		10	460.4	
黒曜石	島ノ木津留		1	2		1				2	6		8.1	
黒曜石	小園									3	3		8.2	
黒曜石	電ヶ水									2	2		2.8	
黒曜石	針尾						1			1		1	3.9	
チャート	Ch I群d								1	1		1	5.7	
チャート	Ch I群d								2	2		2	23.8	
珪質頁岩									1	2	3		0.9	
貝殻									1	1	1		13.7	
砂岩								6		1	7		2903.1	
尾鷲山脈性岩類								1	1	2	4		5784.1	
合計		19	2	2	7	1	7	16	7	1	814	155	1031	16402.0

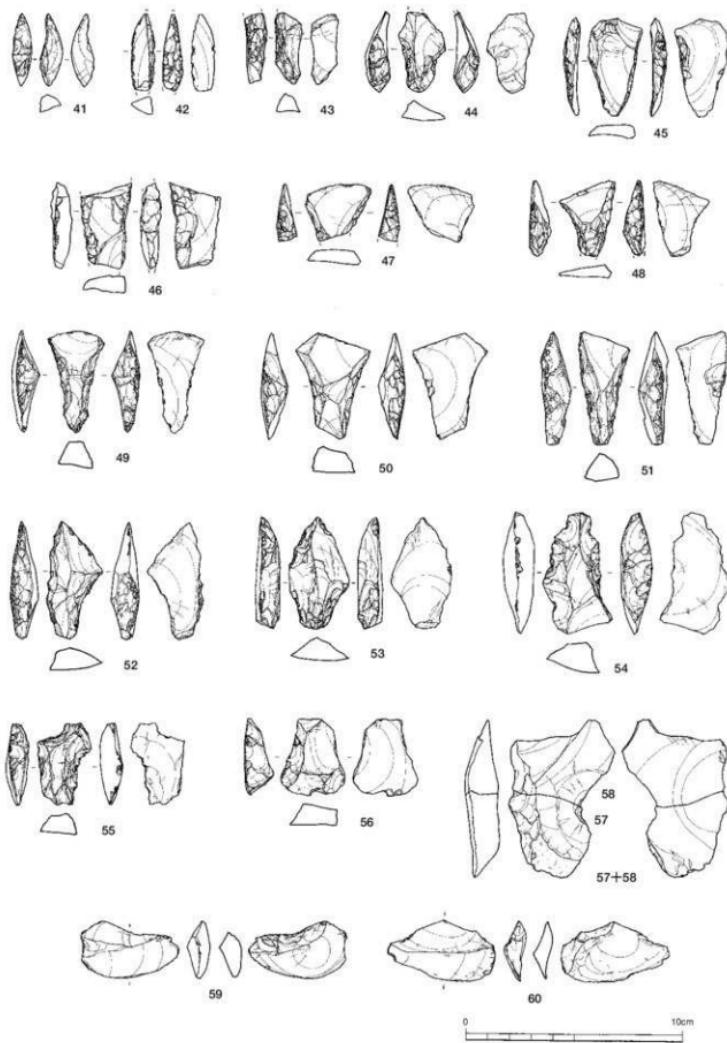
第9表 旧石器時代II期石器・石材組成表



第29図 旧石器時代Ⅱ期遺物分布図1(1/500)



第30図 旧石器時代Ⅱ期遺物分布図2(流紋岩・RyI群)

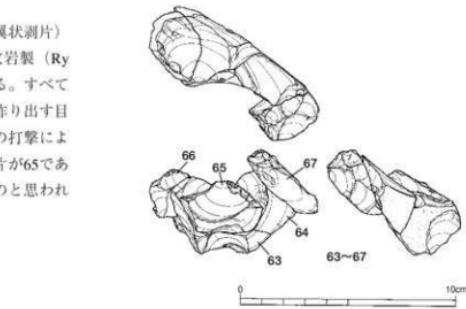
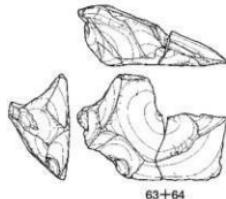


第31図 旧石器時代Ⅱ期石器実測図1 (Ry1群) (1/2)



【接合資料④】 (第32・34図)

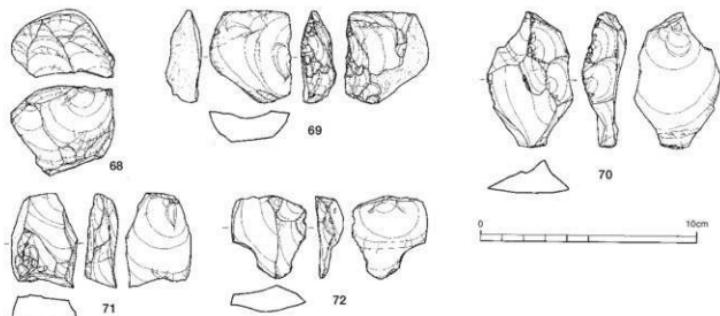
石核1点(63+64)と二次加工剥片(翼状剥片)  
1点(65)、剥片2点(66・67)の流紋岩製(Ry I群)  
の漸戻内剥法による接合資料である。すべて  
遺物集中域④から出土した。翼状剥片を作り出す目的  
で打面調整のために石核背面上方からの打撃によ  
り66と67の剥片を剥離し、最後の翼状剥片が65である。  
石核も最後の打撃の衝撃で折れたものと思われる。  
65には二次加工を施している。



第34図 旧石器時代Ⅱ期石器実測図3  
(Ry I群・接合資料④)(1/2)

【接合資料⑤】 (第32・35図)

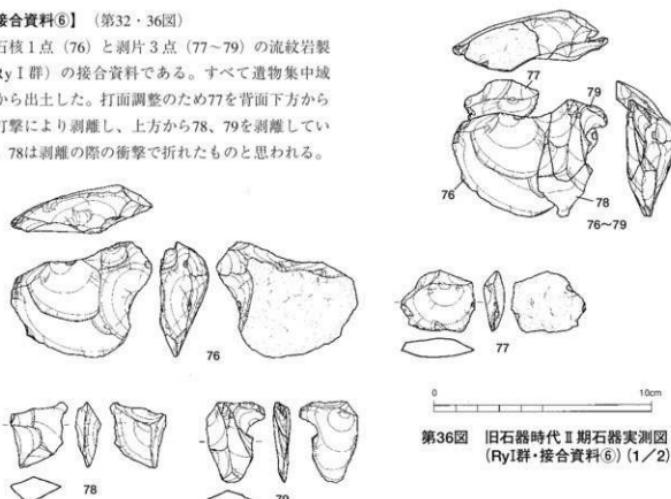
石核1点(68)と二次加工剥片1点(69)、剥片  
6点(70~75)の流紋岩製(Ry I群)の接合資料  
である。72を除く6点(75は出土位置不明)は遺物  
集中域③からの出土だが、72は20mほど離れた遺物  
集中域④周辺から出土した。背面上方からの打撃に  
より70、72、71、69の順に剥離し、その後も背面上  
方からの打撃で73~75を剥離している。69には二次  
加工を施している。



第35図 旧石器時代Ⅱ期石器実測図4 (Ry I群・接合資料⑤)(1/2)

【接合資料⑥】 (第32・36図)

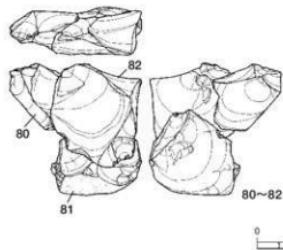
石核1点(76)と剥片3点(77~79)の流紋岩製(Ry I群)の接合資料である。すべて遺物集中域④から出土した。打面調整のため77を背面下方からの打撃により剥離し、上方から78, 79を剥離している。78は剥離の際の衝撃で折れたものと思われる。



第36図 旧石器時代Ⅱ期石器実測図5  
(Ry I群・接合資料⑥)(1/2)

【接合資料⑦】 (第32・37図)

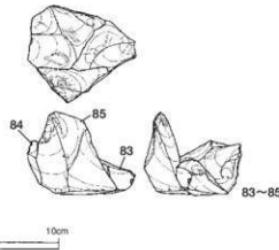
剥片3点(80~82)の流紋岩製(Ry I群)の接合資料である。80・81は遺物集中域④から出土したが、82のみ遺物集中域③から出土し、15mほど離れている。背面上方からの打撃によりすべて剥離している。



第37図 旧石器時代Ⅱ期石器実測図6  
(Ry I群・接合資料⑦)(1/2)

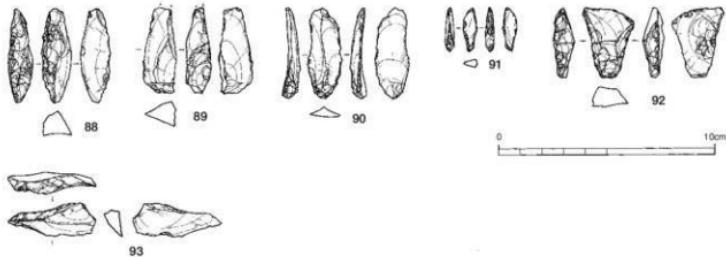
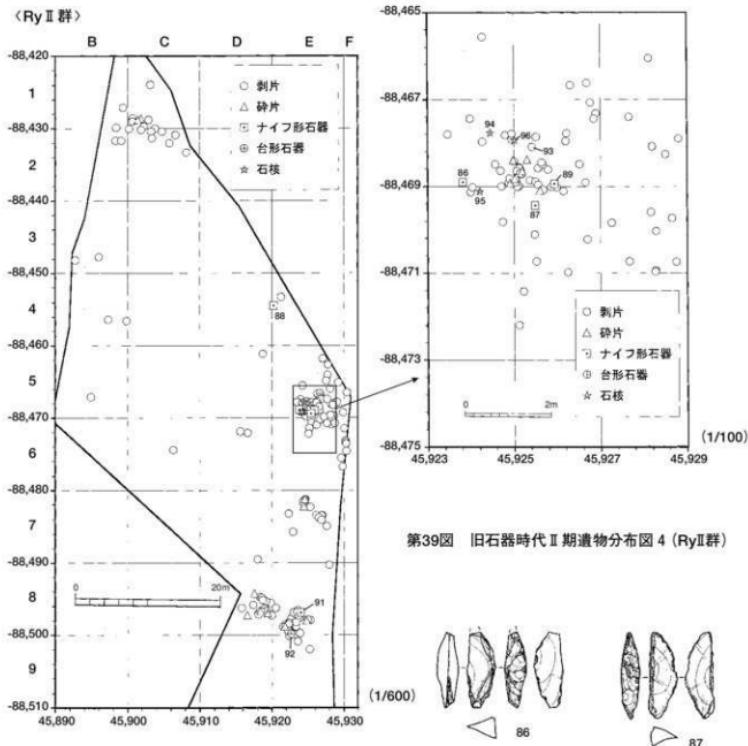
【接合資料⑧】 (第32・38図)

剥片3点(83~85)の流紋岩製(Ry I群)の接合資料である。すべて遺物集中域④から出土した。背面上方からの打撃により85、83の順に剥離している。



第38図 旧石器時代Ⅱ期石器実測図7  
(Ry I群・接合資料⑧)(1/2)

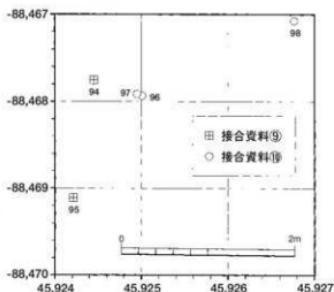




第40図 旧石器時代Ⅱ期石器実測図8 (RyII群) (1/2)

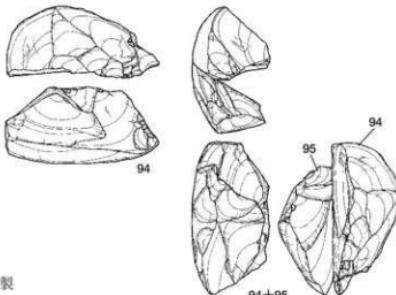
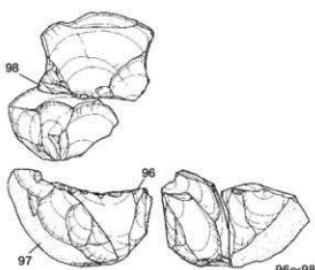
遺物 No.	数上No.	層序	石材種	器種	国土座標 X座標	国土座標 Y座標	標高 (m)	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	備考
86	544	VI	Ry II	ナイフ形石器	-88468.903	45923.817	119.917	(3.4)	1.5	0.9	3.3	国府型ナイフ形石器。右側面と左側面下部に腹面からの調整を施す。先端を欠損。
87	592	VI	Ry II	ナイフ形石器	-88469.437	45925.486	119.776	3.9	1.3	0.8	3.1	国府型ナイフ形石器。右側面に腹面から左側面に腹面からの調整を施す。
88	305	V	Ry II	ナイフ形石器	-88454.515	45920.238	120.215	4.2	1.3	1.0	5.4	国府型ナイフ形石器。左側面に主に腹面からの調整を施す。
89	586	VI	Ry II	ナイフ形石器	-88468.943	45925.941	119.810	(3.9)	1.6	0.9	4.6	国府型ナイフ形石器。右側面と下部に腹面からの調整を施す。先端を欠損。
90	B6 I	I	Ry II	ナイフ形石器	B6グリッド I	層一括取り上げ	4.1	1.5	0.6	2.9	総長剥片素材、両側縁に腹面からの調整を施す。	
91	2115	VI	Ry II	ナイフ形石器	-88496.911	45924.045	118.846	2.0	0.7	0.3	0.4	小型のナイフ形石器。左側面に腹面から右側面に腹面からの調整を施す。
92	1938	VI	Ry II	台形石器	-88499.845	45922.722	118.815	3.1	2.2	0.9	5.1	左側面と右側縁に腹面からの調整を施す。
93	622	VI	Ry II	剥片	-88468.089	45925.422	119.790	4.0	1.6	0.9	3.1	瀬戸内技法による剥片。横長剥片。

第12表 旧石器時代Ⅱ期石器観察表3

第41図 旧石器時代Ⅱ期遺物分布図5  
(Ry II群・接合資料⑨・⑩) (1/50)

## 【接合資料⑨】 (第41・42図)

石核2点(94・95)の流紋岩製(Ry II群)の接合資料である。2点とも遺物集中域②から出土した。瀬戸内技法の縦分割に伴う接合例とみられる。それぞれ山形の打面が作出され、翼状剥片が剥離される。95の縦面は赤化し、一方94の縦面は非赤化である。

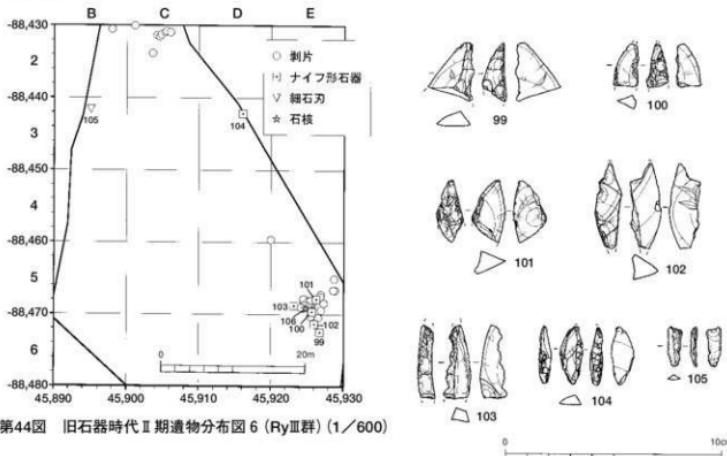
第42図 旧石器時代Ⅱ期石器実測図9  
(Ry II群・接合資料⑨) (1/2)第43図 旧石器時代Ⅱ期石器実測図10  
(Ry II群・接合資料⑩) (1/2)

【接合資料⑨: 流紋岩 Ry II群】(第43図 96~98)								
遺物 No.	取上No.	層序	石材種	器種	国土座標 X座標	国土座標 Y座標	標高 (m)	長さ (cm)
								幅 (cm)
94	555	VI	Ry II	石核	-88467.756	45924.451	119.857	7.0
95	546	VI	Ry II	石核	-88468.110	45924.215	119.829	5.9
								3.6
								3.2
								76.4
								94~95は接合(瀬戸内技法)。翼状剥片石核。裸面残着。
								95
								翼状剥片石核。裸面残着。

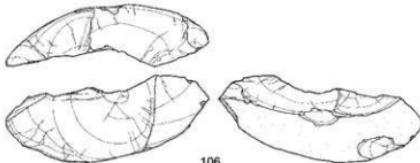
【接合資料⑩: 流紋岩 Ry II群】(第43図 96~98)								
遺物 No.	取上No.	層序	石材種	器種	国土座標 X座標	国土座標 Y座標	標高 (m)	長さ (cm)
								幅 (cm)
96	558	VI	Ry II	石核	-88467.933	45925.009	119.877	4.1
97	557	VI	Ry II	剥片	-88467.916	45924.950	119.889	6.2
98	567	VI	Ry II	剥片	-88467.073	45928.771	119.764	3.2
								3.9
								5.1
								72.1
								96~98は接合(剥片剥離接合)。不定形剥片石核。裸面残着。
								97
								98
								不定形剥片。裸面残着。

第13表 旧石器時代Ⅱ期石器観察表4

〈Ry III群〉



第44図 旧石器時代Ⅱ期遺物分布図6 (Ry III群) (1/600)



第45図 旧石器時代Ⅱ期石器実測図11 (Ry III群) (1/2)

遺物 No.	取上No	層序	石材種	器種	国土座標 X座標	Y座標	標高 (m)	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	備考
99	616	VI	Ry III	ナイフ形石器	-88472.451	45926.689	119.754	(2.5)	2.1	1.0	3.9	国府型ナイフ形石器。右側面に主に腹面からの調整を施す。基部を欠損。
100	593	VI	Ry III	ナイフ形石器	-88469.653	45925.644	119.777	(1.9)	1.2	0.9	1.2	国府型ナイフ形石器。右側面に両面から、左側縁に腹面からの調整を施す。先端・基部とともに欠損。
101	573	VI	Ry III	ナイフ形石器	-88467.913	45926.256	119.804	(2.8)	1.6	1.1	3.1	国府型ナイフ形石器。左側面に両面からの調整を施す。基部を欠損。
102	598	VI	Ry III	ナイフ形石器	-88471.307	45925.962	119.881	(3.9)	1.4	1.1	4.9	国府型ナイフ形石器。左側面に腹面からの調整を施す。先端・基部とともに欠損。
103	543	VI	Ry III	ナイフ形石器	-88468.808	45923.142	119.987	(3.3)	1.3	0.6	2.9	国府型ナイフ形石器。左側面に腹面からの調整を施す。先端・基部とともに欠損。
104	625	VI	Ry III	ナイフ形石器	-88442.177	45916.037	119.502	(2.6)	1.0	0.5	1.4	二側縁加工のナイフ形石器。右側面と左側縁に腹面から、基部に両面からの調整を施す。先端を欠損。
105	157	V	Ry III	細石刃	-88441.612	45895.020	121.020	1.8	0.6	0.2	0.2	頭部調整あり。腹面残存。
106	547	VI	Ry III	石核	-88469.093	45924.857	119.842	9.5	3.5	2.8	83.6	横長剥片石核。腹面残存。

第14表 旧石器時代Ⅱ期石器観察表5

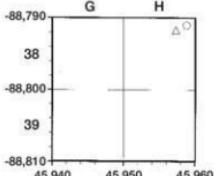
## 【ホルンフェルス】(第46~57図)

ホルンフェルスは97点が出土し、Ho I群a・bがそれぞれ45%前後を占める。ホルンフェルス全体の約68%が遺物集中域から出土した。中でも遺物集中域①、②から多く出土している。石材種別に分布を詳しくみると、3種とも60%以上が遺物集中域から出土した。H38区からもHo I群a・bが1点ずつ出土した。

器種別にみると、Ho I群aは石核3点(第48図107~110)、接合資料1点(第50図)、剥片、碎片である。Ho I群bは二次加工剥片1点(第52図114)、石核2点(第53図115、116)、接合資料1点(第55図)、剥片、碎片である。Ho II群はナイフ形石器1点(第57図122)、石核1点(第57図123)、剥片である。Ho I群a・bについては、接合資料もあり、剥片数も多いことから何らかの石器製作が行われたと考えられる。

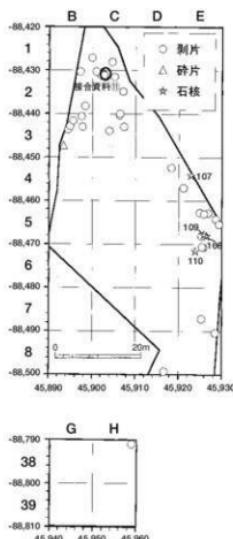
石器の詳細は第15~19表を参照されたい。

## (G-H-38・39区)

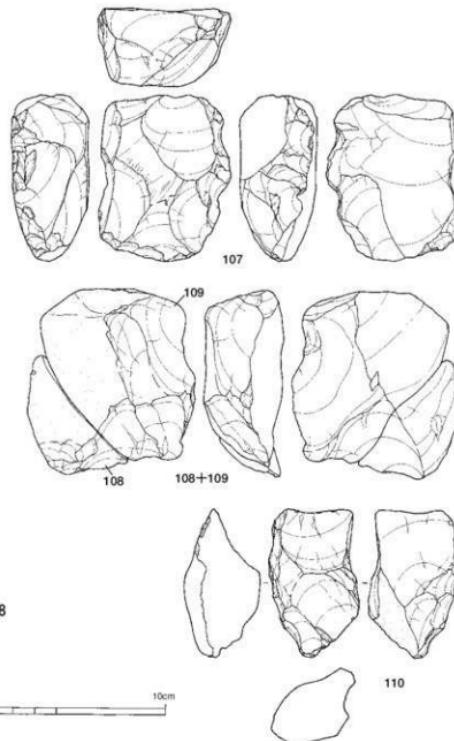


第46図 旧石器時代Ⅱ期遺物分布図7(ホルンフェルス)(1/600)

〈Ho I 群a〉



第47図 旧石器時代Ⅱ期遺物分布図8  
(HoI群a) (1/1000)



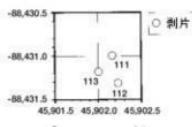
第48図 旧石器時代Ⅱ期石器実測図12 (HoI群a) (1/2)

遺物 No.	取上No	層序	石材種	器種	国土座標 X座標	国土座標 Y座標	標高 (m)	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	備考
107	656	VI	Ho I a	石核	-88454.115	45922.841	119.864	7.6	6.2	3.8	212.0	不定形剥片石核。打面を転移しながら剥離。
108	681	VI	Ho I a	石核	-88468.071	45926.383	119.761	3.2	6.3	2.7	37.3	不定形剥片石核。打面を転移しながら剥離。
109	684	VI	Ho I a	石核	-88467.841	45925.818	119.826	6.7	8.7	3.7	204.0	不定形剥片石核。打面を転移しながら剥離。
110	819	VI	Ho I a	石核	-88471.567	45923.827	119.774	6.6	4.3	3.0	82.8	不定形剥片石核。打面を転移しながら剥離。

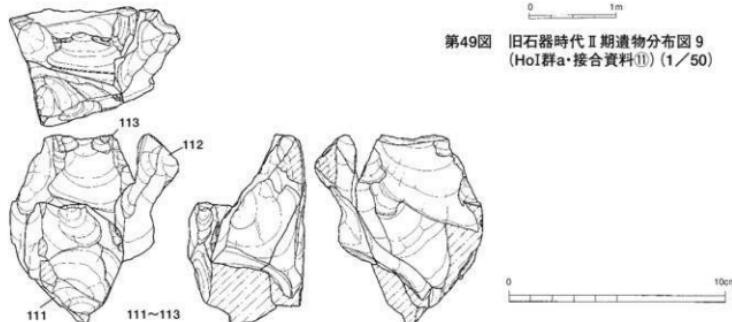
第15表 旧石器時代Ⅱ期石器観察表6

【接合資料⑪】 (第49・50図)

剥片3点(111～113)のホルンフェルス製(Ho I群a)の接合資料である。すべて遺物集中域①から出土した。背面上方からの打撃により剥離している。



第49図 旧石器時代Ⅱ期遺物分布図9  
(HoI群a・接合資料⑪)(1/50)



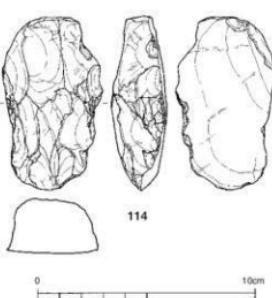
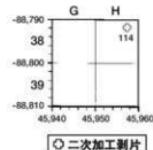
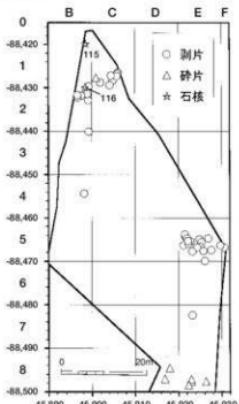
第50図 旧石器時代Ⅱ期石器実測図13(HoI群a・接合資料⑪)(1/2)

【接合資料⑪】ホルンフェルス Ho I 群a (第50図 111～113)

遺物 No.	取上No.	層序	石材種	器種	国土座標 X座標	国土座標 Y座標	標高 (m)	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	備考
111	2316	VI	Ho I a	剥片	-88430.994	45902.185	120.185	5.4	5.2	3.2	90.1	111～113は接合(剥片剥離接合), 分厚い不定形剥片。
112	2319	VI	Ho I a	剥片	-88431.309	45902.231	120.246	6.9	2.8	2.1	39.9	不定形剥片。剥片剥離の痕がみられる。
113	2320	VI	Ho I a	剥片	-88431.179	45902.005	120.210	7.9	5.9	3.5	128.5	不定形剥片。剥片剥離の痕がみられる。頭部調整あり。

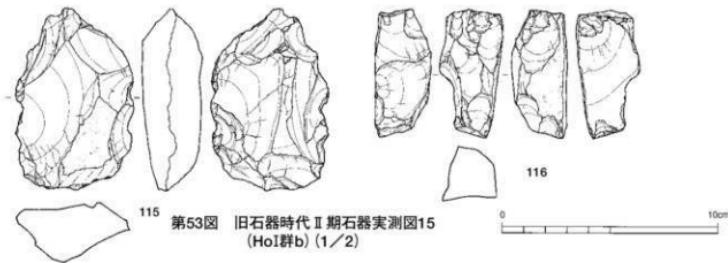
第16表 旧石器時代Ⅱ期石器観察表7

〈Ho I 群b〉



第52図 旧石器時代Ⅱ期石器実測図14  
(HoI群b)(1/2)

第51図 旧石器時代Ⅱ期遺物分布図10(HoI群b)(1/1,000)



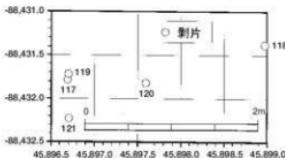
第53図 旧石器時代Ⅱ期石器実測図15  
(HoI群b) (1/2)

遺物 No.	取上 番号	層序	石材種	器種	国土座標 X座標	Y座標	標高 (m)	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	備考
114	2369	V	Ho I b	二次加工片	-68791.685	45897.331	115.496	7.8	4.5	2.3	97.2	両側縁に腹面からの剥離を施す。縦面残着。
115	480	VI	Ho I b	石核	-68419.859	45898.558	120.842	8.2	5.2	2.6	118.2	不定形剥片石核。縦面残着。
116	2334	VI	Ho I b	石核	-68429.928	45898.418	120.530	5.8	2.8	2.6	47.5	不定形剥片石核。打面を転移しながら剥離。縦面残着。

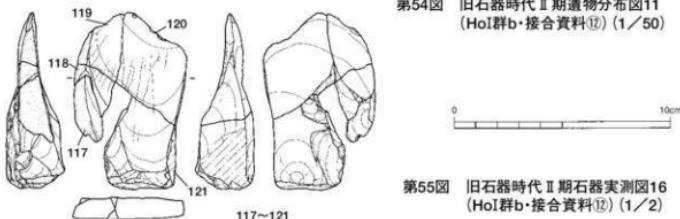
第17表 旧石器時代Ⅱ期石器観察表8

【接合資料⑫】 (第54・55図)

剥片5点(117~121)のホルンフェルス製(Ho I群b)の接合資料である。すべて遺物集中域①から出土した。下方からの打撃の衝撃により折れたものと思われる。その後、117は腹面からの打撃により剥離し、121からも剥片剥離を行っている。



第54図 旧石器時代Ⅱ期遺物分布図11  
(HoI群b・接合資料⑫) (1/50)

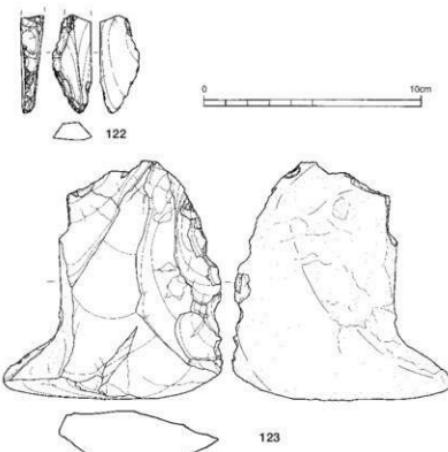
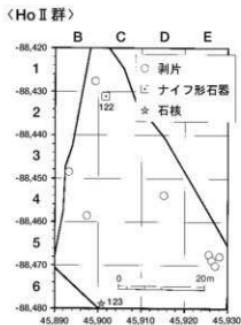


第55図 旧石器時代Ⅱ期石器実測図16  
(HoI群b・接合資料⑫) (1/2)

【接合資料⑫: ホルンフェルス Ho I群b】(第55図 117~121)

遺物 No.	取上 番号	層序	石材種	器種	国土座標 X座標	Y座標	標高 (m)	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	備考
117	1162	VI	Ho I b	剥片	-68431.784	45898.890	120.658	2.0	3.0	0.5	2.1	117~121は接合(117のみ剥片剥離接合、残りは折れ面接合)。縦面剥片。縦面残着。
118	506	VI	Ho I b	剥片	-68431.378	45898.969	120.542	2.0	2.0	1.3	3.5	117とは剥片剥離接合、119とは折れ面接合。不定形剥片。縦面残着。
119	2331	VI	Ho I b	剥片	-68431.721	45898.702	120.634	2.9	2.4	2.9	5.9	118、120とは折れ面接合。不定形剥片。縦面残着。
120	1163	VI	Ho I b	剥片	-68431.819	45897.597	120.603	4.1	4.4	2.1	18.5	119、121とも折れ面接合。不定形剥片。
121	2330	VI	Ho I b	剥片	-68432.230	45898.706	120.614	4.6	3.3	2.7	52.4	120とは折れ面接合、分厚い不定形剥片。剥片剥離の痕がみられる。

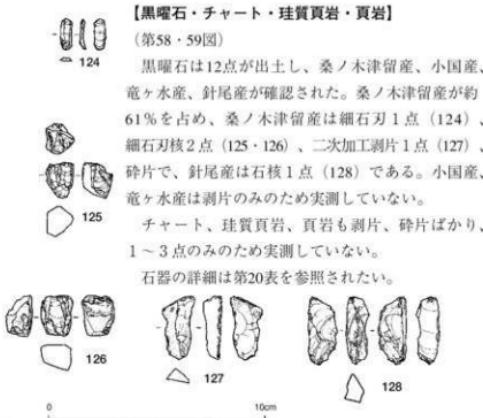
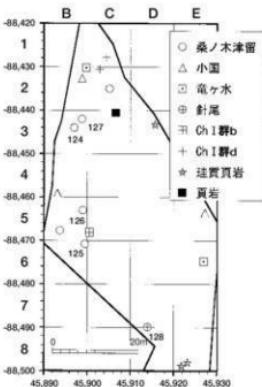
第18表 旧石器時代Ⅱ期石器観察表9



第57図 旧石器時代Ⅱ期石器実測図17 (Ho II群) (1/2)

遺物 No.	取上No.	層序	石材種	器種	国土座標 X座標	国土座標 Y座標	標高 (m)	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	備考
122	504	VI	Ho II	ナイフ形石器	-88431.018	45901.595	120.430	(4.5)	1.9	1.0	8.3	左側面から基部にかけて主に腹面からの調整を施す。先端を欠損。
123	709	V	Ho II	石核	-88478.703	45900.710	120.101	10.7	9.9	3.0	257.6	打面を転移しながら剥離。縫面残存。

第19表 旧石器時代Ⅱ期石器観察表10



第59図 旧石器時代Ⅱ期石器実測図18 (黒曜石) (1/2)

遺物 No.	取上No	層序	石材種	器種	国土座標 X座標	国土座標 Y座標	標高 (m)	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	備考
124	164	V	巻ノ木津留	細石刃	-8843.974	45897.009	120.967	1.4	0.5	0.2	0.1	尾部調整あり。縦面残着。
125	259	V	巻ノ木津留	細石刃核	-8847.073	45899.489	120.439	1.5	1.8	1.1	2.4	作業面転移あり。縦面残着。
126	244	V	巻ノ木津留	細石刃核	-8843.015	45899.031	120.662	1.6	1.4	1.1	3.1	作業面転移あり。縦面残着。
127	169	V	巻ノ木津留	二次加工剝片	-8841.998	45898.806	120.992	2.8	1.4	0.8	2.3	右側縁に底面からの微細剥離あり。 剥片素材石核。打面を転移しながら剥離。縦面 残着。
128	711	V	針尾	石核	-8848.935	45913.951	119.700	3.0	1.5	1.0	3.9	

第20表 旧石器時代Ⅱ期石器観察表11

【砂岩・尾鈴山酸性岩類】 (第60~62図)

砂岩は敲石6点(第61図129~136)、剥片1点で、

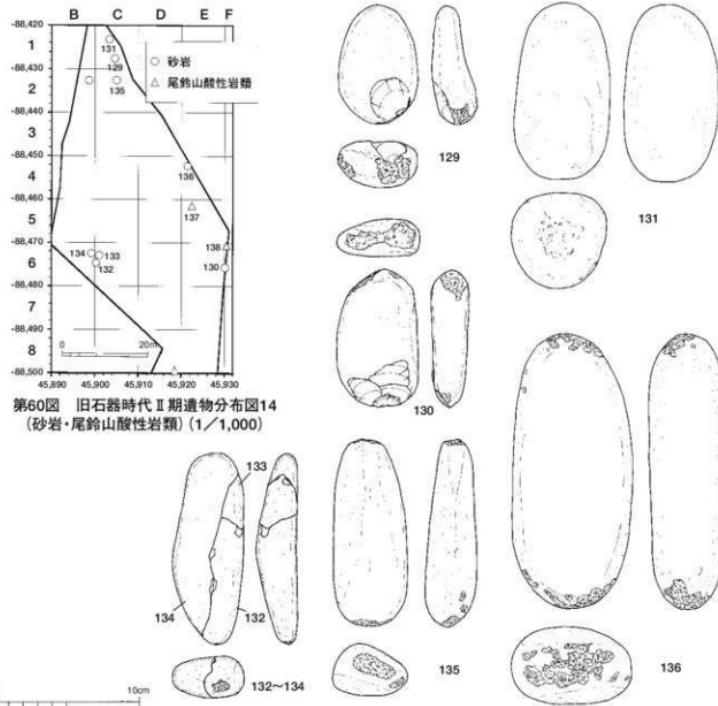
遺物集中域では①から3点出土したのみである。

尾鈴山酸性岩類は敲石1点(第62図137)、台石

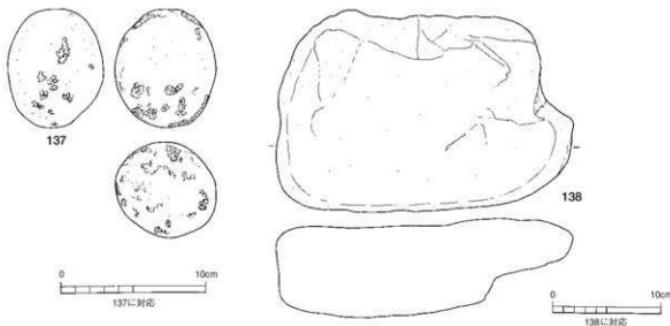
1点(第62図138)、剥片2点で、敲石を除く3点

が遺物集中域から出土した。

石器の詳細は第21表を参照されたい。



第61図 旧石器時代Ⅱ期石器実測図19(砂岩)(1/3)



第62図 旧石器時代Ⅱ期石器実測図20(尾鈴山酸性岩類)(1/3・1/4)

遺物 No.	地上No.	層序	石材種	器種	国土座標 X座標	Y座標	標高 (m)	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	備考
129	2296	VI	砂岩	敲石	-88427.463	45904.516	120.131	8.2	5.6	2.9	172.9	下端両側縁に敲打痕あり。右下端は敲打による割れか。
130	838	VI	砂岩	敲石	-88475.553	45929.991	119.638	9.4	5.8	2.6	203.2	上端両側縁と下端右側縁に敲打痕あり。下端は敲打による割れか。
131	468	VI	砂岩	敲石	-88423.03	45903.232	120.615	12.3	6.6	6.4	764.3	敲打痕は風化のため明瞭でない。
132	701	VI	砂岩		-88474.589	45900.179	120.222	9.1	2.1	2.9	71.1	
133	702	VI	砂岩	敲石	-88472.823	45900.945	120.189	3.6	2.5	1.5	11.3	下端に敲打痕あり。敲打により割れたか。
134	260	V	砂岩		-88472.352	45899.118	120.363	12.7	4.0	2.8	153.4	
135	2308	VI	砂岩	敲石	-88432.498	45904.937	120.047	12.8	5.1	3.6	324.6	上下両端に敲打痕あり。上端の敲打痕は明瞭に残る。
136	642	VI	砂岩	敲石	-88452.215	45921.312	119.957	19.0	8.2	5.2	1200.0	上下両端に敲打痕あり。両面は磨面にも利用か。
137	314	V	尾鈴山酸性岩類	敲石	-88461.376	45922.342	120.117	8.2	8.1	6.4	492.6	風化のため敲打痕が明瞭でないが、積極的に使用として評価した。
138	364	V	尾鈴山酸性岩類	台石	-88470.520	45930.324	119.966	27.6	18.9	9.1	5280.0	正面中央に擦り痕がある。

第21表 旧石器時代Ⅱ期石器観察表12

## 2 縄文時代の遺構と遺物

### (1) 概要

北部から中央にかけてはⅡ層（クロボク）がほとんど残存していないかったため、縄文時代の調査は谷部を中心とした約1,000m<sup>2</sup>とG・H-38・39区の約400m<sup>2</sup>を対象とした。

縄文時代は、土坑が2基と谷部を中心に遺物が確認された。谷部ではⅢ層（K-Ah）以下も一部で残存するが、Ⅲ層下は大部分大形の礫を含む黄褐色粘土層である。また、Ⅱ層段階で自然流路が形成されおり、縄文土器、弥生土器、石器が混在して出土した。G・H-38・39区、確認調査トレンチではⅣ層（MBO）からも石器が出土した。

### (2) 遺構（第63～66図）

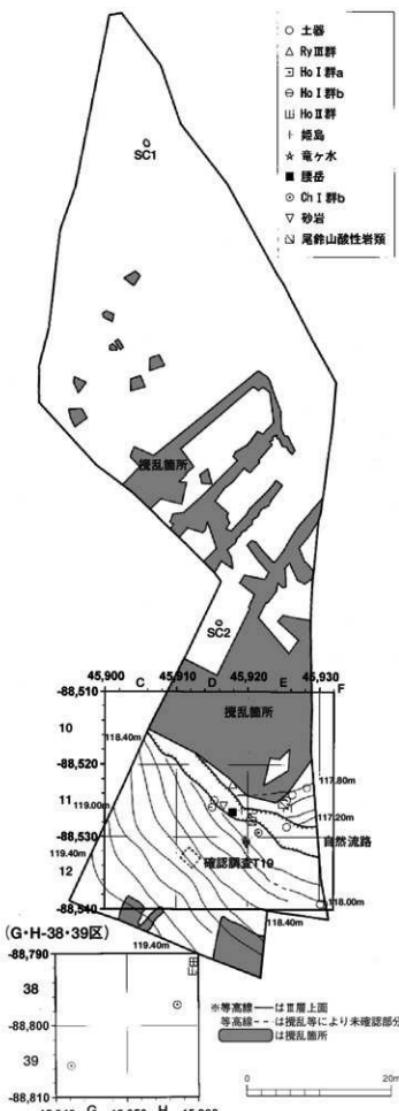
用途の確定できない掘り込みである土坑が2基検出された。

#### 土坑【SC1】（第64図、第22表）

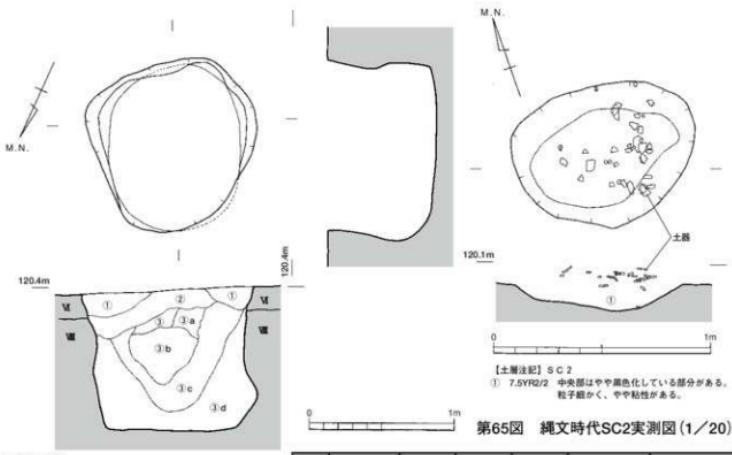
C 2区の土層ベルトにかかり、VI層（Kr-Kb相当層）上面で検出した。遺物は出土していないが、IV層の堆積より古く、V層（ML1）より黒味がかっていることから早期の土坑と考えられる。当初は形状などから陥し穴と思われたが、長軸方向が斜面に向かって平行でないこと、底面の小穴がないこと、陥し穴にしては小さいこと、単独であることなどから陥し穴の可能性は低いと考えられる。③c層がブロック状に入ることから、意図的に投入されたと考えられ、単独で存在することから墓の可能性もある。フローテーション作業の結果、埋土からは何も検出されなかつた。

#### 【SC2】（第65図、第22表）

D 8、D 9区境界のIV層中より検出した。埋土より早期末の平裕式と思われる土器の小片片が35個確認されたが、口縁部のみの接合にとどまった。139・140（第66図）は同一個体であり、外反する波状口縁と思われる。口唇部と口縁部には刻目、連続刺突文を施し、口縁肥厚帯には沈線と斜め条痕、連続刺突文を用いて、連続文様を描いている。検出時及びフローテーション作業の結果、1、2mm程度の炭化物も少量検出されたが、用途は不明であり、単なる土器捨て場とも考えられる。



第63図 縄文時代遺構・遺物分布図(1/600)



第65図 縄文時代SC2実測図(1/20)

【土層注記】SC 1

- ① 10YR4/2 黄褐色土に色調似るが、明らかに風化強い。
- ② 10YR3/2 棕色土：棕褐色のブロックを含み、まだらとなる。
- ③ 10YR2/2 より風化強い。V層土ブロック混じる。
- ④a 10YR2/1 V層土ブロックを含み、まだらとなる。
- ④b 10YR3/2 褐色バミミを多く含み、固い。
- ④c 10YR3/2 黄褐色土、褐色土（ブラックバンド）を含む。薄く、一見すると自然層のようである。
- ④d 10YR3/2 ブラックバンドとのものと所々に柔らかい褐色土を含む。

第64図 縄文時代SC1実測図(1/30)

第22表 縄文時代土坑一覧表

No.	出土位置	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	平面形	備考
SC1	C2区	1.19	1.16	0.96	不整横円形	
SC2	DB・D9 区境界	0.85	0.65	0.17	不整横円形	



第66図 縄文時代SC2土器実測図(1/3)

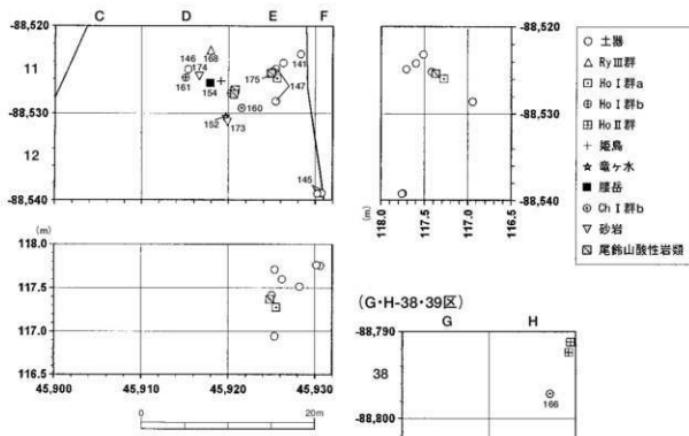
遺物 No.	器種	部位	取上 No.	法量(cm) 外径 底径 高さ	手法・調査・文様は小 外面 内面	色調	地成	胎土の特徴	備考
139	縄鉢	口縁部	SC2- 6- 36, 37, 34	(21.0)	口縁部：直線切欠 文、波綱、斜め条帶 下部は連続斜文突 縁ナデ	外面 内面	に白い 黄緑	1mm以下の乳白色粒を多く含み、2mm以下の 非白色粒を含む。2mm以下の 黒色粒を少重 合む。	後段山脚 160と同一 個体
140	縄鉢	口縁部	SC2- 31, 32		口縁部：直線切欠 文、波綱、斜め条帶 下部は連続斜文突 縁ナデ	外面 内面	に白い 黄緑	1mm以下の乳白、灰白、黑色光沢粒を含む。 後段山脚 139と同一 個体	

第23表 縄文時代SC2土器観察表

(3) 遺物 (第67~73図)

土器は少量の出土である。石器石材としてホルンフェルス (Ho I 群a・b、II群)・姫島産黒曜石・竜ヶ水産黒曜石・腰岳産黒曜石・チャート (Ch I

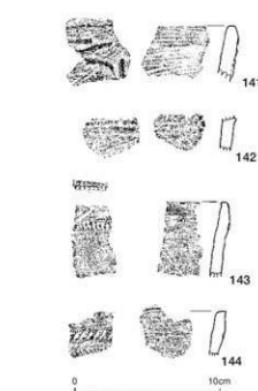
群b・d)・流紋岩 (Ry II群、III群)・砂岩・尾鈴山酸性岩類が出土した。土器、石器ともに谷部に形成されていた自然流路周辺での出土が大半である (第63・67図)。



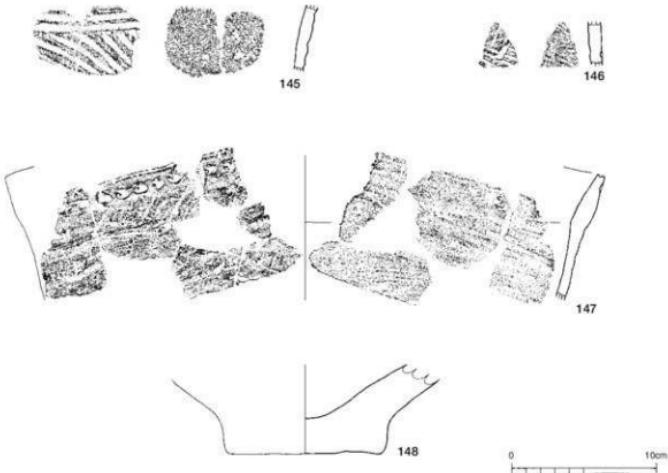
第67図 縄文時代遺物分布図 (1/500)

【土器】 (第68・69図)

谷部の主に自然流路周辺のII層から少量出土した。自然流路からは147の小片や148が出土している (第63・67図)。141は隆起線文が不定方向に施され、前期の轟B式と思われる。142も轟式の口縁部付近か。後期と思われる土器片も確認された。143・144は肥厚した口縁部に刻目がみられる。145・146はともに胴部であり、145は平行に走る凹線の下に斜め方向の凹線がみられ、146は斜め方向に交差する沈線がみられる。147は外反する波状口縁の口縁部～胴部である。口唇部には沈線、口縁上部には鋭い半載竹管様の施文具で刺突文を施す。肥厚した内面には横方向の条痕、その下部には斜め方向の条痕を施す。148は底部で平底、ナデ調整した工具の端部痕がみられる。147と同一個体と思われる。



第68図 縄文土器実測図 1 (1/3)



第69図 繩文土器実測図2(1/3)

番号 No.	器種 器種	部位 部位	取量(g) N.o.	法量(cm) 口徑 底径 厚高	手法・調整・文様ほか 外面 内面		色調 外面 内面	焼成 度	胎土の特徴	備考
					口等ナデ、ナデ後不 定方向の押起繩文	横条板				
141	深鉢	口縁部	92				灰黄褐	灰黄褐	良好	3mm以下の乳白色粉を多く含み、2mm以下の赤系色粉を微量 含む。
142	深鉢	口縁部 付近	タニ		伏毛繩文(伏目か)、 伏毛繩文や斜め 方向の条幅か	横ナデ	にぶい 黄褐	にぶい 黄褐	良好	2mm以下の乳白色粉を多く含み、2mm以下の赤系色粉を微量 含む。
143	深鉢	口縁部	E11		口等ナデ、横目、横 ナデ一部斜め方向の 工具痕、削目、穂・ 斜め方向のナデ	横	横	横	良好	2mm以下の乳白色粉、1mm以下の透明光沢粉 を含み。1mm以下の黒色粉を少額含む。
144	深鉢	口縁部	タニ		口等ナデ、横目、横 ナデ、横条板、 工具による剥欠文、横 条幅	明赤褐	にぶい 赤褐	良好		1mm以下の灰白・黒色粉、透明光沢粉を含 む。
145	深鉢	胴部	78 79		横・斜め方向の凹面	ナデ	浅黄	浅黄	良好	1mm以下の灰白色粉を多く含み、2mm以下の 透明光沢粉・3mm以下の赤系色粉を少量、 4mm以上の灰白色粉を微量含む。
146	深鉢	胴部	74		斜め方向交叉の凹面 文様	条幅後横ナデか 文様	にぶい横	横	良好	2mm以下の灰白色粉、1mm以下の黒色・透 明光沢粉を含む。
147	深鉢	口縁部 ～胴部 ～胴部	99 E11 タニ (40.4)		穀ナデ(工具)、 横条板	穀ナデ(工具)、 横条板	にぶい 黄褐	褐灰	良好	3mm以下の赤褐色粉を含み、5mmの大赤系色 粉を微量含む。 皮吹口縁 黒色あり 148と同一 個体か
148	深鉢	底部	2370	(7.6)	風化著しい、工具に よるナデ、穀・穀ナデ か	風化著しい、ナ デか 穀・穀ナデ か	にぶい 黄褐	灰白	良好	3mm以下の明赤褐・灰白色粉を多く含む。

第24表 繩文土器観察表

#### 【石器】(第70~73図)

石器は41点出土したが、2/3が自然流路を中心とした谷部Ⅱ層、1/3がG・H-38・39区、確認調査トレンチのⅣ層などから出土した。自然流路からは154の打製石錐が出土した(第63・67図)。

石材、器種の内訳は第25表を、打製石錐以外の詳細については石器観察表(第26表)を参照されたい。なお、Ho I群、Ho II群については、剥片のため実測していない。

器種	石礫	石匙	石核	敲石	磨石	台石	剥片	合計	総重量(g)
石材・石材様									
ホルンフェルス Ho I 群a							1	1	16.7
ホルンフェルス Ho I 群b	2		1	1			1	5	956.0
ホルンフェルス Ho II 群							2	2	9.8
黒曜石 姫島	3						1	4	2.7
黒曜石 竜ヶ水	2						2		1.1
黒曜石 腰岳	1						1		0.4
チャート Ch I 群b	5	1						6	8.8
チャート Ch I 群d	1						1		1.5
流紋岩 Ry II 群	1						1		1.8
流紋岩 Ry III 群	3		1					4	27.7
尾鈴山酸性岩類						1	9	10	3885.1
砂岩				3	1			4	1439.8
合計	18	1	2	4	1	1	14	41	6351.4

第25表 縄文時代石器・石材組成表

【打製石器】 (第70図149~166)

打製石器はIV層より7点、II層より7点、I層より4点の計18点が出土した。長さは1.3cm~3.1cmで、すべて無茎鐵である。基部形状から次のように分類した。

A類：基部が直線的、緩やかな曲線のもの

B類：基部に浅い抉りがあるもの

C類：基部にU字の抉りがあるもの

A類 (149~151)

149・150は側縁の形状は異なるが、ともにチャート製 (Ch I 群b) である。151は両側縁、基部に細

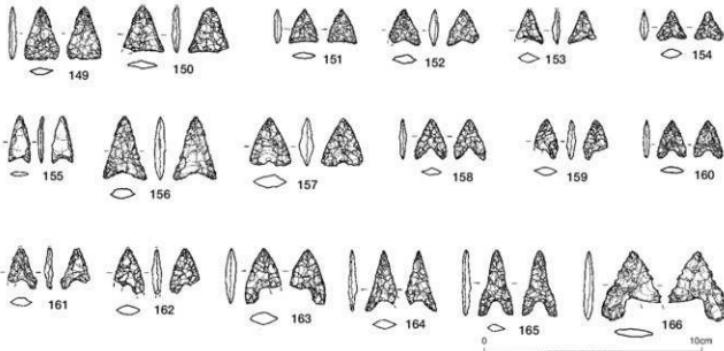
かな調整がみられる。

B類 (152~157)

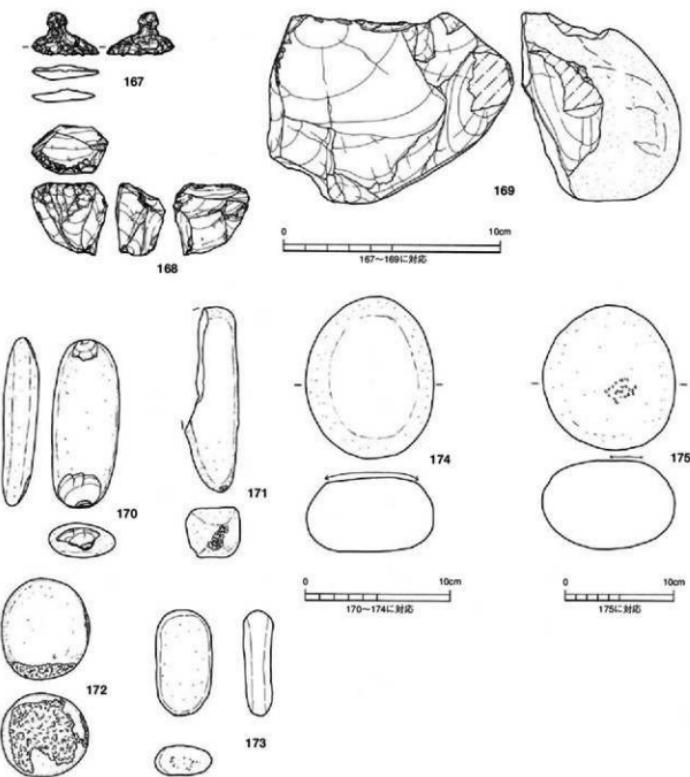
全体の形状・大きさ、石材種などばらつきがある。黒曜石製の152~154は2cm未満の小型であり、それ以外は2cmを超える。155は細身である。

C類 (158~166)

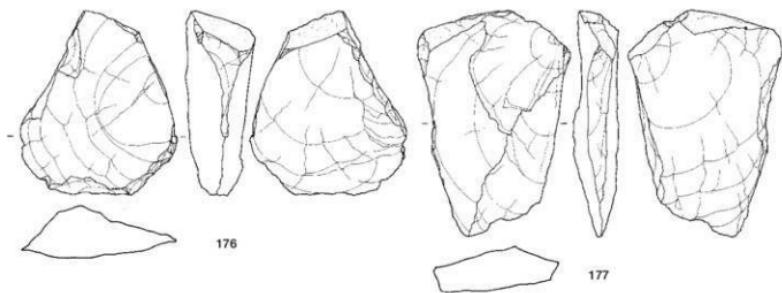
全体の形状が似ているものが多い。158~162は脚部の形状に違いはある（162は両脚欠損のためはつきりしない）が、2cm前後の小型である。あとは比較的大型であり、流紋岩製 (Ry II 群) の164・165は細身、165は両脚部側縁に段を有する。



第70図 縄文時代石器実測図1 (打製石器) (1/2)



第71図 純文時代石器実測図 2 (チャート・流紋岩・ホルンフェルス・砂岩・尾鈴山酸性岩類) (1/2・1/3・1/4)



176

177

178



179

0

10cm

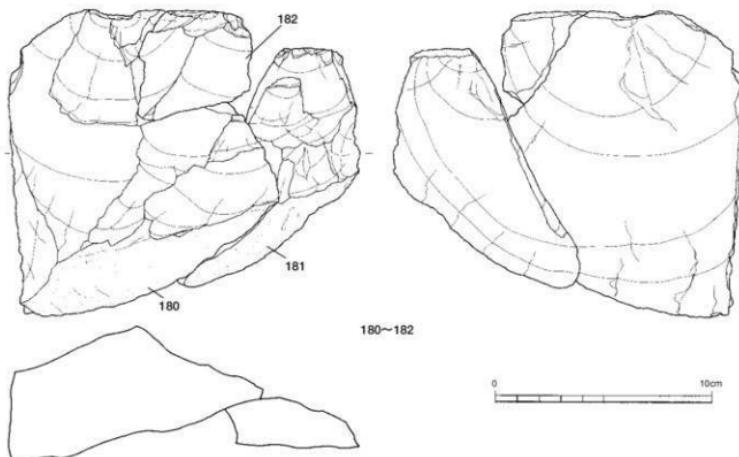
第72図 縄文時代石器実測図 3 (尾鈴山酸性岩類) (1/2)



【接合資料⑪】 (第73図)

剥片3点(180~182)の尾鈴山酸性岩類の接合資料

料である。すべてC11グリッドⅡ層から出土した。  
上方に打点を固定し、剥離する。打面は礫面である。



第73図 繩文時代石器実測図4(尾鈴山酸性岩類・接合資料⑪)(1/2)

【接合資料⑪: 尾鈴山酸性岩類】(第73図180~182)

遺物 No.	取上No.	層序	石材種	器種	國土座標 X座標	國土座標 Y座標	標高 (m)	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	備考
180	C11Ⅱ①	II	尾鈴山酸性岩類	剥片	C11グリッドⅡ層一括取り上げ		13.7	12.7	7.0	1027.9		
181	C11Ⅱ②	II	尾鈴山酸性岩類	剥片	C11グリッドⅡ層一括取り上げ		12.5	6.0	3.4	200.2		底面には自然面を残し、上からの打撃によって剥離している。
182	C11Ⅱ③	II	尾鈴山酸性岩類	剥片	C11グリッドⅡ層一括取り上げ		6.0	5.2	2.0	13.6		

第27表 繩文時代石器観察表2

### 3 弥生時代の遺物

#### (1) 概要

弥生時代は、自然流路のある谷部を中心に土器片が大量に出土したが、小破片が多く完形になったものはなかった。自然流路は長さ約29m、最大幅約4.2mを測り、緩やかに蛇行しながら、西北から東へ流れたと思われる。自然流路より出土した壺193の形態から後期後葉～終末期にかけて形成されたと考えられる。北部ではIV層(MB0)～VI層(Kr-Kb相当層)で土器の小片が数点出土したが、落ち込みによるものと考えられる(第74・75図)。石器は4点のみである。

#### (2) 遺物【土器】(第74～78図)

##### 【壺】(第76図183～199)

183～185は口縁部に刻目貼付突帯をもつ下城系のもの、186は逆L字状に開く、187は胴部からほぼ直立する、188～195は緩やかに「く」の字状に外反する。底部は、196は安定した平底で端部が張り出さない、197はほぼ平底で端部がわずかに張り出す、198は上げ底で端部がわずかに張り出す、199は上げ底で端部が張り出さない。

##### 【壺】(第76・77図200～214)

200～207は口縁部が大きく開く直口縁である。205は半截竹管様の施文具で波状文を施している。206は小さく外反する直口縁で、208は長頸で口縁部から頸部にかけて不規則な工具痕がみられる。209～212は複合口縁壺である。209は無文で、210は櫛描波状文が施され、211は複合口縁部が短く、斜位の刻目をもつ。212は頸部に格子状刻目貼付突帯をもつ複合口縁壺と思われる。213・214は、貼付円盤状平底である。

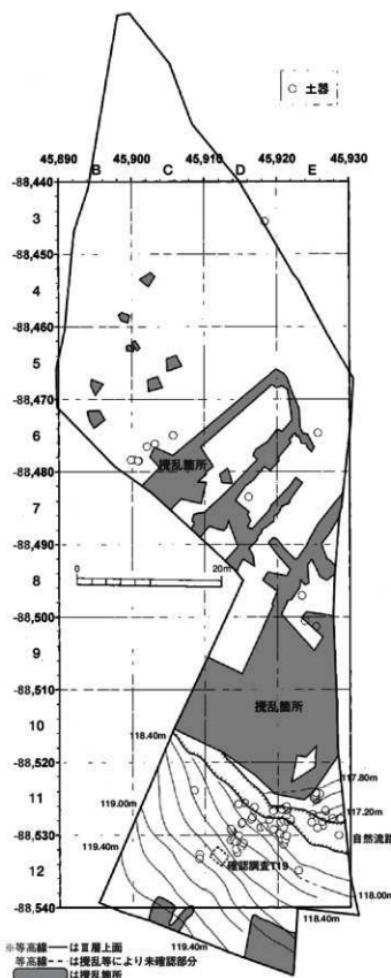
##### 【鉢】(第77図215～218)

215は胴部中位でS字状に屈曲する浅鉢である。216は頸部で内溝し立ち上がる。217・218は胴部が直線的に立ち上がる鉢と思われる。

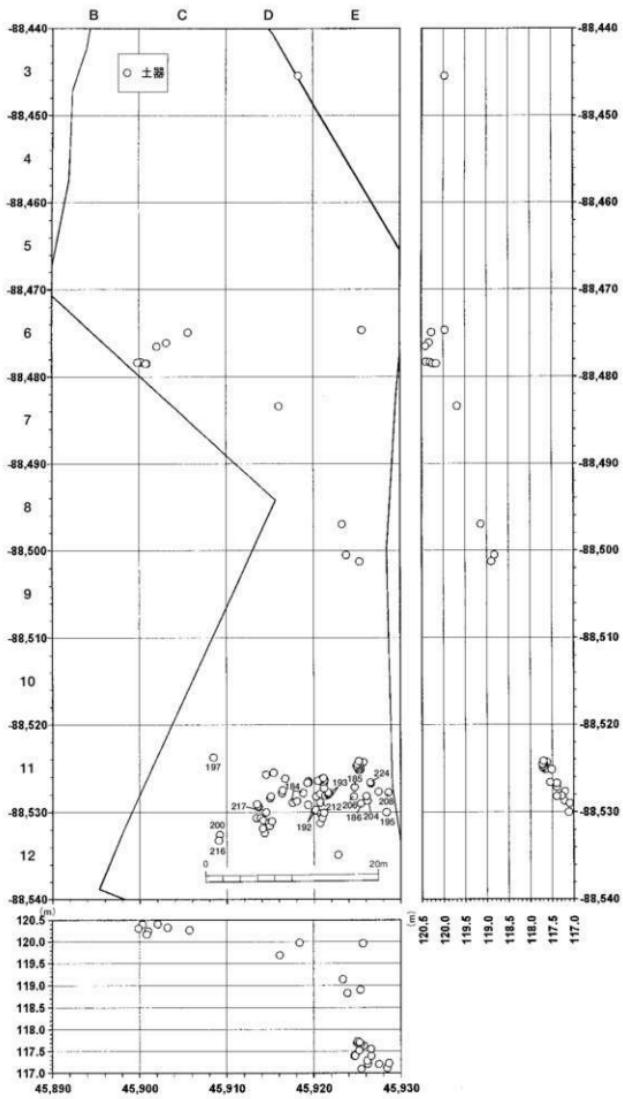
##### 【高坏】(第77図219～226)

219は壺部で一度明瞭に屈曲し外反しながら立ち上がる。220・221は同一個体と思われ、219と形態が似ている。脚部は柱部のみの出土である。223は直立気味ながら裾部に向かってわずかに開き、224は短くラッパ状に開く形態だと考えられる。裾部の

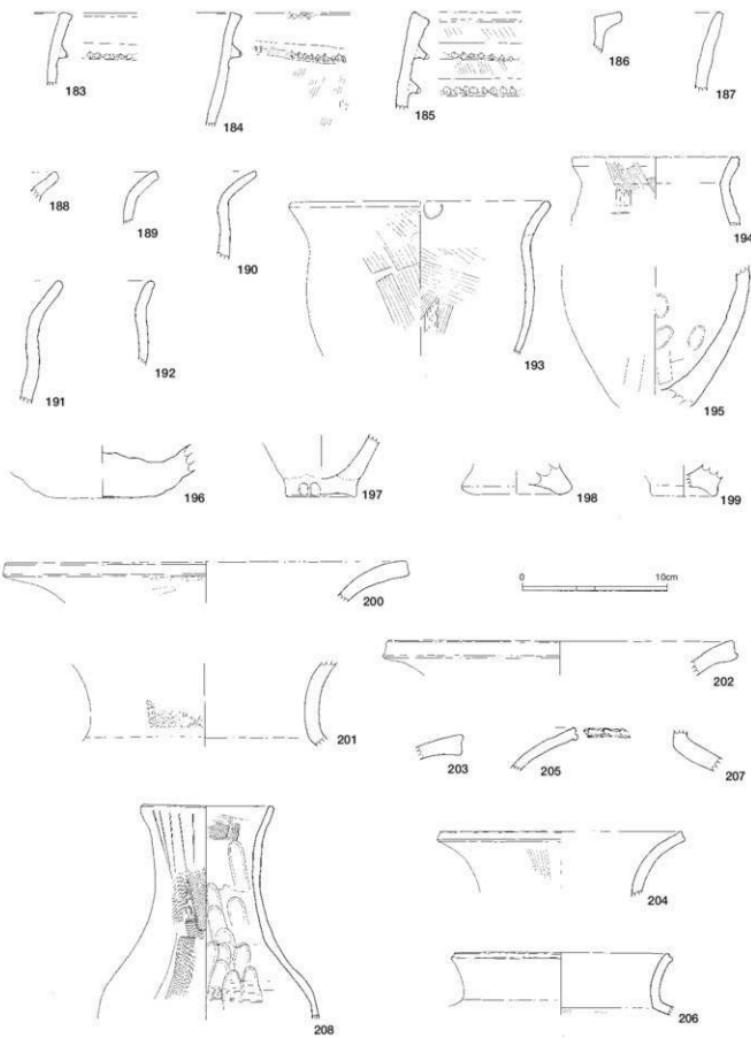
225・226はどちらもラッパ状に開く。



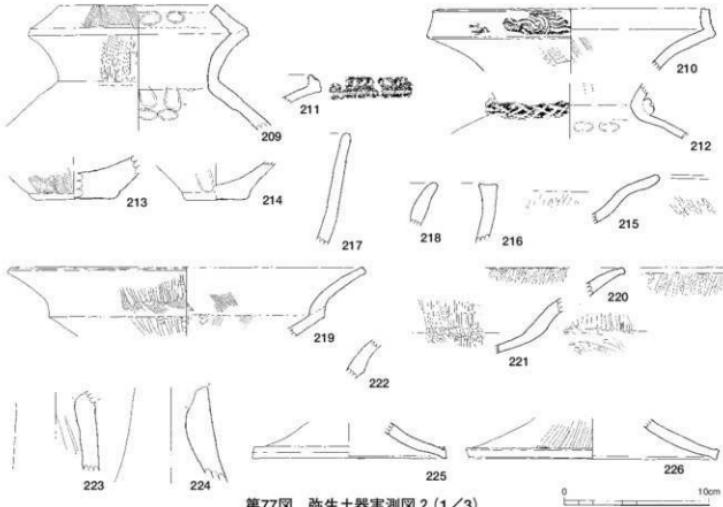
第74図 弥生時代遺物分布図1(土器)(1/600)



第75図 弥生時代遺物分布図2(土器)(1/500)



第76図 弥生土器実測図 1 (1/3)



第77図 弥生土器実測図2(1/3)

遺物 No.	器種	部位	直上 N.o.	直下 N.o.	底径 mm	鉢高 mm	法寸・調節・文様ほか	色調	成形	出土の特徴	備考
							外側 内面	外側 内面			
183	甕	口縁部	C707				横ナデ、斜目貼付 横ナデ	にぶい 黄褐色	2mm以下の灰褐色・灰白・褐色粒。1mm以下の 黄褐色。	良好	
184	甕	口縁部	36 45 タニ				横ナデ、直目貼付 横ナデ	にぶい 黄	2mm以下の灰白・にぶい灰褐色・にぶい黄褐色・ 灰・光沢粒を含む。	良好	スズ付着
185	甕	口縁部	88				横ナデ、ハケメが残る、口端ナデ、 周目貼付帯、板付口底	にぶい 黒褐色	3mm以下の灰白・褐色粒を含む。	良好	スズ付着
186	甕	口縁部	85 タニ				横ナデ	浅黄	2mm以下の薄系・赤系・灰白色粒を含む。	良好	スズ付着
187	甕	口縁部	E11 E12				横ナデ、斜め方向 ナデ	にぶい 赤褐色	2mm以下の灰褐色を多く含み、2mm以下の 黄褐色を含む。	良好	
188	甕	口縁部	C707				横ナデ	灰黄	良好	1mm以下の灰白色粒を含み、1mm以下の透明 光沢粒を少量含む。	スズ付着
189	甕	口縁部	47				風化激しく調整不 規則ナデ	にぶい 黄褐色	1.5mm以下の灰白色を含む。	良好	
190	甕	口縁部 ～脚部	E11 タニ				横ナデ、斜め方向 ナデ	にぶい 赤褐色	3mm以下の灰白・褐色粒。微細な透明光沢粒 を含む。	良好	
191	甕	口縁部 ～脚部	18				横ナデ、斜め方向 ナデ	灰黄	4mm以下の褐色・茶褐色・灰白色粒。1mm以下 の良好	良好	
192	甕	口縁部 ～脚部	59 81				横ナデ、直面圧痕、 横ナデ、斜め方向ナデ	にぶい 黒褐色	4mm以下の灰白色粒を少量含み、2mm以下の 灰褐色・半透明光沢粒を含む。	良好	スズ付着
193	甕	口縁部 ～脚部	62 63 (17.6)				横ナデ、直面圧痕、 斜め方向ナデ、 斜め方向ナデ、 一部鋸ナデ、縦ナ デ	にぶい 黒褐色	2mm以下の灰白・褐色粒を含む。	良好	スズ付着
194	甕	口縁部	タニ (11.6)				ナデ、斜め方向ナ デ、斜め方向ナデ、 斜め方向ナデ、工具 痕	にぶい 黄褐色	3mm以下の茶褐色・灰白色粒を含む。	良好	195と同一 個体か。
195	甕	脚部 底部	80 197	(4.9)			縦ナデ(工具)、直 面圧痕	浅黄	3mm以下の灰褐色・灰白色粒を多く含み、7mm 以上の灰白色粒を含む。	良好	黒底あり 195と同一 個体か。
196	甕	底部	キタ	(6.6)			縦ナデ、板状直面 圧痕	にぶい 黄褐色	3mm以下の灰白色粒。2mm以下の黒・赤褐色 粒、1mm以下の透明光沢粒を含む。	良好	スズ、炭化物付着

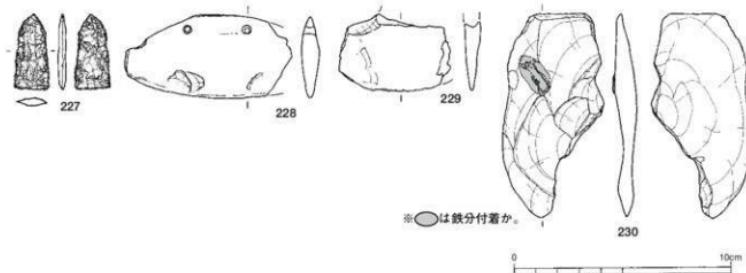
第28表 弥生土器観察表1



【石器】 (第78図)

石鏸 1 点、石庖丁 2 点、剥片 1 点の出土。いずれもホルンフェルス製 (Ho I 群 b) で、谷部Ⅱ層で出土した227以外は、表土、搅乱土より確認された。石庖丁228は右端が欠損しているが、上部に 2 孔が

穿たれ、刃部は鋭く丁寧に研磨を施す。229は抉り入りの欠損品だと思われる。刃縁の曲がりから推して小形品か使い込まれた大形品か。詳細については、第30表を参照していただきたい。



第78図 弥生時代石器実測図 (Ho I 群 b) (1/2)

遺物 No.	取上 No.	層序	石材種	器種	国土座標 X原標	国土座標 Y原標	標高 (m)	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	備考
227	3	II	Ho I b	石鏸	—	—	—	3.4	1.6	0.4	22	風化している。基部は直線的。
228	14T I	I	Ho I b	石庖丁	三次確認調査14h-レシテより出土		(7.6)	3.8	0.7		24.9	右端欠損。抉りがなく、2穴をもつ。
229	タニ I	I	Ho I b	石庖丁	谷部Ⅰ層-括取り上げ		(5.1)	(3.5)	0.8		15.3	抉り入りの欠損品か。
230	タニ I	I	Ho I b	剥片	谷部Ⅰ層-括取り上げ		9.5	4.6	1.2	44.1	不定形剥片。剥片剥離の痕がみられる。鉄分付着か。	

第30表 弥生時代石器観察表

#### 4 その他の時代の遺構と遺物

##### (1) 概要

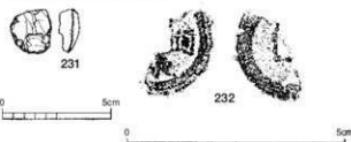
谷部のⅢ層 (K-Ah) 上面で溝状遺構 1 条が検出され、表土、搅乱土には旧石器時代から近現代までの土器片、陶磁器片、石器類、古錢等が混在していた。

##### (2) 遺構 (第79・81図)

SE 1 は谷部南部にあり、自然流路とほぼ並行して走る溝状遺構である。断面は浅い皿形を呈し、長さは約7.10m、最大幅約0.78m、深さ約0.12mを測る。埋土中より弥生土器と思われる小破片が3点出土し接合したが、3 cm程の大きさにしかならず、風化も激しく、器種・時代ともに不明である。

##### (3) 遺物 (第80図)

231はチャート製 (Ch I 群a) の火打石である。232は寛永通宝である。陶磁器片は中世1点、近世後半65点、近代以降38点出土したが、すべて小片であり、実測していない。



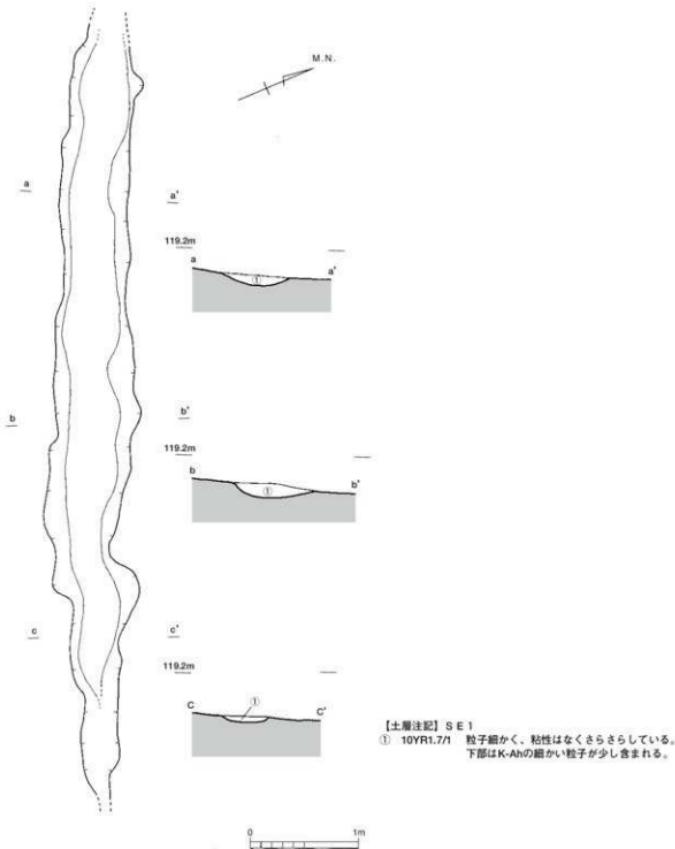
第80図 その他の時代遺物実測図(1/2-1/1)



第79図 その他の時代遺構分布図(1/600)

遺物 No.	取上No.	層序	石材種	器種	国土座標 X座標	国土座標 Y座標	標高 (m)	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	備考
231	07-071	I	Ch I a	火打石	C7-07グリッド I 層一括取り上げ		2.0	1.6	0.8	3.3		所々点状の赤茶色に変色した部分がある。火打石の金分が付着し、風化したものか。
遺物 No.	取上No.	層序	銭貨名	時代	国土座標 X座標	国土座標 Y座標	標高 (m)	銭径幅 (cm)	銭径幅 (cm)	備考		
232	B5 I	I	寛永通宝	江戸	B5グリッド I 層一括取り上げ		-	-	-	2~3次撲。		

第31表 その他の時代遺物観察表



第81図 その他の時代SE1実測図(1/40)

## 5 小結

### (1) 旧石器時代Ⅰ期（MB2・MB3相当）

流紋岩、珪質頁岩、ホルンフェルス等を用いた石器製作が行われたと考えられる。中でも、流紋岩（Ry II群）を用いたナイフ形石器の製作が特徴的である。5点のうち4点が2.5cm以下の小形のナイフ形石器である。またRy II群の石器の特徴として、縦長剥片が多いことが上げられ、接合資料にもみられる。このようなことから、10段階編年の第3段階（宮崎県田石器文化談話会2005）<sup>(1)</sup>に位置づけておきたい。

### (2) 旧石器時代Ⅱ期（ML1・Kr-Kb相当）

21基の砾群と流紋岩（Ry I・II・III群）を用いたナイフ形石器の出土が、この期の特徴である。砾群内の構成礫はすべて尾鈴山酸性岩類であり、ほとんどが赤化し、破碎していた。特に中央東部では遺構間での接合もみられ、同時期に繰り返し使用されたと考えられる。

ナイフ形石器19点のうち、11点が国府型ナイフ形石器であり、瀬戸内手技法によると思われる接合資料も数例みられた。またRy I群を用いては台形石器も製作したと考えられる。10段階編年の第5～6段階に位置づけておきたい。

出土例が少なかったためにまとめて報告した細石刃、細石刃核の編年は第9段階と考えられる。

### (3) 縄文時代

縄文時代では2基の土坑を検出した。SC2からは早期末の平格式と思われる土器が出土したが、いずれの土坑も性格は確定できなかった。

土器は少量の出土だったが、土坑のものも含め早期末から後期までの形態がみられた。

石器も出土例が少なかったが、打製石鎌の出土が特徴である。製作に伴う剥片、碎片等はみられず、18点のうち10点が欠損していることから、他の場所で製作され、本遺跡内で使用されたと考えられる。また、尾鈴山酸性岩類の剥片、接合資料も確認された。搔器・削器等の製品製作は明らかではないが、何らかの石器として利用されていたと思われる。

### (4) 弥生時代

弥生時代では土器の出土が特徴である。壺では、中期の下城系から後期後葉～終末期にかけての形態がみられた。遺跡内に遺構等は全く確認されず、ほとんどが自然流路への流れ込みと考えられるが、大量に出土していることから、遺跡の近隣に集落が存在していたと考えられる。

### (5) その他の時代

時期不明の溝状遺構が1条検出され、中世から近代以降の陶磁器片等も出土したが少量にとどまり、人々が定住していた可能性は低いと思われる。

### 註

(1) 宮崎県田石器文化談話会2005「宮崎県下の旧石器時代遺跡概観」

『旧石器考古学』66号 田石器文化談話会

### 第Ⅲ章 二次調査の記録

#### 第1節 調査の方法と経過

##### 1 調査の方法

平成16年5月25日から本調査（二次調査）に着手する。調査対象面積は、6,000m<sup>2</sup>である。

グリッド杭は、国土座標を基準とし10m間隔で設定した。検出された遺構は、土層観察ベルトを設定しながら精査を進め、埋土中の遺物は床面付近等のもののみ遺構実測図中に図化して取り上げたほかは、遺構一括遺物とした。

遺物包含層中の遺物は平板もしくは光波トランシットにより取り上げた。遺構実測図は1/10を基本とし、一部1/20で記録した。写真記録は6×7版モノクローム、35モノクローム・リバーサル・カラー写真を併用して適宜行った。

遺跡の削歛等の空中写真については業者に委託して行った。

##### 2 調査日誌抄

###### H16. 5.25 調査開始。

重機投入。事務所、駐車場、予定地整備及びクラッシャーラン敷設。

###### 5.27 重機による表土剥ぎ開始。確認調査の排土移動。

###### 6. 2 表土剥ぎ終了。

###### 6.10 発掘作業員による発掘調査開始。

###### 6.18 グリッド杭設定（委託）。

###### 6.25 K-Ah下面において集石遺構2基検出。

###### 7. 1 K-Ah下面でコントラクト図作成。

###### 7.13 K-Ah下面の杉の切り株除去開始。

###### 7.21 切り株除去終了（合計191株）。

###### 7.23 排土移動及び無遺物層除去のため重機投入。

###### 7.28 遺物取り上げ開始。

###### 8. 2 整理作業開始。

###### 8. 5 重機による無遺物層剥ぎ終了。

###### 8.23 コントラクト図測量（委託）。

###### 8.26 K-Ah上面で住居跡（SA1）検出。

###### 9. 1 SA1精査。サブトレンチ掘り。土器片出土。

###### 9. 3 SA1より石庵丁出土。

###### 9. 8 SA1より土器片、大型台石、磨石、焼石が出土。

###### 9.14 SA1サブトレンチ掘終了。写真撮影。

###### 9.21 Kr-kb面で礫群を検出。

###### 10. 6 空撮実施（委託）。

###### 10.13 矶群3基検出。

###### 11.12 調査区中央部よりAT下位調査開始。

###### 11.24 調査区南側の舌状地のコントラクト図作成（AT上面）。

###### 11.25 重機によるAT層剥ぎ。

###### 12.10 SA1完掘。写真撮影。

###### 12.24 ブラックバンド中の礫群検出。実測。

###### H17. 1. 7 陥し穴遺構（SC1）検出。

###### 1.13 SC1半截開始。

###### 1.21 SC1半截終了。写真撮影。

###### 1.26 SC1完掘。写真撮影。撤収準備。

###### 1.27 発掘及び整理作業終了。

###### 2. 2 矶群2基の実測。

###### 2. 8 重機による埋め戻し開始。

###### 2.21 重機による埋め戻し完了後、填压。現地における調査終了。

### 3 整理作業及び報告書作成

遺物の整理作業にあたっては、水洗と礫整理について現場事務所と東畠原整理作業事務所にて平成16年8月～平成17年3月に実施した。遺物の注記・接合・実測・拓本等及び報告書作成は平成17年4月～平成18年10月に埋蔵文化財センター本館で実施した。

## 第2節 基本層序

本調査区では、傾斜地特有の不安定な堆積状況の部分がみられるが、概ね堆積状況は良好である。以下は、二次調査の基本層序である。

第I層：表土

第II層：黒色土 【Hue10YR1.7/1】

粒が細かくしまっている。クロボクに相当する。

第III層：鬼界アカホヤ (K-Ah) 火山灰 【Hue5YR4/8】

しまりが弱く、ブロック状に崩れやすい。  
黄澄色の火山ガラス質を大量に含む。

第IV層：黒褐色土 (MB0) 【Hue10YR1.7/1】

固くしまっており、粘性はない。

第V層：暗褐色土 (ML1) 【Hue10YR2/3】

しまりがあり、サラサラしている。粘性はない。

第VI層：小林鉱石を含む層 (Kr-Kb 相当層)

【Hue7.5YR3/4】

粘性がありやわらかい。橙色の粒がみられる。

第VII層：暗褐色土 (MB1) 【Hue7.5YR4/4】

やわらかく粘性がある。褐色のブロックが上位にわずかに見られる。

第VIII層：褐色土 (ML2) 【Hue10YR3/4】

固くしまっているところとそうでないところがみられる。白色と黄澄色の鉱物粒を含む。径2~3cmの褐色のシミを含む。

第IX層：始良Tn火山灰 (AT) 【Hue10YR5/8】

燈色・白色粒・ガラス粒が多く含む。粘性を帯び、ざらざらしている。

第X層：暗褐色土 (MB2) 【Hue10YR3/4】

非常に固くしまっており、粘性がある。縱にクラックを生じ、乾燥するとブロック状に割れる。白色の鉱物粒を大量に含む。

第Xb層：暗褐色土 (MB3) 【Hue10YR3/4】

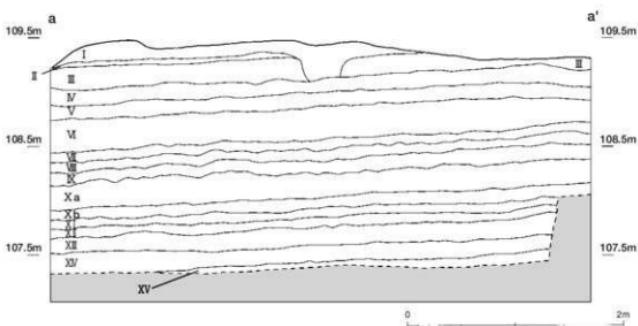
非常に固くしまっており、粘性がある。縱にクラックを生じ、乾燥するとブロック状に割れる。白色の鉱物粒を少量含む。

第XI層：褐色土 (ML3) 【Hue7.5YR4/6】

しまりがなく、粘性はある。1mm程度の黒・白色粒を含む。

第XII層：にぶい赤褐色土 【Hue5YR4/4】

粘性があり、XI層よりもしまりがある。  
燈・ワイン(赤紫)の粒を多く含む。層の下半分にやや暗めの「しみ」が見られる。  
大きさは1cm程度。



第82図 土層断面図1 (1/40)

第Ⅲ層：明褐色土 【Hue7.5YR4/4】

極めて固くしまっており、粘性はあまりない。1cm程度の小礫、燈色粒を含む。層全体に層の色調より暗めの「しみ」が見られる。

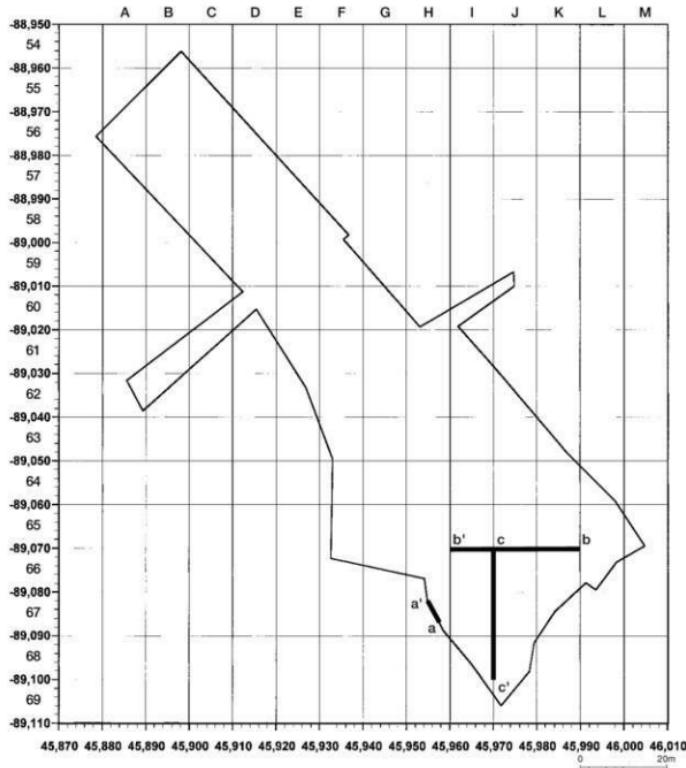
第Ⅲ層：明赤褐色土 【Hue7.5YR5/6】

極めて固くしまっており、粘性はあまりな

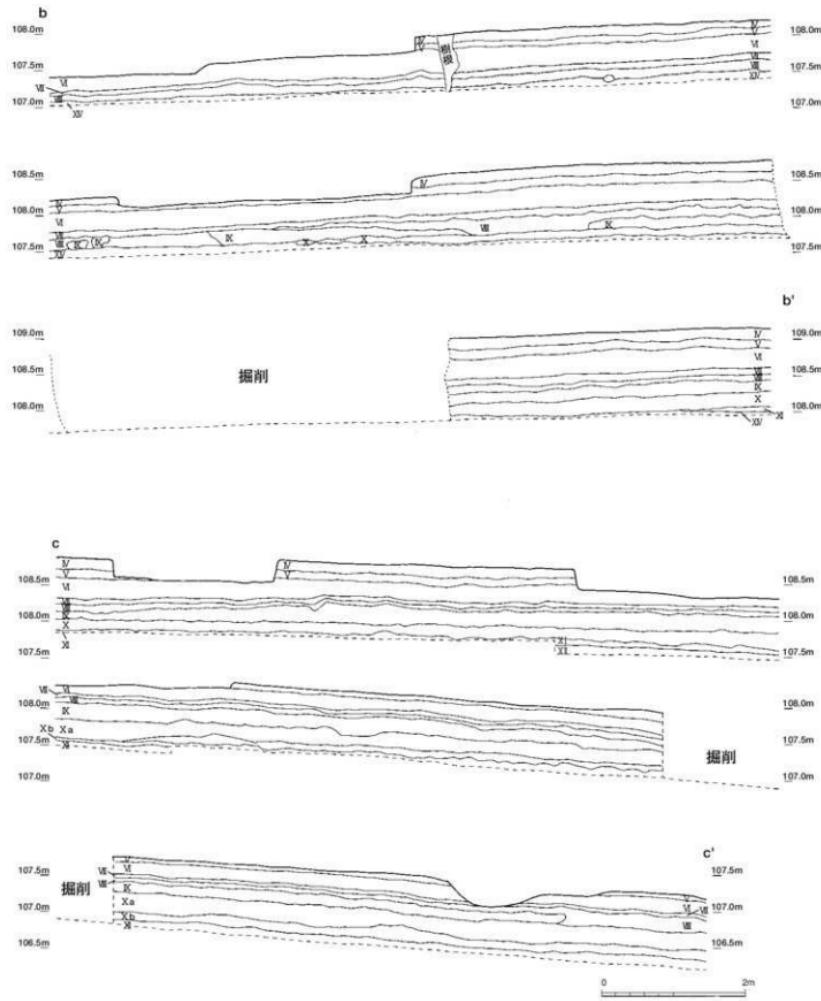
い（Ⅲ層より固い）。燈・黒の粒を含む。層の下半分にやや暗めの「しみ」が見られる。

第Ⅳ層：赤褐色土（礫層） 【Hue5YR4/6】

しまりがあり、粘性がややある。礫を数個確認できた。



第83図 グリッド配置図・土層断面測定箇所(1/1,000)



第84図 土層断面図 2 (1/60)

### 第3節 調査の記録

#### 1 旧石器時代の遺構と遺物

##### (1) 概要

旧石器時代の遺構・遺物については、舌状地部分を中心に確認された。旧石器時代の遺構と遺物のうち、AT下位の Xa層（MB2相当層）・Xb層（MB3相当層）をⅠ期とし、VI層（Kr-Kb相当層）をⅡ期として報告する。

調査面積は、調査区南東部の舌状地を中心Ⅰ期は約2,500m<sup>2</sup>で層厚は平均約0.65mを測り、Ⅱ期は約4,000m<sup>2</sup>で層厚は平均約0.40mを測る。

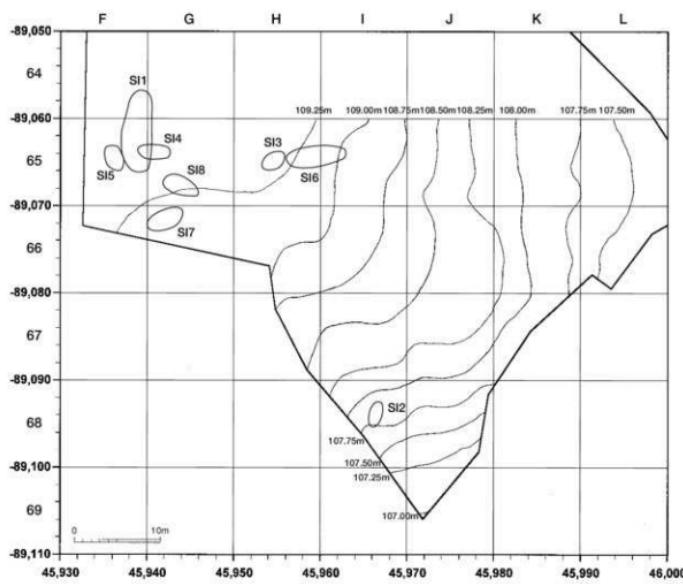
4,000m<sup>2</sup>で層厚は平均約0.40mを測る。

##### (2) Ⅰ期の遺構（第85図）

###### 【礫群】（第85図～第89図）

旧石器時代Ⅰ期では、礫群8基を検出した。

礫群の礫構成状況は散漫であり掘り込みはない。炭化物、遺構内遺物も見られなかった。石材は全て尾鉢山酸性岩類である。詳細は第32・33表を参照されたい。

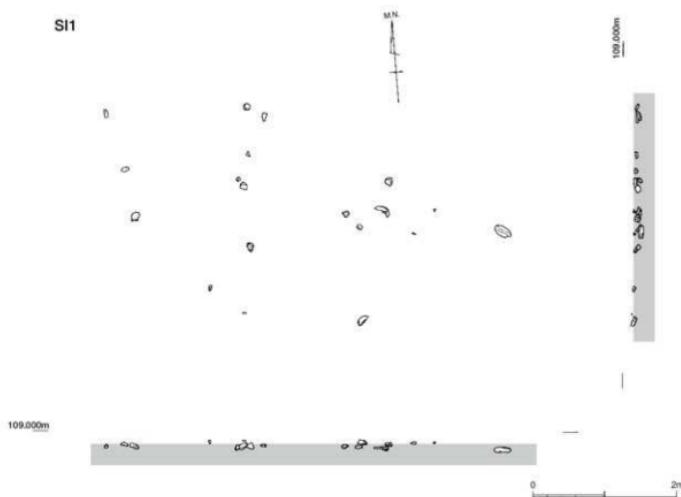


第85図 旧石器時代Ⅰ期遺構分布図(1/500)

No.	グリッド	検出面	礫範囲 (m)	礫総数	総重量 (kg)	礫の状態他
SI1	F65	Xb層	5.8×3.0	19	7.246	10cm以上の大礫9点。そのうち20cm以上の礫1点。 完形または完形に近い礫6点。それ以外はすべて破碎礫。 約70%に弱い赤化。 約25%の礫に黒色付着物(スカ?ア)あり。 遺構内で2例の接合。
SI2	I68	Xb層	3.0×2.0	15	17.75	15cm以上の大礫10点。そのうち20cm以上の礫1点。 完形または完形に近い礫14点。破碎礫は1点。 約90%に弱い赤化。約10%の礫に黒色付着物あり。 遺構内で1例の接合。
SI3	H65	Xb層	4.5×2.6	20	8.263	10cm以上の大礫7点。 完形礫1点。それ以外はすべて破碎礫。 約90%以上が赤化。そのうち2点は強い赤化。 遺構内で3例の接合。
SI4	F65～G65	Xb層	4.3×2.6	14	8.755	10cm以上の大礫7点。そのうち20cm以上の礫1点。 完形または完形に近い礫8点。破碎礫6点。 約90%以上に弱い赤化。 遺構での接合はない。
SI5	F65	Xb層	1.9×0.9	9	3.656	10cm以上の大礫3点。 完形礫は1点。それ以外はすべて破碎礫。 約80%に弱い赤化。約10%の礫に黒色付着物あり。 遺構内で1例の接合。
SI6	H65～I65	Xa層	4.4×3.9	13	12.69	10cm以上の大礫6点。そのうち20cm以上の礫1点。 完形または完形に近い礫8点。破碎礫5点。 すべての礫が赤化。そのうち4点は強い赤化。 約23%の礫に黒色付着物あり。 遺構内で2例の接合。
SI7	G66	Xa層	4.2×1.2	8	2.465	10cm以上の大礫7点。そのうち20cm以上の礫1点。 完形または完形に近い礫は4点。破碎礫4点。 すべての礫が弱い赤化。 遺構での接合はない。
SI8	G65	Xa層	4.5×2.4	13	6.385	10cm以上の大礫7点。 完形または完形に近い礫は7点。破碎礫6点。 すべての礫が赤化。そのうち2点は強い赤化。 約46%の礫に黒色付着物あり。 遺構での接合はない。

第32表 旧石器時代Ⅰ期礫群一覧表

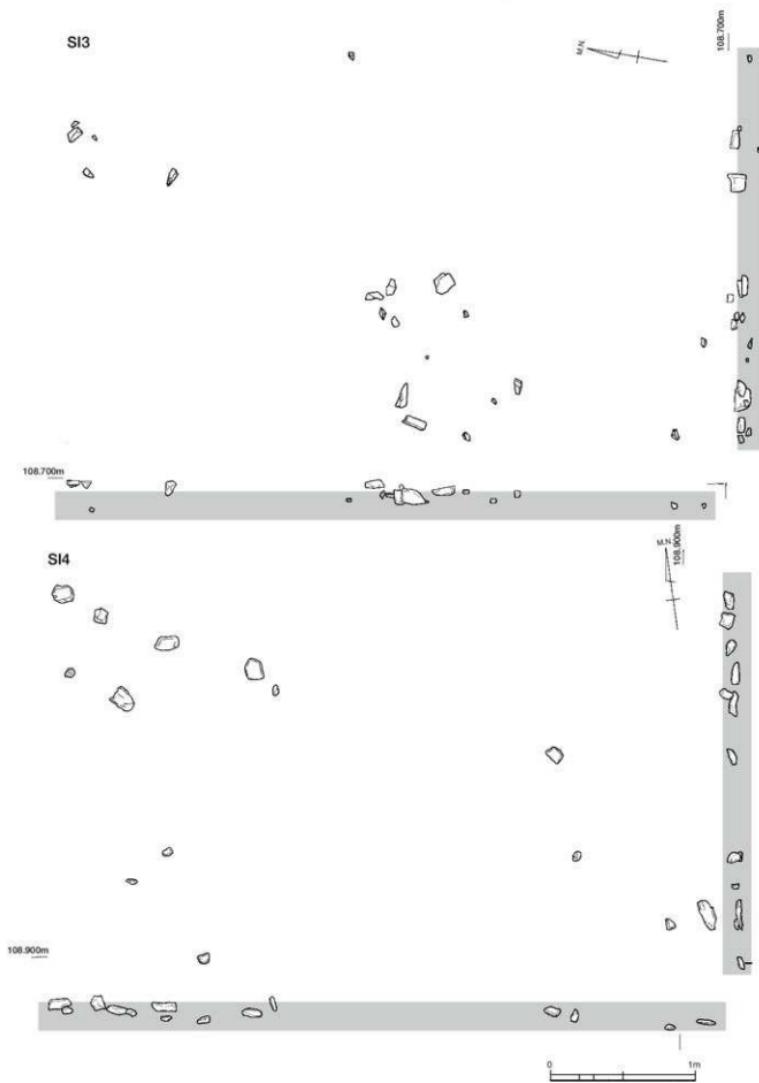
SI1



SI2

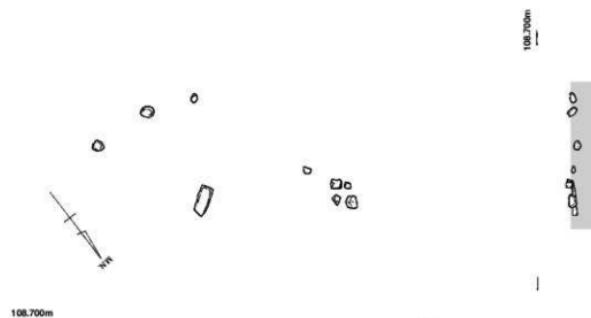


第86図 旧石器時代I期砾群実測図1 (1/30) (SI1=1/60)

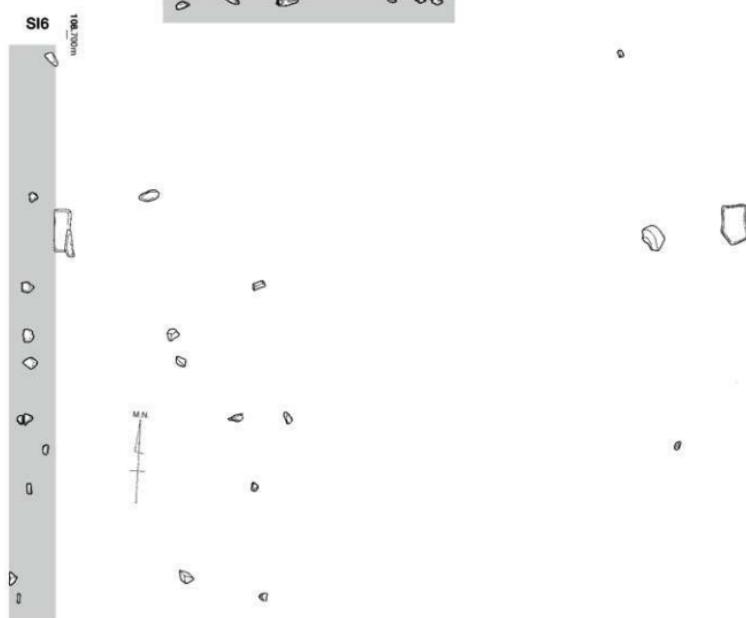


第87図 旧石器時代Ⅰ期砾群実測図2(1/30)

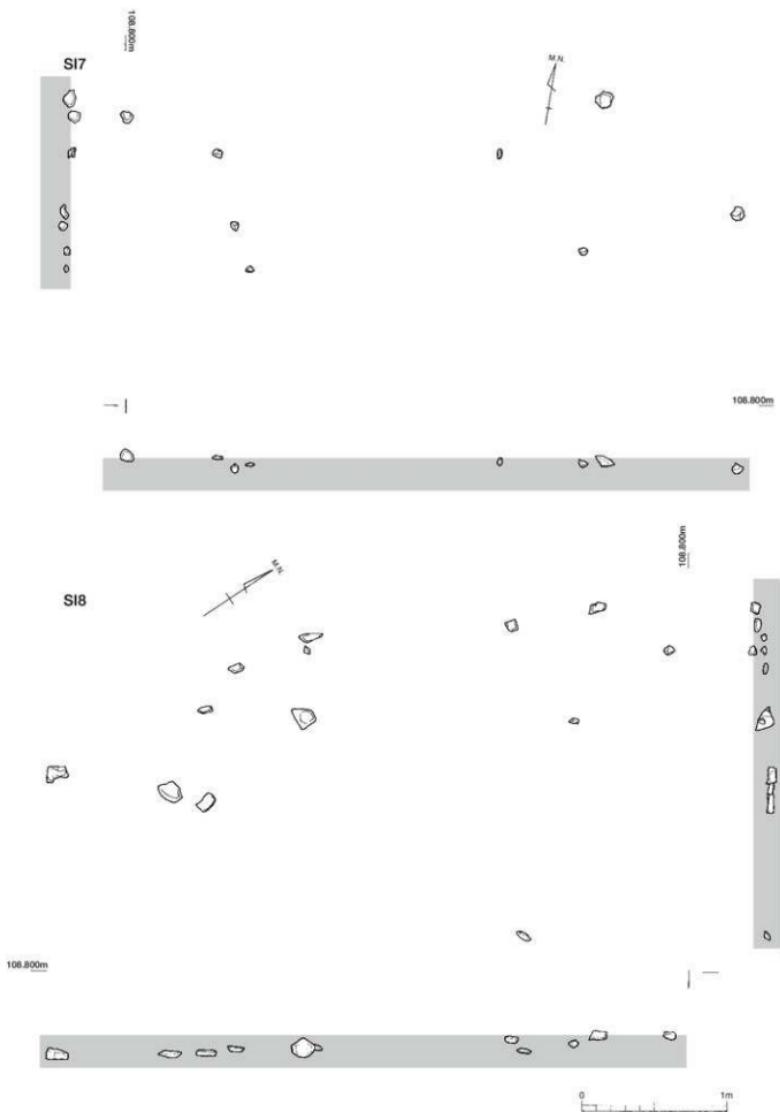
SI5



SI6



第88図 旧石器時代Ⅰ期縄群実測図 3 (1/30)



第89図 旧石器時代Ⅰ期櫛群実測図4(1/30)

### (3) I期の遺物 (第90図)

遺物は、調査区中央から南側に分布しており269点の遺物が出土した。特に南側の舌状地の遺物集中域で多数出土していることが特徴である。この箇所で遺物全体の約58%にある157点の石核や剥片等が出土した。接合資料もこの区域から多く出土している。

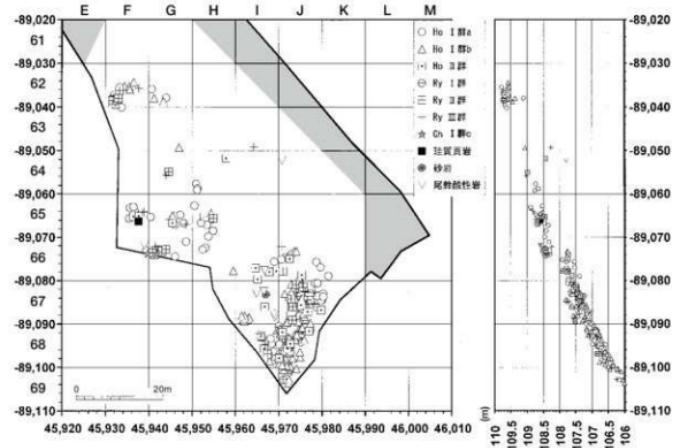
石材分類は、第I章第5節で述べたとおりである。I期の石材は、ホルンフェルスが約76%で一番多く、次いで流紋岩が約18%である。以下尾鈴山酸性岩類、

砂岩、チャート、珪質頁岩と続く。

器種別分類では、剥片、碎片で約94%を占める。石核は出土しているが、製品と呼べるものは確認できなかった。

以下石材種ごとに詳しく説明をする。石材、器種の内訳は第33表を、詳細については各石材ごとの石器観察表を参照されたい。なお、チャート、珪質頁岩については剥片、碎片のため図化していない。

\*アミカケ部分は、未掘削



第90図 旧石器時代I期遺物分布図1(1/1,000)

石材・石材種	二次加工 ある剥片	石核	敲石	剥片	碎片	合計	重量(g)
ホルンフェルス Ho I 群a	2	3		67	1	73	1262.6
ホルンフェルス Ho I 群b		4	1	97	7	109	275.07
ホルンフェルス Ho II 群				22	1	23	52.4
流紋岩 Ry I 群				1		1	15.7
流紋岩 Ry II 群		1		21	1	23	45.22
流紋岩 Ry III 群		1		27	1	29	272.9
尾鈴山酸性岩類			2	3		5	533.9
砂岩			3			3	660.5
チャート				1	1	2	0.84
珪質頁岩				1		1	20.3
合計	2	9	6	240	12	269	3139.43

第33表 旧石器時代I期石器・石材組成表

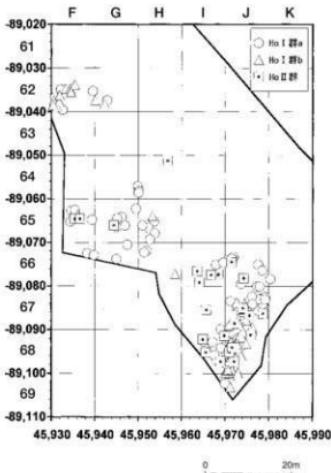
【ホルンフェルス】 (第91~96図)

旧石器時代Ⅰ期ではホルンフェルスが一番多く出土している。その中でも舌状地の遺物集中域から全体の約64%の遺物が出土している(第91図)。ホルンフェルスの中でもHo I群aが約36%、Ho I群bが53%で合わせて約90%を占める。

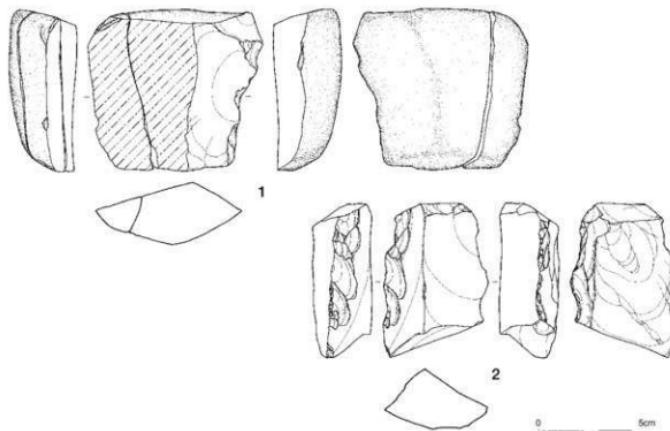
石材種別での分布状況を詳しく見るとHo I群aは、遺物集中域の他にグリッド杭H66のまわりから多く出土している。Ho I群bも遺物集中域全体に広がっており、他にグリッドF62のまわりから多く出土している。Ho II群は、遺物集中域からの出土がほとんどで、それ以外は数点のみであった。

器種別に見ると、石核、二次加工ある剥片、剥片が多く、敲石が1点出土している。

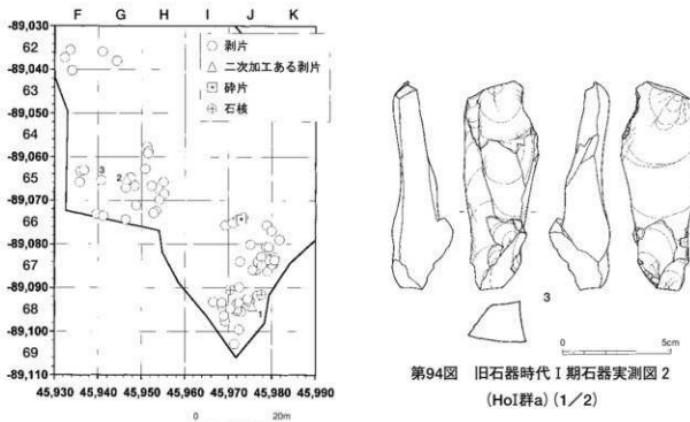
遺物205点出土のうちHo I群aの二次加工ある剥片2点、剥片1点、Ho I群bの敲石1点、Ho II群の剥片1点を実測した。接合資料は、10例、石器数52点確認できた。そのうち、Ho I群aの接合資料2例、Ho I群bの接合資料1例を実測した。



第91図 旧石器時代Ⅰ期遺物分布図2  
(ホルンフェルス) (1/1,000)



第92図 旧石器時代Ⅰ期石器実測図1 (Ho I群a) (1/2)

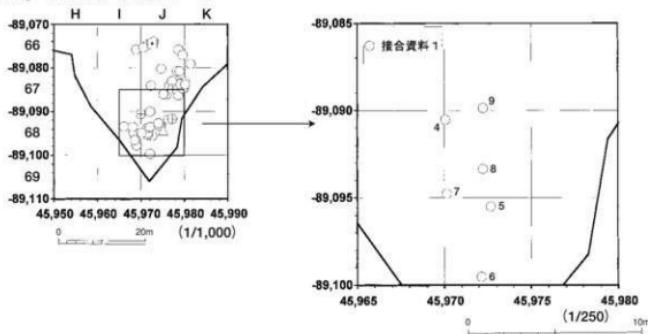


第93図 旧石器時代Ⅰ期遺物分布図3 (HoI群a) (1/1,000)

遺物 No.	取上 No.	層 序	石材種	器種	國土座標 X座標	國土座標 Y座標	標高 (m)	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	備考
1	1607	Xa	Ho I 群a	二次加工 ある 剥片	-89094.248	45975.170	106.808	7.45	8.10	3.15	227.0	自然面を多く残し、背面右側に加工を施す。背面に磨面を残す。
2	1563	Xa	Ho I 群a	二次加工 ある 剥片	-89065.074	45946.304	108.681	7.10	4.80	2.75	97.0	背面左側は腹面からの加工を施し、背面右側は腹面からの加工を施す。
3	1532	Xb	Ho I 群a	剥片	-89065.458	45940.351	108.527	9.60	3.50	2.80	64.7	縦長剥片である。背面に剥片を剥離した痕跡を有す。

第34表 旧石器時代Ⅰ期石器観察表1

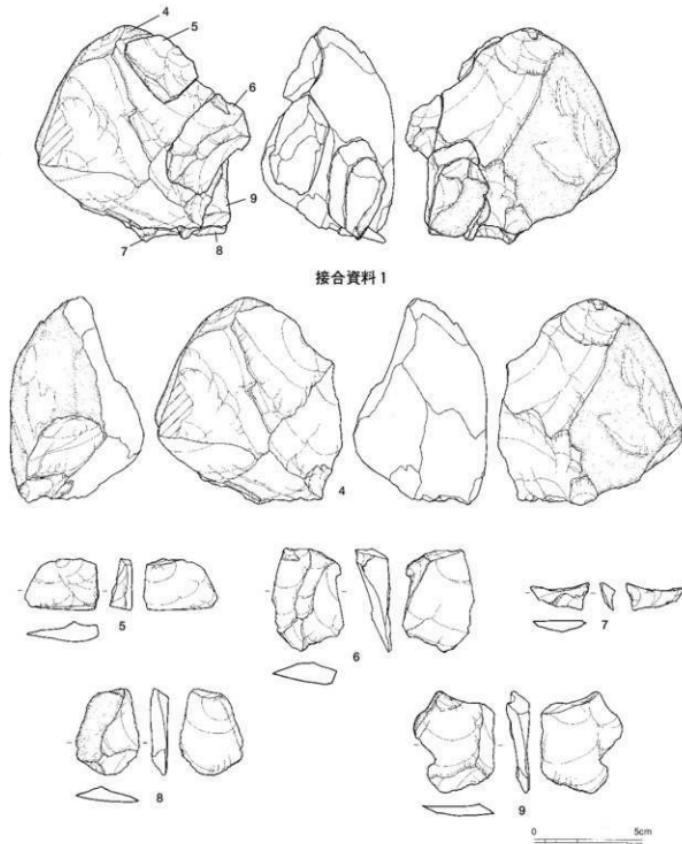
【接合資料1】 (第95図、第96図4~9)



第95図 旧石器時代Ⅰ期遺物分布図4 (HoI群a・接合資料1)

石核 1 点 (4) と剥片 5 点 (5 ~ 9) のホルンフェルス製 (Ho I 群 a) で自然面を多く残す接合資料である。剥片 5 点は石核から剥離された。打面を転位しながら剥片剥離を行っている。

次に接合資料裏面左下から縁面除去のために (8 → 9) を剥離している。次に、90° 回転させ 7 を剥離し、更に正面上部を打面として、上からの打撃で 5、4 を剥離している。



第96図 旧石器時代Ⅰ期石器実測図3 (Ho I群a・接合資料1) (1/2)

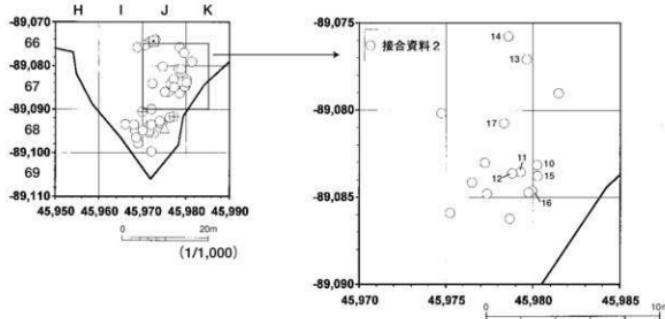
【接合資料2】（第97図、第98図10~17）

剥片16点のホルンフェルス製（Ho I群a）の接合資料である。ただし、そのうちの8点の剥片を図化した。石核は、遺跡内から出土せず、石核自体遺跡外に持ち出されたか、廃棄された可能性が高い。最初に縁を叩いて2つに分割している。分割された両者をAとBに分けて説明する。

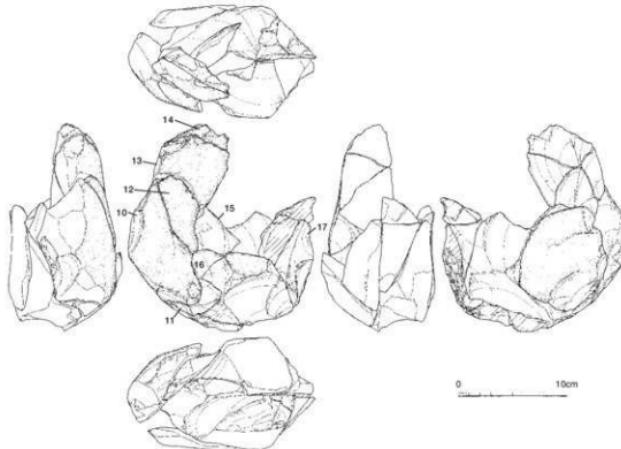
Aは（10+11+12）+（13+14）他1点である。最初に石核（未出土）から（10+11+12）を剥離し、

その後10を石核に転用し、11と12をそれぞれ剥離している。次に同じ石核から打面をかえて（13+14）を剥離し、最後に13と14を分割している。

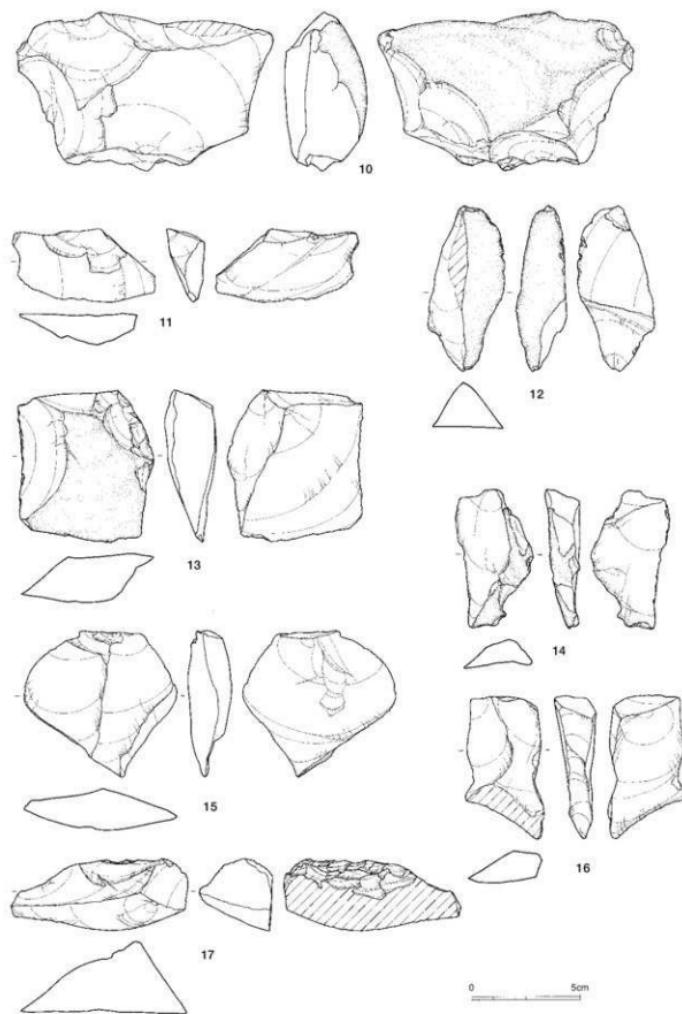
Bは（15+16）+17他7点である。最初に礫面除去のために各方向からの打擊によって剥片（7点）を剥離している。次に、石核（未出土）から15を剥離し、続けて16を剥離した。最後に、打面をかえて18を剥離している。その後、稜を剥ぐ二次加工を施している。



第97図 旧石器時代I期遺物分布図5 (HoI群a・接合資料2) (1/250)



第98図 旧石器時代I期石器実測図4 (HoI群a・接合資料2) (1/4)



第99図 旧石器時代Ⅰ期石器実測図5 (HoI群a・接合資料2) (1/2)

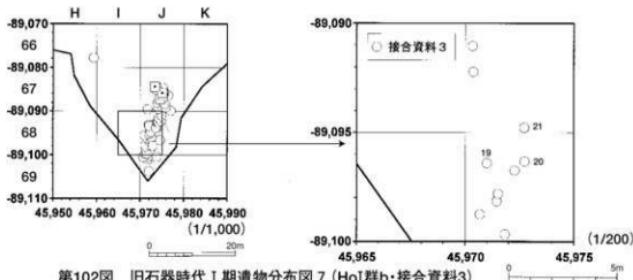


【接合資料3】(第103図19~21)

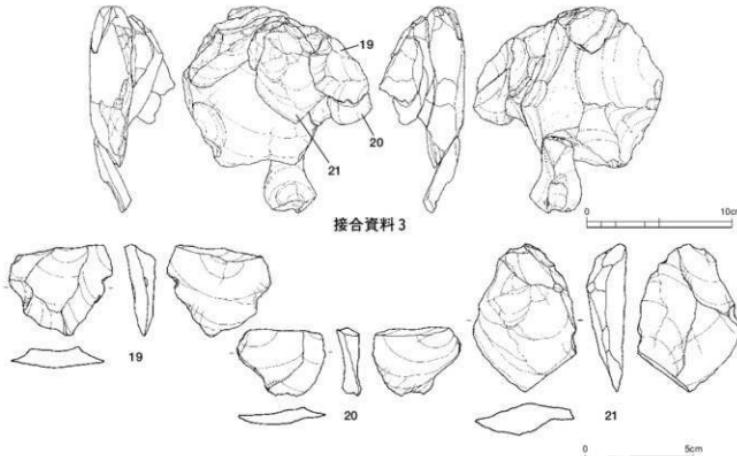
剥片11点のホルンフェルス製(Ho I群b)の接合資料である。ただし、そのうち3点を図化した。

最初に打面調整のために確面除去を行っている。

その後、そこを打面とし19を剥離し、続けて20を剥離している。その後方向をかえ別の剥片を剥いた後には21を剥離している。



第102図 旧石器時代1期遺物分布図7 (Ho I群b・接合資料3)

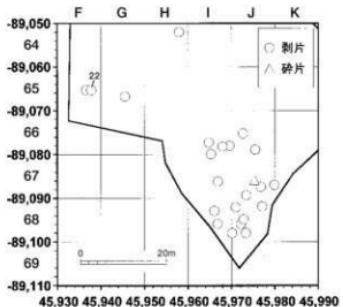


第103図 旧石器時代I期石器実測図7 (Ho I群b・接合資料3) (1/2) (接合資料1/3)

【接合資料3:ホルンフェルス Ho I群b】

遺物 No.	取上 No.	層 序	石材種	器種	国土地標 X座標	国土地標 Y座標	標高 (m)	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	備考
19	1587	Xa	Ho I群b	剥片	-89096.764	45972.282	106.624	4.20	4.80	1.45	20.2	背面に剥片剥離痕を残す。
20	1590	Xa	Ho I群b	剥片	-89098.339	45972.739	106.666	3.15	4.10	1.15	10.0	背面に剥片剥離痕を残す。
21	1600	Xa	Ho I群b	剥片	-89094.806	45972.716	106.798	6.80	4.80	1.80	46.0	腹面に剥片剥離痕を残す。

第37表 旧石器時代I期石器観察表4



第104図 旧石器時代I期遺物分布図8(Ho II群)(1/1,000)

遺物 No.	取上 No.	順序	石材種	器種	国土座標 X座標	国土座標 Y座標	標高 (m)	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	備考
22	1528	Xb	Ho II群	剥片	-89065.237	45936.484	108.494	8.80	4.50	1.40	40.9	背面に数枚の剥片を剥離した跡痕を残す。背面右側に微細な剥離痕を有す。

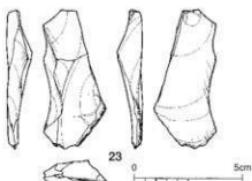
第38表 旧石器時代I期石器観察表5

#### 【流紋岩】

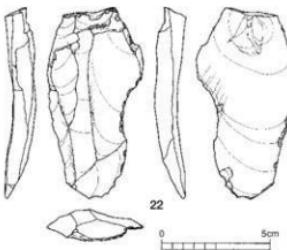
旧石器時代I期の流紋岩は、調査区全体から出土しているが、調査区南側の遺物集中域で多く出土している(第107図)。流紋岩の中でもRy II群が約43%、Ry III群が約55%で合わせて約98%を占める。Ry I群は剥片1点のみの出土である。

器種別に見ると、剥片が最も多く出土し、製品は出土しなかった。

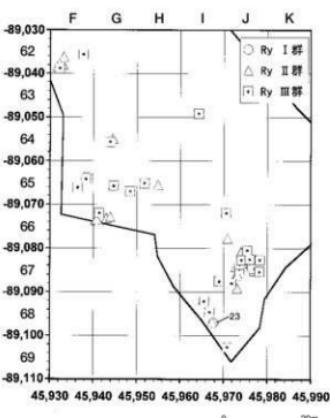
遺物53点出土のうちRy I群の剥片1点、Ry II群の剥片1点、Ry III群の剥片2点を実測した。また接合資料はRy III群の1例を実測した。



第106図 旧石器時代I期石器実測図9  
(Ry I群)(1/2)



第105図 旧石器時代I期石器実測図8  
(Ho II群)(1/2)

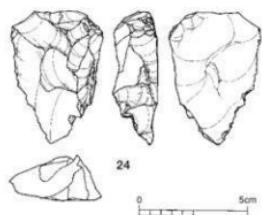


第107図 旧石器時代I期遺物分布図9  
(Ry I群)(1/1,000)

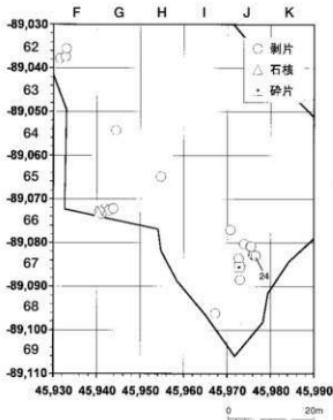
遺物 No.	取上 No.	順序	石材種	器種	国土座標 X座標	国土座標 Y座標	標高 (m)	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	備考
23	1741	Xb	Ry I群	剥片	-89097.157	45967.769	106.510	8.40	2.90	1.20	15.7	打点を上部にもつ縦長剥片。背面に剥片剥離痕を残す。背面右下部に調整痕を有す。

第39表 旧石器時代I期石器観察表6

〈Ry II 群〉



第108図 旧石器時代I期石器実測図10  
(Ry II群) (1/2)

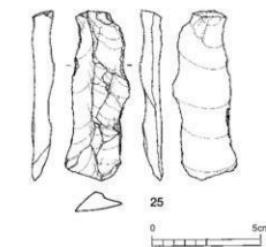
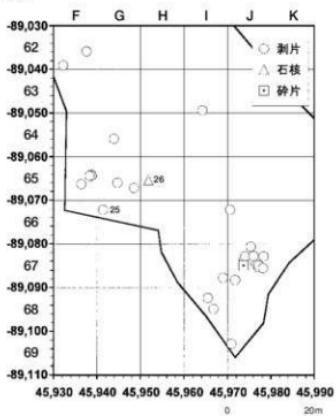


第109図 旧石器時代I期遺物分布図10  
(Ry II群) (1/1,000)

遺物 No.	取上 No.	層 序	石材種	器種	国土座標 X座標	国土座標 Y座標	標高 (m)	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	備考
24	1670	Xb	Ry II群	剥片	-89083.507	45976.207	107.298	6.10	4.25	2.10	42.3	背面に剥片剥離痕を多く残す。背面右上部と腹面右側面に微細な剥離痕を有す。

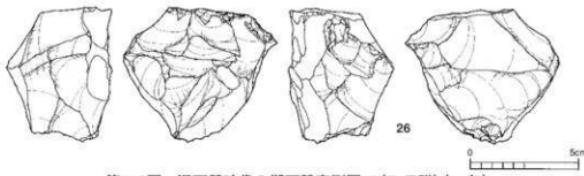
第40表 旧石器時代I期石器観察表7

〈Ry III群〉



第111図 旧石器時代I期石器実測図11  
(Ry III群) (1/2)

第110図 旧石器時代I期遺物分布図11  
(Ry III群) (1/1,000)

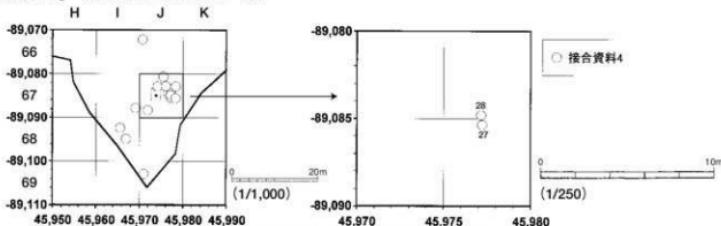


第112図 旧石器時代Ⅰ期石器実測図12(RyⅢ群)(1/2)

遺物 No.	取上 No.	層序	石材種	器種	国土座標 X座標	国土座標 Y座標	標高 (m)	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	備考
25	1545	Xb	RyⅢ群	剥片	-89072.135	45941.529	108.226	7.80	3.00	1.00	18.5	上部に打点を持つ縦長剥片である。背面に剥片剥離痕を残す。背面右側面全体に腹面からの微細な剥離痕を有す。
26	1755	Xa	RyⅢ群	石核	-89065.350	45951.917	108.445	6.20	7.15	4.90	245.0	腹面にわずかに自然面を残す。打面をかえ、上下左右の各方向から剥片剥離を行なう。赤く酸化した箇所が見られる。

第41表 旧石器時代Ⅰ期石器観察表8

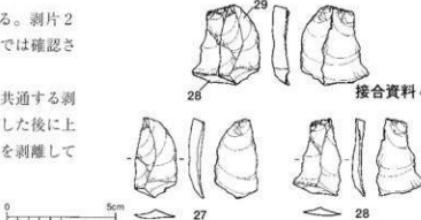
【接合資料4】(第113図、第114図27・28)



第113図 旧石器時代Ⅰ期遺物分布図12(RyⅢ群・接合資料4)

流紋岩製(RyⅢ群)の接合資料である。剥片2点のみで製品や石核・他の剥片は遺跡内では確認されていない。

剥片は確認されていないが、27と28に共通する剥片剥離痕が残っている。その剥片を剥離した後に上からの打撃で27を剥離し、同じように28を剥離している。



第114図 旧石器時代Ⅰ期石器実測図13  
(RyⅢ群・接合資料4)(1/2)

【接合資料4: 流紋岩 RyⅢ群】

遺物 No.	取上 No.	層序	石材種	器種	国土座標 X座標	国土座標 Y座標	標高 (m)	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	備考
27	1650	Xa	RyⅢ群	剥片	-89065.339	45977.234	107.317	3.70	2.00	0.70	3.9	背面に剥片剥離痕を残す。
28	1674	Xa	RyⅢ群	剥片	-89064.811	45977.177	107.302	3.60	2.20	0.60	2.5	背面に2箇所の剥片剥離痕を残す。1箇所は、27を剥離した痕跡である。

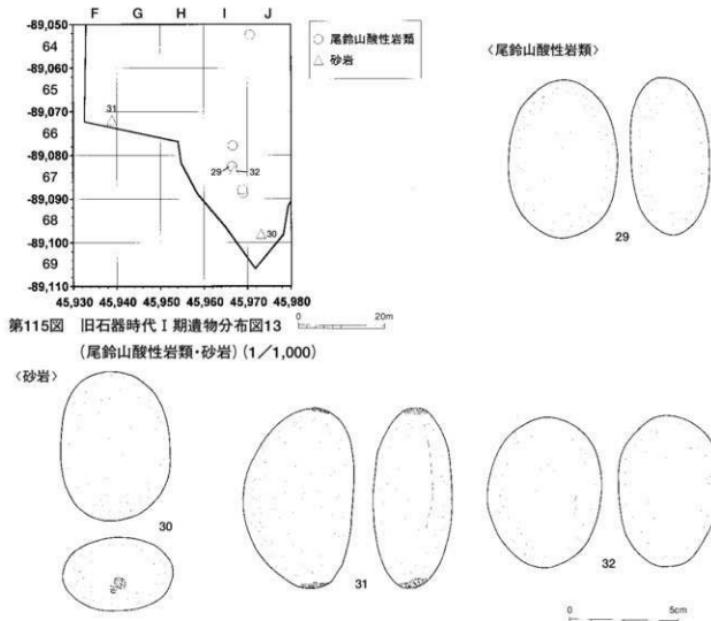
第42表 旧石器時代Ⅰ期石器観察表9

【尾鈴山酸性岩類・砂岩】(第116図29~32)

尾鈴山酸性岩類の遺物は敲石2点、剥片3点の合

計5点で敲石1点を実測した。また、砂岩の遺物は

敲石が3点出土し、全て実測した。詳細については、  
第44表を参照されたい。



遺物 No.	取上 No.	層序	石材種	器種	国土座標 X座標	国土座標 Y座標	標高 (m)	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	備考
29	1736	Xa	尾鈴山 酸性岩類	敲石	-89082.522	45966.638	107.634	6.90	5.30	4.80	233.90	小円縁を使用。全体的につるつるしている。
30	1586	Xa	砂岩	敲石	-8907.948	45973.161	106.410	6.90	5.10	3.40	170.82	扁平小円縁を使用。上下面に使用痕がわずかに残す。裏面はつるつるした感じがある。
31	1744	Xa	砂岩	敲石	-89071.849	45938.958	108.594	8.30	5.20	3.70	218.60	小円縁を使用。全体的につるつるしている。
32	1734	Xb	砂岩	敲石	-89083.279	45967.097	107.647	7.30	5.10	3.70	189.90	横円小縁を使用。上下面に明瞭な敲打痕を残す。正面左側に擦り面を認める。

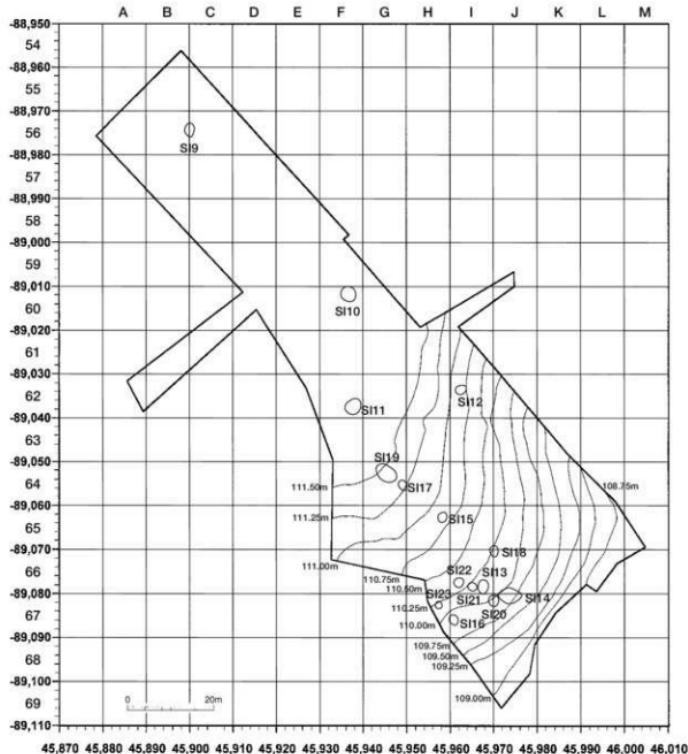
第43表 旧石器時代I期石器観察表10

(4) II期の遺構 (第117図)

【礫群】 (第118~122図)

旧石器時代II期では、調査区全体から礫群15基を検出した。礫群の礫構成状況は、密に礫が集まっているものと散漫なものとに分かれる。SI13、SI16、SI22、

SI23の4基は特に密に集まっている。15基全て掘り込みはない。炭化物、遺構内遺物も見られなかった。石材は全て尾鈴山酸性岩類である。礫の多くが赤化しており彼然によるものと考えられる。詳細は第44表を参照されたい。

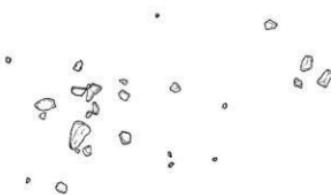


第117図 旧石器時代II期遺構分布図(1/1,000)

No.	グリッド	礫範囲 (m)	検出面	礫总数	総重量 (kg)	礫の状態他
SI9	B56～C56	2.3×1.3	VI層	28	6.850	10cm大以上の礫6点。そのうち20cm以上の礫1点。完形または完形に近い礫2点。それ以外はすべて破碎礫。約85%が赤化。そのうち約40%は強い赤化。2点の礫に黒色付着物(スカ?)あり。遺構内で8例の接合。
SI10	F60	3.7×3	VI層	50	6.445	15cm大以上の礫1点。完形礫または完形に近い礫4点。すべてが赤化。そのうち約65%は強い赤化。3点の礫に黒色付着物(スカ?)あり。遺構内で8例の接合。
SI11	F62	2×1.5	VI層	29	4.174	10cm大以上の礫5点。完形に近い礫は3点。それ以外はすべて破碎礫。約90%が赤化。そのうち46%が強い赤化。1点のみ黒色付着物(スカ?)あり。遺構内で4例の接合。
SI12	I62	2.1×1.6	VI層	46	16.010	10cm大以上の礫20点。完形礫または完形に近い礫15点。それ以外はすべて破碎礫。約75%以上に弱い赤化。9点の礫に黒色付着物(スカ?)あり。遺構内での6例の接合。
SI13	I66	0.9×0.6	VI層	69	6.544	10cm大以上の礫3点。完形に近い礫は7点。それ以外は破碎礫。約90%の礫が弱い赤化。7点の礫に黒色付着物(スカ?)あり。遺構内の接合はない。
SI14	J66～J67	6×4.2	VI層	127	23.420	10cm大以上の礫7点。そのうち20cm以上の礫3点。完形礫または完形に近い礫19点。それ以外はすべて破碎礫。約90%以上が赤化。そのうち約25%は強い赤化。15点の礫に黒色付着物(スカ?)あり。遺構内で26例の接合。
SI15	H65	1.4×0.9	VI層	11	3.085	10cm大以上の礫7点。そのうち20cm以上の礫1点。完形礫または完形に近い礫は6点。それ以外はすべて破碎礫。約90%の礫が赤化。そのうち約40%が強い赤化。1点のみ黒色付着物(スカ?)あり。同遺構内で2例の接合。
SI16	I67	1.1×0.7	VI層	98	9.231	10cm大以上の礫7点。完形礫または完形に近い礫は7点。礫6点。すべての礫が赤化。そのうち16点は強い赤化。約46%の礫に黒色付着物(スカ?)あり。同遺構内の個体の接合はない。
SI17	G64	1.9×1.3	VI層	11	1.395	10cm大の礫はない。完形礫は4点。それ以外は破碎礫7点。すべての礫が赤化。1点のみ黒色付着物(スカ?)あり。遺構内で2例の接合。
SI18	I65～J66	1.5×0.5	VI層	12	1.259	10cm大以上の礫なし。完形礫または完形に近い礫は3点。それ以外は破碎礫。すべての礫が弱い赤化。礫に黒色付着物なし。遺構内の接合はない。
SI19	G64	4.8×3.6	VI層	19	1.999	10cm大以上の礫1点。完形に近い礫3点。それ以外は破碎礫。約80%以上が弱い赤化。礫に黒色付着物なし。遺構内での接合はない。
SI20	I67～J67	1.8×0.8	VI層	13	4.116	10cm大以上の礫2点。完形礫または完形に近い礫は1点。それ以外は破碎礫。約85%の礫が弱い赤化。礫に黒色付着物なし。遺構内で2例の接合。
SI21	I66	2.3×2.2	VI層	38	15.555	10cm大以上の礫8点。約20cm以上の礫1点。完形礫または完形に近い礫は10点。それ以外は破碎礫。すべての礫が赤化。2点の礫に黒色付着物(スカ?)あり。遺構内で4例の接合。
SI22	I66	2.9×1.6	VI層	157	28.398	10cm大以上の礫33点。完形または完形に近い礫24点。それ以外はすべて破碎礫。約96%の礫が赤化。そのうち約35%は強い赤化。39点の礫に黒色付着物(スカ?)あり。遺構内で2例の接合。
SI23	H67	1×0.8	VI層	58	9.035	10cm大以上の礫7点。完形礫または完形に近い礫は2点。それ以外は破碎礫。約98%の礫が弱い赤化。7点の礫に黒色付着物(スカ?)あり。遺構内で10例の接合。

第44表 旧石器時代Ⅱ期礫群一覧表

SI9



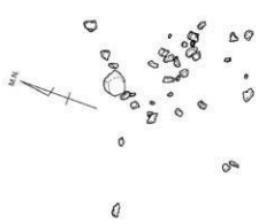
112.00m



112.00m



SI10



112.00m



110.70m

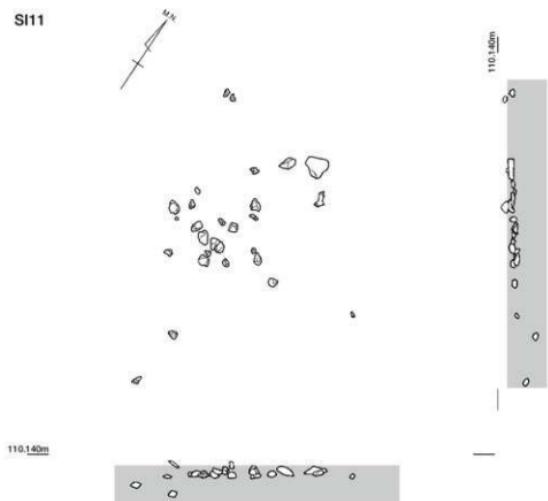


0

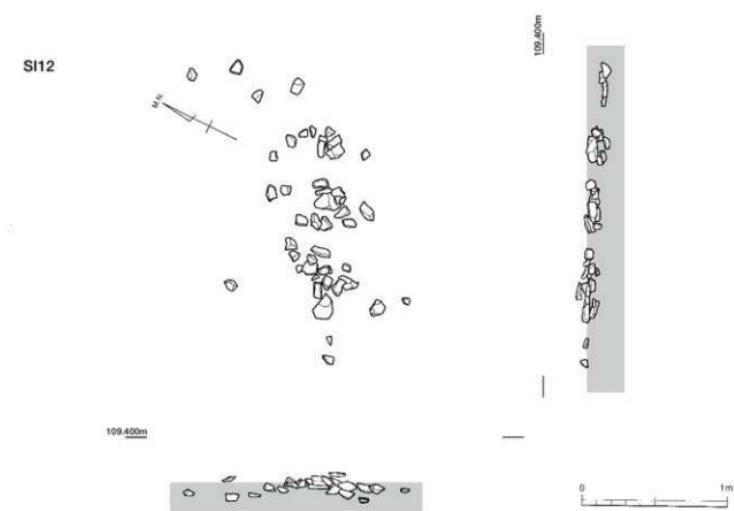
1m

第118図 旧石器時代Ⅱ期砾群実測図1 (1/30)

SI11

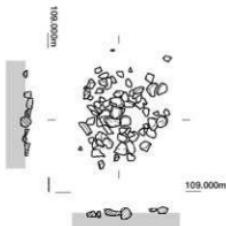


SI12

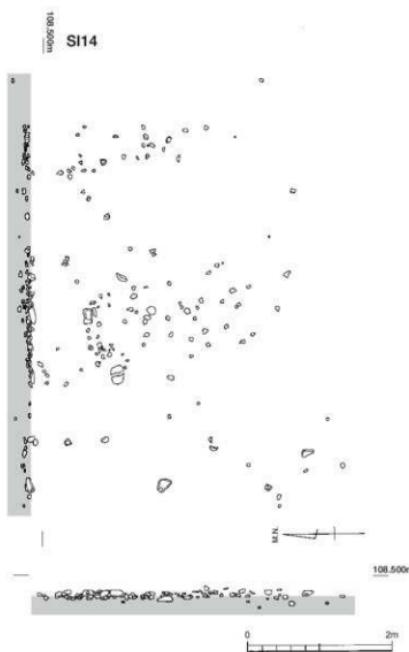


第119図 旧石器時代Ⅱ期砾群実測図2 (1/30)

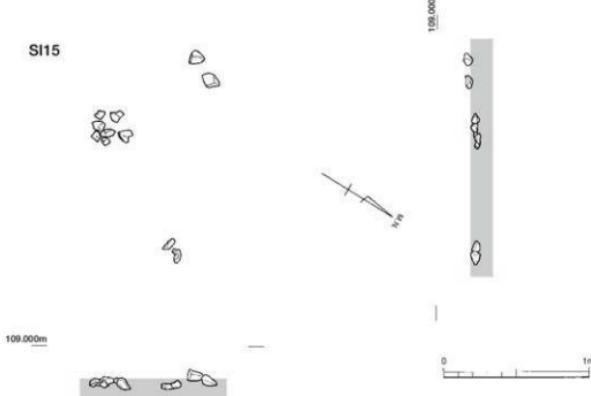
SI13



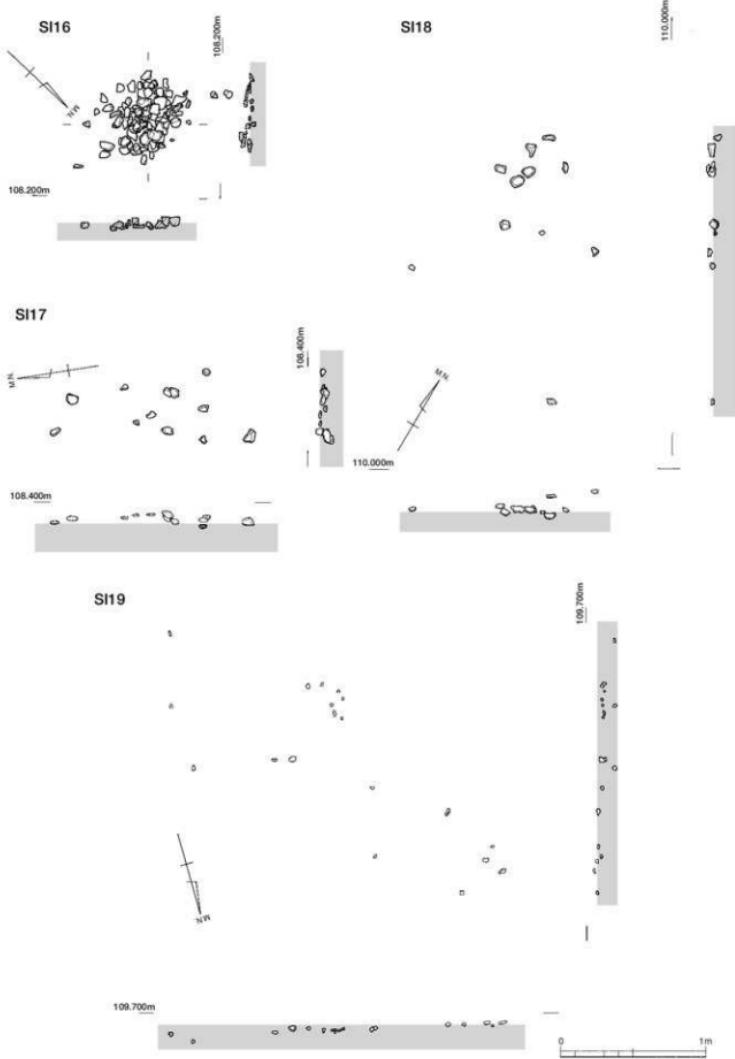
SI14



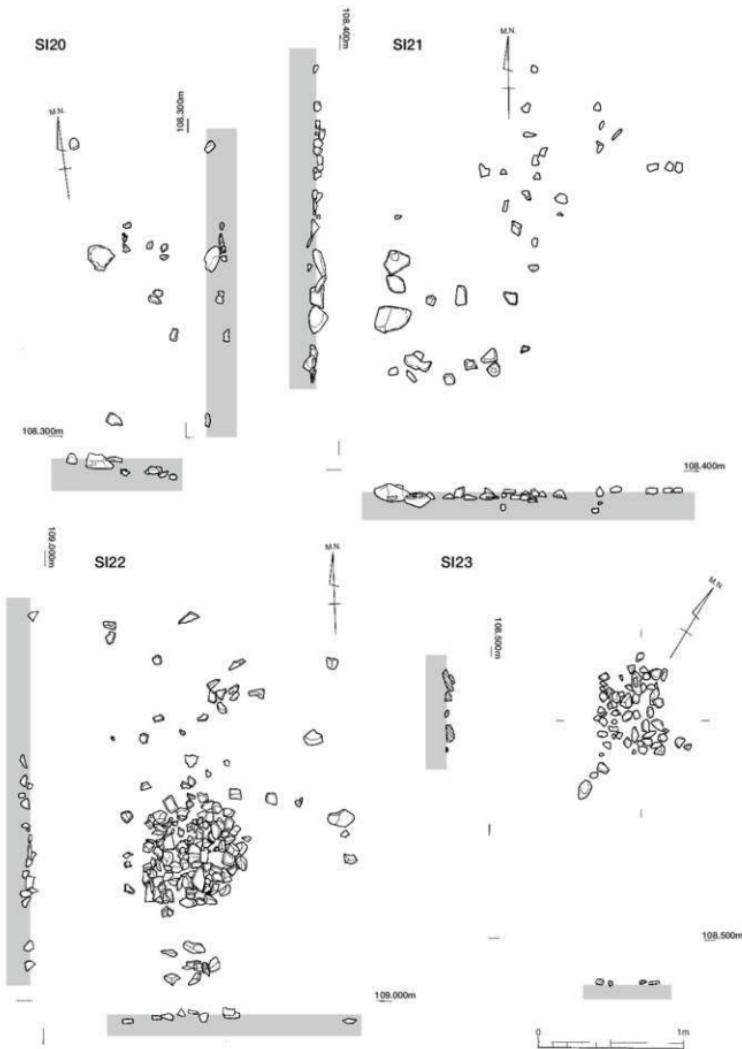
SI15



第120図 旧石器時代Ⅱ期礫群実測図3(1/30)(SI14=1/60)



第121図 旧石器時代Ⅱ期砾群実測図4 (1/30)



第122図 旧石器時代Ⅱ期櫻群実測図5(1/30)

(5) II期の遺物 (第123図)

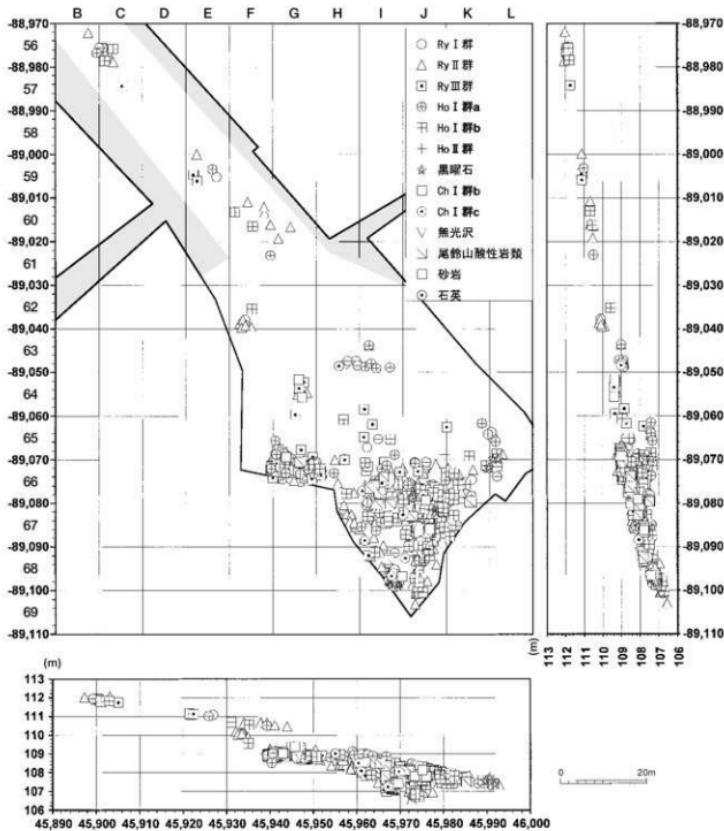
旧石器時代II期の遺物は1304点出土している。I期と同じように中央から南側の舌状地で全体の約95%が出土している。

I期との相違点は、流紋岩が全体の約65%を占め、次にホルンフェルスが約31%を占めることがある。また、I期では出土しなかった黒曜石が出土していることも特徴としてあげられる。

器種としては、ナイフ形石器、角錐状石器、スクレイパー等製品も数多く出土している。接合資料も多く、特に瀬戸内技法によると思われる接合資料が多く見られることもII期の特徴である。

以下、石材種ごとに遺物の説明を行う。石材、器種の内訳は第45表の石器・石材組成表を参照されたい。

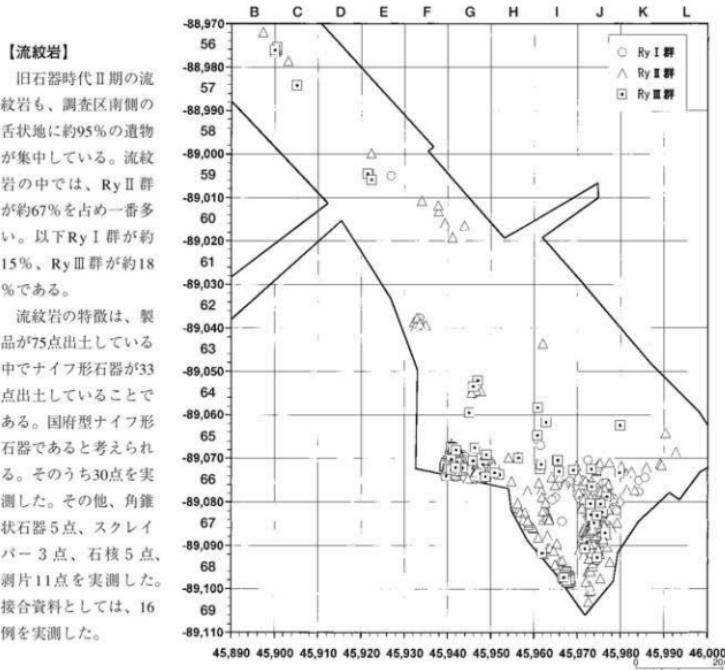
\*アミカケ部分は、未掘削。



第123図 旧石器時代II期遺物分布図1(1/1,000)

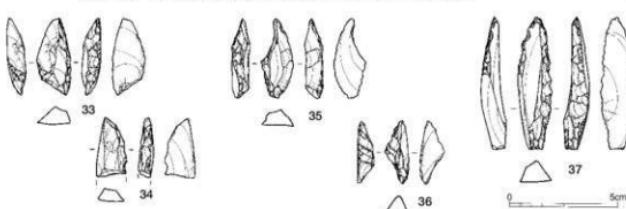
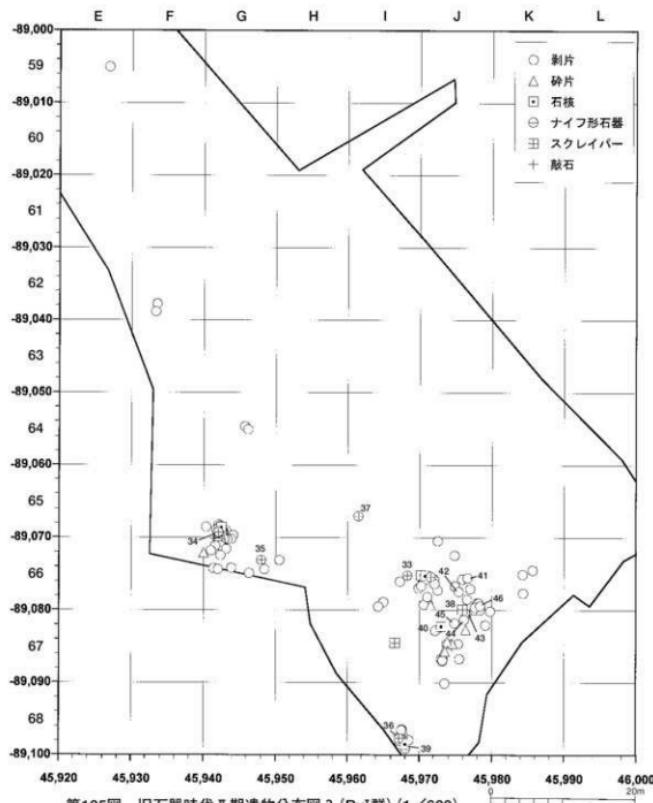
石材・石材種	器種	ナイフ形石器	角錐状石器	スクリーパー	石錐	尖頭器	石斧	二次加工品	石核	敲石	磨石	剥片	碎片	合計	重量(g)
流紋岩	Ry I 群	6	2						7	1	101	12	129	1064.44	
流紋岩	Ry II 群	24	4	2					8	3	430	89	560	1866.69	
流紋岩	Ry III 群	3	2	3	1				7	1	127	14	158	920.52	
ホルンフェルズ	Ho I 群 a	4	1	1				1	4		161	11	183	947.04	
ホルンフェルズ	Ho I 群 b	1		2		1	1		7	1	196	10	219	2365	
ホルンフェルズ	Ho II 群								1		3		4	437.3	
黒曜石	日東		1								3	7	11	12.4	
黒曜石	桑ノ木津留										2	4	6	0.23	
黒曜石	姫島										1	1	0.01		
黒曜石	達姫										1		1	0.02	
チャート	Ch I 群 b	1									1	2	2	0.01	
チャート	Ch I 群 c										7	2	9	0.12	
チャート	Ch I 群 d										1	1	1	0.01	
尾鶴山酸性岩類									3	2	7		12	2075.7	
砂岩									1	3	2	1	7	1149.5	
石英											1	1	1	23.3	
合計		39	8	10	1	1	1	1	34	13	4	1039	153	1304	10862.3

第45表 旧石器時代Ⅱ期石器・石材組成表

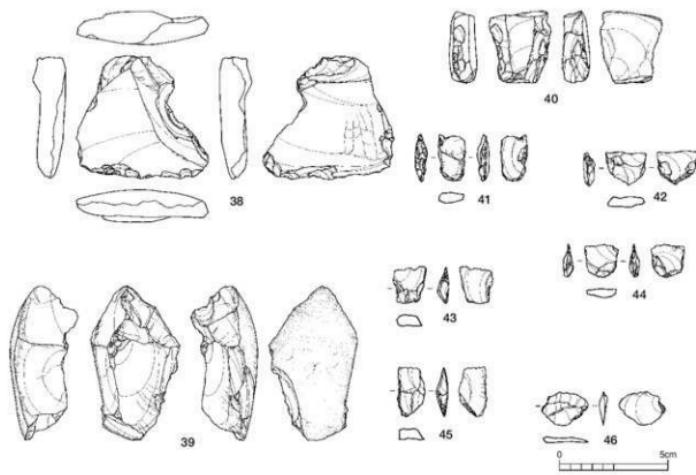


第124図 旧石器時代Ⅱ期遺物分布図2(流紋岩)(1/1,000)

〈Ry I 群〉



第126図 旧石器時代Ⅱ期石器実測図1 (RyI群) (1/2)

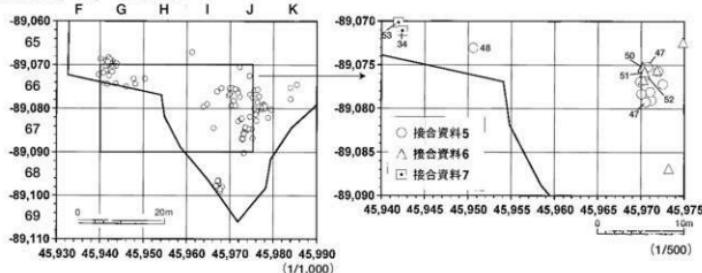


第127図 旧石器時代Ⅱ期石器実測図2(Ry1群)(1/2)

遺物 No.	取上 No.	層序	石材種	器種	国土座標 X座標	国土座標 Y座標	標高 (m)	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	備考
33	361	VI	Ry I 群	ナイフ形石器	-89075.203	45968.322	108.382	3.55	1.60	0.90	4.7	横長剥片を素材とする二側縁加工。右側縁に腹面からの調整を施す。
34	417	VI	Ry I 群	ナイフ形石器	-89089.214	45942.061	109.092	2.75	1.40	0.75	2.8	右側縁に腹面からの調整を施す。基部が欠損している。
35	1167	VI	Ry I 群	ナイフ形石器	-89073.083	45948.045	108.868	3.65	1.50	0.85	3.4	横長剥片を素材とする一側縁加工。左側縁に腹面からの調整を施す。
36	1418	VI	Ry I 群	ナイフ形石器	-89097.679	45967.132	107.224	2.90	1.15	0.80	1.9	一側縁加工。左側面に腹面からの調整を施す。
37	1198	VI	Ry I 群	ナイフ形石器	-89066.985	45961.519	108.86	6.10	1.60	1.15	9.5	横長剥片を素材とする二側縁加工。右側縁に腹面からの刃欠損加工を施す。
38	586	VI	Ry I 群	スクレイパー	-89079.898	45975.913	108.208	5.65	6.05	1.50	48.8	小型の扁平石を使用。下縁部に腹・背面からの調整を施す。
	1560				-89079.462	45964.246	108.327					
39	1439	VI	Ry I 群	石核	-89088.475	45968.014	107.136	7.10	4.10	3.10	77.1	上下に打面をえながら剥片剥離を行っている。裏面に自然面を残す。
40	1105	VI	Ry I 群	石核	-89082.221	45972.998	108.043	3.30	2.85	1.30	15.0	上面、背面に剥離痕を残す。侧面に調整痕が見られる。
41	631	VI	Ry I 群	剥片	-89075.562	45976.676	108.125	2.15	1.30	0.60	1.8	小剥片。左右両縁に微細な剥離を認める。
42	633	VI	Ry I 群	剥片	-89077.438	45975.454	108.136	1.55	1.90	0.55	1.5	小剥片。下縁部に微細な剥離を認める。
43	1029	VI	Ry I 群	剥片	-89080.432	45976.346	108.159	1.70	1.55	0.55	1.3	小剥片。右側縁に微細な剥離を認める。
44	1052	VI	Ry I 群	剥片	-89081.264	45976.197	108.043	1.55	1.60	0.50	1.2	小剥片。下縁部に微細な剥離を認める。
45	1068	VI	Ry I 群	剥片	-89081.763	45974.875	108.009	2.30	1.30	0.55	1.7	小剥片。下縁部に微細な剥離を認める。
46	1091	VI	Ry I 群	剥片	-89079.553	45977.677	107.998	1.55	2.15	0.40	1.0	小剥片。左側縁に微細な剥離を認める。

第46表 旧石器時代Ⅱ期石器観察表1

【接合資料5～7】 (第128図)

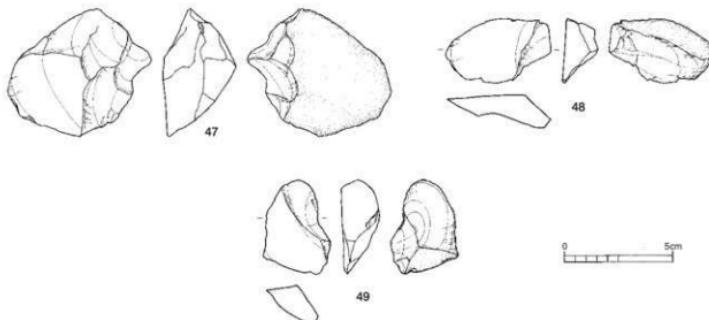
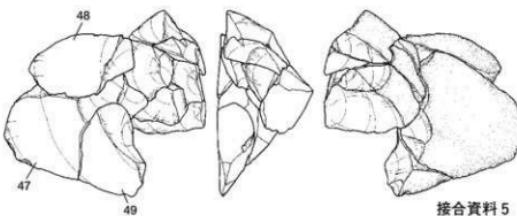


第128図 旧石器時代Ⅱ期遺物分布図4 (RyI群・接合資料5～7)

【接合資料5】 (第129図47～49)

流紋岩製 (Ry I 群) の接合資料である。9点 (石核1点、剥片8点) の接合で3点を実測した。盤状剥片からの剥離であると考えられる。実測以外の剥

片は、蹠面除去及び打面調整剥片である。翼状剥片 (未出土) を剥離した後、(47+48+49) の翼状剥片石核が残ったと考えられる。その後48と49を上からの打撃によって剥離している。

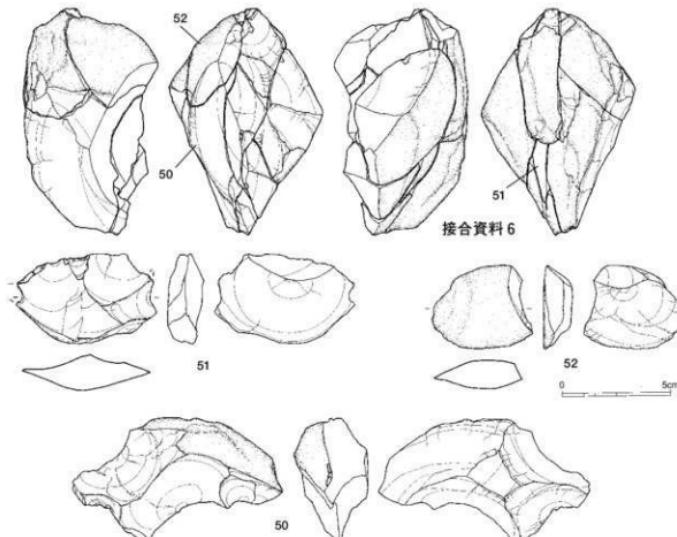


第129図 旧石器時代Ⅱ期石器実測図3 (RyI群・接合資料5) (1/2)

【接合資料 6】 (第130図50~52)

流紋岩製 (Ry I 群) の接合資料である。8点 (石核1点、剥片7点) の接合で3点実測した。最初に

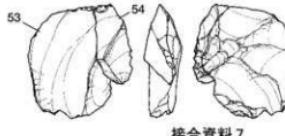
打面調整のために52を剥出している。その後、実測外の剥片を剥ぎ、51を剥出している。50は剥離作業の結果の残核である。



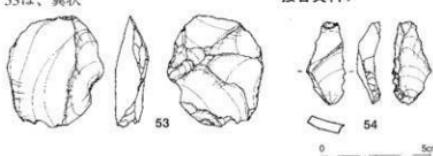
第130図 旧石器時代Ⅱ期石器実測図4 (Ry I群・接合資料6) (1/2)

【接合資料 7】 (第131図53・54)

流紋岩製 (Ry I 群) の接合資料である。2点 (石核1点、剥片1点) の接合である。全て実測した。瀬戸内技法によると考えられる。縦面除去後、側方からの打撃により54を剥出している。54は翼状剥片であると思われるが一部欠損している。53は翼状剥片石核である。

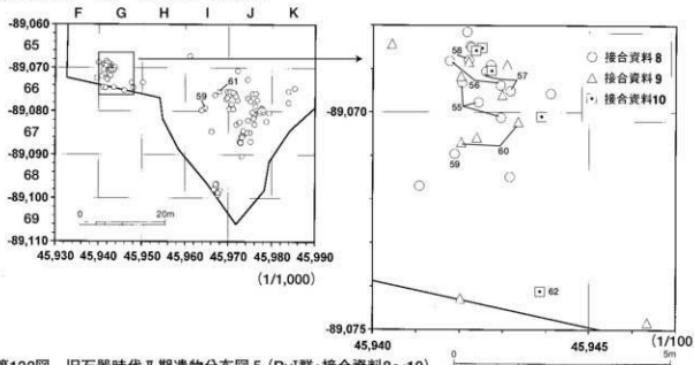


接合資料 7

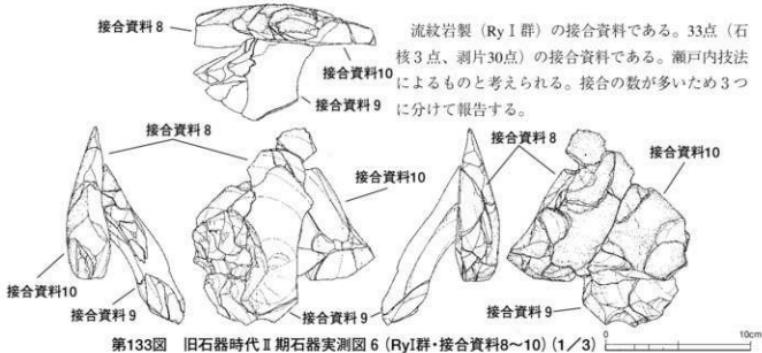


第131図 旧石器時代Ⅱ期石器実測図5 (Ry I群・接合資料7) (1/2)

【接合資料8～10】（第132図・第133図）



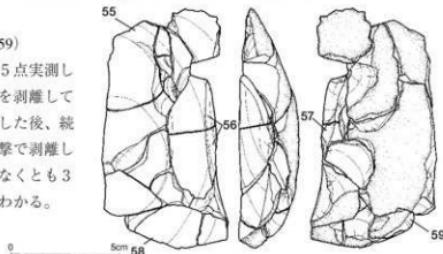
第132図 旧石器時代Ⅱ期遺物分布図5 (RyI群・接合資料8～10)



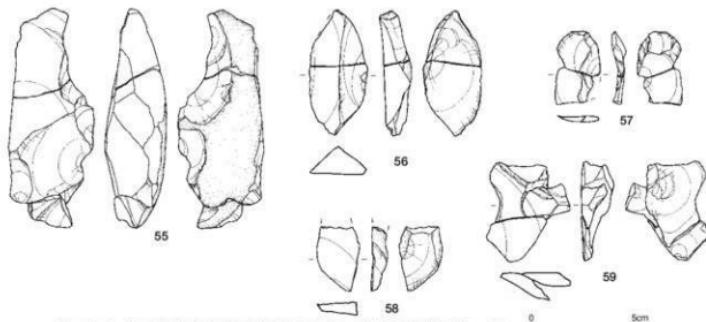
第133図 旧石器時代Ⅱ期石器実測図6 (RyI群・接合資料8～10) (1/3)

【接合資料8】（第134図・第135図55～59）

18点（石核1点、剥片17点）の接合で5点実測した。礫面除去及び打面調整のために剥片を剥離している。翼状剥片56を上からの打撃で剥出した後、統けて57を剥出している。58を右からの打撃で剥離した後59を剥出している。この接合で、少なくとも3点の翼状剥片の獲得を試みていることがわかる。



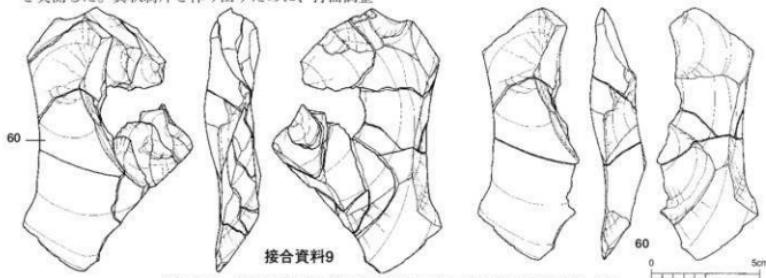
第134図 旧石器時代Ⅱ期石器実測図7 (RyI群・接合資料8) (1/2)



第135図 旧石器時代Ⅱ期石器実測図8 (Ryūenji群・接合資料8) (1/2)

【接合資料9】(第136図60)

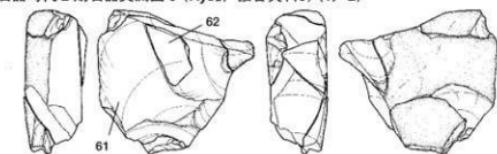
7点(石核1点、剥片6点)の接合で、石核1点を実測した。翼状剥片を作り出すために、打面調整



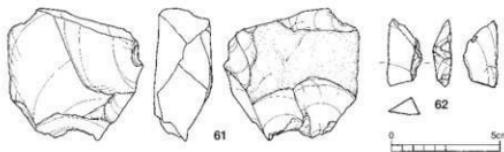
第136図 旧石器時代Ⅱ期石器実測図9 (Ryūenji群・接合資料9) (1/2)

【接合資料10】(第137図61・62)

5点(石核1点、剥片4点)の接合資料で2点実測した。接合資料8と分離後、礫面を除去し、側方からの打撃により61から62を剥出している。

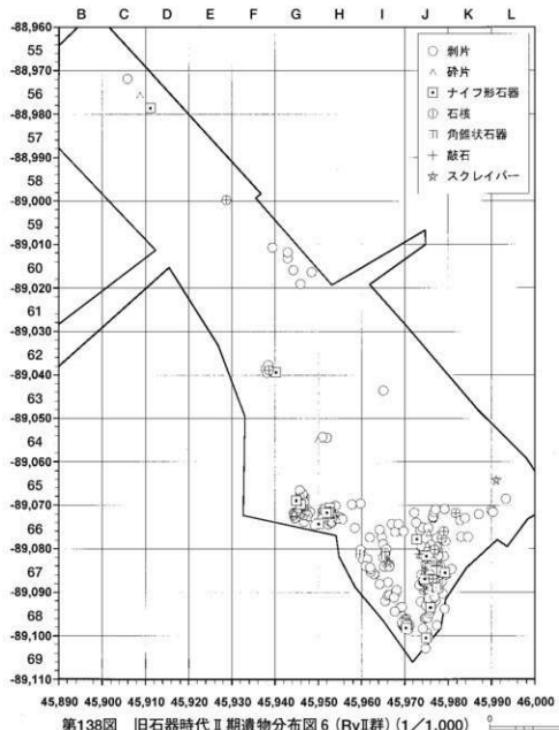


接合資料10

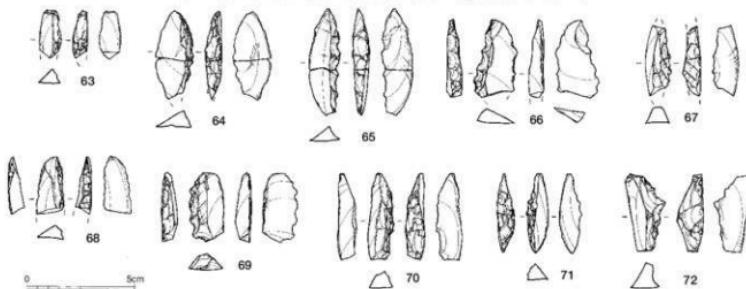


第137図 旧石器時代Ⅱ期石器実測図10 (Ryūenji群・接合資料10) (1/2)

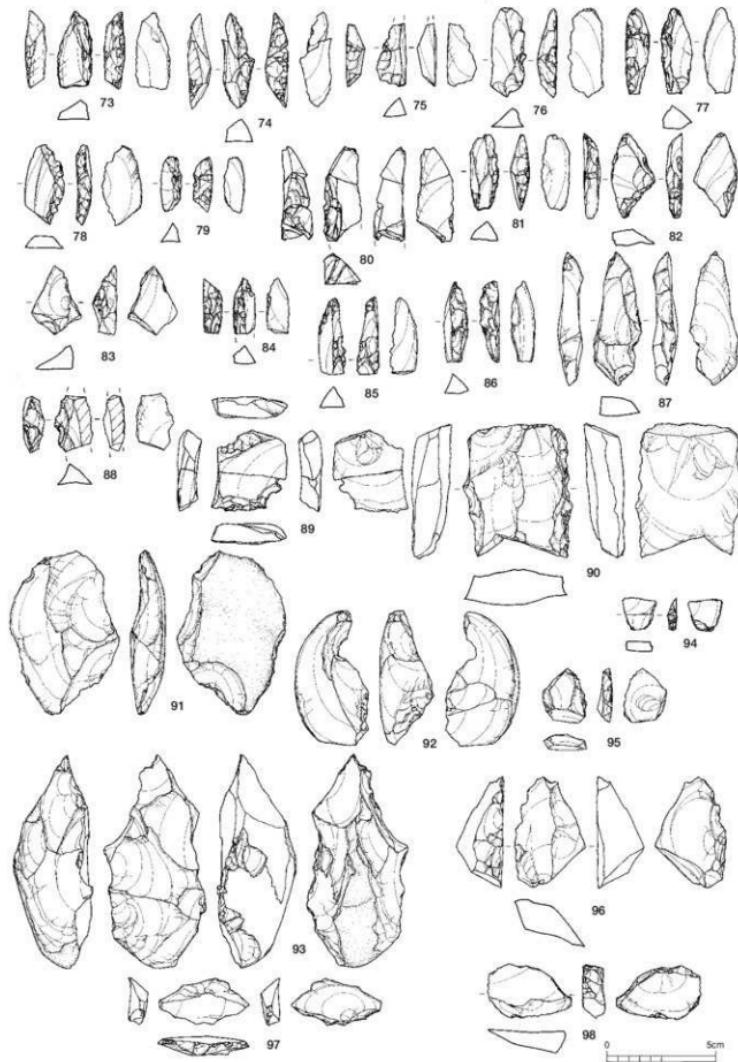




第138図 旧石器時代Ⅱ期遺物分布図6 (RyII群) (1/1,000) 20m



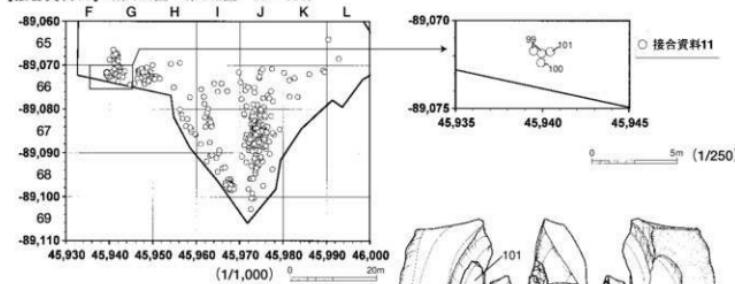
第139図 旧石器時代Ⅱ期石器実測図11 (RyII群) (1/2)



第140図 旧石器時代Ⅱ期石器実測図12 (RyII群) (1/2)



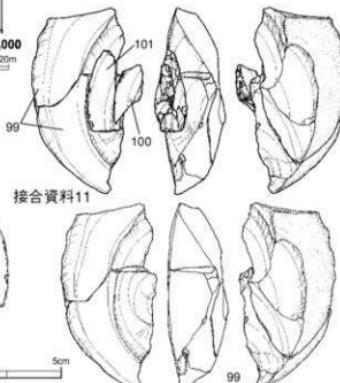
【接合資料11】(第141図・第142図 99~101)



第141図 旧石器時代Ⅱ期遺物分布図7 (RyII群)

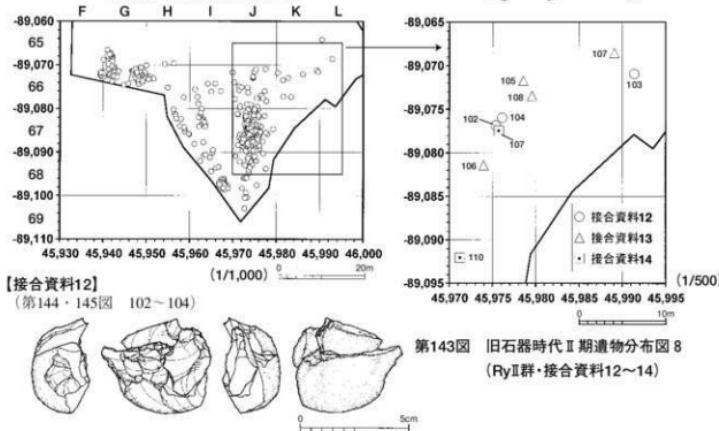
流紋岩製 (Ry II群) の接合資料である。3点 (石核1点、ナイフ形石器2点) の接合で全て実測した。

石核101は翼状剥片石核であり、打面調整を行った後、ナイフ形石器99を剥出したあと、同じくナイフ形石器100を剥出している。



接合資料11

第142図 旧石器時代Ⅱ期石器実測図13  
(RyII群・接合資料11) (1/2)

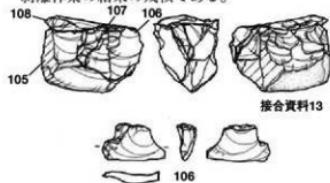


第144図 旧石器時代Ⅱ期石器実測図14 (RyII群・接合資料12) (1/2)

流紋岩製（Ry II群）の接合資料である。3点（石核1点、剥片2点）の接合で全て実測した。上からの打撃で103を剥出した後、打面を180度かえて104を剥出している。石核102は、剥離作業の結果の残核である。

【接合資料13】（第146図105～108）

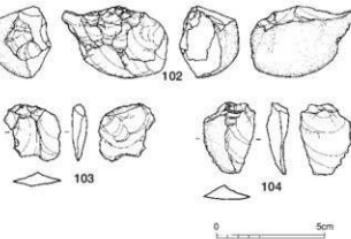
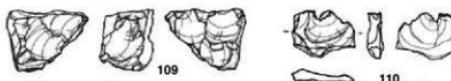
流紋岩製（Ry II群）の接合資料である。4点（石核1点、剥片3点）の接合で全て実測した。左側方からの打撃で108を剥出した後、打面を90度かえて上からの打撃で106～107と剥出している。105は、剥離作業の結果の残核である。



第146図 旧石器時代Ⅱ期石器実測図16 (Ry II群・接合資料13) (1/2)

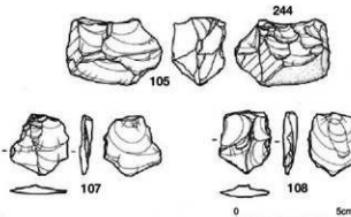
【接合資料14】（第64図109～110）

流紋岩製（Ry II群）の接合資料である。2点（石核1点、剥片1点）の接合で全て実測した。礫面除



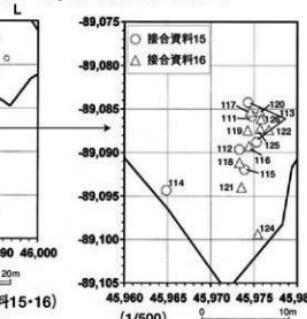
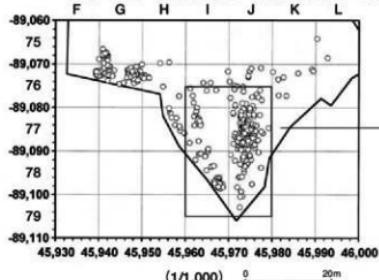
第145図 旧石器時代Ⅱ期石器実測図15

(Ry II群・接合資料12) (1/2)



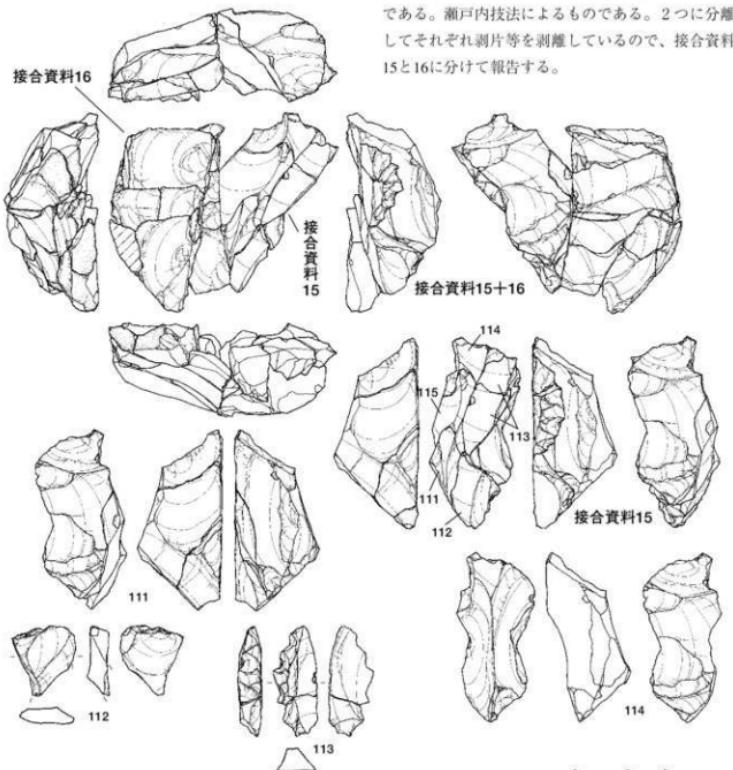
【接合資料15・16】（第148図・第149図）

第147図 旧石器時代Ⅱ期石器実測図17 (Ry II群・接合資料14) (1/2)



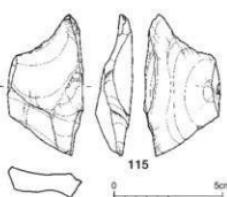
第148図 旧石器時代Ⅱ期遺物分布図9 (Ry II群・接合資料15・16)

流紋岩製（Ry II群）の接合資料である。19点（石核1点、ナイフ形石器1点、剥片17点）の接合資料である。瀬戸内技法によるものである。2つに分離してそれぞれ剥片等を剥離しているので、接合資料15と16に分けて報告する。



【接合資料15】（第149図111～115）

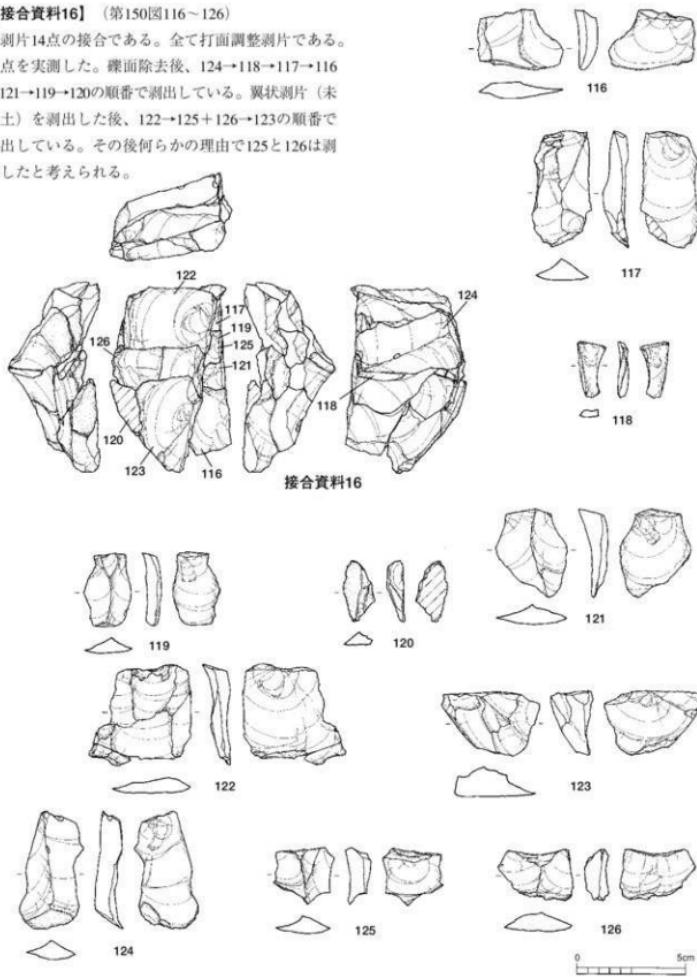
5点（石核1点、ナイフ形石器1点、剥片3点）の接合である。全て実測した。礫除去後、打面調整を繰り返し113のナイフ形石器を剥出し、その後上からの打撃で112を剥出している。111は翼状剥片石核である。さらに111を114と115に剥離している。



第149図 旧石器時代Ⅱ期石器実測図18 (Ry II群・接合資料15) (1/2)

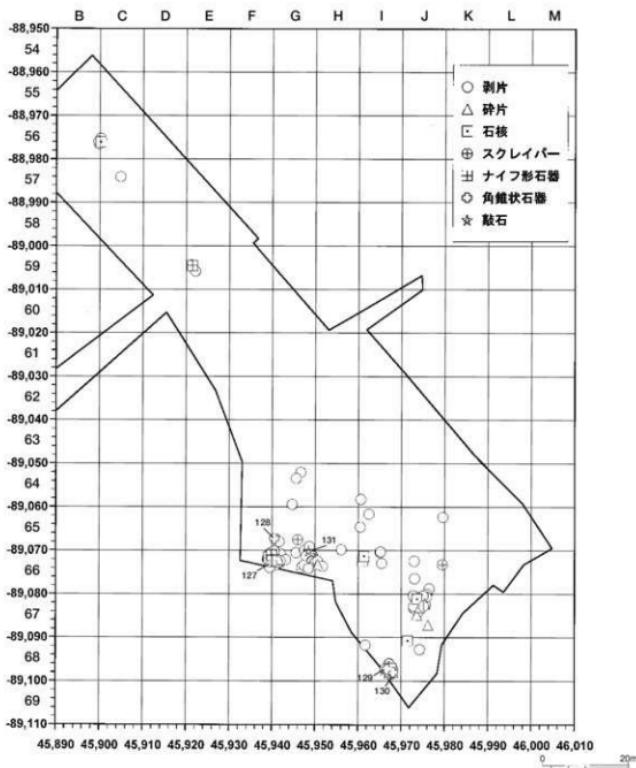
【接合資料16】（第150図116～126）

剥片14点の接合である。全て打面調整剥片である。  
11点を実測した。礫面除去後、124→118→117→116  
→121→119→120の順番で剥出している。翼状剥片（未  
出土）を剥出した後、122→125+126→123の順番で  
剥出している。その後何らかの理由で125と126は剥  
離したと考えられる。

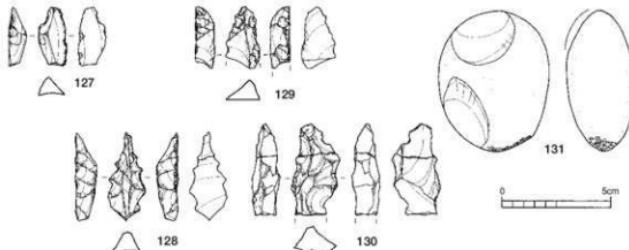


第150図 旧石器時代Ⅱ期石器実測図19 (RyII群・接合資料16) (1/2)





第151図 旧石器時代Ⅱ期遺物分布図10 (RyⅢ群) (1/1,000)

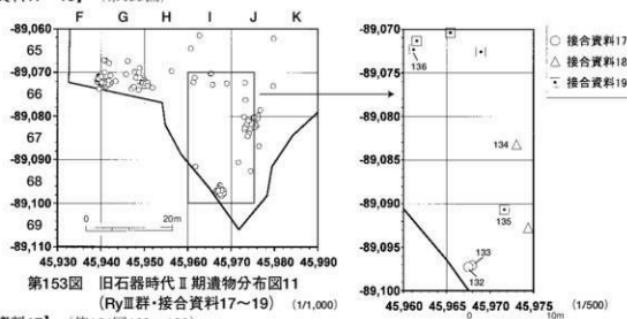


第152図 旧石器時代Ⅱ期石器実測図20 (RyⅢ群) (1/2)

遺物 No.	取上№	層序	石材種	器種	国土座標X 座標	国土座標Y 座標	標高 (m)	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	備考
127	1136	VI	Ry III群	ナイフ形石器	-89072.513	45940.312	108.979	2.70	1.30	0.85	2.4	右側縫加工。右側面に腹背面から調整を施す。
128	441	VI	Ry III群	角擦状石器	-89067.420	45940.807	109.105	2.85	1.60	0.95	3.7	左右両縫部に背面側からの調整を入れ、三面加工を施す。
129	1344	VI	Ry III群	角擦状石器	-89097.283	45967.220	107.031	4.90	1.45	0.80	4.1	右側縫部と左側縫上部に背面からの調整を入れ、三面加工を施す。
130	1219	VI	Ry III群	角擦状石器	-89096.016	45968.418	107.146	3.60	2.00	7.00	4.1	左右両縫部に背面側からの調整を入れ、三面加工を施す。
131	296	VI	Ry III群	敲石	-89097.326	45969.989	107.245	6.50	5.10	3.20	141.10	小円礫を使用、全体的につるつるしている。下部に使用痕を残す。一部欠損している。

第50表 旧石器時代Ⅱ期石器観察表5

【接合資料17～19】(第153図)



第153図 旧石器時代Ⅱ期遺物分布図11

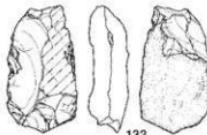
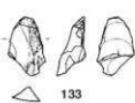
(Ry III群・接合資料17～19) (1/1,000)

【接合資料17】(第154図132・133)

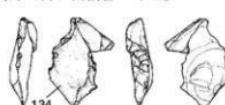
流紋岩製(Ry III群)の接合資料である。2点(石核1点、剥片1点)の接合である。全て、実測した。石核132の左側からの打撃によって133を剥出している。133は一部欠損がみられる。



接合資料17

第154図 旧石器時代Ⅱ期石器実測図21  
(Ry III群・接合資料17) (1/2)

133



接合資料18



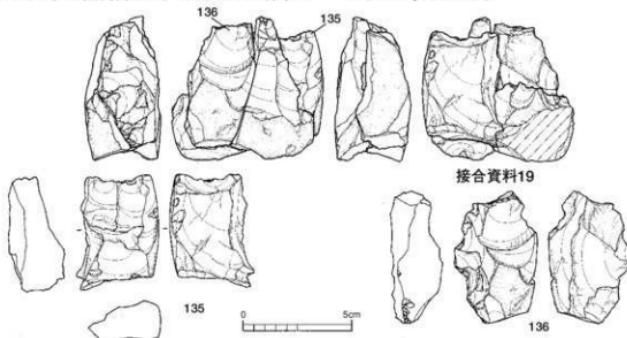
第155図 旧石器時代Ⅱ期石器実測図22

(Ry III群・接合資料18) (1/2)

【接合資料19】 (第156図135・136)

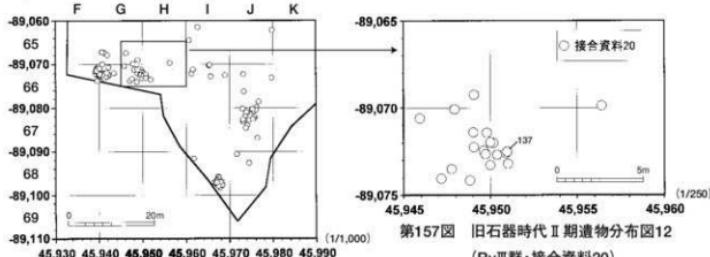
流紋岩製 (RyⅢ群) の接合資料である。剥片4点の接合である。2点実測した。135を上から打撃で

剥出し、136も同じように上からの打撃で剥出して  
いる。残りの2点はその打撃により偶発的に剥離し  
たものと考えられる。



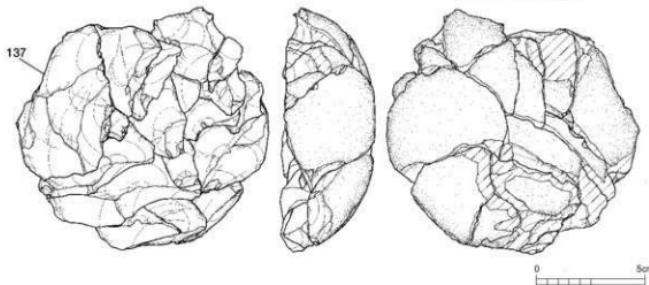
第156図 旧石器時代Ⅱ期石器実測図23 (RyⅢ群・接合資料19) (1/2)

【接合資料20】 (第157図・第158図)



第157図 旧石器時代Ⅱ期遺物分布図22

(RyⅢ群・接合資料20)

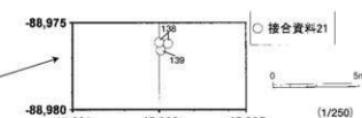
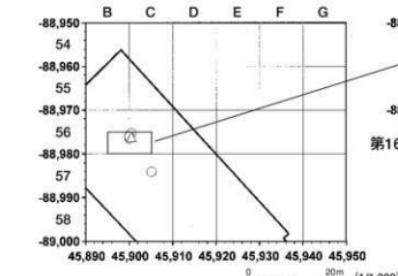


第158図 旧石器時代Ⅱ期石器実測図24 (RyⅢ群・接合資料20) (1/2)

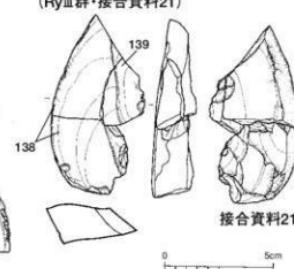
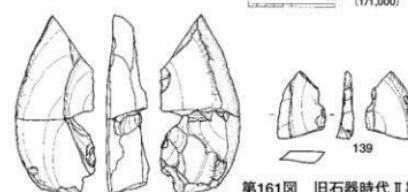
流紋岩製（RyⅢ群）の接合資料である。19点（石核1点、剥片18点）の接合である。石核のみ実測した。瀬戸内技法によると考えられる。打面調整剥片を剥離し翼状剥片（未出土）を剥出するという作業を繰り返したあとに翼状剥片石核137が残ったと思われる。

【接合資料21】（第160図138・139）

流紋岩製（RyⅢ群）の接合資料である。2点（石核1点、剥片1点）の接合である。全て実測した。瀬戸内技法によると考えられる。石核105の右側方からの打撃により106を剥出している。106は翼状剥片で一部欠損している。105は翼状剥片石核である。

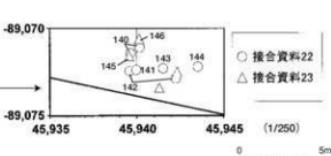
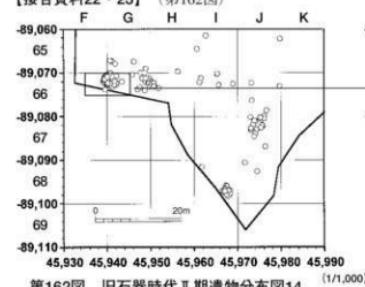


第160図 旧石器時代Ⅱ期遺物分布図13  
(RyⅢ群・接合資料21)



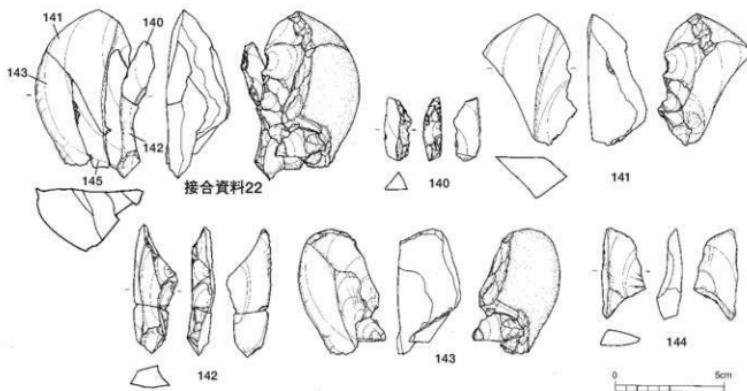
第161図 旧石器時代Ⅱ期石器実測図26 (RyⅢ群・接合資料21) (1/2)

【接合資料22・23】（第162図）



【接合資料22】（第163図140～144）

流紋岩製（RyⅢ群）の接合資料である。6点（石核1点、ナイフ形石器2点、剥片3点）の接合資料である。4点実測した。瀬戸内技法によると考えられる。打面調整を施した後、ナイフ形石器140を剥出し、その後同じく142を剥出している。141+143+145は翼状剥片石核であるが、その後上からの打撃で3つに剥離している。

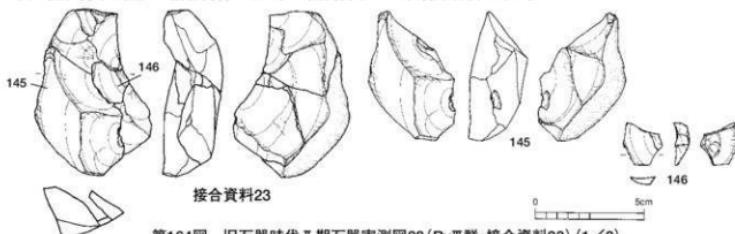


第163図 旧石器時代Ⅱ期石器実測図27 (RyⅢ群・接合資料22) (1/2)

【接合資料23】 (第164図145・146)

流紋岩製 (Ry III群) の接合資料である。4点 (石核1点、剥片3点) の接合資料である。2点実測し

た。瀬戸内技法によると考えられる。打面調整剥片を剥離した後翼状剥片146を剥出している。145は翼状剥片石核である。

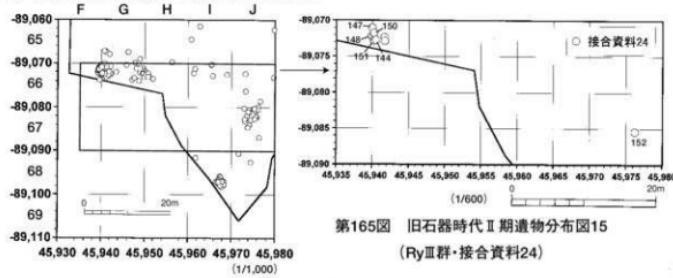


第164図 旧石器時代Ⅱ期石器実測図28 (RyⅢ群・接合資料23) (1/2)

【接合資料24】 (第165図、第166図147~152)

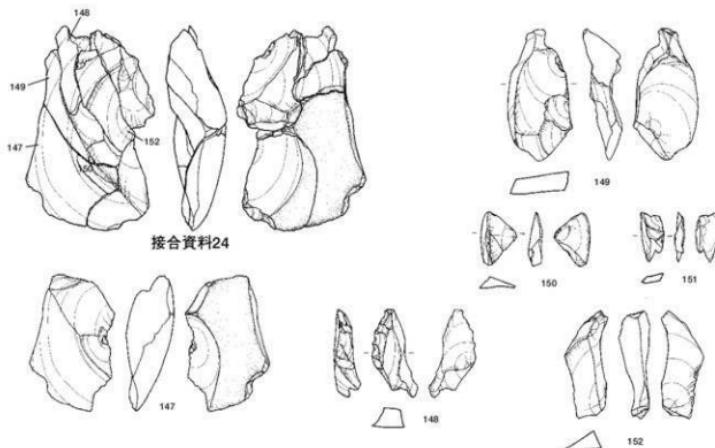
流紋岩製 (Ry III群) の接合資料である。9点 (石核1点、ナイフ形石器1点、剥片7点) の接合資料である。6点を実測した。瀬戸内技法によると考えられる。最初に打面調整剥片を剥離した後、152を

上からの打撃により剥出している。その後151→148の順で剥出している。さらに翼状剥片を作り出すために149→150を剥出している。石核147は翼状剥片石核である。



第165図 旧石器時代Ⅱ期遺物分布図15

(RyⅢ群・接合資料24)



第166図 旧石器時代Ⅱ期石器実測図29 (RyⅢ群・接合資料24) (1/2) 0 5cm

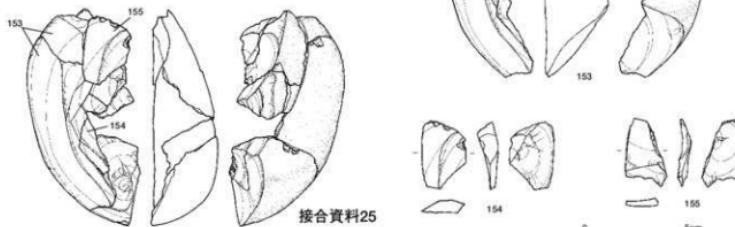
**【接合資料25】** (第167図・第168図153～155)

流紋岩製 (RyⅢ群) の接合資料である。8点 (石核1点、剥片7点) の接合資料である。3点実測した。瀬戸内技法によると考えられる。打面調節剥片



第167図 旧石器時代Ⅱ期遺物分布図16

(RyⅢ群・接合資料25)



第168図 旧石器時代Ⅱ期石器実測図30 (RyⅢ群・接合資料25) (1/2) 0 5cm



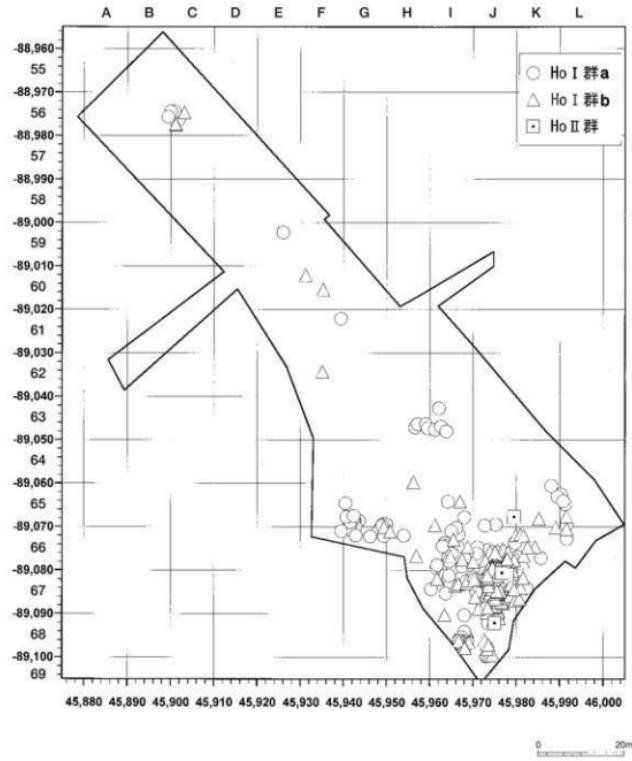
### 【ホルンフェルス】

後期旧石器時代の第Ⅱ期では、ホルンフェルスの石器は408点出土している。

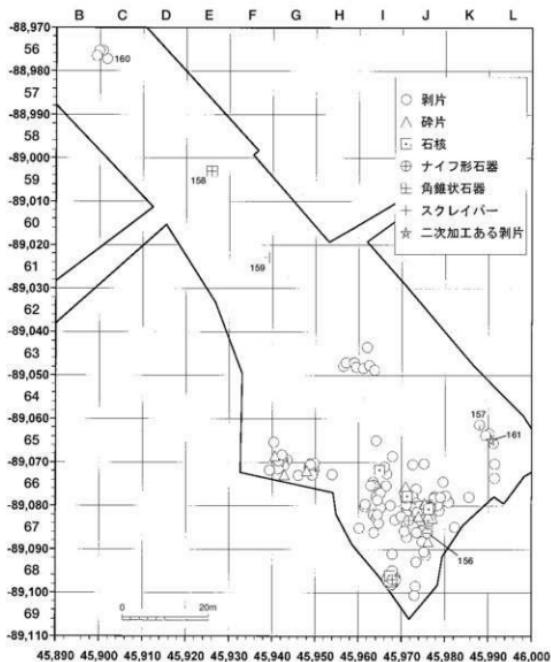
出土状況としては、調査区中央より南側でホルンフェルス全体の約98%が出土している。やはり舌状地において数多くの石器が出土している。

石材種別でみるとHo I群aが約45%、Ho I群bが約54%でこの2群で約99%を占めた。Ho II群にあたる石材はわずか1%しかなかった。

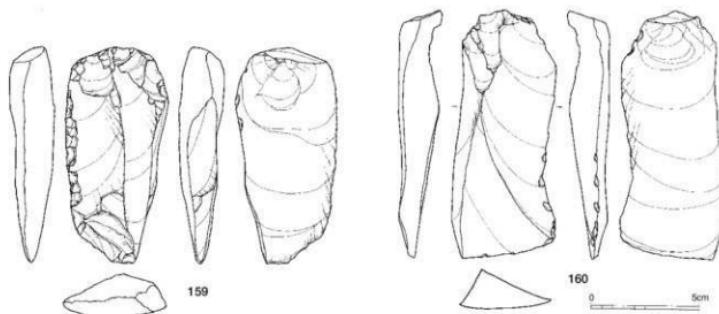
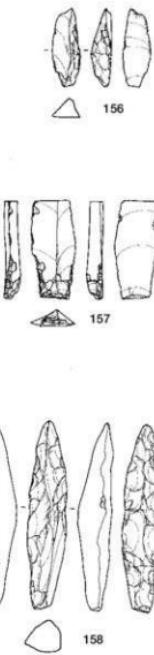
Ho I群aは、製品類が約6%で残りは剥片と碎片である。製品のうちナイフ形石器3点、角錐状石器、スクレイパー、二次加工ある剥片を各1点、剥片を2点実測した。Ho I群bも製品類が約6%で残りは剥片と碎片である。製品のうちスクレイパー1点を実測した。なお、Ho II群は総数が4点と少なかつたため、敲石1点のみを実測した。接合資料は、Ho I群a3例、Ho I群a7例の実測を行った。以下石材種ごとに報告していく。



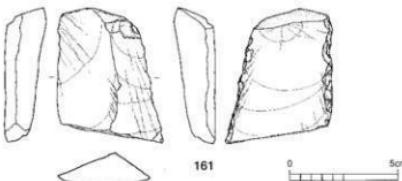
第169図 旧石器時代Ⅱ期遺物分布図17(ホルンフェルス)(1/1,000)



第170図 旧石器時代Ⅱ期遺物分布図18(Hol群a) (1/1,000)



第171図 旧石器時代Ⅱ期石器実測図31(Hol群a) (1/2)



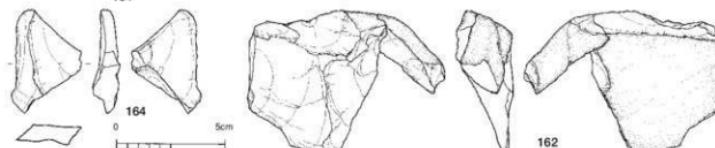
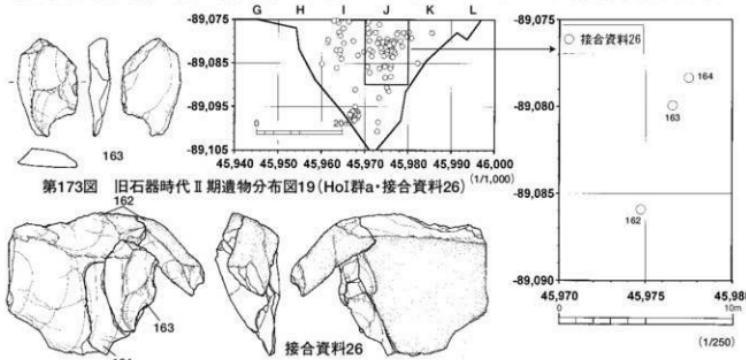
第172図 旧石器時代Ⅱ期石器実測図32(Hol群a)(1/2)

遺物 No.	取上 No.	層序	石材種	器種	国土地標 X座標	国土地標 Y座標	標高 (m)	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	備考
156	795	VI	Hol I 群a	ナイフ状石器	-89068.274	45976.023	107.782	3.60	1.30	0.95	3.5	縱長剥片を素材とする二側縁加工。右側縁に腹面から加工を施し、左側縁下部に基部加工を施す。
157	1398	VI	Hol I 群a	ナイフ状石器	-89061.54	45987.96	107.421	4.55	2.05	0.80	7.0	縱長剥片を素材と、基部に腹面からの加工を施す。左右両縁部に背・腹両面からの対向調整を入れ、三面加工を施す。黒化が激しい。
158	1400	VI	Hol I 群a	角状石器	-89003.175	45925.916	111.011	8.70	1.80	1.55	23.3	
159	1359	VI	Hol I 群a	スクレーパー	-89022.969	45939.327	110.495	9.90	4.70	2.10	100.2	左側縁部を中心に腹面から細かな加工を入れ刃部を作り出している。
160	1373	VI	Hol I 群a	剥片	-89977.341	45901.693	111.832	11.40	4.80	2.00	94.1	縱長剥片である。右側縁部に微細な剝離痕を認める。
161	941	VI	Hol I 群a	石核	-89055.026	45990.711	107.395	6.25	4.95	1.90	48.4	左右両縁部に背面から細かな加工を施す。

第52表 旧石器時代Ⅱ期石器観察表7

【接合資料26】(第173図・第174図162~164)

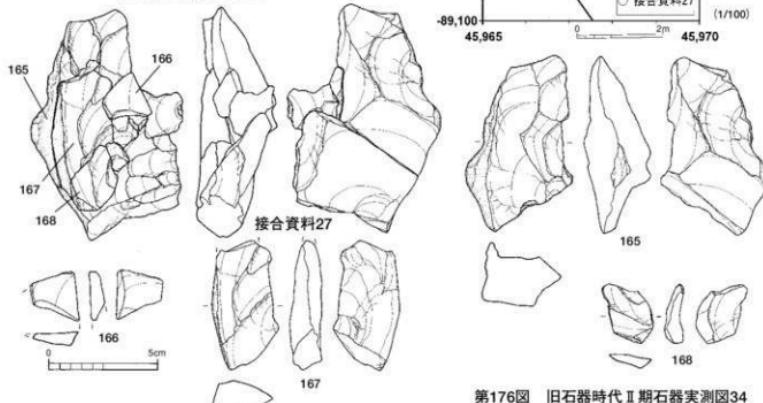
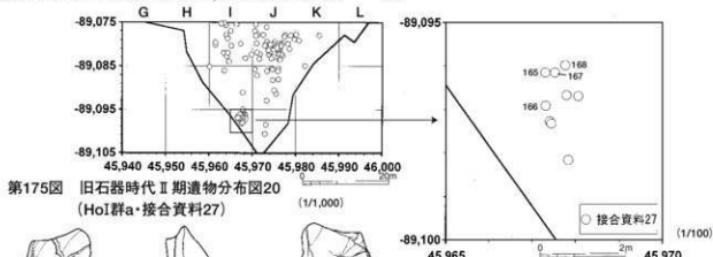
ホルンフェルス製(Hol I 群a)の接合資料である。点を実測した。瀬戸内技法によると考えられる。打面調整剥片を剥離した後、翼状剥片163~164の順番4点(石核1点、剥片3点)の接合資料である。3面調整剥片を剥離した後、翼状剥片163~164の順番で剥出している。162は、翼状剥片石核である。



第174図 旧石器時代Ⅰ期石器実測図33(Hol群a・接合資料26)(1/2)

【接合資料27】 (第175図・第176図165～168)

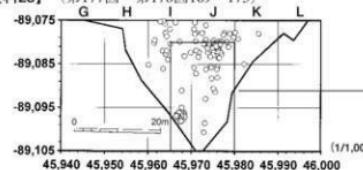
ホルンフェルス製 (Ho I 群) の接合資料である。9点 (石核1点、剥片8点) の接合である。4点を実測した。瀬戸内技法によると考えられる。打面調



【接合資料28】 (第177図・第178図169～173)

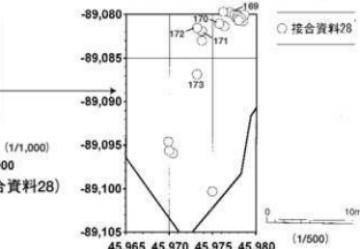
ホルンフェルス製 (Ho I 群) の接合資料である。

26点 (石核1点、剥片25点) の接合である。石核1点、剥片4点を実測した。方向を変えながら打面調整剥片171～170を剥離している。170の剥離痕を打面として剥片172を剥出し、90度向きを変え173を剥

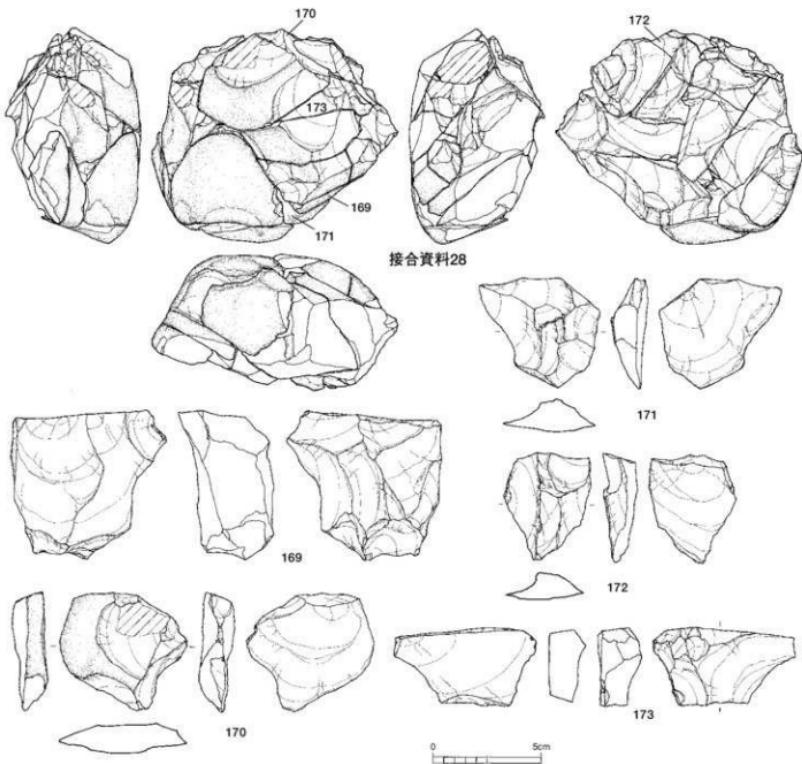


剥片を剥離した後に翼状剥片166 (一部欠損) を剥出している。その後、剥片168を剥出し、最後に剥片167を剥出している。165は、翼状剥片石核である。

第176図 旧石器時代Ⅱ期石器実測図34  
(HoI群a・接合資料27) (1/2)



出している。石核169は、剥離作業の結果の残核である。



第178図 旧石器時代Ⅱ期石器実測図35 (Ho I群a・接合資料28) (1/2)

【接合資料28: ホルンフェルス Ho I 群a】

遺物 番 号	取上 場 所	石材種	器種	国土座標 X座標	国土座標 Y座標	標高 (m)	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	備考
162 849	V1	Ho I 群a	石核	-89085.924	45974.716	107.836					腹面に多方向からの剥片剥離痕を残す。背面に自然面を残す。
1048				-89081.610	45975.689	108.056	6.55	9.15	2.65	103.4	
163 1020	V1	Ho I 群a	剥片	-89079.938	45976.553	108.050	4.55	2.80	1.05	11.6	腹面に剥片剥離痕を残す。
164 1012	V1	Ho I 群a	剥片	-89078.343	45977.476	107.999	4.75	3.25	1.30	10.8	腹面に剥片剥離痕を残す。

第53表 旧石器時代Ⅱ期石器観察表 8

【摺合資料27:ホルンフェルス Ho I群a】

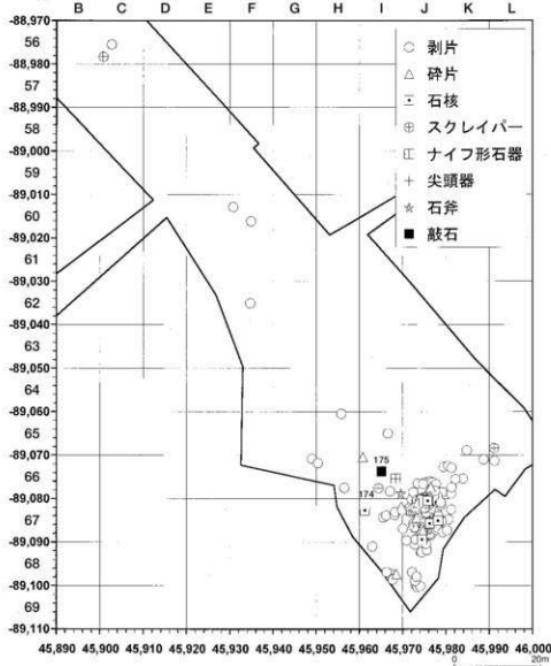
遺物 No.	取上 No.	層 序	石材種	器種	国土座標 X座標	国土座標 Y座標	標高 (m)	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	備考
165	1323	VI	Ho I群a	石核	-8906.165	45967.290	107.223	8.15	4.95	3.10	83.2	剥片剥離痕を多く残す。腹面左側面に自然面を残す。
166	1347	VI	Ho I群a	剥片	-89097.332	45967.428	107.087	2.25	2.20	0.65	2.9	腹背面両側に剥離面を残す。
167	1267	VI	Ho I群a	剥片	-89096.164	45967.514	107.215	5.95	3.10	1.50	27.1	剥片剥離面及び自然面をわずかに残す。
168	1271	VI	Ho I群a	剥片	-89096.682	45967.779	107.207	2.75	2.40	0.85	3.5	剥片剥離痕をわずかに残す。

【摺合資料28:ホルンフェルス Ho I群a】

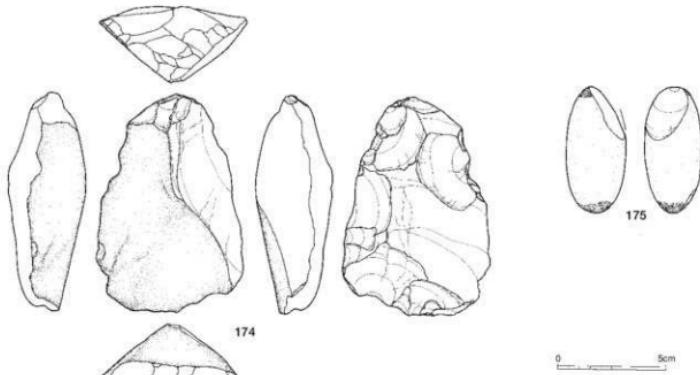
遺物 No.	取上 No.	層 序	石材種	器種	国土座標 X座標	国土座標 Y座標	標高 (m)	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	備考
169	1041	VI	Ho I群a	石核	-89080.920	45976.270	108.070	6.90	7.20	4.55	177.2	多方向からの打撃による剥片剥離痕を残す。
170	1053	VI	Ho I群a	剥片	-89081.141	45975.977	108.123	5.30	6.00	1.50	37.2	腹面に自然面と節理面を残す。
171	403	VI	Ho I群a	剥片	-89082.373	45971.765	108.045	5.05	5.65	1.70	34.0	剥片剥離痕を残し、自然面をわずかに残す。
172	404	VI	Ho I群a	剥片	-89082.005	45971.212	108.063	5.00	4.05	1.15	26.7	剥片剥離痕を残す。
173	745	VI	Ho I群a	剥片	-89087.305	45971.185	107.800	3.60	6.60	2.10	41.3	背面に細かな剥片剥離痕を残す。

第54表 旧石器時代Ⅱ期石器観察表9

&lt;Ho I群b&gt;



第179図 旧石器時代Ⅱ期遺物分布図22(Ho I群b) (1/1,000)

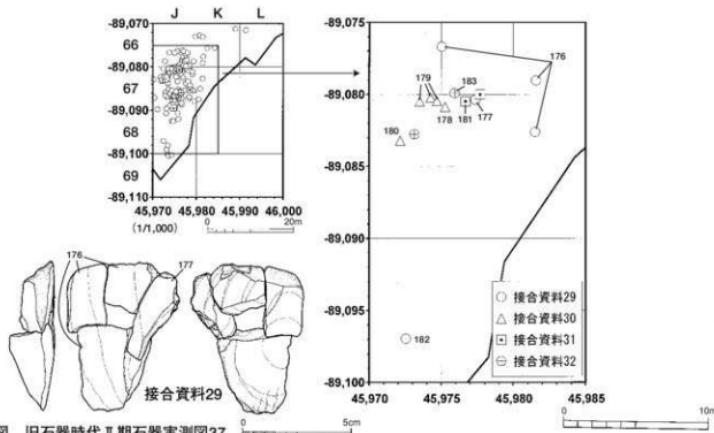


第180図 旧石器時代Ⅱ期石器実測図36(HoI群b) (1/2)

遺物 No.	取上 No.	層序	石材種	器種	国土座標 X座標	国土座標 Y座標	標高 (m)	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	備考
174	1309	VI	Ho I 群b	スクレ バイバー	-89077.709	45964.686	108.303	10.15	6.85	3.60	225	背面に剥離痕を残し、更に右侧縁部に腹面から剥離を施し、刃部を作り出している。腹面に自然面を残す。
175	238	VI	Ho I 群b	敲石	-89070.050	45941.5	108.998	5.80	2.80	2.70	59.4	小円錐を使用。上下部に使用痕を残す。

第55表 旧石器時代Ⅱ期石器観察表10

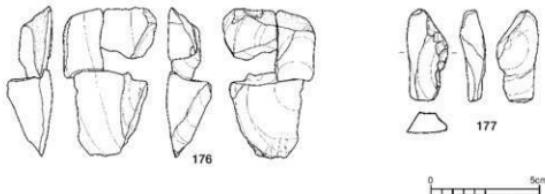
【接合資料29～32】 (第181図)



第182図 旧石器時代Ⅱ期石器実測図37 (HoI群b・接合資料29) (1/2)

【接合資料29】 (第183図176・177)

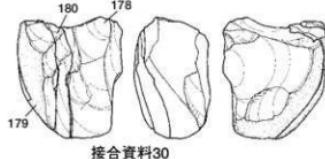
ホルンフェルス製 (Ho I 群b) の接合資料である。瀬戸内技法であると考えられる。159の翼状剥片を2点 (石核1点、剥片1点) の接合で全て実測した。剥出したとの翼状剥片石核が158である。



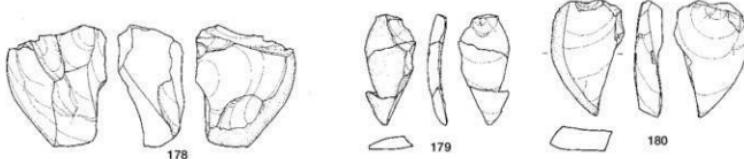
第183図 旧石器時代Ⅱ期石器実測図38(HoI群b・接合資料29)(1/2)

**【接合資料30】**(第184図178~180)

ホルンフェルス製(Ho I群b)の接合資料である。3点(石核1点、剥片2点)の接合である。全て実測した。上からの打撃によって179を剥出し、更に同じように180を剥出している。178は、剥離作業の結果の残核である。



接合資料30

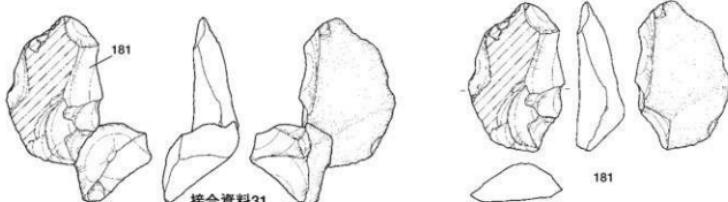


第184図 旧石器時代Ⅱ期石器実測図39(HoI群b・接合資料30)(1/2)

**【接合資料31】**(第185図181)

ホルンフェルス製(Ho I群b)の接合資料である。2点(石核1点、剥片1点)の接合である。石核1点のみ実測した。瀬戸内技法であると考えられる。

打面調整剥片(未実測)を剥離し、山形打面調整を行い、翼状剥片を数枚剥出したと考えられる。181は翼状剥片石核である。

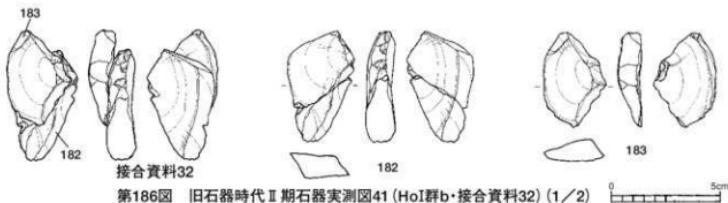


第185図 旧石器時代Ⅱ期石器実測図40(HoI群b・接合資料31)(1/2)

**【接合資料32】**(第186図182・183)

ホルンフェルス製(Ho I群b)の接合資料である。剥片2点の接合である。全て実測した。瀬戸内技法

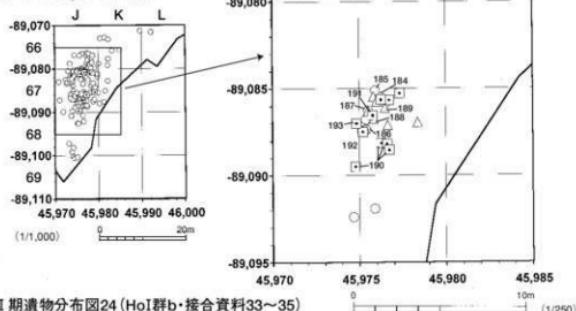
であると考えられる。翼状剥片どもしの接合である。翼状剥片石核(未出土)から183→182の順に剥出している。



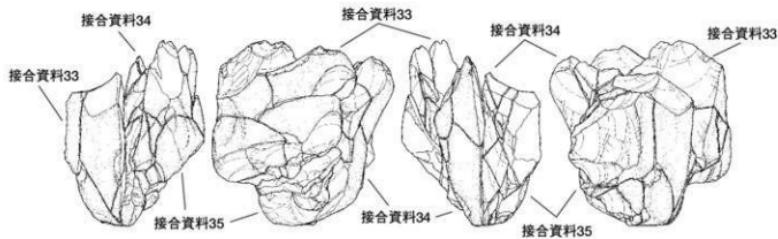
第186図 旧石器時代Ⅱ期石器実測図41 (HoI群b・接合資料32) (1/2)

【接合資料33～35】 (第187図・第188図)

ホルンフェルス製 (Ho I 群b) の接合資料である。この接合資料は23点の接合である。大きく3つに分けられると考えられるので接合資料33・34・35に分けて説明する。瀬戸内技法によると考えられる。



第187図 旧石器時代Ⅱ期遺物分布図24 (HoI群b・接合資料33～35)

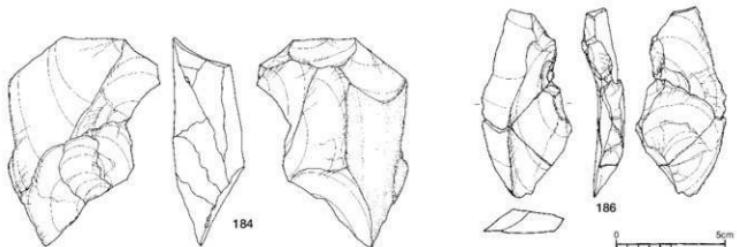
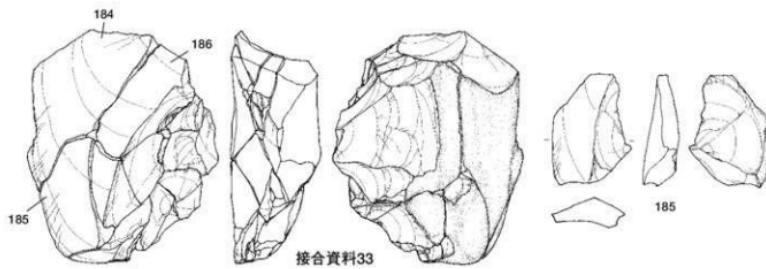


第188図 旧石器時代Ⅱ期石器実測図42 (HoI群b・接合資料33～35) (1/3)

【接合資料33】 (第189図184～186)

9点 (核1点、剥片8点) の接合である。3点 (核1点、剥片2点) を実測した。打面調整剥片を剥離し、山形打面調整を行った後、数枚の翼状剥片

片を剥出し、一番最後の翼状剥片が186である。そして剥片185を剥出している。184は翼状剥片核である。

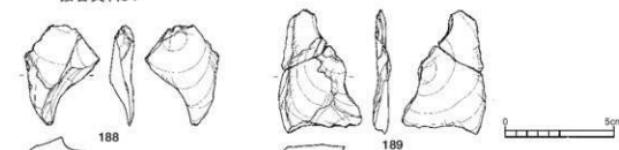
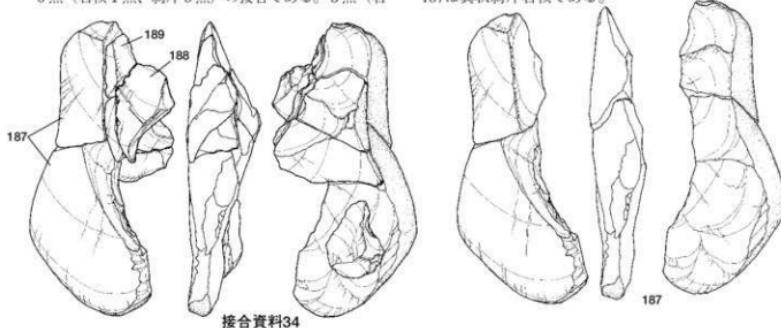


第189図 旧石器時代Ⅱ期石器実測図43(Ho I群b・接合資料33)(1/2)

【接合資料34】(第190図187~189)

ホルンフェルス製(Ho I群b)の接合資料である。6点(石核1点、剥片5点)の接合である。3点(石

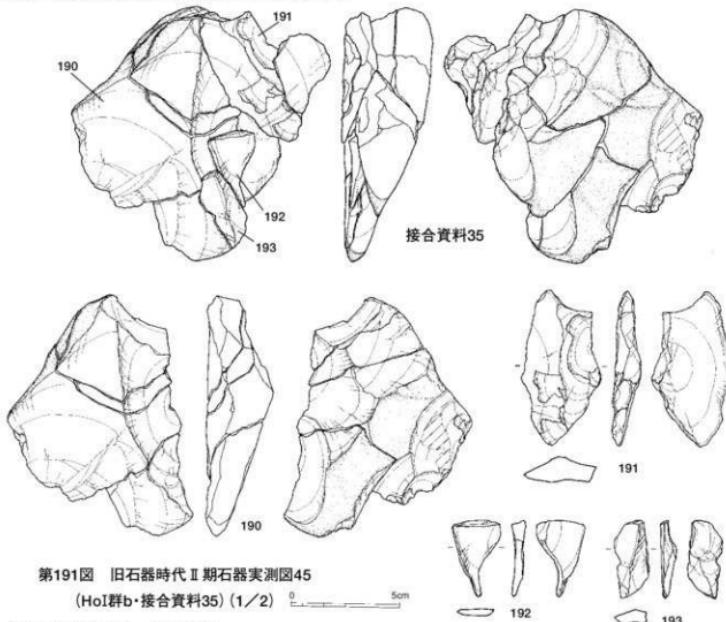
核1点、剥片2点)を実測した。打面調整剥片を剥離した後、翼状剥片188→189の順で剥出している。187は翼状剥片石核である。



第190図 旧石器時代Ⅱ期石器実測図44(Ho I群b・接合資料34)(1/2)

【接合資料35】 (第191図190～193)

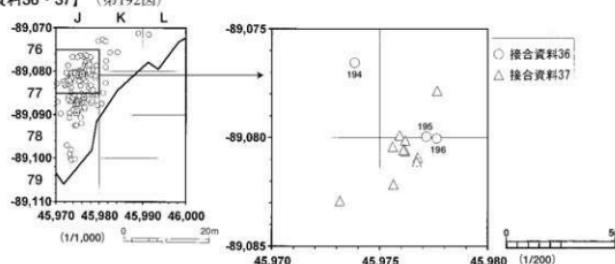
ホルンフェルス製 (Ho I 群b) の接合資料である。8点 (石核1点、剥片7点) の接合である。打面調整剥片を剥離後翼状剥片191を剥出している。更に



第191図 旧石器時代Ⅱ期石器実測図45

(Ho I群b・接合資料35) (1/2) 0 5cm

【接合資料36・37】 (第192図)

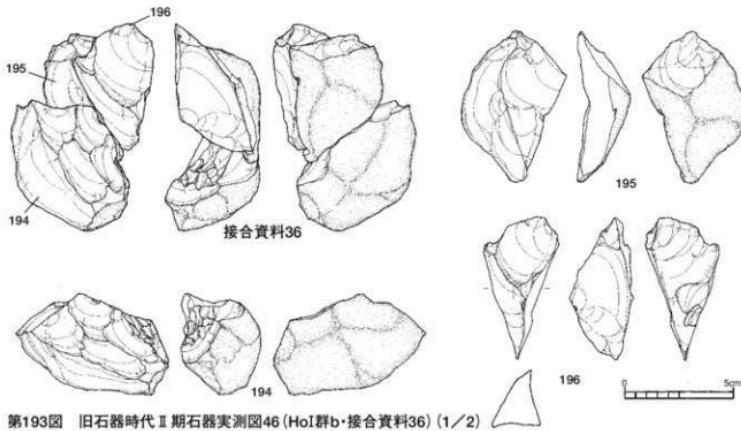


第192図 旧石器時代Ⅱ期遺物分布図25 (Ho I群b・接合資料36・37)

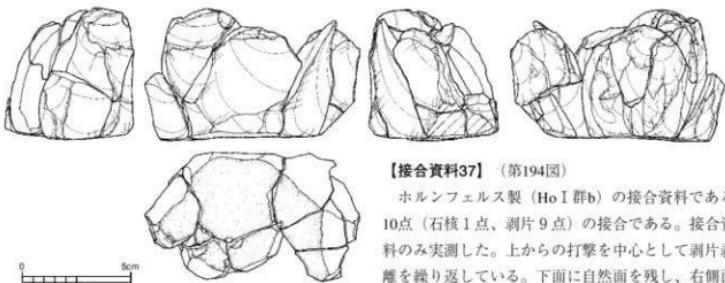
【接合資料36】 (第193図194～196)

ホルンフェルス製 (Ho I 群b) の接合資料である。3点 (石核1点、剥片2点) の接合である。全て実測した。瀬戸内技法によると考えられる。最初に打

打面調整を繰り返し翼状剥片192 (一部欠損) を剥出している。最後に剥片193を剥出している。190は、翼状剥片石核である。



第193図 旧石器時代Ⅱ期石器実測図46(Ho I群b・接合資料36)(1/2)



第194図 旧石器時代Ⅱ期石器実測図47

(Ho I群b・接合資料37)(1/2)

【接合資料37】(第194図)

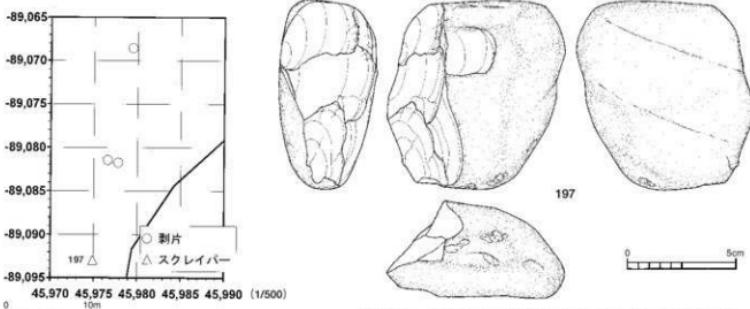
ホルンフェルス製(Ho I群b)の接合資料である。10点(石核1点、剥片9点)の接合である。接合資料のみ実測した。上からの打撃を中心として剥片剥離を繰り返している。下面に自然面を残し、右側面下方に節理面を残す。

【接合資料29:ホルンフェルス Ho I 群b】

遺物 No.	取上 No.	層 序	石材種	器種	国土座標 X座標	国土座標 Y座標	標高 (m)	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	備考
176	575	VI	Ho I群b	石核	-89082.632	45981.486	107.652	6.90	4.30	2.10	37.8	腹背面に剥片剥離痕を残す。背面上面に自然面を残す。
	1093				-89076.699	45975.016	108.277					
	924				-89076.025	45981.533	107.877					
177	1329	VI	Ho I群b	剥片	-89080.372	45977.349	107.976	4.25	1.90	1.20	9.2	腹面左側縁に調整を施す。

第56表 旧石器時代Ⅱ期石器観察表11





第195図 旧石器時代Ⅱ期遺物分布図26(Ho II群)

第196図 旧石器時代Ⅱ期石器実測図48(Ho II群)(1/2)

遺物 No.	取上 No.	層序	石材種	器種	国土座標 X座標	国土座標 Y座標	標高 (m)	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	備考
197	462	VI	Ho II 群	スクレイバー	-89062.983	45974.875	107.329	8.75	8.20	4.45	430.0	大形の剥片を利用。左側面に剥離痕を残す。自然面を多く残す。

第58表 旧石器時代Ⅱ期石器観察表3

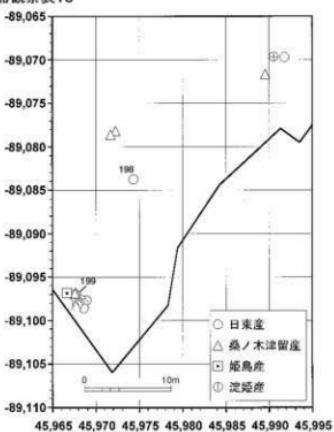
【黒曜石】(第197図198・199・第198図)

後期旧石器時代Ⅱ期では、黒曜石の石器は、19点出土している。出土状況としては、南側の舌状地で全て出土している。石材種別でみると、日東産が11点で一番多く、次いで桑ノ木津産が6点、姫島産、淀姫産が各1点ずつ出土している。器種別でみると、角錐状石器（日東系）が2点で残りは剥片と碎片であった。角錐状石器2点を実測した。



第197図 旧石器時代Ⅱ期石器実測図49

(黒曜石) (1/2)



第198図 旧石器時代Ⅱ期遺物分布図27

(黒曜石) (1/500)

遺物 No.	取上 No.	層序	石材種	器種	国土座標 X座標	国土座標 Y座標	標高 (m)	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	備考
198	981	VI	日東系	角錐状石器	-89053.894	45974.344	107.968	3.70	2.20	1.50	9.0	左右両縁部は、背・腹面両面からの対向調整を入れ三面加工を施す。基部は欠損。
199	1228	VI	日東系	角錐状石器	-89097.731	45967.782	107.170	2.45	1.20	1.05	2.4	左右両縁部は、腹面から調整を入れ二面加工を施す。

第59表 旧石器時代Ⅱ期石器観察表14

【砂岩・石英】 (第199図・第200図200~206)

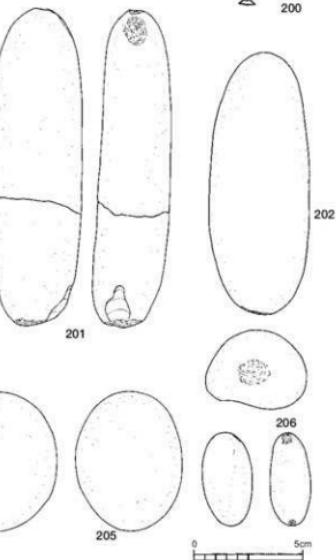
後期旧石器時代Ⅱ期では、砂岩は、8点出土している。出土状況としては、中央より南側の舌状地で全て出土している。器種別でみると、細石刃1点、敲石5点、磨石2点であった。磨石1点を除く7点

を実測した。また、石英も1点出土している。剥片であったので実測していない。砂岩も石英も数は少なく、剥片等もなかったことから調査区以外からの持ち込みの可能性が高い。

0 2.5cm



200



202

201

204

205

206

207

0 5cm

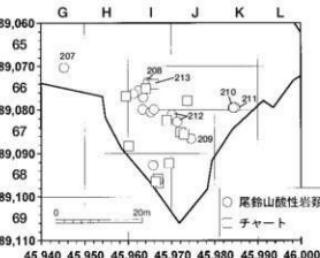
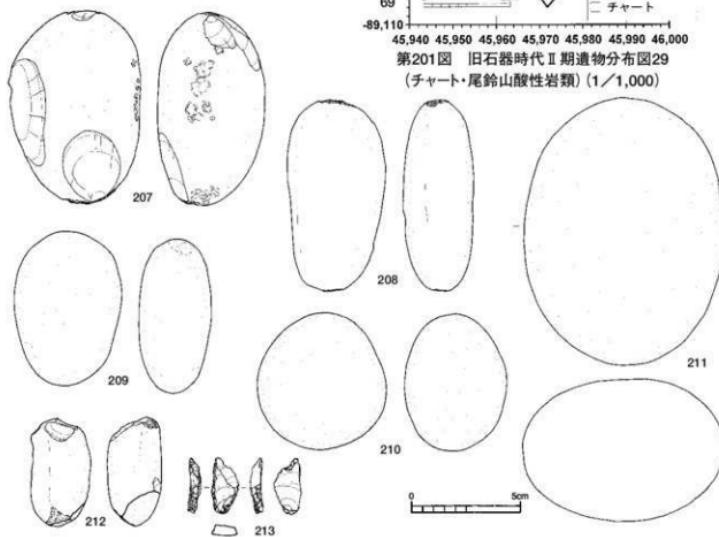
第200図 旧石器時代Ⅱ期石器実測図50(砂岩・石英)(1/2) 細石刃(1/2)

遺物 No.	取上 No.	層 序	石材種	器種	國土座標 X座標	國土座標 Y座標	標高 (m)	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量(g)	備考
200	174	VI	砂岩	細石刃	-89096.637	45969.568	107.427	1.10	0.40	0.10	0.1以下	両端部が欠損している。
201	713	VI	砂岩	敲石	-89082.463	45963.070	108.267	14.70	4.30	3.50	319.4	棒状の敲石である。両端部にわずかに敲打痕を残す。何らかの力が加わって折れたもの同士の折れ面接合である。
202	1317	VI	砂岩	敲石	-89079.096	45975.056	108.130	12.10	4.20	3.60	272.3	棒状の敲石である。下部に敲打痕を残す。
203	774	VI	砂岩	敲石	-89086.188	45973.384	107.800	7.40	5.10	3.20	151.7	太めの楕円形の敲石である。両端部にわずかに敲打痕を残す。
204	1434	VI	砂岩	敲石	-89085.772	45975.964	107.795	5.30	2.80	1.80	37.9	扁平な形状である。使用痕は不明確である。
205	1763	VI	砂岩	敲石	-89051.505	45945.769	109.354	6.40	5.30	5.00	231.7	丸い形狀である。使用痕は不明確である。
206	1435	VI	砂岩	磨石	-89085.765	45976.029	107.781	4.30	2.40	1.40	26.0	小形の棒状の磨石である。両端部に使用痕が認められる。

第60表 旧石器時代Ⅱ期石器観察表15

【チャート・尾鈴山酸性岩類】(第201図・第202図207~213)

後期旧石器時代Ⅱ期では、チャートは、12点出土している。出土状況としては、南側の舌状地で全て出土している。器種別でみると、ナイフ形石器1点、残りは剥片と碎片である。実測はナイフ形石器のみ行った。また、尾鈴山酸性岩類は、15点出土している。敲石5点、磨石2点、剥片で8点であった。敲石5点、磨石1点実測した。

第201図 旧石器時代Ⅱ期遺物分布図29  
(チャート・尾鈴山酸性岩類) (1/1,000)

第202図 旧石器時代Ⅱ期石器実測図51 (チャート・尾鈴山酸性岩類) (1/2)

遺物 No.	取上 No.	層 序	石材種	器種	國土座標 X座標	國土座標 Y座標	標高 (m)	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	備考
207	268	VI	尾鈴山酸性岩類	敲石	-89070.439	45946.144	108.92	8.90	6.10	5.00	367.8	卵形に近い形状である。両端部が一部欠損している。
208	353	VI	尾鈴山酸性岩類	敲石	-89073.824	45965.357	108.508	8.80	4.60	3.30	185.9	棒状の敲石である。上部にわずかに敲打痕を残す。
209	547	VI	尾鈴山酸性岩類	敲石	-89086.668	45975.36	107.752	7.10	5.00	3.40	165.6	棒状の敲石である。上部にわずかに敲打痕を残す。
210	1436	VI	尾鈴山酸性岩類	磨石	-89079.560	45985.118	107.511	6.30	6.00	4.30	229.7	円錐を使用している。使用痕は不明確である。
211	1437	VI	尾鈴山酸性岩類	敲石	-89079.583	45985.226	107.487	12.30	9.20	6.60	1079.7	卵形に近い形状である。使用痕は不明確である。
212	742	VI	尾鈴山酸性岩類	敲石	-89081.185	45971.028	108.083	—	—	—	—	卵形に近い形状である。両端部に使用痕を残す。上部が一部欠損している。
213	42	VI	チャート	ナイフ形石器	-89074.196	45966.842	108.462	2.55	1.25	0.60	2.1	横長剥片を素材とする二側縁加工。左側縁に腹面からの調整を施す。右側縁下部に腹面からの調整を施す。

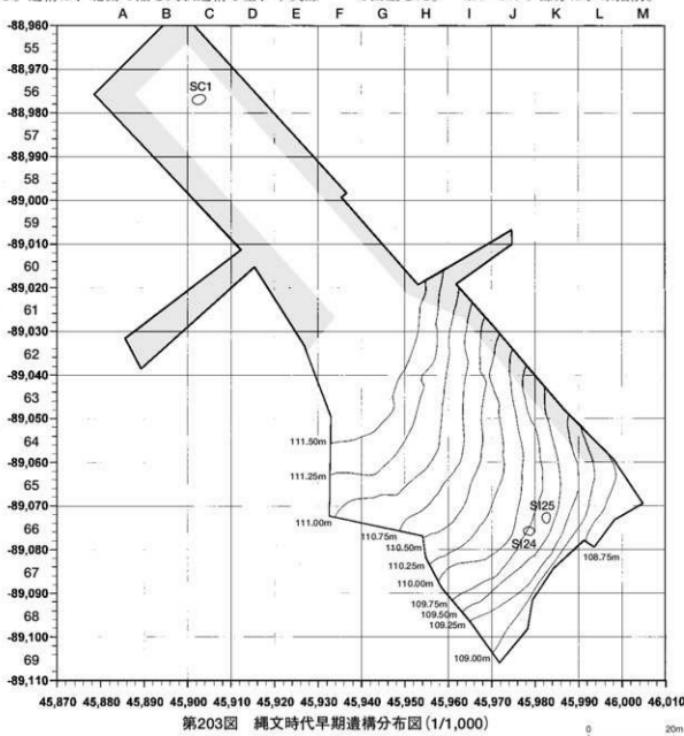
第61表 旧石器時代Ⅱ期石器観察表16

## 2 縄文時代早期の遺構と遺物

### (1) 概要

縄文時代早期を対象とする調査面積は約3,500m<sup>2</sup>である。遺構は、北側で陥し穴状遺構1基、中央部

で集石造構2基が検出された。遺物は、IV層（MB0相当層）・V層（ML1相当層）において192点の石器が出土した。また、土器片も數点舌状地において出土した。※アミカケ部分は、未掘削。



第203図 縄文時代早期遺構分布図(1/1,000)

### (2) 遺構

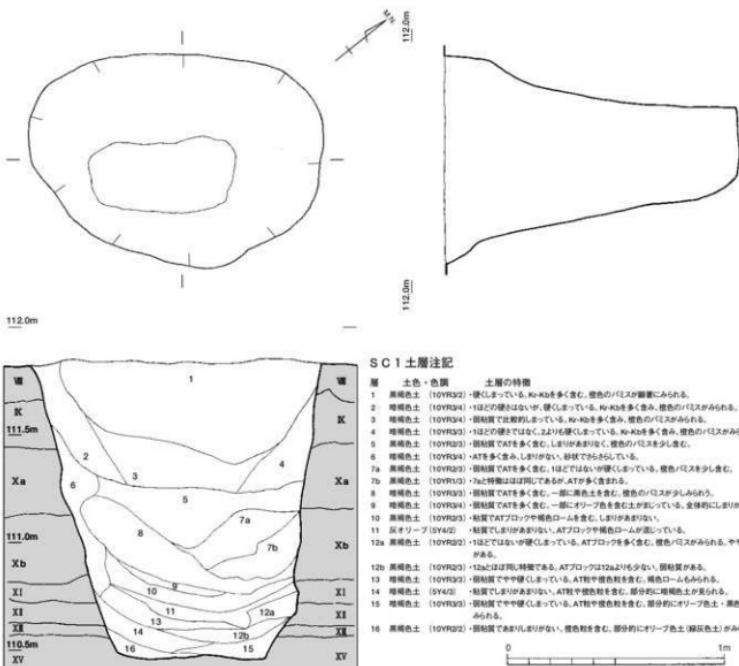
#### ①陥し穴状遺構（SC1・第204図）

調査区北側のC56グリッドのやや東に位置し、長径1.35m、短径1.00m、残深1.35mで梢円形を呈する。Kr-Kb面を精査する段階で検出した。Xa層（MB3）を掘り抜いて礫層部分を底面としている。

埋土は16層に分層される。埋土の上部2/5程度は、Kr-Kbを主体とする褐色土である。弱粘質で比較的

固くしまっている。穴の底部1/5を除く中部は、ATブロックを主体とする黒褐色～暗褐色の埋土でありしまりがない。底部の1/5は、やや粘質のある暗褐色～黒褐色土の埋土で一部にオコシロームを含み、ややしまりがある。

断面は、床面から検出面に向かって緩やかに開く。炭化物、遺物は確認されなかった。



第204図 繩文時代早期陥し穴状遺構実測図(1/20)

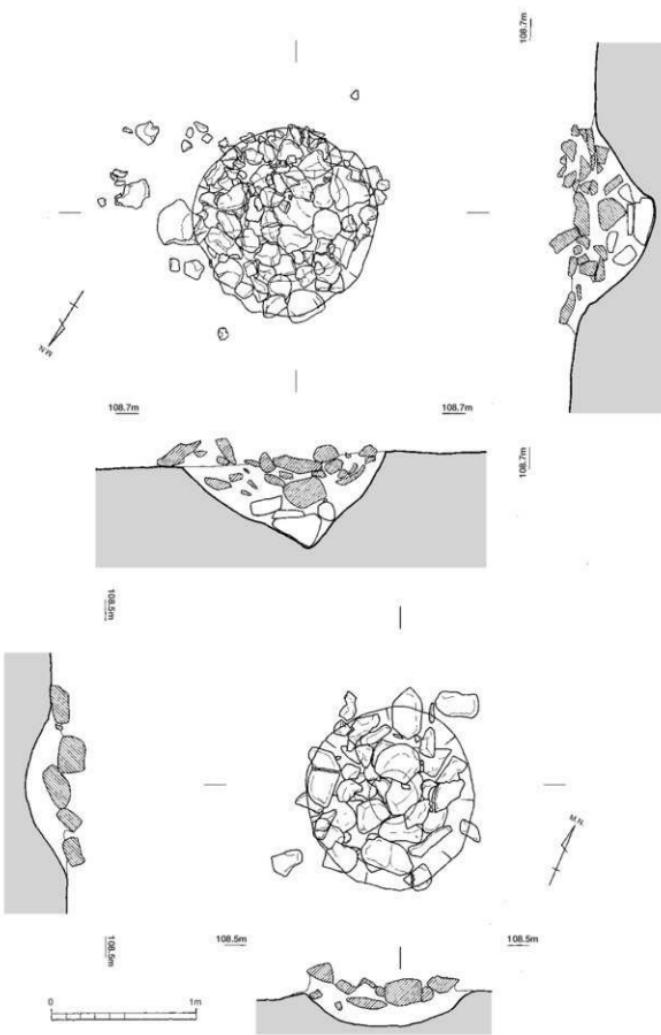
②集石遺構（第205図）

縄文時代早期では、集石遺構2基を検出した。集石遺構の構成は2基とも密であり全て掘り込みがみられたが、配石、遺構内遺物等は出土しなかった。

また、炭化物はわずかに認められたが、分析に出せるようなものはなかった。石材は全て、尾鈴山酸性岩類である。詳細は、第62表を参照されたい。

No.	グリッド	縦範囲(m)	検出面	縦総数	総重量(kg)	礫の状態他
SI24	J66	1.1×1	M層	516	115.538	10cm以上の礫102点。そのうち20cm以上の礫7点。完形または完形に近い礫6点。それ以外はすべて破碎礫。約56%が赤化。そのうち約25%は強い赤化。95点の礫に黒色付着物(スヌカ?)あり。遺構内で72例の接合。
SI25	K66	1×1	M層	112	59.990	10cm以上の礫が68点。完形または完形に近い礫8点。それ以外はすべて破碎礫。約95%が赤化。そのうち約15%が強い赤化。24点の礫に黒色付着物(スヌカ?)あり。遺構内で23例の接合。

第62表 縄文時代早期集石遺構一覧表



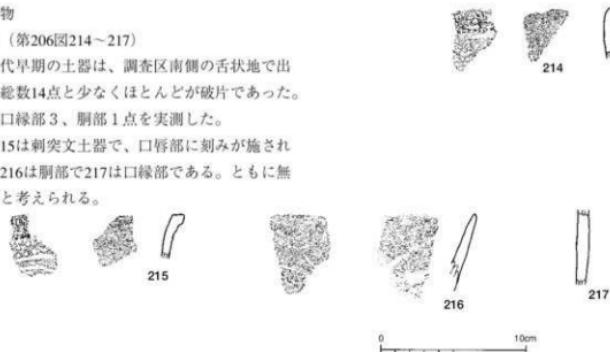
第205図 繩文時代早期集石遺構実測図(1/30)

(3) 遺物

①土器 (第206図214~217)

縄文時代早期の土器は、調査区南側の舌状地で出土した。总数14点と少なくほとんどが破片であった。その中で口縁部3、胴部1点を実測した。

214、215は刺突文土器で、口唇部に刻みが施されている。216は胴部で217は口縁部である。ともに無文の土器と考えられる。



第206図 縄文土器実測図 (1/3)

遺物 No.	種別	器種	部位	取上 No.	法量(cm) 口径 底径 厚さ	手法・調整・文様ほか		色調 外面 内面	焼成	胎土の特徴	備考
						外面	内面				
214	縄文 土器	深鉢	口縁 部	137		刺突文、ナデ。 口唇部に刻み。	横ナデ	にぶい 黄褐色	明黄褐	良好	3mm以下の赤い褐色や多や褐色粒。 2mm以下の光沢粒や黒い光沢粒を多く含む。
215	縄文 土器	深鉢	口縁 部	138		刺突文、ナデ。 口唇部に刻み。	ナデ	褐	明黄褐	良好	3mm以下の赤い褐色や乳白色の粒。 2mm以下の光沢粒や黒い光沢粒を多く含む。
216	縄文 土器	深鉢	胴部	168		ナデ	ナデ	にぶい 黄褐色	灰色	良好	3mm以下の茶色、白色、2mm以下の褐色、灰色を含む。 1mm以下の光沢粒を含む。
217	縄文 土器	深鉢	胴部	189		ナデ	ナデ	にぶい 褐	褐	良好	2mm以下の乳白色の粒や黒い粒を含む。 2mm以下の光沢粒を多く含む。

第63表 縄文土器観察表

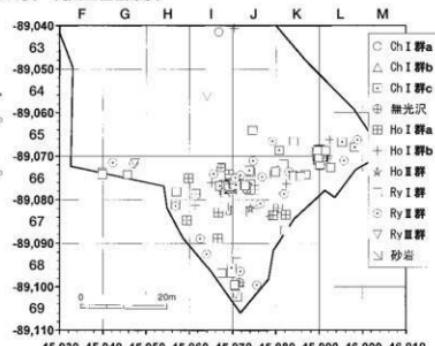
②石器

縄文時代早期の石器は189点で調査区中央から南に下る舌状地に集中する。石材は、チャートが一番多く全体の約37%を占める。

次いで黒曜石が約30%、以下流紋岩、ホルンフェルス、尾鈴山酸性岩類の順である。

器種別で見ると、石鏃、剥片、碎片が多く、特に製品29点のうち27点が石鏃であることがこの時代の特徴である。石鏃は正三角形のもの二等辺三角形のもの基部に抉りのあるもの等が出土している。以下、石材ごとに述べていく。

なお、詳細については、石器観察表を参照されたい。



第207図 縄文時代早期遺物分布図 1 (1/1,000)

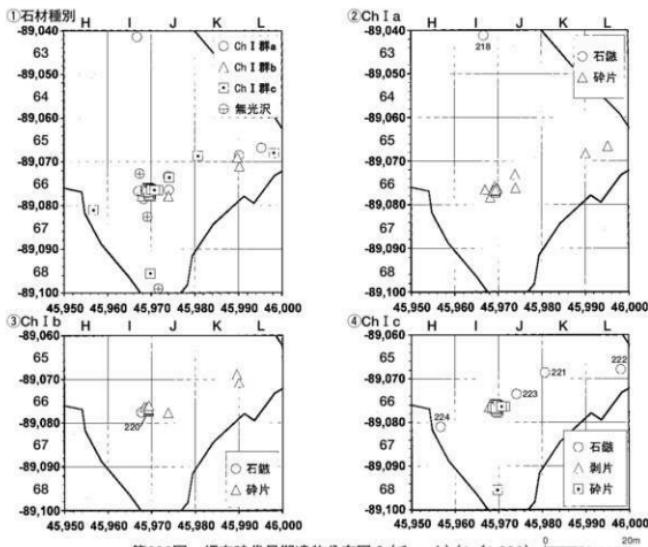
石材・石材種	器種	石鏃	石斧	剥片	碎片	合計	重量(g)	
チャート Ch I 群a	2				20	22	5.9	
チャート Ch I 群b	1				10	11	3.5	
チャート Ch I 群c	4			1	34	39	63.93	
チャート Ch I 群d				1	2	3	0.5	
黒曜石 日東					17	17	0.23	
黒曜石 桑ノ木津留	1			2	6	9	0.73	
黒曜石 姫島	9				5	14	5.25	
黒曜石 淀姫	3			2	15	20	1.25	
黒曜石 腰岳				1	1	2	0.2	
黒曜石 竜ヶ水	1					1	0.5	
流紋岩 Ry I 群				6	2	8	76.3	
流紋岩 Ry II 群	1				13	1	15	254.5
流紋岩 Ry III 群				3		3	54	
ホルンフェルス Ho I 群a	2			11		13	22.2	
ホルンフェルス Ho I 群b	2	1		8		11	48.2	
ホルンフェルス Ho II 群	1					1	0.4	
合計	27	1	48	113	189	537.59		

第64表 縄文時代早期石器・石材組成表

【チャート】(第209図218~224)

縄文時代早期のチャートは75点出土した。Ch I 群cが一番多く約53%を占めた。Ch I 群aが約28%、Ch群 I bが約15%、無光沢チャートは4%であった。

器種別では、製品は石鏃のみで残りは剥片、碎片であった。全ての石鏃を実測した。なお、擾乱から出土のCh I 群aの石鏃も1点実測した。



第208図 縄文時代早期遺物分布図2(チャート)(1/1,000)



第209図 繩文時代早期石器実測図1(チャート)(1/3)

0 5cm

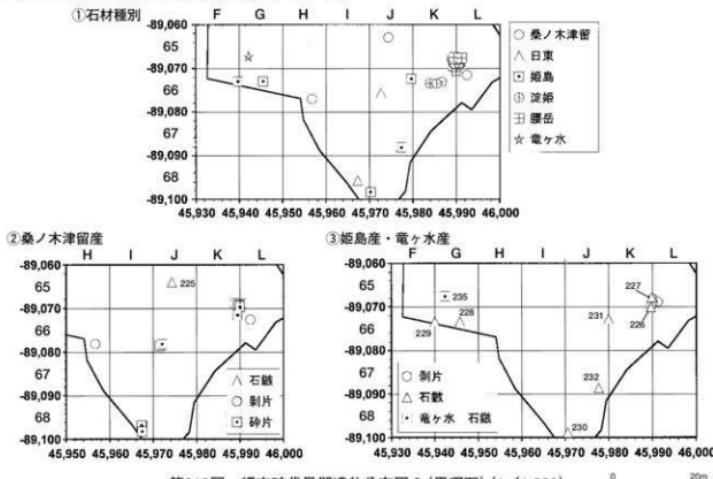
遺物 No.	取上 No.	層序	石材種	器種	国土座標 X座標	国土座標 Y座標	標高 (m)	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	備考
218	11	IV	Ch I群a	石鏃	-89041.334	45966.689	108.976	2.85	1.35	0.35	0.8	二等辺三角形を呈し深い抉りが入る。背腹両面とも素材を残さず丁寧な押圧により剥離を施す。左脚部が欠損。
219	41	IV	Ch I群a	石鏃	-89077.666	45967.827	108.716	2.55	1.35	0.35	1.1	二等辺三角形を呈し浅い抉りが入る。交互剥離で調整を施す。
220	複数	IV	Ch I群a	石鏃	-	-	-	1.55	1.50	0.20	0.4	正三角形を呈し基部は平基。打点は様面側に集中するが全体的に丁寧な押圧による剥離を施す。
221	14	IV	Ch I群a	石鏃	-89068.57	45980.69	108.196	2.60	1.65	0.45	1.5	二等辺三角形を呈し深い抉りが入る。打点不明瞭。
222	18	IV	Ch I群a	石鏃	-89067.862	45989.09	107.129	2.15	1.85	0.35	0.9	二等辺三角形を呈し深い抉りが入る。背腹両面とも素材を残さず丁寧な押圧により剥離を施す。
223	29	IV	Ch I群a	石鏃	-89073.497	45974.08	108.572	2.05	1.55	0.35	0.9	正三角形を呈する。右脚部が欠損しているが基部に浅い抉りが入る。打点不明瞭。
224	134	IV	Ch I群a	石鏃	-89080.996	45956.69	108.811	2.00	1.35	0.20	0.6	二等辺三角形を呈し基部は平基。腹面側に調整を施す。

第65表 繩文時代早期石器観察表1

【黒曜石】(第210図・第211図・第212図225~237)

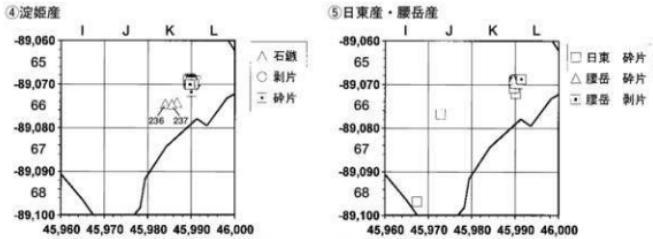
縄文時代早期の黒曜石は63点出土した。淀姫産と思われる石材が一番多く約35%を占めた。以下日東産、姫島産、桑ノ木津留産、腰岳産の順に出土している。器種別では、黒曜石も石鏃と剥片、碎片である。

たった。石鏃14点の内13点を実測した。なお、掲載から出土の姫島産の石鏃2点も実測した。竜ヶ水産の石鏃も1点出土している。日東産、腰岳産は剥片、碎片のため実測はしていない。

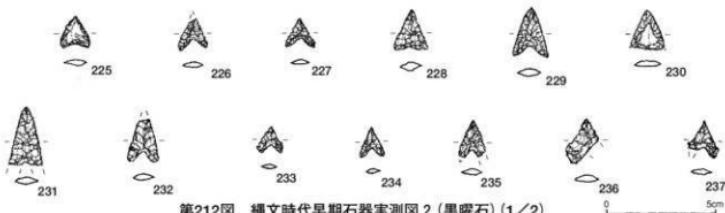


第210図 繩文時代早期遺物分布図3(黒曜石)(1/1,000)

0 20m



第211図 繩文時代早期遺物分布図4(黒曜石)(1/1,000)



第212図 繩文時代早期石器実測図2(黒曜石)(1/2)

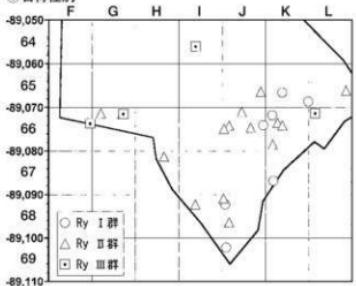
遺物 No.	取上 No.	層序	石材種	器種	国土地標 X座標	国土地標 Y座標	標高 (m)	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	備考
225	12	IV	島ノ木津岩	石器	-89063.966	45974.464	108.628	1.50	1.35	0.30	0.5	正三角形を呈し基部はわざかに抉りが入る。腹面側から調整を施す。
226	25	IV	姫島	石器	-89070.843	45989.466	107.693	1.50	1.40	0.25	0.3	正三角形を呈し基部はやや深い抉りが入る。交互剥離で調整を施す。先端部がわざかに欠損。
227	78	IV	姫島	石器	-89068.515	45989.688	107.794	1.40	1.35	0.25	0.2	正三角形を呈し基部はやや深い抉りが入る。背腹両面とも素材を残さず丁寧な押圧により剥離を施す。
228	1474	IV	姫島	石器	-89074.132	45945.61	109.272	1.90	1.55	0.40	0.8	二等辺三角形を呈しわざかに浅い抉りが入る。腹面は丁寧な押圧により剥離を施し、背面側から調整を施す。
229	1534	IV	姫島	石器	-89074.057	45939.8	109.339	2.30	1.65	0.35	0.8	二等辺三角形を呈しやや深い抉りが入る。背腹両面とも素材を残さず丁寧な押圧により剥離を施す。
230	190	V	姫島	石器	-89099.477	45970.37	107.194	1.80	1.55	0.25	0.8	二等辺三角形を呈し基部は平基、腹面にわざかに素材面を残す。交互剥離で調整を施す。
231	199	V	姫島	石器	-89073.504	45979.789	108.07	2.65	1.55	0.35	1.2	二等辺三角形を呈す。抉りは確認できるが、基部が欠損しているため抉りの深さはわからない。背腹両面とも素材を残さず丁寧な押圧により剥離を施す。
232	519	V	姫島	石器	-89089.335	45977.456	107.552	2.00	1.45	0.30	0.8	二等辺三角形を呈しやや深い抉りが入る。腹面は丁寧な押圧により剥離を施し、背面側から調整を施す。
233	撲乱	-	姫島	石器	-	-	-	1.20	1.25	0.25	0.2	正三角形を呈す。抉りはやや深い抉りが入る。小型の石族である。
234	撲乱	-	姫島	石器	-	-	-	1.40	1.15	0.25	0.2	二等辺三角形を呈し基部はやや深い抉りが入る。小型の石族である。
235	1194	IV	電ヶ水	石器	-89068.254	45942.24	108.857	1.70	1.30	0.30	0.5	二等辺三角形を呈し深い抉りが入る。背腹両面とも素材を残さず丁寧な押圧により剥離を施す。基部の一端が欠損。
236	10	IV	淀姫	石器	-89074.484	45984.078	107.999	1.70	1.55	0.25	0.4	正三角形を呈す。抉りはやや深い抉りが入る。基部の一部欠損。背腹両面とも素材を残さず丁寧な押圧により剥離を施す。
237	27	IV	淀姫	石器	-89074.199	45988.76	107.788	2.05	1.55	0.35	0.7	二等辺三角形を呈す。左脚部が欠損しているが基部にやや深い抉りが入る。丁寧な押圧による剥離を施す。

第66表 繩文時代早期石器観察表2

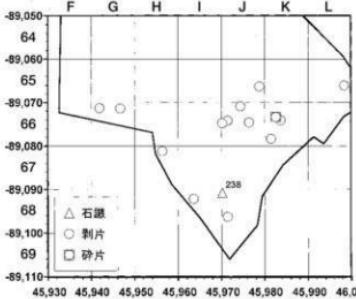
【流紋岩】 (第213図・第214図238)

縄文時代早期の流紋岩は、26点出土した。Ry II群が約60%を占める。製品もRy II群の石鎚が1点

①石材種別

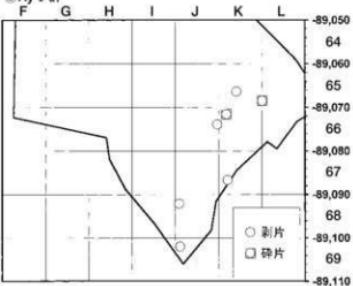


③Ry II群

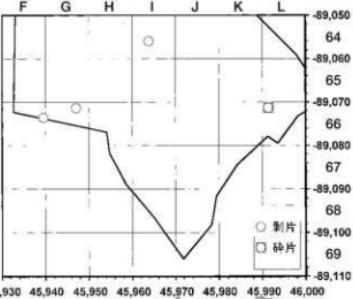


出土した。それ以外は全て剥片、碎片であった。石鎚のみ実測した。

②Ry I群



④Ry III群



第213図 縄文時代早期遺物分布図5(流紋岩)(1/1,000)



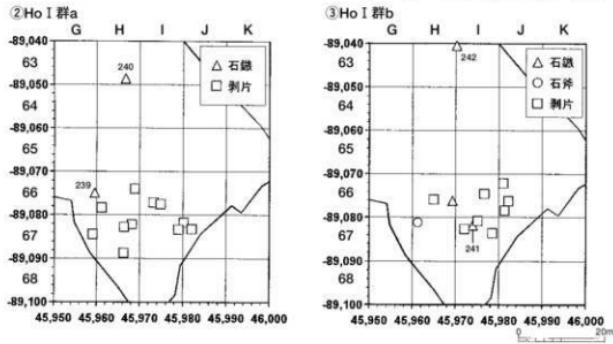
第214図 縄文時代早期石器実測図3(流紋岩)(1/2)

【流紋岩】

遺物 No.	取上 No.	層 序	石材種 名	器種	國土座標 X座標	國土座標 Y座標	標高 (m)	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	備考
238	470	IV	Ry II群	石鎚	-89090.939	45970.46	107.752	2.65	1.65	0.35	1.4	二等辺三角形を呈し浅い抉りが入る。背面に素材面を残す。交互剥離で調整を施す。

第67表 縄文時代早期石器観察表3

【ホルンフェルス】（第215図・第216図239~243）  
 縄文時代早期のホルンフェルスは、25点出土した。  
 Ho I 群aとHo I 群bで約96%を占めている。石鏃5点、  
 石斧1点、残りは全て剥片であった。  
 Ho II 群は石鏃1点のみだったので、遺物分布  
 図で位置はおさえた。  
 石鏃5点（Ho I 群a 2点、Ho I 群b 2点、Ho II 群  
 1点）を実測した。



第215図 縄文時代早期遺物分布図 6（ホルンフェルス）(1/1,000)



第216図 縄文時代早期石器実測図 4（ホルンフェルス）(1/2) 0 5cm

#### 【ホルンフェルス】

遺物 No.	取上 No.	層 序	石材種	器種	國土座標 X座標	國土座標 Y座標	標高 (m)	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	備考
239	130	IV	Ho I群	石鏃	-89074.991	45959.739	108.904	1.70	1.25	0.30	0.7	二等辺三角形を呈しわずかに浅い抉りが入る。基部の一部が欠損。風化が激しく打点不明瞭。
240	1201	IV	Ho I群	石鏃	-89048.704	45966.768	108.839	2.85	1.75	0.40	1.3	二等辺三角形を呈しわずかに浅い抉りが入る。交差剥離で断面を形成する。
241	74	IV	Ho I群	石鏃	-89081.867	45973.952	108.334	1.95	1.50	0.30	0.8	二等辺三角形を呈し抉りが入るが、基部が欠損のため抉りの深さは確認できない。風化が激しく打点不明瞭。
242	1202	IV	Ho I群	石鏃	-89040.454	45970.318	108.845	2.05	1.85	0.35	0.8	二等辺三角形を呈しわずかに浅い抉りが入る。風化が激しく打点不明瞭。
243	16	IV	Ho II群	石鏃	-89066.051	45992.444	107.548	1.65	1.35	0.30	0.4	二等辺三角形を呈し基部は平基。風化が激しく打点不明瞭。

第68表 縄文時代早期石器観察表 4

### 3 弥生時代の遺構と遺物

#### (1) 概要

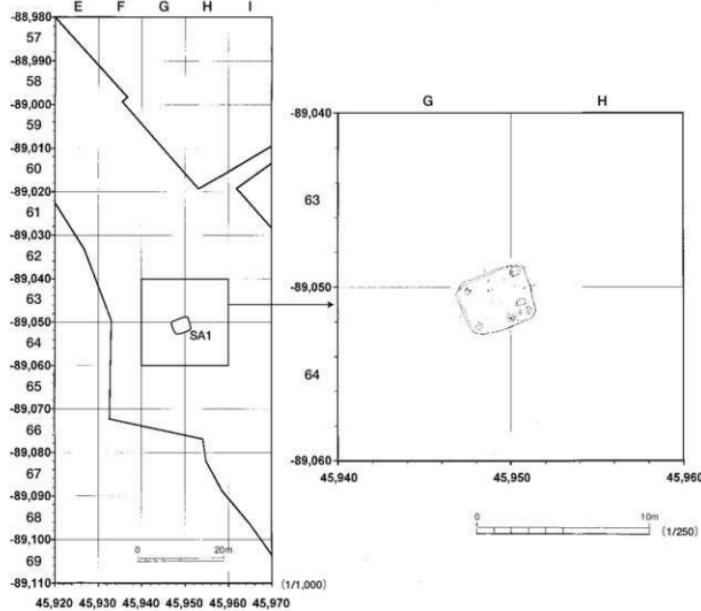
調査区中央部に位置するグリッドG63～H64で堅穴住跡1軒を検出した。住居内からは、壺や高坏等の弥生土器の破片や石庵丁、台石、磨石といった石器類が出土した。その他、調査区内からは高坏の口縁部や壺の破片が出土している。

#### (2) 遺構

##### 1号堅穴住跡（SA1・第217・218図）

#### 【規模】

SA1の住居平面形は、 $2.6m \times 3.3m$ の方形で、主軸方位は北北東～南南西方向を示す。床面積は $8.58m^2$ である。床面は貼床ではなく第Ⅲ層をやや掘り込んで直床とする。四方のコーナー部は隅丸形を呈する。壁の残存高は四辺とも $0.25m$ 程度ではば垂直に立ち上がる。



第217図 弥生時代遺構分布図

#### 【埋土の状況】

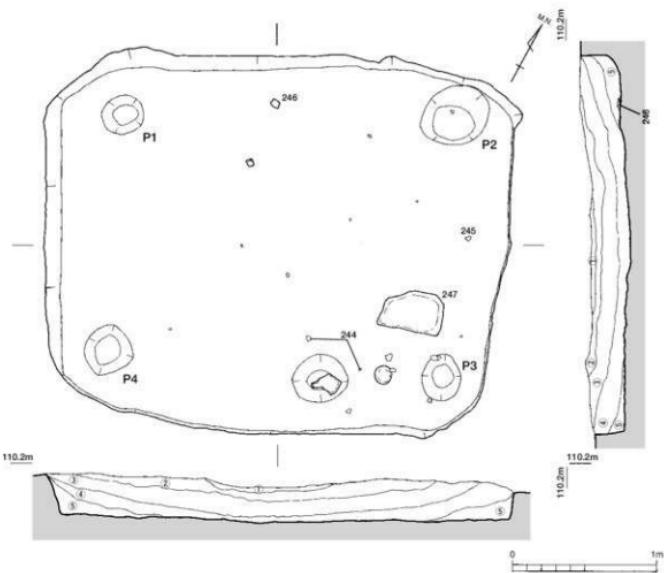
遺構検出面は第Ⅲ層（K-Ah）上面である。遺構埋土は、第Ⅱ層（クロボク）と同じ黒色土系であり、その中に第Ⅲ層と思われる燈色系の粒が混じっている。土質や土色で区別可能であった。

#### 【柱穴】

床面でP1～P4の柱穴を検出した。柱穴の掘方は、直径 $0.3m$ 程度の円形プランで、深さは床面より $0.25m$ を測る。柱穴は地面にはば垂直である。柱穴跡は確認できなかった。

#### 【床面】

床面は、概して平坦で壁帶溝、土坑は確認できなかつた。住居跡の南壁中央部の床面には、赤化した台石が出土しその下には炭化物が広がっていた。炭化物の範囲は、長径 $0.4m$ 程度の円形で広がり深さは $0.2m$ を測る。



- ①：黒色土（Hue2.5YR2/1） きめ細かくサラサラしている。やわらかくやや粘性を持つ。  
 ②：黒色土（Hue10YR1.7/1） サラサリしている。①より固くK-Ah粒を少量含む。  
 ③：黒色土（Hue10YR1.7/1） きめ細かくサラサラしている。K-Ah粒を多く含み、K-Ahブロック（1～2cm）を少量含む。  
 ④：黒色土（Hue7.5YR1.7/1） サラサラしておりやわらかく粘性がある。  
 ⑤：黒色土（Hue7.5YR2/1） 土質は④とはほぼ同じであるが、光る粒を多く含む。

第218図 1号竪穴住居跡実測図(1/30)

#### 【遺物出土状況】

① 弥生土器

壺（第219図244）

南東部付近で破片として出土した。壺の底部付近であると思われる。外面は縦方向のナデが施してあり、下部に工具痕がみられる。

高坏（第219図245）

東部中央付近で出土した。高坏の脚部である。外側はミガキで、内面は横ナデが施してある。

② 石器（第219図246、247）

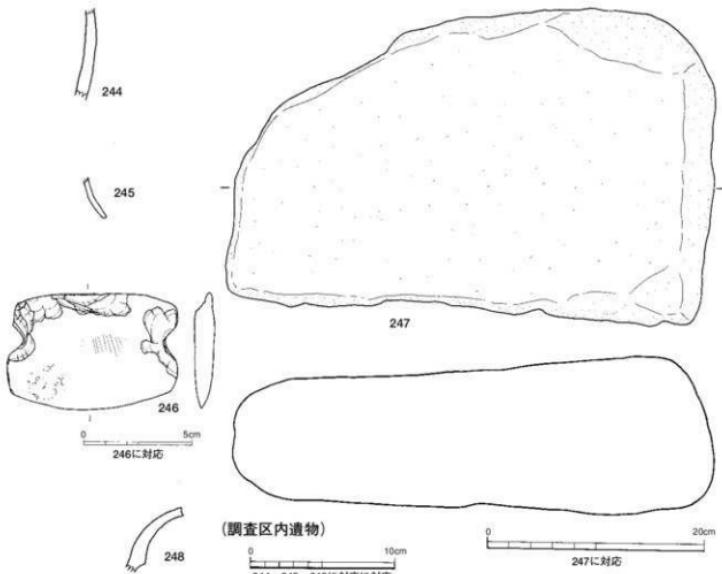
246は石庖丁で北側の中央床直から出土した。両

端に抉りが入る。石材は、頁岩である。腹背部共に平坦状に研磨を施し、刃部は鋭く丁寧に研磨を施す。抉りは、腹背から丁寧に角が削り取られている。上部に一部欠損がみられる。

247は台石で南東部中央から出土した。0.45m×0.25mの長方形に近い形である。石材は、尾鈴山酸性岩類である。

(3) 調査区内遺物（第219図248）

248は高坏の坏部である。屈曲点からほぼ垂直に立ち上がり外反する坏部形態である。外面、内面共にナデが施してある。ミガキ等はみられない。



第219図 弥生土器・石器実測図(1/3)(台石1/4)(石庵丁1/2)

遺物 No.	種別	器種	部位	取上 No.	法量(cm) 口径 底径 器高	手法・調整・文様ほか		色調		胎土の特徴
						外面	内面	外面	内面	
244	弥生 土器	甌	胴部	SA1 1,6,9		ナデ	縦方向のナデ	にぶい 黄褐色	にぶい 黄褐色	良好 3mm以下の灰色、白色粒を含む。1mm 以下の光沢粒を含む。
245	弥生 土器	高杯	脚部	SA1 20		ミガキ	横ナデ	橙	橙	良好 3mm以下の赤褐色や茶褐色の粒。2mm 以下の乳白色の粒を含む。
248	弥生 土器	高杯	环部	166 167 169 171		ナデ	ナデ	にぶい 黄褐色	にぶい 黄褐色	良好 5mm以下の灰色、褐色粒を含む。5mm 以下の茶色粒、白色、黒色光沢粒を含む。 1mm以下の透明な粒を含む。

第69表 弥生土器観察表

遺物 No.	取上No.	出土位置	石材種	器種	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)
246	SA117	SA1床直上	頁岩	石庵丁	7.80	5.40	0.90	62.6
247	SA115	SA1床直上	尾鈴山酸性岩類	台石	29.2	45.40	14.60	32000

第70表 弥生時代石器計測表

## 5 小結

### (1) 旧石器時代Ⅰ期 (MB2・MB3相当)

8基の礫群とホルンフェルスを多く用いた石器製作がこの期の特徴である。礫群内の構成礫は全て尾鈴山酸性岩類で赤化、破碎が著しい。

石核、縦長剥片、二次加工を施した剥片等が出土し、接合資料も数点出土している。このようなことから、10段階編年の第3段階（宮崎県旧石器文化談話会2005）<sup>10</sup>に位置づけておきたい。ただ石器製品と呼べるものは全く出土しなかったのが残念である。おそらくここで製作し調査区外へ持ち出したか、廃棄した可能性が考えられる。

### (2) 旧石器時代Ⅱ期 (Kr-Kb相当)

15基の礫群と流紋岩を多く用いたナイフ形石器の出土がこの期の特徴である。礫群は密に集まつたものが4基検出された。全て尾鈴山酸性岩類で赤化・破碎が著しい。

ナイフ形石器はほとんどが国府型ナイフ形石器であり、瀬戸内技法によると考えられる接合資料も数多くみられた。また、Ⅰ期では出土しなかった黒曜石が出土していることもこの期の特徴である。10段階編年の第5～6段階に位置づけておきたい。

### (3) 繩文時代

繩文時代では、2基の集石遺構と1基の陥入穴状遺構を検出した。2基とも掘り込みが見られ、構成礫は、ほとんどが尾鈴山酸性岩類で赤化、破碎が著しい。また、平面長径1.35m、深さ1.5mの陥入穴状遺構を1基検出した。底面は礫層に達しており、杭痕を確認することはできなかった。

遺物は、繩文時代早期と思われる土器が出土したが、数は極端に少ない。舌状地側で多く出土したが、はつきりした層が確認できなかつたため流れ込みの可能性がある。石器としては、石錐、剥片、碎片等が数多く出土した。

### (4) 弥生時代

堅穴住居跡が、調査区中央部から1軒検出された。2m×2.5mの方形の堅穴住居跡で主柱穴は4本で

ある。貼床は、確認できなかつた。北壁の床面近くから石庖丁が出土した。南壁中央部の床面には、炭化物が広がつており、その上に赤化した磨石が出土した。その近くで、大型台石、蔽石、土器片等も出土した。出土した遺物は弥生土器高坏、石庖丁等があり、弥生時代後期の時期が与えられる。

川南町では多くの弥生時代後期～終末期の集落が調査されていて、台地上又は丘陵縁辺部に集中するあり方を示す。本遺跡も同じようなあり方を示している。おそらく集落本体は路線外に展開すると想定される。

### (5) その他の時代

アカホヤ上面で時期不詳の溝状遺構を2条検出した。長さは約200mと約300mである。共に深さは0.05m～0.1m程度と浅く、遺物等は全く出土しなかつた。

### 註

- (1) 宮崎県旧石器文化談話会2005「宮崎県下の旧石器時代遺跡概観」  
『旧石器考古学』66号 旧石器文化談話会







## 第Ⅳ章　まとめ

### 1 旧石器時代

#### 【旧石器時代Ⅰ期】

I期はAT下位のMB3～MB2に相当する層で10段階編年の第3段階(宮崎県旧石器文化談話会2005)<sup>(1)</sup>に位置づけられる。

遺構は、一次調査区では検出されていないが、二次調査区で礫群が8基検出された。

遺物は、一次調査区では製品としてナイフ形石器が7点出土している。しかし、二次調査区では石核はあるものの石器製品と呼べるものは1点も出土しなかった。また、石材種別では、一次調査区が流紋岩が多く約60%近くあるのに対し二次調査区ではホルンフェルスが約75%であった。このように同じI期でも違いがみられる。中ノ迫第1遺跡内でも時期差があったのではないかと考えられる。

#### 【旧石器時代Ⅱ期】

II期は、AT上位のKr-Kbに相当する層で10段階編年の第5～6段階に位置づけられる。

遺構は、一次、二次調査区共に礫群が検出された。構成礫は全て尾鈴山酸性岩類で、赤化、破碎礫が多いところは共通している。

遺物は、一次、二次調査区共に瀬戸内技法によると考えられる国府型ナイフ形石器が多数出土した。接合資料も多く、石核とナイフ形石器の接合がみられたのが大きな特徴である。石材種別でみると共に流紋岩が一番多く一次調査区は約90%、二次調査区約70%である。そのなかでも一次調査区ではRy I群が多く、二次調査区ではRy II群が多いという違いがある。石器製品や剥片、碎片等の多さや接合関係からこの地が石器製作の場であったと考えられる。

遺構では遺構内での礫の接合関係や大小、密度等に差がみられ、遺物でも石材種の違いがみられることが等からI期と同じように時期差が考えられる。今後近隣の中ノ迫第2、第3遺跡との関連も考えいく必要がある。

### 2 綱文時代早期

本遺跡の縄文時代を特徴付けるのが、打製石鏃の出土量の多さである。一次・二次調査合わせて45点出土している。石材種別にみると一次・二次調査区ともチャート製・黒曜石製の石鏃が多くみられる。

二次調査区では、周辺で剥片、碎片も確認されており、石器製作が行われたと考えられる。また黒曜石でも特に姫島産と思われる石鏃が合わせて12点出土している。また、竜ヶ水産や淀原産と思われる石鏃も出土していることから他地域との交流が行われていた可能性がある。

### 3 弥生時代

中ノ迫第1遺跡の弥生時代は、一次調査区において大量の土器が出土した。しかし、自然流路への流れ込みと考えられる。また、二次調査区では竪穴住居跡が1軒検出された。土器の出土と住居跡から、弥生時代にも人々がこの地で生活していたことが想像できる。

本遺跡の南東側に位置する中ノ迫第2遺跡や北に位置する大内原遺跡においても竪穴住居跡が検出されている。このことからも本遺跡の路線外に集落本体が展開すると想定される。

### 註

(1) 宮崎県旧石器文化談話会2005「宮崎県下の旧石器時代遺跡概観」

『旧石器考古学』66号 旧石器文化談話会

図版 1 (一次調査)



尾鈴山系のそむ(手前が遺跡・南から)



一次調査区全景

図版2  
(一次調査)



土層断面1(北部・東から)



土層断面2(北部・西から)



土層断面3(谷部・北から)



調査風景



旧石器時代Ⅰ期遺物出土状況(南から)



旧石器時代Ⅱ期遺物出土状況(遺物集中域④・北から)



SI 2検出状況(北東から)

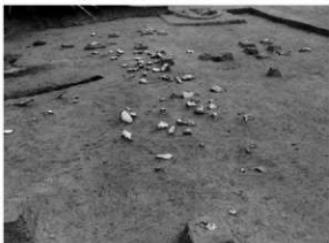


SI 7検出状況(西から)

図版 3 (一次調査)



S I 10・13検出状況(南から)



S I 18~20検出状況(北から)



S C 1 検出状況(西から)



S C 1 半截状況(西から)



S C 2 検出状況(西から)



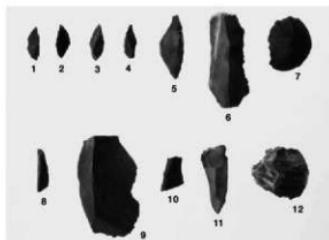
S C 2 半截状況(西から)



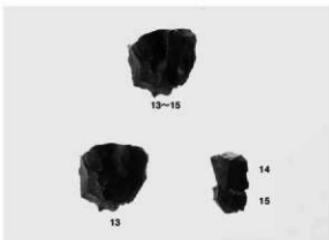
S E 1 検出状況(西から)



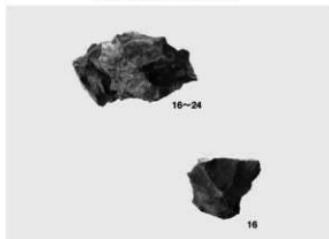
S E 1 完掘状況(北から)



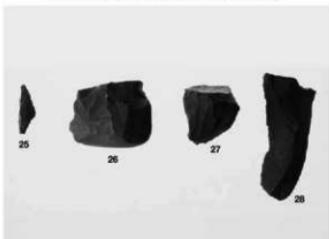
旧石器時代Ⅰ期石器 1



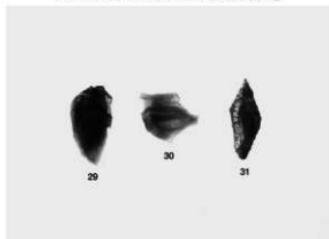
旧石器時代Ⅰ期石器 2 接合資料①



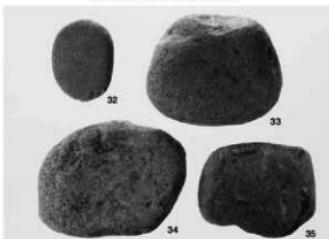
旧石器時代Ⅰ期石器 3 接合資料②



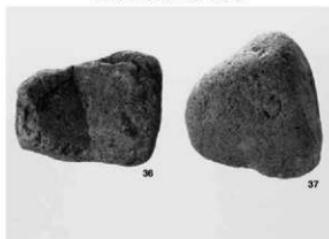
旧石器時代Ⅰ期石器 4



旧石器時代Ⅰ期石器 5



旧石器時代Ⅰ期石器 6

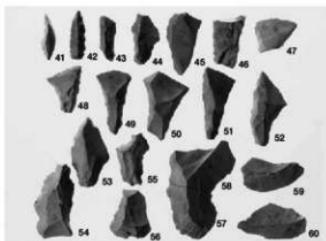


旧石器時代Ⅰ期石器 7

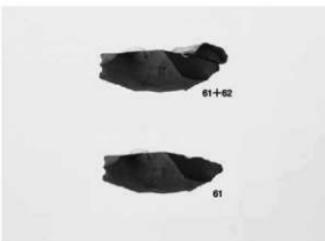


旧石器時代Ⅰ期石器 8

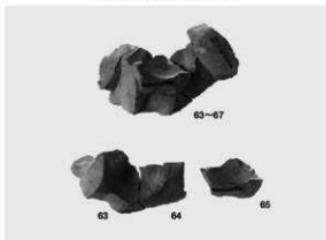
図版 5  
(一次調査)



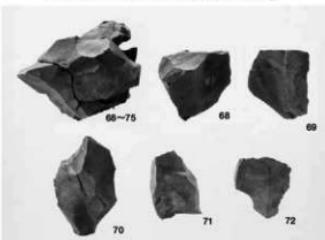
旧石器時代Ⅱ期石器1



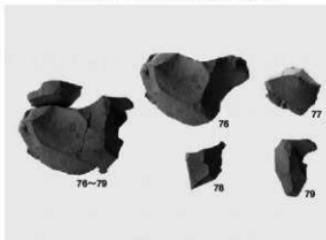
旧石器時代Ⅱ期石器2接合資料③



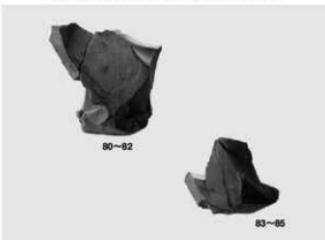
旧石器時代Ⅱ期石器3接合資料④



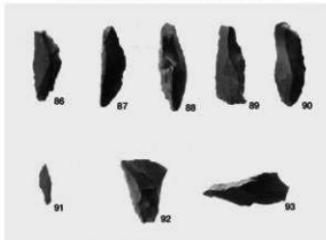
旧石器時代Ⅱ期石器4接合資料⑤



旧石器時代Ⅱ期石器5接合資料⑥



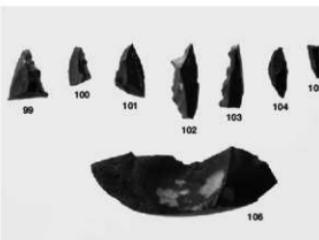
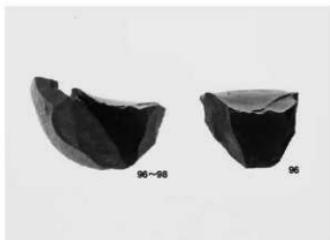
旧石器時代Ⅱ期石器6接合資料⑦・⑧



旧石器時代Ⅱ期石器7

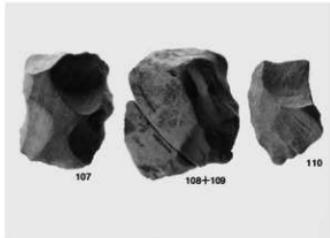


旧石器時代Ⅱ期石器8接合資料⑨



旧石器時代Ⅱ期石器9接合資料⑩

旧石器時代Ⅱ期石器10



旧石器時代Ⅱ期石器11

旧石器時代Ⅱ期石器12接合資料⑪



旧石器時代Ⅱ期石器13

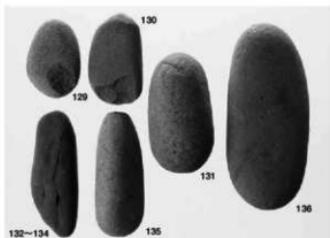
旧石器時代Ⅱ期石器14接合資料⑫



旧石器時代Ⅱ期石器15

旧石器時代Ⅱ期石器16

図版7  
(一次調査)



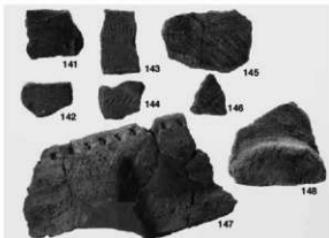
旧石器時代Ⅱ期石器17



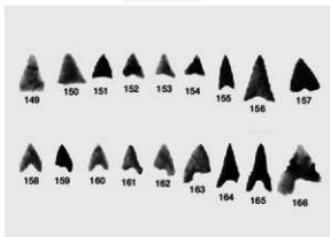
旧石器時代Ⅱ期石器18



縄文土器1



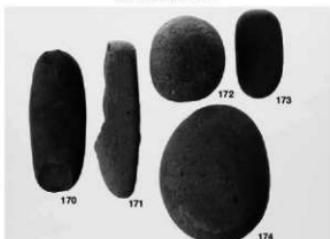
縄文土器2



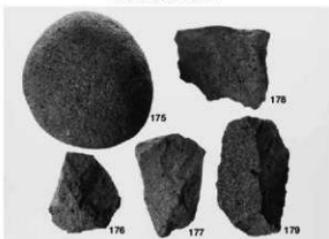
縄文時代石器1



縄文時代石器2



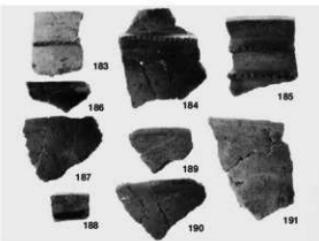
縄文時代石器3



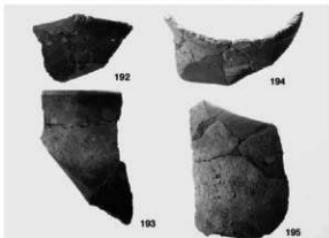
縄文時代石器4



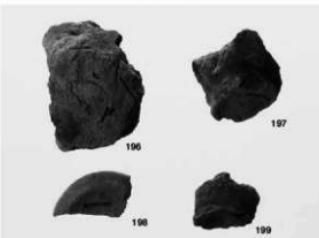
縄文時代石器 5 接合資料⑪



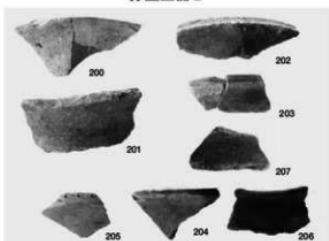
弥生土器 1



弥生土器 2



弥生土器 3



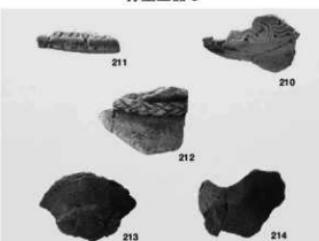
弥生土器 4



弥生土器 5

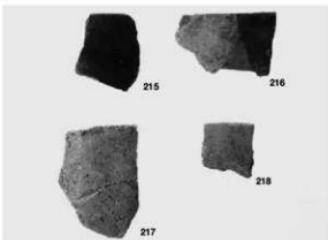


弥生土器 6

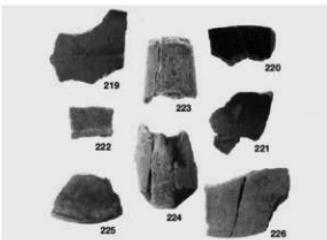


弥生土器 7

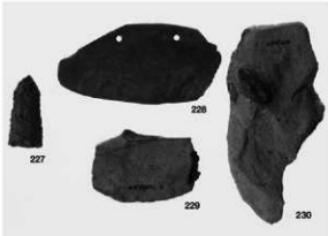
図版9（一次調査）



弥生土器 8



弥生土器 9



弥生時代石器



その他の時代遺物



二次調査区全景



二次調査区南側

図版 11 (二次調査)



土層断面(北東から)



調査風景



S I 2 検出状況(北東から)



S I 8 検出状況(南東から)



S I 11 検出状況(南から)



S I 21・23 検出状況(南から)



S I 24 検出状況(南西から)



S I 25 検出状況(南から)

図版  
12  
(二次調査)



旧石器時代Ⅰ期遺物集中域(北東から)



旧石器時代Ⅰ期遺物集中域(南から)



S C 1 検出状況(南から)



S C 1 半截状況(南から)



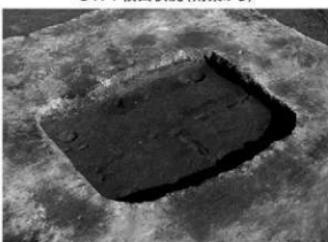
S C 1 完掘状況(南から)



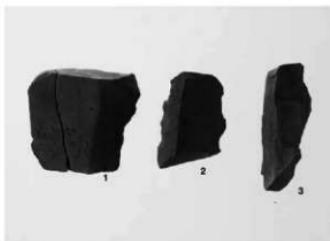
S A 1 検出状況(南東から)



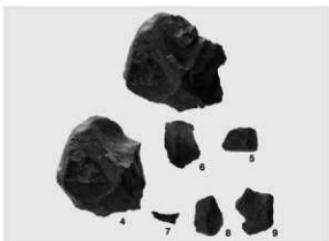
S A 1 遺物出土状況(南から)



S A 1 完掘状況(南から)



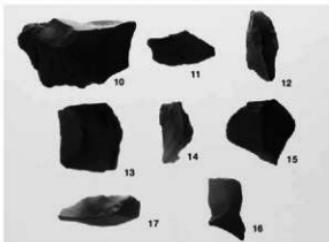
旧石器時代 I 期石器 1



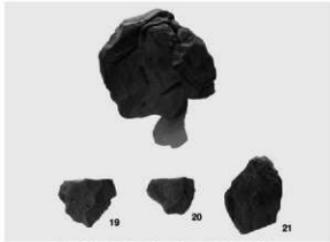
旧石器時代 I 期石器 2 接合資料 1



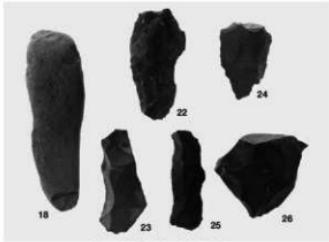
旧石器時代 I 期石器 3 接合資料 2 ①



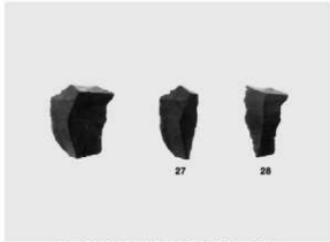
旧石器時代 I 期石器 4 接合資料 2 ②



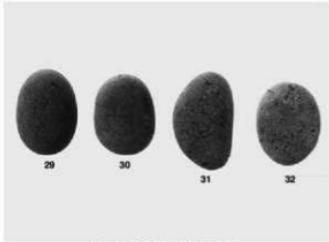
旧石器時代 I 期石器 5 接合資料 3



旧石器時代 I 期石器 6



旧石器時代 I 期石器 7 接合資料 4



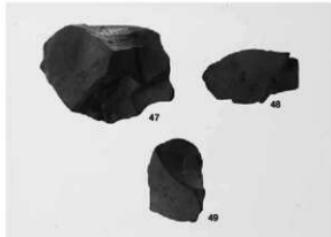
旧石器時代 I 期石器 8



旧石器時代Ⅱ期石器1



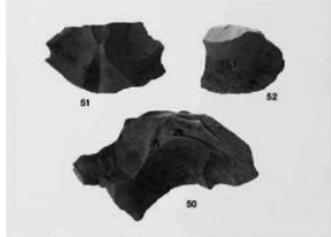
旧石器時代Ⅱ期石器2接合資料5①



旧石器時代Ⅱ期石器3接合資料5②



旧石器時代Ⅱ期石器4接合資料6①



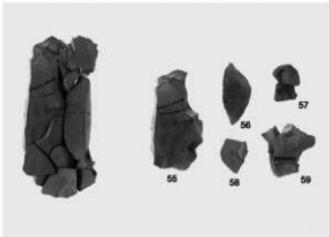
旧石器時代Ⅱ期石器5接合資料6②



旧石器時代Ⅱ期石器6接合資料7



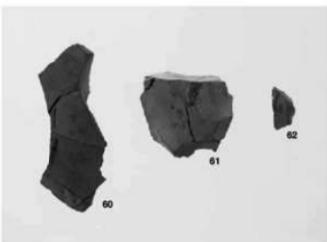
旧石器時代Ⅱ期石器7接合資料8~10



旧石器時代Ⅱ期石器8接合資料8



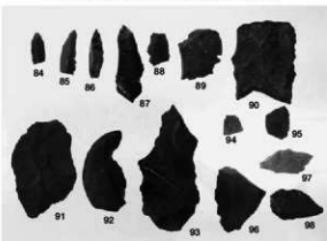
旧石器時代Ⅱ期石器9接合資料9



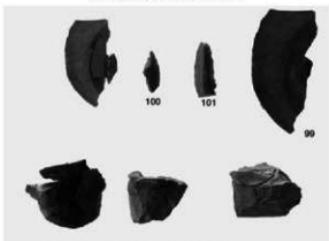
旧石器時代Ⅱ期石器10接合資料10



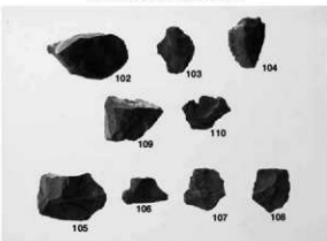
旧石器時代Ⅱ期石器11



旧石器時代Ⅱ期石器12



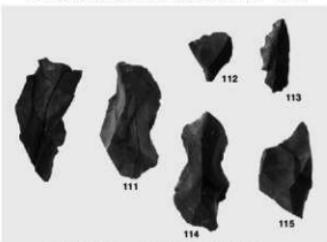
旧石器時代Ⅱ期石器13接合資料11・12~14①



旧石器時代Ⅱ期石器14接合資料12~14②



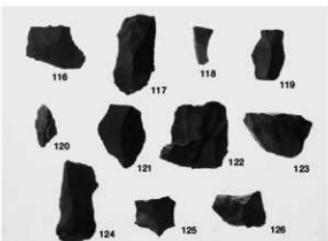
旧石器時代Ⅱ期石器15接合資料15・16



旧石器時代Ⅱ期石器16接合資料15



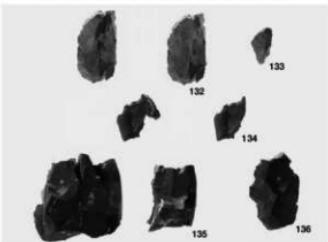
旧石器時代Ⅱ期石器17接合資料16①



旧石器時代Ⅱ期石器18接合資料16②



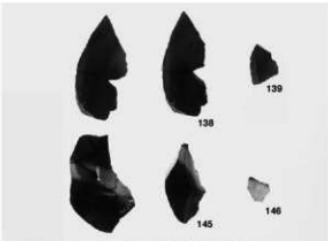
旧石器時代Ⅱ期石器19



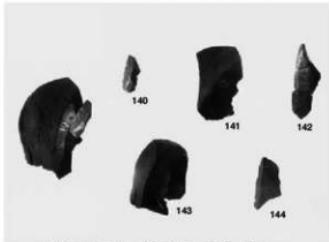
旧石器時代Ⅱ期石器20接合資料17~19



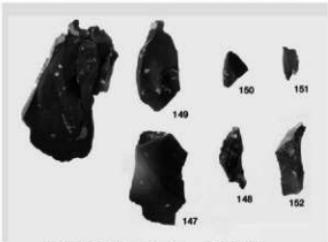
旧石器時代Ⅱ期石器21接合資料20



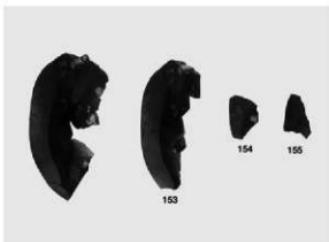
旧石器時代Ⅱ期石器22接合資料21・23



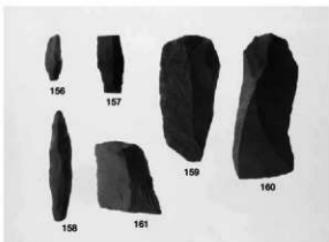
旧石器時代Ⅱ期石器23接合資料22



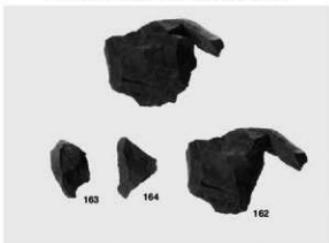
旧石器時代Ⅱ期石器24接合資料24



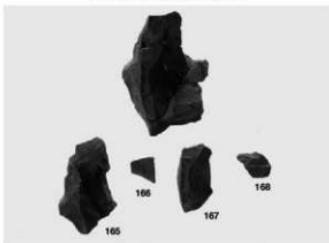
旧石器時代Ⅱ期石器25接合資料25



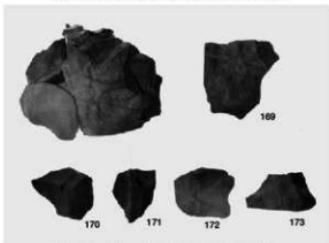
旧石器時代Ⅱ期石器26



旧石器時代Ⅱ期石器27接合資料26



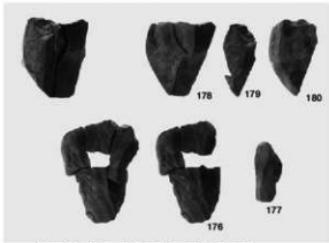
旧石器時代Ⅱ期石器28接合資料27



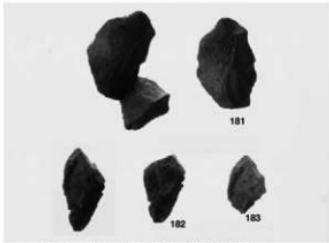
旧石器時代Ⅱ期石器29接合資料28



旧石器時代Ⅱ期石器30



旧石器時代Ⅱ期石器31接合資料29・30



旧石器時代Ⅱ期石器32接合資料31・32



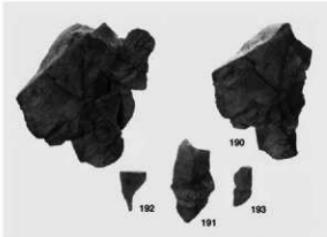
旧石器時代Ⅱ期石器33接合資料33~35



旧石器時代Ⅱ期石器34接合資料33



旧石器時代Ⅱ期石器35接合資料34



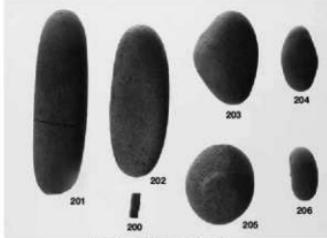
旧石器時代Ⅱ期石器36接合資料35



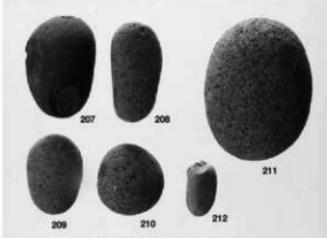
旧石器時代Ⅱ期石器37接合資料36・37



旧石器時代Ⅱ期石器38

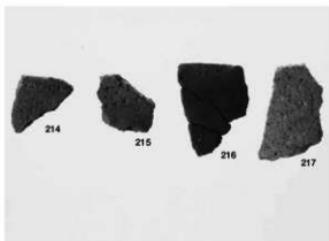


旧石器時代Ⅱ期石器39

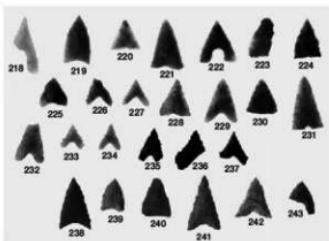


旧石器時代Ⅱ期石器40

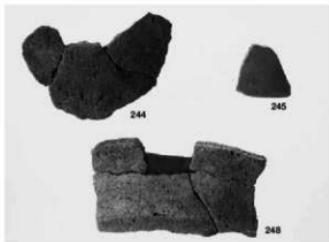
図版 19 (二次調査)



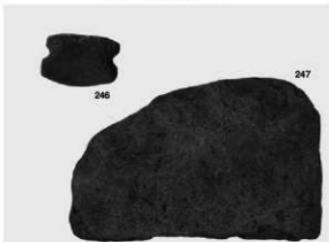
縄文土器



縄文時代早期石器



弥生土器



弥生時代石器

## 報告書抄録

ふりがな	なかのさこだいいちいせき (いちじ・にじ)						
書名	中ノ迫第1遺跡（一次・二次）						
副書名	東九州自動車道（都農～西都間）建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書						
巻次	4 0						
シリーズ名	宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書						
シリーズ番号	第143集						
執筆・編集担当者	安藤利光・島木良浩						
発行機関	宮崎県埋蔵文化財センター						
所在地	宮崎県宮崎市佐土原町下那珂4019番地						
発行年月日	2007年3月5日						
所収遺跡名	所在地	コード 市町村 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
中ノ迫第1遺跡 (一次調査)	宮崎県児湯郡川南町大字川南字綿打上・丸尾	45405	32度 12分 23秒 付近	131度 29分 12秒 付近	平成15年 11月12日 平成16年 6月9日	4,100m <sup>2</sup>	東九州自動車道（都農～西都間）建設に伴う埋蔵文化財発掘調査
中ノ迫第1遺跡 (二次調査)	宮崎県児湯郡川南町大字川南字大迫・丸尾	45405	32度 11分 52秒 付近	131度 29分 17秒 付近	平成16年 5月25日 平成17年 2月21日	6,000m <sup>2</sup>	
遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項		
中ノ迫第1遺跡 (一次調査)	集落跡	旧石器時代 縄文時代 弥生時代 時期不詳	礫群21基 土坑2基 溝状遺構1条	ナイフ形石器 台形石器、細石刃 縄文土器 石礫、石匙 弥生土器 石礫、石庖丁		国府型ナイフ形石器の出土	
中ノ迫第1遺跡 (二次調査)	集落跡	旧石器時代 縄文時代早期 弥生時代後期 時期不詳	礫群23基 陥し穴状遺構1基 集石遺構2基 竪穴住跡1軒 溝状遺構2条	ナイフ形石器 角錐状石器 刺突文土器 石礫、敲石 弥生土器、石庖丁		国府型ナイフ形石器の出土	

---

宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書第143集

中ノ迫第1遺跡（一次・二次）

東九州自動車道（都農～西都間）建設に伴う

埋蔵文化財発掘調査報告書 40

2007年3月5日

発 行 宮崎県埋蔵文化財センター

〒880-0212 宮崎市佐土原町下那珂4019番地

TEL 0985(36)1171 FAX 0985(72)0660

印 刷 有限会社 富士写真印刷

〒880-0212 宮崎市佐土原町下那珂7418-2番地

TEL 0985(74)2179 FAX 0985(74)3066

---